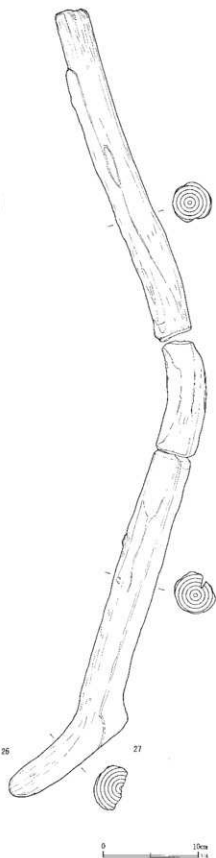
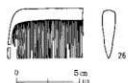
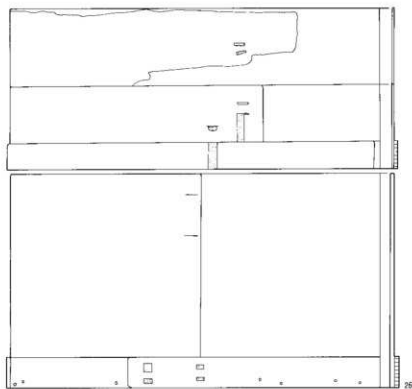
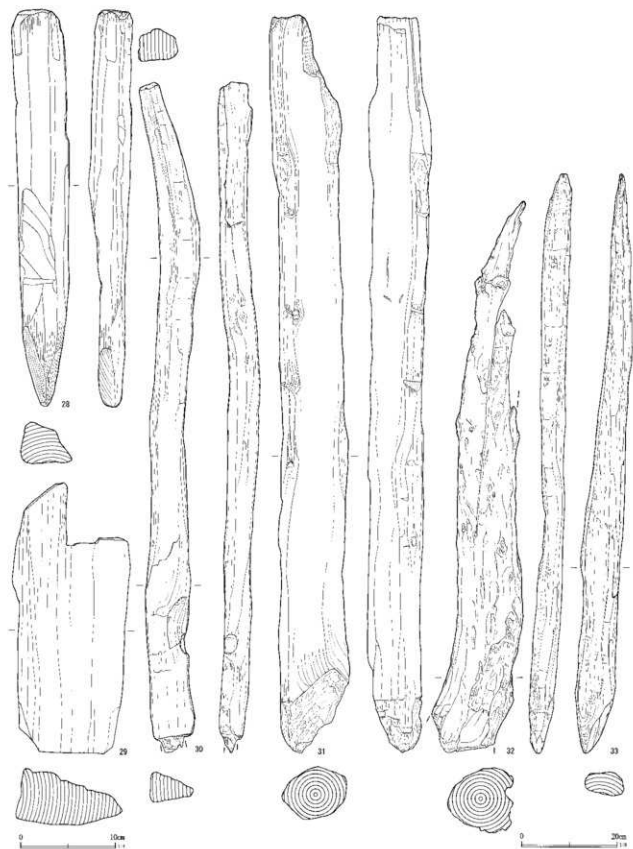


SE213



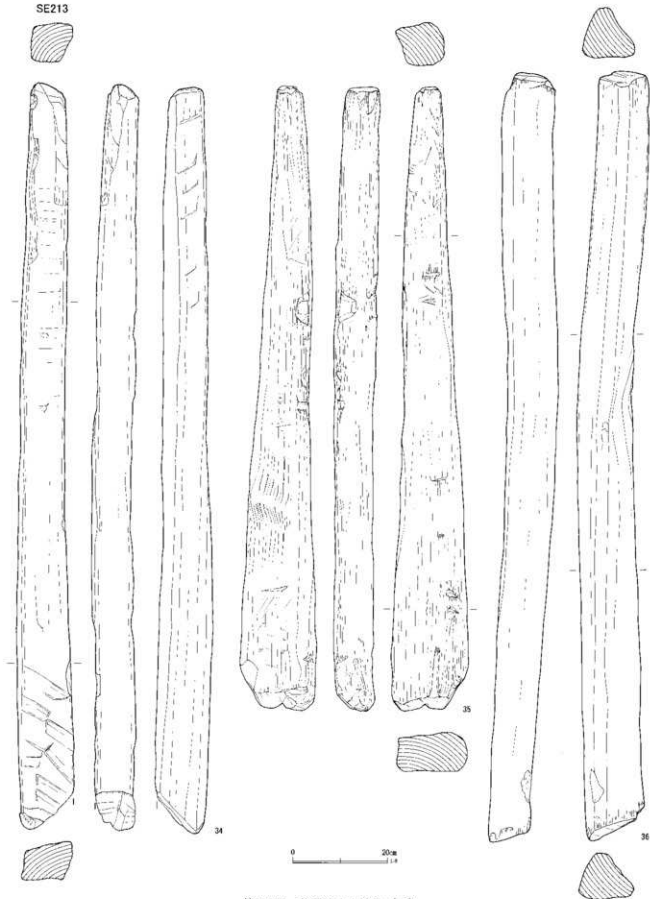
第325図 井戸跡出土遺物 (16)

SE213

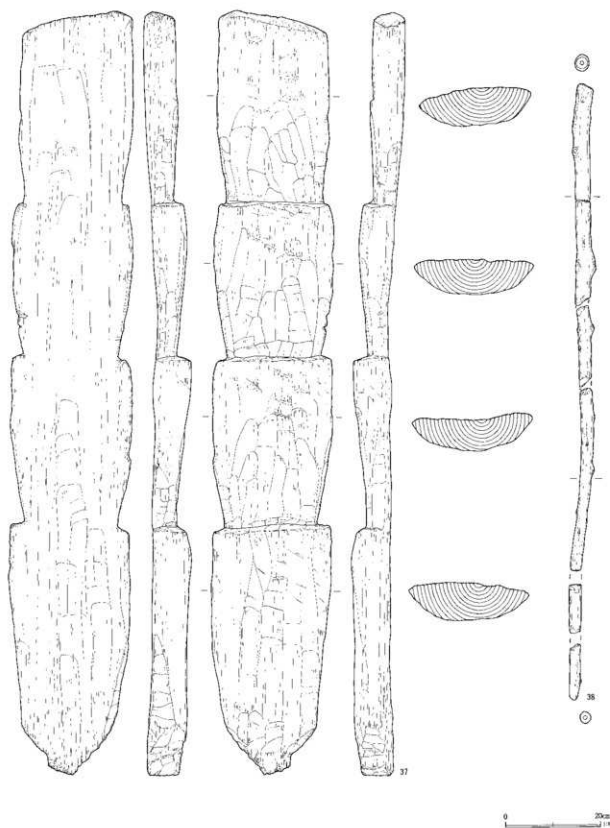


第326図 井戸跡出土遺物 (17)

SE213

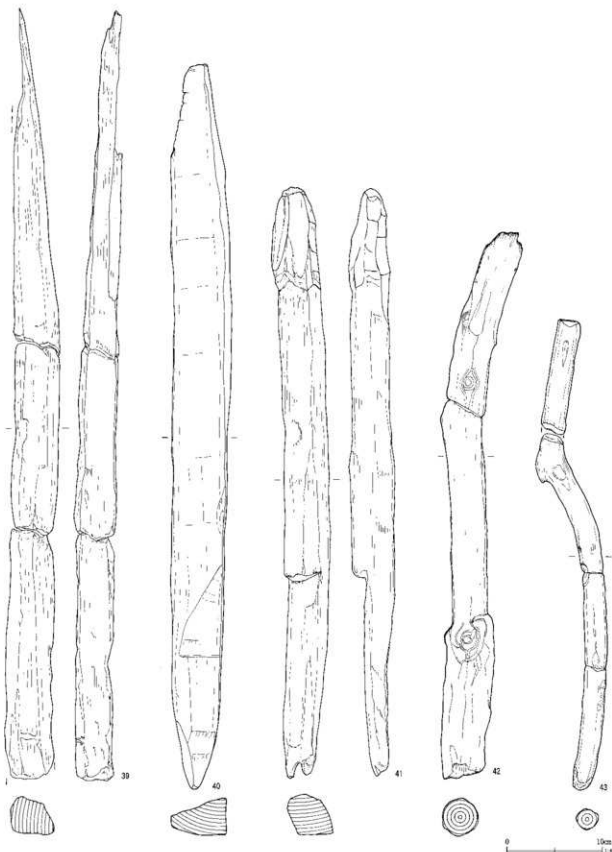


第327図 井戸跡出土遺物 (18)



第328図 井戸跡出土遺物 (19)

SE213



第329図 井戸跡出土遺物 (20)

第215号井戸跡（第323図）

西区二面のE-25、E-26グリッドに位置する。第430号溝跡を大きく切っている。平面形は円形で、規模は直径70cmと小型である。深さは134cmあり、断面形は筒形である。

出土遺物は極めて少なく、土師器の環・甕の小破片が7点出土したが、図示できるものはなかった。

第216号井戸跡（第330図）

西区二面のG-23グリッドに位置する。第3次調査において唯一の横組みの井戸枠が検出された井戸跡である。第276号溝跡、第411号溝跡の2条の溝跡を大きく切っている。平面形は四辺が膨らむ長方形で、底面が円形である。規模は長軸が270cm、短軸が230cmで、長軸方向はN-13°-Eをとる。深さは162cmを測る。掘り方の断面形は箱形、断面図の覆土1層を考慮すれば、井戸本体の断面形は四角い筒形であったと推測される。

井戸枠は井戸の中央部に、横木を正方形に井桁状に組んで構築されている。組まれた井戸枠の内部は一辺が58cmの正方形で、枠内部の大きさは下から上まで同じ大きさで組まれている。

井戸枠の横木に利用された木材（第332～341図、表98）は、丸木を半裁した材木と板状の材木で構成され、両端のやや内側に上下から切り欠きを施している。長さは78～92cmの範疇におさまり、両端の切り欠きを上下に組む、相欠き組みの横板組構造である。最下段に使われているのは幅18～23cm、長さ105～110cmの板材である。井戸枠材の形状と向きから推測して、最下段は東西には幅18～20cmの板材を立て、南北には幅20～23cmとやや大きめの板材の両端をL字型に切り欠いたものを、L字に出っ張った部分を上にして東西の板材を引っ掛けて組んだ可能性が考えられる。

井戸枠材のうち3点について、樹種同定をおこない興味深い結果を得ることができた。各資料は、1段目南側の井戸枠材はコナラ属コナラ節の木材、6

段目南側の井戸枠材はクリ、最下段となる13段目に使われた幅広い板状の井戸枠材はヒノキであることがわかった。最下段の、形態の異なる井戸枠材に異なる樹種が利用されている状況は理解しやすいが、同じように組まれていた1段目と6段目とで異なる樹種の木材が混在して使われていた点が注目される。なお、分析の詳細はⅧ-1、2に掲載した。

井戸枠以外の出土遺物は第331図と第342図に示した。出土遺物は極めて多く、須恵器の環、土師器の甕、紡錘車や滑石の欠片などが出土した。井戸本体部分の覆土からは平安時代の遺物が多く、掘削して井戸枠を据えた後に埋め戻された井戸枠外側の掘り方部分からは、奈良時代の遺物が出土している。このことから、井戸は奈良時代に構築されてから比較的長期間に渡って利用され、平安時代に廃棄されたと考えられる。

第217号井戸跡（第343図）

西区二面のF-24グリッドに位置する。北側で第439号溝跡を切っているほか、F-24グリッドP3、P6も切っている。平面形は円形で、規模は直径125cmである。深さは116cmあり、断面形は筒形である。

出土遺物は第344図1に示した。遺物は極めて少なく、灰釉陶器の皿、須恵器の甕、土師器の甕の破片など5点が出土した。

第218号井戸跡（第343図）

西区二面のF-23グリッドに位置する。北側で第276号溝跡に切られ、南側で第230号井戸跡を切っているほか、第88号住居跡も切っている。平面形は円形で、規模は直径168cmである。深さ160cmまで調査を進めたが、壁面崩落の危険性が生じたため、以下の調査を断念した。断面形は筒形である。

出土遺物は一定量あり、在地産の鉢の破片が出土したが、図示できるものはなかった。このほかに、土師器の甕、須恵器など平安時代の遺物が多く混入していた。また、覆土3層中から、煤が大量に付着

第216号井戸跡

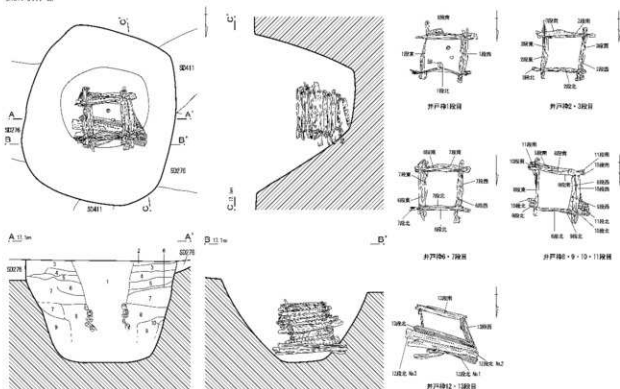
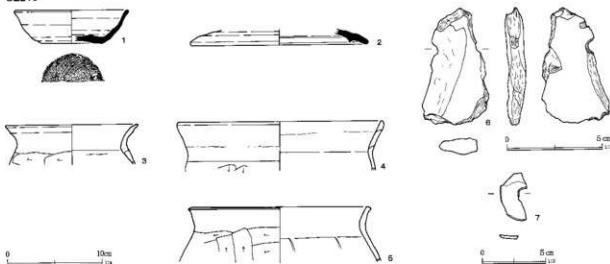


図216 井戸跡

- | | | | | |
|----|------|---------|--|------|
| 1 | 黒褐色土 | 10723/1 | 焼土ブロック(φ3~5cm)、炭化物(φ1~2cm)全体にまばら、黄褐色粘土ブロック(φ2~3cm)含む | 井戸覆土 |
| 2 | 黒褐色土 | 10724/1 | 焼土ブロック(φ3~5cm)、炭化物(φ1~2cm)全体にまばら、黄褐色粘土ブロック(φ3~5cm)やや多量、割り方 | |
| 3 | 黒褐色土 | 10723/2 | 焼土ブロック(φ3~5cm)、炭化物(φ1~2cm)少量、黄褐色粘土ブロック(φ8~9cm)平均的に少量、割り方(縦溝型) | |
| 4 | 黒褐色土 | 10723/2 | 焼土ブロック(φ3~5cm)、炭化物(φ1~2cm)少量、黄褐色粘土ブロック(φ10~15cm)平均的に少量 | |
| 5 | 緑灰色土 | 10724/1 | 焼土ブロック(φ3~5cm)、炭化物(φ1~2cm)少量、黄褐色粘土ブロック(φ10~15cm)平均的に少量 | |
| 6 | 緑灰色土 | 10724/2 | 焼土ブロック(φ3~5cm)、炭化物(φ1~2cm)少量、黄褐色粘土ブロック(φ10~15cm)平均的により上り少量、割り方 | |
| 7 | 緑灰色土 | 10724/1 | 焼土ブロック(φ3~5cm)、炭化物(φ1~2cm)少量、黄褐色粘土ブロック(φ3~5cm)と緑灰色土の混合層、割り方 | |
| 8 | 緑灰色土 | 1005/4 | 黒色土ブロック状に40%混入、緑灰色土もブロック状に40%混入、焼土、炭化物は含まない | |
| 9 | 緑灰色土 | 1062/1 | 黒じりけなし、しまり強、粘り強い | |
| 10 | 緑灰色土 | 305/1 | 黒分15~20%含む、しまりややあり、粘性強い | |

第330図 井戸跡(18)

SE216



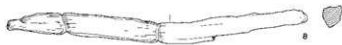
第331図 井戸跡出土物(21)

第98表 第216号井戸跡井戸枠材観察表

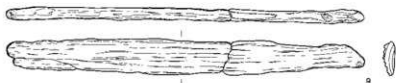
図版番号	造構	種別	器種	長さ	巾	厚さ	材質	備考	図版	
332	8	SE	216	木製品	井戸枠横木	[63.6]	4.6	4.0	2段目北	
332	9	SE	216	木製品	井戸枠横木	[76.0]	7.6	2.4	3段目北	170
332	10	SE	216	木製品	井戸枠横木	[76.0]	7.2	3.8	4段目北	170
332	11	SE	216	木製品	井戸枠横木	[88.4]	8.2	3.2	5段目北	
332	12	SE	216	木製品	井戸枠横木	[68.4]	5.8	3.0	6段目北	170
332	13	SE	216	木製品	井戸枠横木	[99.4]	9.4	8.0	7段目北	170
332	14	SE	216	木製品	井戸枠横木	[41.4]	5.0	3.4	7段目北	170
332	15	SE	216	木製品	井戸枠横木	[83.8]	7.0	3.8	8段目北	170
333	16	SE	216	木製品	井戸枠横木	[69.3]	9.1	4.0	9段目北	170
333	17	SE	216	木製品	井戸枠横木	[91.5]	3.8	7.1	10段目北	170
333	18	SE	216	木製品	井戸枠横木	91.8	8.6	4.8	11段目北	170
333	19	SE	216	木製品	井戸枠横木	78.6	9.2	2.2	12段目北 (1)	170
333	20	SE	216	木製品	井戸枠横木	[114.0]	10.4	2.2	12段目北 (2)	
333	21	SE	216	木製品	井戸枠横木	106.4	18.0	2.6	12段目北 (3)	170・171
333	22	SE	216	木製品	井戸枠横木	[88.2]	21.6	2.6	13段目北	170
334	23	SE	216	木製品	井戸枠横木	[40.6]	8.2	1.8	1段目東	
334	24	SE	216	木製品	井戸枠横木	[45.5]	10.8	4.7	2段目東	
334	25	SE	216	木製品	井戸枠横木	[76.0]	6.0	4.3	3段目東	
334	26	SE	216	木製品	井戸枠横木	[55.6]	4.8	3.9	4段目東	171
334	27	SE	216	木製品	井戸枠横木	[74.6]	7.4	4.2	5段目東	171
334	28	SE	216	木製品	井戸枠横木	[22.3]	8.9	8.1	6段目東	
334	29	SE	216	木製品	井戸枠横木	86.1	7.3	4.0	7段目東	171
334	30	SE	216	木製品	井戸枠横木	[72.8]	9.6	4.0	8段目東	171
334	31	SE	216	木製品	井戸枠横木	[63.8]	7.8	3.5	9段目東	171
335	32	SE	216	木製品	井戸枠横木	[92.6]	7.4	6.2	10段目東	171
335	33	SE	216	木製品	井戸枠横木	109.6	18.8	2.4	13段目東	171
336	34	SE	216	木製品	井戸枠横木	88.8	8.6	4.6	1段目南	171
336	35	SE	216	木製品	井戸枠横木	[63.7]	9.4	3.7	2段目南	
336	36	SE	216	木製品	井戸枠横木	[79.4]	7.4	2.6	3段目南	
336	37	SE	216	木製品	井戸枠横木	[69.0]	7.4	3.6	4段目南	
336	38	SE	216	木製品	井戸枠横木	[70.9]	6.6	4.4	6段目南	171
336	39	SE	216	木製品	井戸枠横木	86.2	8.6	5.0	7段目南	171
336	40	SE	216	木製品	井戸枠横木	[51.0]	4.6	2.2	8段目南	
336	41	SE	216	木製品	井戸枠横木	[69.2]	7.8	5.9	9段目南	171
337	42	SE	216	木製品	井戸枠横木	[72.8]	8.6	3.8	10段目南	172
337	43	SE	216	木製品	井戸枠横木	85.8	7.8	4.6	11段目南	172
337	44	SE	216	木製品	井戸枠横木	[80.2]	22.6	2.4	13段目南	172
338	45	SE	216	木製品	井戸枠横木	[63.1]	7.5	2.6	1段目西	
338	46	SE	216	木製品	井戸枠横木	[71.4]	6.8	3.4	2段目西	
338	47	SE	216	木製品	井戸枠横木	85.0	3.1	6.4	3段目西	
338	48	SE	216	木製品	井戸枠横木	[90.2]	6.0	3.8	4段目西	
338	49	SE	216	木製品	井戸枠横木	[86.8]	5.6	1.6	5段目西	
338	50	SE	216	木製品	井戸枠横木	[34.2]	5.9	2.2	6段目西	
340	51	SE	216	木製品	井戸枠横木	[51.7]	7.0	3.4	7段目西	
340	52	SE	216	木製品	井戸枠横木	[57.6]	7.4	4.0	8段目西	172
340	53	SE	216	木製品	井戸枠横木	[81.8]	6.0	4.4	9段目西	
340	54	SE	216	木製品	井戸枠横木	[80.0]	8.2	4.5	10段目西	172
340	55	SE	216	木製品	井戸枠横木	[82.8]	19.6	3.2	13段目西	172

SE216

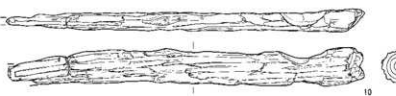
北2段目



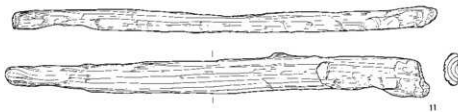
北3段目



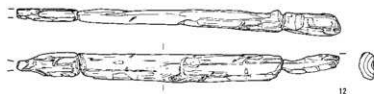
北4段目



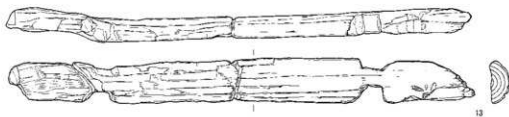
北5段目



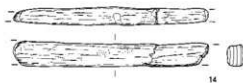
北6段目



北7段目(1)



北7段目(2)



北8段目



0 10cm

第332図 井戸跡出土遺物 (22)

SE216

北9段目



北10段目



北11段目



北12段目(1)



北12段目(2)



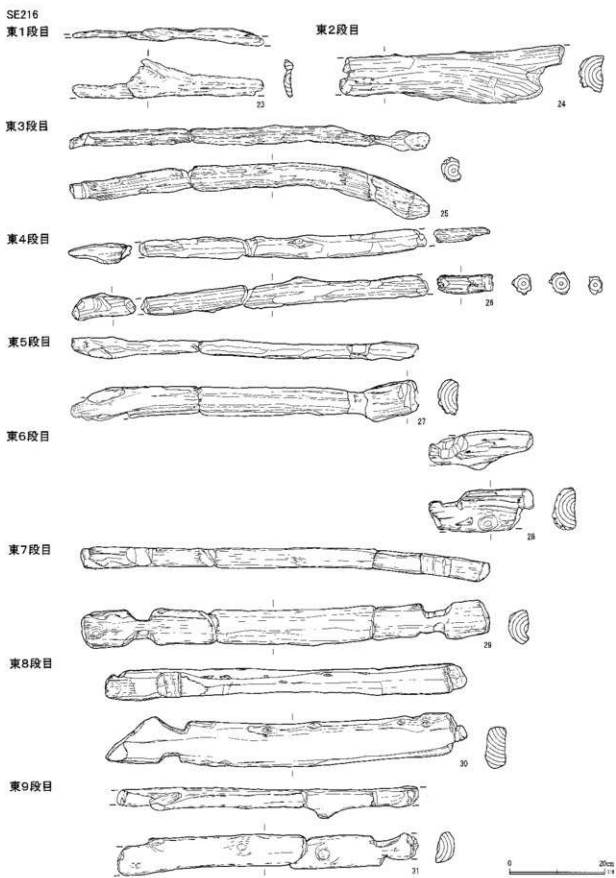
北12段目(3)



北13段目

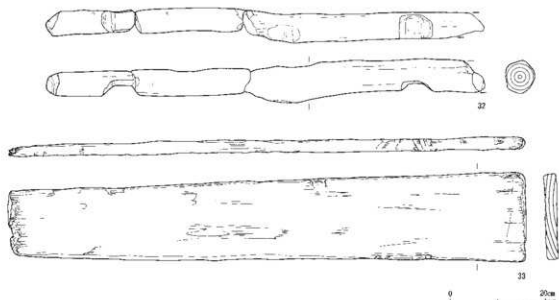


第3333团 井戸跡出土遺物 (23)



第334図 井戸跡出土遺物 (24)

SE216



第335図 井戸跡出土遺物 (25)

した円環3点や木片、ニホンジカの鹿角(Ⅷ-2図版6)が出土した。

第219号井戸跡 (第343図)

西区二面のF-23グリッドに位置する。第88号住居跡の貼床を切って構築されている。平面形は円形で、規模は直径76cmと小規模である。深さは128cmを測り、断面形は筒形である。井戸の下層から底部を欠いた須恵器の大甕が出土した。この大甕の接合破片の出土位置は、覆土上層から下層にまでおよんでいた。この大甕の口縁部は井戸の底面からやや浮いた位置で、口縁部を下にした状態で出土した。

出土遺物は第344図2～4に示した。遺物量は一定量あり、図示した遺物のほかにも、別個体とみられる須恵器の大甕の破片で復元できないものが多数出土した。ほかに、須恵器の環や土師器の破片も出土している。

第220号井戸跡 (第345図)

西区二面のF-23、F-24グリッドに位置する。北側では第88号住居跡を切って構築されている。平面形は北東-南西方向にやや長い楕円形で、規模は

長径100cm、短径85cmを測る。長軸方向はN-43°-Eをとる。深さは163cm、下部の井戸中心部の直径は45cmを測り、断面形は漏斗形である。覆土は2層で構成され、全体に炭化物を少量含んでいる。

出土遺物は極めて少なく、底部に周辺ヘラケズリを施した須恵器の環、土師器の小破片など5点が出土した。図示できるものはなかった。

第221号井戸跡 (第345図)

西区二面のH-21、H-22グリッドに位置する。第371号土坑を切って構築されている。平面形は円形で、規模は直径105cmである。深さは168cmを測り、断面形は底面からほぼまっすぐ立ち上がる筒形である。半裁の途中で断面が崩壊したため、断面の記録は残せなかった。

出土遺物は第344図5に示した。遺物量は極めて少なく、土師器の甕・環、須恵器の環などが出土した。

第222号井戸跡 (第345図)

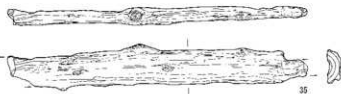
西区二面のF-23グリッドに位置する。第88号住居跡を大きく壊して構築されている。平面形は東西

SE216

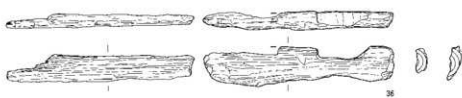
南1段目



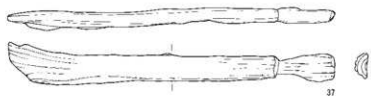
南2段目



南3段目



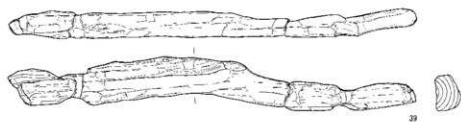
南4段目



南6段目



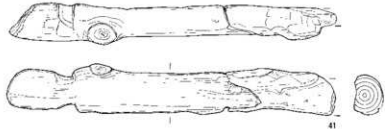
南7段目



南8段目



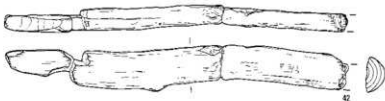
南9段目



第336図 井戸跡出土遺物 (26)

SE216

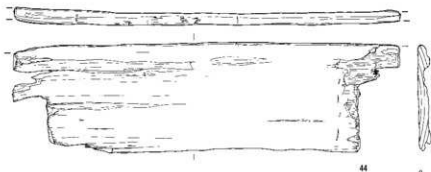
南10段目



南11段目



南13段目



第337図 井戸跡出土遺物 (27)

方向にやや長い楕円形で、規模は長径284cm、短径265cmを測り、長軸方向はN-76°-Eをとる。深さ175cmまで調査を進めたが、湧き水が激しく、壁が崩落する危険性が生じたため、それ以下の調査を断念した。断面は漏斗形で、下部の井戸中心部分の直径は140cmである。

断面の観察から、覆土6層および7層が掘り方、覆土4層および5層が井戸の本体部分であったと推定できる。覆土には全体的に焼土粒子や炭化物が含まれているが、中でも覆土4層には大量の有機物が含まれていた。3層および4層付近では土器や木材などの遺物も多量に出土していることから、井戸の中心部分を埋めた後に、なんらかの有機物、土器類、木材片など不要になったものを一括して投棄したと考えられる。

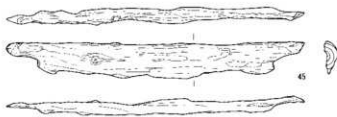
出土遺物は第346図～350図に示した。遺物量は極めて多く、膨大な量の須恵器の環・高台付埴・甕・羽釜・蓋・提瓶、土師器の甕・環、灰釉陶器、多く

の木製品の一部、鉄製品、礫、馬の歯などが出土した。21、22の須恵器の高台付埴の内面には、漆が付着していた。ハケやヘラで粗くこすった跡が不規則についていることから、パレットとして使用された可能性が考えられる。完形の須恵器もあるが破片が多く、出土位置は3層、4層、6層を中心としており、上述したように、井戸の廃棄後、覆土5層まで埋めた後で大量の土器類が木材片とともに投棄されたと考えられる。須恵器に比べて、土師器の出土量は少なかった。礫も、大きなものから小さいものまで数点が出土している。

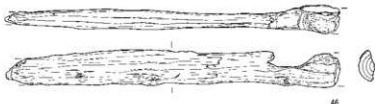
出土木製品に完全な製品は少なく、部材とみられるものが多数を占める。特に、焦げて黒ずんだものが多いのが特徴的である。出土した木製品のなかには、曲物の底板とみられるものも2枚あった。木製品の一部については樹種同定をおこなった。その結果、83のえぐり付木器はコナラ属コナラ亜属クヌギ節、82の加工痕のある棒はイヌゲヤ、筵網鎌はコナ

SE216

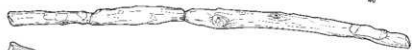
西1段目



西2段目



西3段目



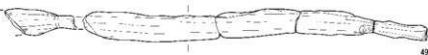
西4段目



西5段目



西6段目



西6段目

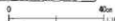


第338図 井戸跡出土遺物 (28)

北



東



第339図 第216号井戸跡 井戸枠側面図 (1)

SE216

西7段目



西8段目



西9段目



西10段目



西13段目



第340图 井戸跡出土遺物 (29)

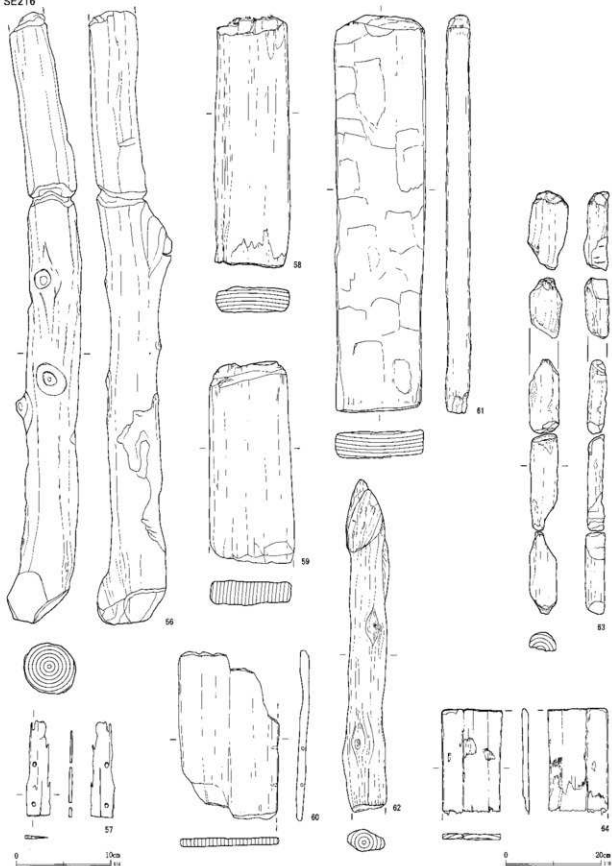
南

西

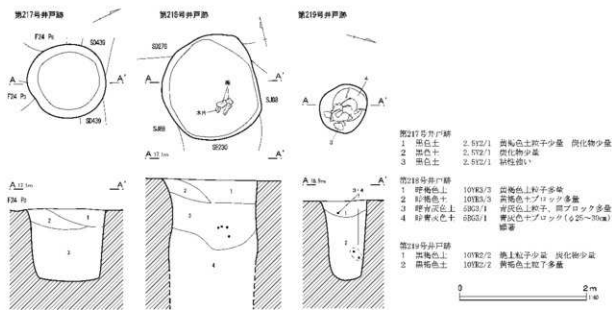


第341图 第216号井戸跡 井戸枠側面図 (2)

SE216



第342図 井戸跡出土遺物 (30)



第343図 井戸跡 (19)

ラ属アカガシ亜属の木材から作られていることがわかった。分析の詳細はⅧ-2に掲載している。

また、ニホンジカの寛骨と鹿角 (Ⅷ-2 図版 6) も出土している。

第223号井戸跡 (第351図)

西区二面のG-24グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径184cmである。断面形は漏斗形で、深さは216cm、下部の井戸中心部の直径は88cmを測る。半截の途中で断面が崩落したため、断面の記録を残すことができなかった。

出土遺物は第352図1に示した。遺物量は極めて少なく、内面に墨書のある土師器の甕の破片、須恵器の甕・環、片岩の欠片など9点が出土した。これらの遺物は、平安時代のものである。

第224号井戸跡 (第351図)

西区二面のH-21グリッドに位置する。第382号土坑を切って構築され、第135号井戸跡、H-21グリッドP1に切られている。確認面での平面形は円形で、規模は直径63cmである。また、オーバーハングしている下端での平面形は不整楕円形で、規模は長

径90cmである。深さは120cmを測る。井戸内下層で木材が北側の壁面に入り込んでおり、断面形は底面付近が大きくオーバーハングするフラスコ形である。このようなフラスコ形になるのは、底面付近の壁面が崩落したためと考えられる。調査時も断面が崩落したため、断面の記録を残すことができなかった。

出土遺物は第352図2～10に示した。遺物量は少なめで、土師器の環・小型壺・甕、須恵器の甕、小碟、木材などが出土した。

第225号井戸跡 (第351図)

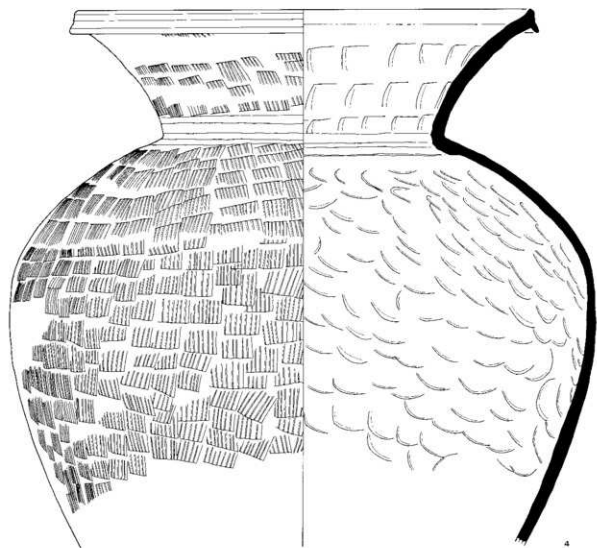
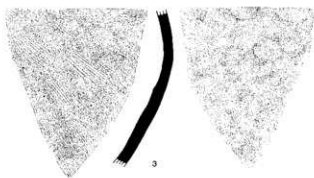
西区二面のH-22グリッドに位置する。西側では第372号溝跡を切っている。また、東側の一部は調査のための排水溝に壊されている。平面形は南北にやや長い楕円形で、規模は長径121cm、短径は推定98cm、長軸方向はN-90°-Eをとる。深さは122cmを測り、断面形は筒形である。湧き水が著しく、断面が調査の途中で崩落したため、断面の記録は残せなかった。

出土遺物は第352図11～15に示した。遺物は一定量あり、土師器の甕・環、須恵器の環、曲物の底板などが出土した。

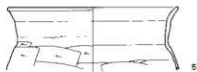
SE217



SE219



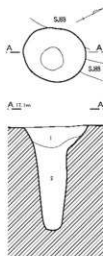
SE221



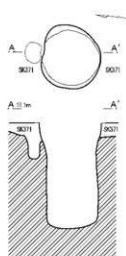
0 10cm

第344図 井戸跡出土遺物 (31)

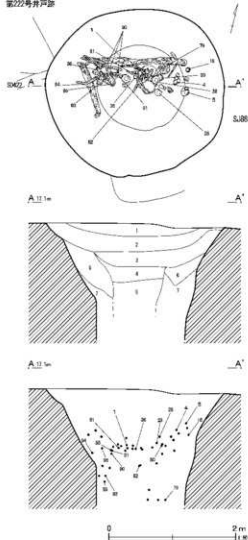
第226号井戸跡



第227号井戸跡



第228号井戸跡



第226号井戸跡

- | | | |
|--------|---------|-----------------------|
| 1 濃褐色土 | 10YR2/2 | 無十粒土少量 炭化物少量 濃褐色土粒子多量 |
| 2 黒褐色土 | 10YR2/2 | 黄褐色土粒子少量 炭化物少量 |

第227号井戸跡

- | | | |
|-----------|---------|--|
| 1 褐色土 | 10YR4/1 | 濃褐色粘土粒子(φ1mm)全体に少量
腐土、炭化物(φ2~3mm)含む |
| 2 褐色土 | 10YR3/1 | 黄褐色粘土ブロック(φ2~3mm)含む
粘土、炭化物(φ2~3mm)少量 |
| 3 灰色土 | 7.5YR/1 | 緑灰色粘土粒子(φ1mm)少量 腐土、炭化物(φ2~3mm)微量 |
| 4 灰色土 | 9Y4/1 | 黄褐色粘土ブロック(φ3mm)微量 炭化物(φ2~3mm)少量
有機物多量 |
| 5 オリーブ褐色土 | 9Y3/1 | 緑灰色粘土ブロック(φ3mm)微量 炭化物(φ2~3mm)少量
全体に木片を含む |
| 6 黒色土 | X/2 | 緑灰色粘土ブロック(φ3~5mm)多量 分層可能
炭化物(φ1mm)微量 シルト質 |
| 7 灰褐色土 | 10Y7/1 | 緑褐色粘土ブロック(φ3mm)微量 炭化物少量 粘土質 |

第345図 井戸跡 (20)

第226号井戸跡 (第351図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径63cmと小さく、深さは117cmを測る。断面形は筒形である。

出土遺物はほとんどなく、土師器の小破片が3点出土した。図示できる遺物はなかった。

径は112cm、短径は85cm、長軸方向はN-8°-Eである。断面形は漏斗形で、深さは122cmを測り、下方の中心部の直径は34cmと極めて小さい。

出土遺物は少なく、土師器の甕、須恵器の甕の破片など14点が出土したが、図示できるものはなかった。

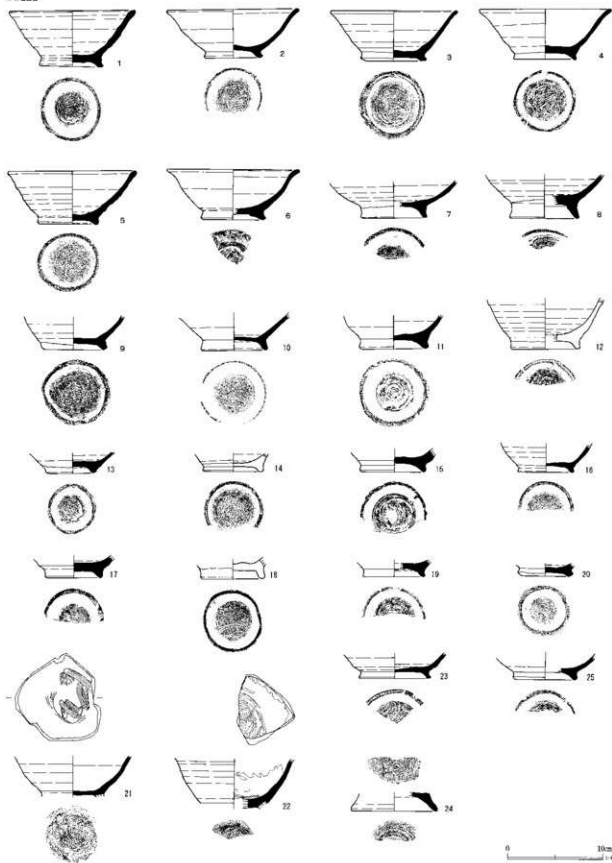
第227号井戸跡 (第351図)

西区二面のH-21グリッドに位置する。第408号溝跡を切っているが、H-21グリッドP3、P34に切られている。平面形は東西にやや長い楕円形で、長

第228号井戸跡 (第351図)

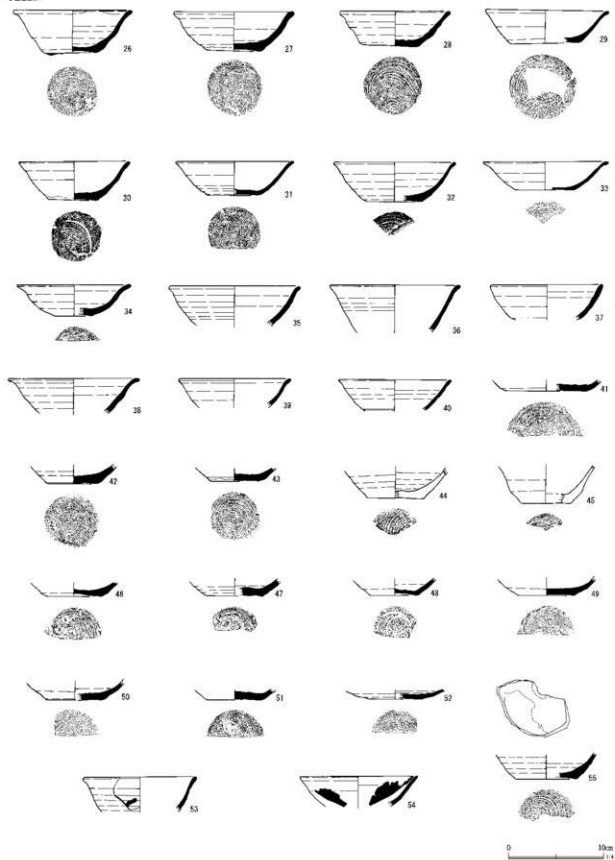
西区二面のH-21グリッドに位置する。平面形は東西に長い楕円形で、東側に方形の浅い張り出し部を設けている。規模は長径88cm、短径48cmで、長軸

SE222



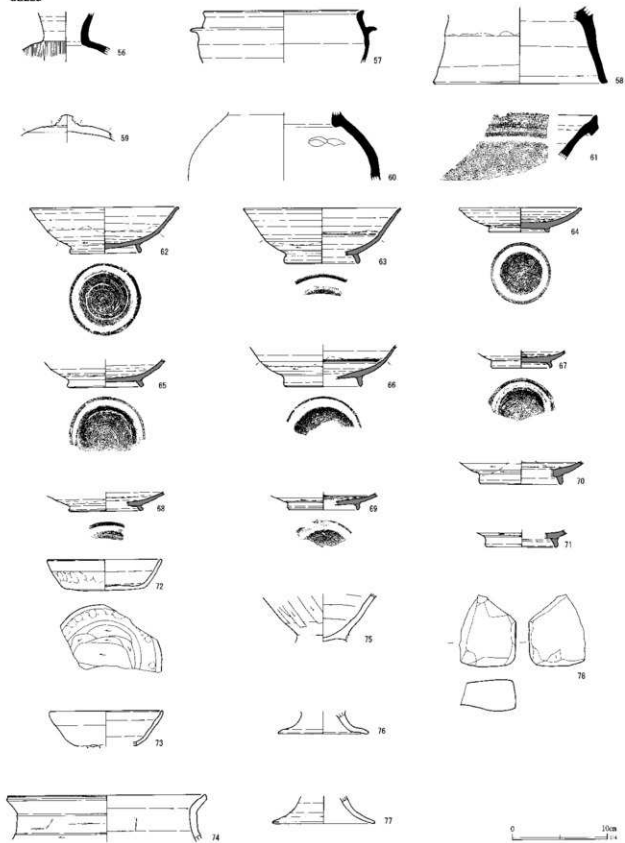
第346图 井戸跡出土遺物 (32)

SE222



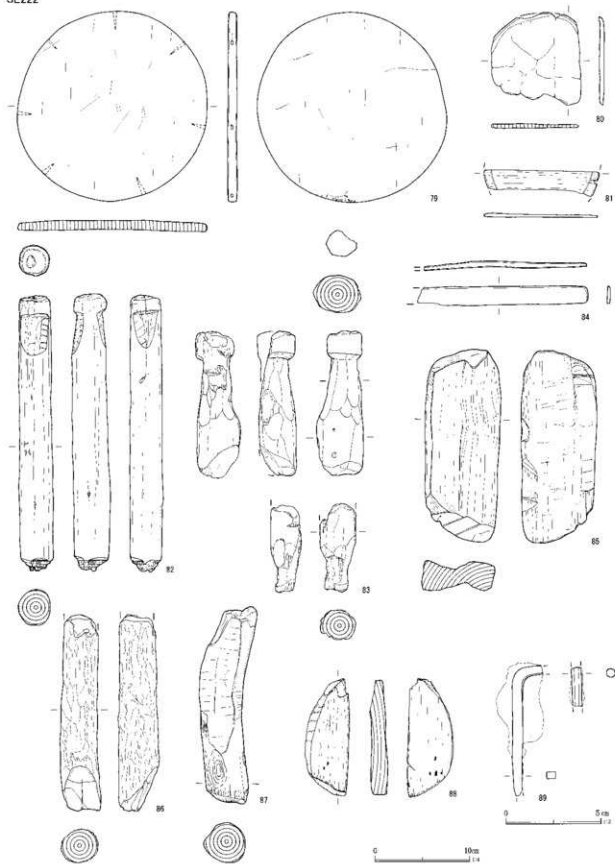
第347图 井戸跡出土遺物 (33)

SE222



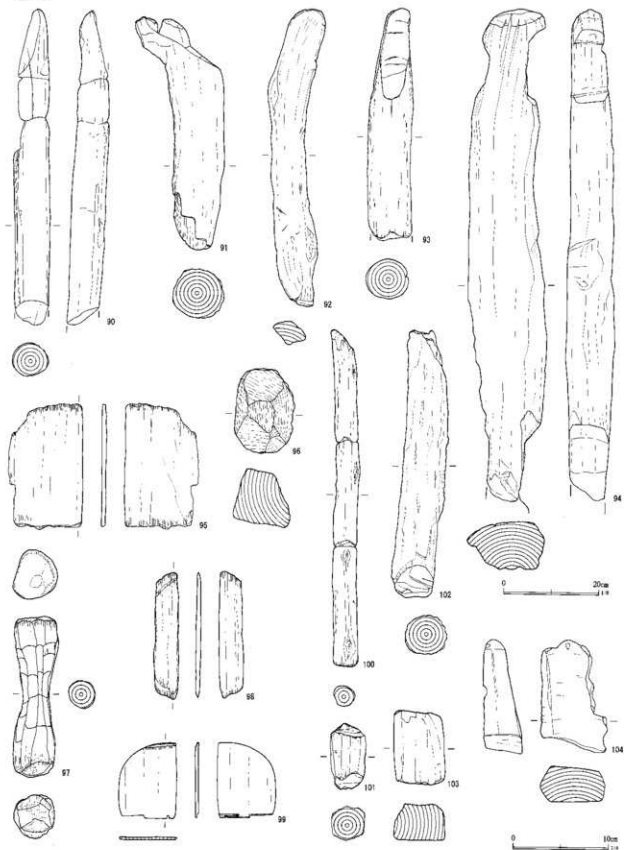
第348回 井戸跡出土遺物 (34)

SE222



第349図 井戸跡出土遺物 (35)

SE222



第350图 井戸跡出土遺物 (36)

方向はN-62°-Wをとる。断面形は漏斗形で、深さは126cm、井戸本体の中心部の直径は45cmと小さい。覆土1層には多量の炭化物と焼土粒子が、覆土2層には多量の炭化物が含まれていた。埋没の最終段階に廃棄物として燃えかすなどが投棄されたものと考えられる。

出土遺物は第353図1～6に示した。遺物は一定量あり、土師器の環・鉢・甕などが出土した。

第229号井戸跡（第351図）

西区二面のF-22グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径66cmである。深さは130cmを測り、断面形は筒形である。

出土遺物は第353図7に示した。遺物は少なく、須恵器の高台付壇・蓋・甕、土師器の小破片などが出土した。

第230号井戸跡（第351図）

西区二面のF-23グリッドに位置する。北側で第218号井戸跡に1/3壊されている。また南側ではピットに切られている。平面形は隅丸方形で、規模は一辺125cmである。断面形は漏斗形で、深さは148cm、井戸の中心部の直径は78cmである。覆土では2層の堆積がみられるが、井戸の本体部分は覆土2層の単層となっている。2層には地山土とみられる青灰色のブロックが多量に含まれており、廃絶直後に一気に埋め戻されたと考えられる。

出土遺物は一定量あり、灰陶陶器の壇、土師器の環・甕、須恵器の蓋などが出土したが、図示できるものはなかった。

第231号井戸跡（第355図）

西区二面のF-23グリッドに位置する。平面形はやや角張った円形で、規模は直径118cmである。深さは180cmを測り、断面形は筒形である。最下層に相当する覆土4層は、炭化物や灰、有機物、木片が大量に含まれ、桃のものとみられる種子も出土した。断

面では噴砂が観察された。

出土遺物は第353図8～27、第354図28～31に示した。土器類は下層を中心に出土している。遺物量は多く、須恵器の環・蓋・甕の破片、土師器の古付甕・甕・環、墨書土器、砥石、木製品などが出土した。29の木製の皿は、覆土4層から出土したものである。

28の木製の筵網錘について樹種同定をおこなった結果、コナラ属アカガシ亜属の木材で作られていることがわかった。分析の詳細はVIII-2に掲載している。

第232号井戸跡（第355図）

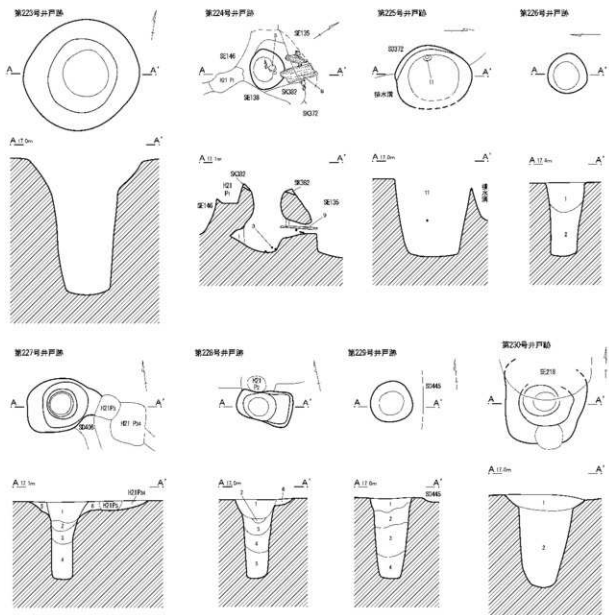
西区二面のF-27グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径90cmである。深さは130cmを測り、断面形は筒形である。半截の途中で断面が崩落したため、断面の記録は残せなかった。

出土遺物は少なく、須恵器の瓶・環、土師器の環など9点が出土したが、図示できるものはなかった。土器類のほかに、井戸の底面付近からドブネズミの頭骨（VIII-2図版6）を含めた骨が1体分出土した。当時、周辺に生息していたものが井戸に落ちたものとみられる。

第233号井戸跡（第355図）

西区二面のF-23、F-24グリッドに位置する。中央で第411号溝跡、南側で第234号井戸を切っている。平面形は隅丸方形で、規模は一辺が236cmである。断面形は漏斗形で、深さは190cm、中心部の直径は67cmである。断面の観察から、覆土4層、7～10層、12～14層が掘り方、覆土1～3層が井戸の本体部分であると判断される。

出土遺物は第356図1～13に示した。遺物は一定量あり、須恵器の環・壇・長頸壺、土師器の環・皿・甕・土師器の甕、木製品の一部などが出土した。木製品の一部および木材は井戸の底面付近から出土している。



第220号井戸跡 1 灰色土	M/	灰色土粘上主体	しまり強い	粘性強い	第228号井戸跡 1 暗褐色土	10K3/3	灰化粘土ブロック多量	粘上粒子多量	しまり強い	粘性あり
第226号井戸跡 1 暗褐色土	10K3/3	黄褐色土粒子少量	しまりあり	粘性あり	2 黒色土	10K2/1	灰化粘多量	しまり強い	粘性や中あり	
2 灰オリーブ色土	10K4/2	灰色粘土主体	しまりあり	粘性強い	3 灰オリーブ色土	10K4/2	砂粒多量	しまり強い	粘性あり	
第227号井戸跡 1 黒褐色土	10K3/2	粘上粒子少量	灰化粘土ブロック多量	しまりあり	4 オリーブ灰色土	2.30K/1	緑灰色粘土粒子多量	しまり強い	粘性強い	
2 灰オリーブ色土	1.01K4/2	灰色粘土	しまり強い	粘性強い	5 緑オリーブ褐色土	2.30K/2	緑灰色粘土粒子多量	しまり強い	粘性強い	
3 オリーブ褐色土	2.01K/3	砂粒多量	黄褐色土ブロック多量		6 黄褐色土	10K4/4	黄褐色土粒子少量	しまり強い	粘性強い	
4 オリーブ灰色土	2.30K/1	灰色粘土ブロック含む	しまりあり	粘性あり	第229号井戸跡 1 黒褐色土	1.01K3/2	黄褐色粘土ブロック(φ1~4cm)10%	しまりあり	粘性や中あり	
5 暗褐色土	10K3/4	灰色粘土ブロック含む	しまり強い	粘性あり	2 黒色土	10K2/1	黄褐色粘土ブロック(φ1~5cm)10%	しまりや中あり	粘性あり	
6 褐色土	10K4/4	黄褐色土粒子少量	粘土	灰化粘物粒少量	3 黒色土	10K2/1	しまりや中あり	粘性あり		
					4 黒色土	10K2/1	しまり強い	粘性あり	砂粒多量	
					第230号井戸跡 1 黒褐色土	10K3/2	黄褐色土ブロック少量	粘土粒少量	灰化粘少量	
					2 黒褐色土	10K2/2	古灰色土ブロック多量			

0 2m
10

第351図 井戸跡(21)

第234号井戸跡（第355図）

西区二面のF-23、F-24グリッドに位置する。北西側で第411号溝跡を切り、北側では第233号井戸跡に切られている。平面形は不整楕円形で、西側に大きな半楕円形の張り出し部を設けている。本体の規模は長径302cm、短径280cm、長軸方向はN-0°である。断面形は漏斗形で、深さは190cm、井戸中心部の直径は89cmを測る。

断面の観察から、覆土の6層、7層、9～11層、13層はブロックを主体的に含む井戸の掘り方、1層および3層が井戸の本体部分であったと推定される。

出土遺物は第356図14～21に示した。遺物は、井戸本体部分の最下層に相当する覆土3層付近から多く出土している。遺物は一定量あり、須恵器の環・甕、土師器の甕の破片、木製品の一部とみられる棒などが出土した。

第235号井戸跡（第357図）

西区二面のH-23グリッドに位置する。北側で第418号溝跡を切り、南側で第423号溝跡に切られている。平面形は楕円形で、規模は長径81cm、短径59cmである。オーバーハングしており、下端の規模は長径115cm、短径105cmで、長軸方向はN-4°-Wである。深さは140cmで、断面形はフラスコ形である。

出土遺物は第358図1～6に示した。遺物は一定量あり、須恵器の環・甕、土師器の甕などが出土した。4～6の木材は、底面近くの5層と7層から出土している。1は底部に「山」と書かれた黒書土器である。

第236号井戸跡（第357図）

西区二面のF-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径103cmである。深さは145cm、断面形はやや口に向かって開く漏斗形である。覆土全体に炭化物が含まれていたが、特に覆土1層は多量の炭化物と焼土粒子を少量含んでいた。

出土遺物は第358図7～12に示した。遺物は一定量あり、在地産の鉢、土師器の甕、須恵器の高台付環、灰釉陶器、鉄滓などが出土した。

第237号井戸跡（第357図）

西区二面のH-27グリッドに位置する。南側は調査区域外で、検出したのは北側半分である。平面形は円形で、規模は直径154cmである。断面形は漏斗形である。深さは123cm、中心部の直径は65cmである。覆土全体に緑灰色粘土ブロックを含んでいる。

出土遺物はなかった。

第238号井戸跡（第357図）

西区二面のF-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径59cmと小さい。深さは140cmで、断面形は筒形である。半裁の途中で断面が崩落したため、断面の記録は採取できなかった。

出土遺物は極めて少なく、土師器の甕など小破片が5点出土したが、図示できるものはなかった。

第239号井戸跡（第357図）

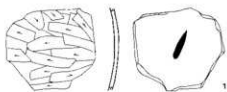
東区のN-26グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径80cmである。深さは130cmを測り、断面は筒形である。

出土遺物は第358図13・14に示した。遺物量は極めて少なく、須恵器の環・甕、灰釉陶器、土師器の小破片など6点が出土した。

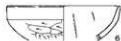
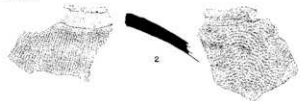
第240号井戸跡（第357図）

東区のL-21、L-22、M-21、M-22グリッドに位置する。北側では第509号溝跡、第512号溝跡を切っている。第503号溝跡との新旧関係は確認できなかった。平面形は南北にやや長い楕円形で、規模は長径295cm、短径272cmを測る。長軸方向はN-18°-Eをとる。断面形は漏斗形で、深さは158cm、中心部の直径は125cmである。覆土2層を中心に有機物を多く含む、最下層の6層には炭化物が多量に堆積

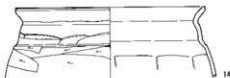
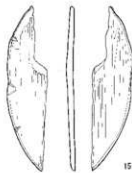
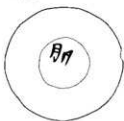
SE223



SE224

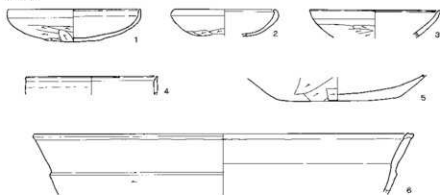


SE225

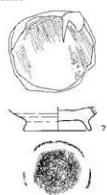


第3521回 井戸跡出土遺物 (37)

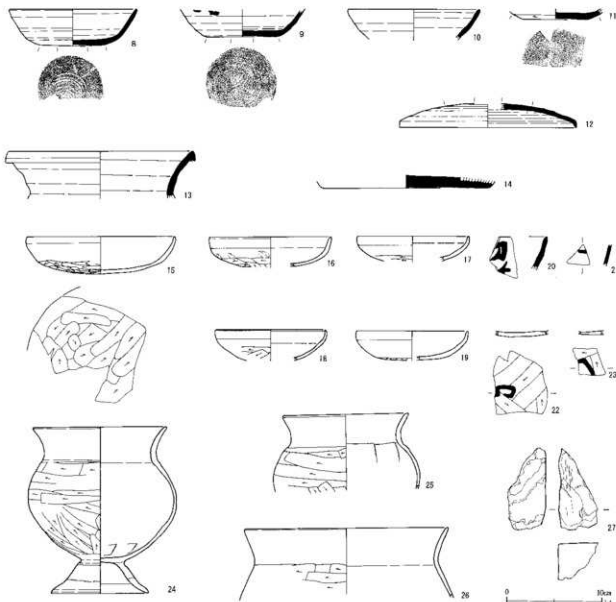
SE228



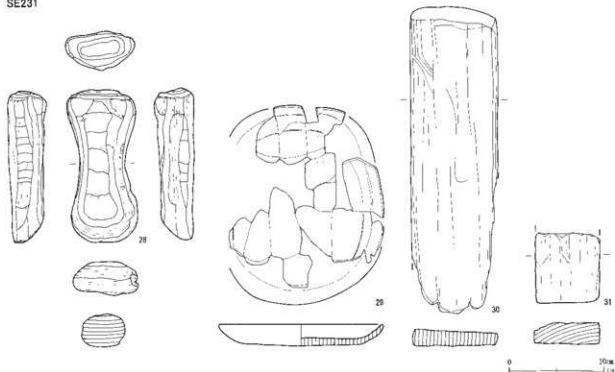
SE229



SE231



第353図 井戸跡出土遺物 (38)



第354図 井戸跡出土遺物 (39)

していた。本遺構に連結している第503号溝跡と最上層の覆土が同じであったことから、本遺構は溜井で、第503号溝跡が導水路であった可能性が考えられる。

出土遺物は第359図1～4に示した。遺物は一定量あり、土師質の須恵器の環、在地産の鉢、宋銭、青磁などが出土したほか、須恵器の甕などの混入遺物もあった。2の須恵器の甕は混入したものと考えられる。

第241号井戸跡 (第357図)

東区のJ-21グリッドに位置する。第505号溝跡を切っている。平面形は円形で、規模は直径62cmである。深さは114cmを測り、断面形はやや口の広がる筒形である。

出土遺物は第359図5～7に示した。遺物は一定量あり、土師器の丸底甕・甕・鉢、須恵器の小破片などが出土した。5と7は覆土1層から出土した土器で、埋没の最終段階に入り込んだとみられる。

第242号井戸跡 (第360図)

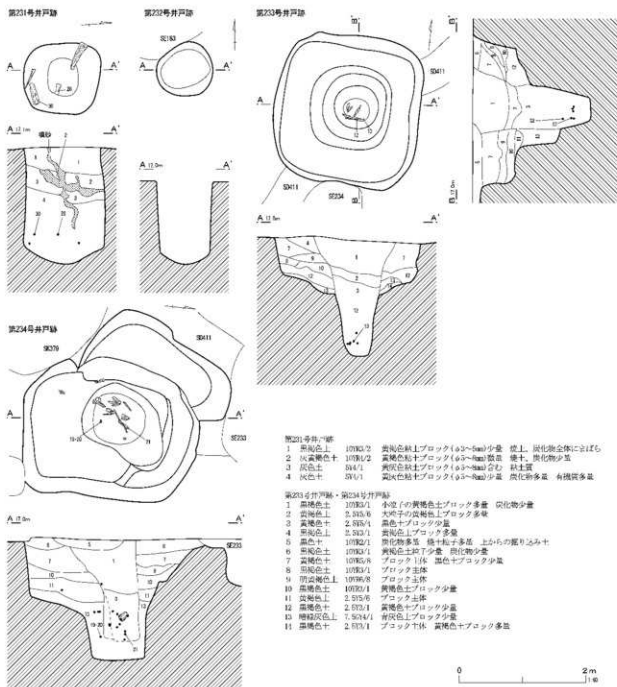
東区のL-21グリッドに位置する。北側で第459号土坑を切っている。平面形は円形で、規模は直径113cmである。深さは138cmで、断面形は口がやや広がる筒形である。

出土遺物は第359図8に示した。遺物量は少なく、須恵器の環、土師器の小破片など14点が出土した。

第243号井戸跡 (第360図)

東区のL-21グリッドに位置する。第130号溝跡を切って構築され、第282号井戸跡に切られている。平面形は南北に長い楕円形で、規模は長径263cm、短径238cm、長軸方向はN-13°-Wをとる。深さは144cmを測り、断面形は筒形である。覆土2層には炭化物が多量に、覆土3層には炭化物と有機物が多量に含まれていた。埋没の最終過程で一括投棄されたものと考えられる。

出土遺物は第359図9～11に示した。遺物量は少なめで、須恵器の甕・環・高台付環、土師器の甕・環の小破片、曲物の底板などが出土した。11の曲物



第355図 井戸跡 (22)

の底板は、覆土11層の直上から出土した。

第244号井戸跡 (第360図)

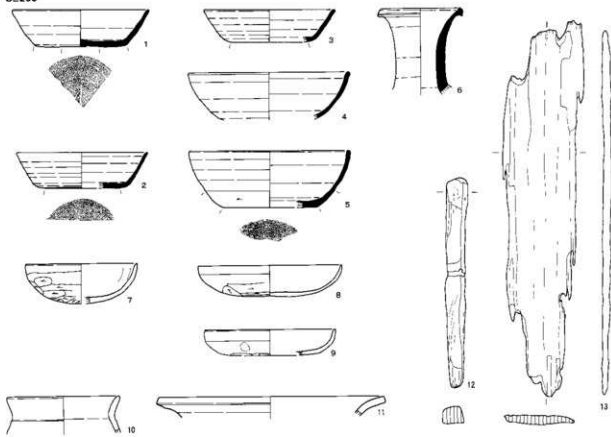
東区のM-21グリッドに位置する。西側半分で第488号溝跡を切っている。平面形は円形で、規模は直径121cmである。深さは132cmを測り、断面形は底面付近がややすぼまる筒形である。

出土遺物は第359図12に示した。遺物量は極めて少なく、図示した1点のほかに片岩の欠片が出土した。

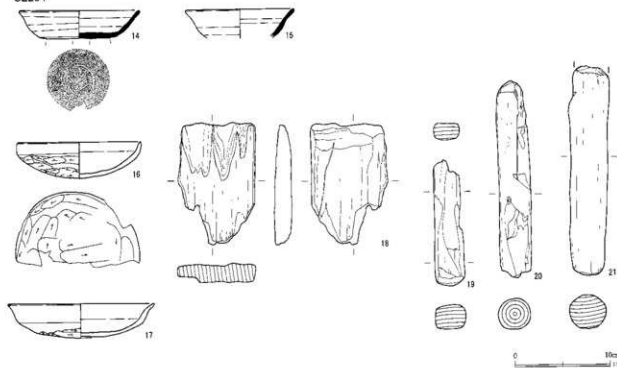
第245号井戸跡 (第360図)

東区のM-22、M-23グリッドに位置する。第486号溝跡、第1号道路状遺構など重複する遺構を切っ

SE233



SE234



第356図 井戸跡出土遺物 (40)

ている。平面形は不整形円で、規模は直径171cmである。深さは157cm、断面形は口に向かってやや開く筒形である。覆土4層と5層には炭化物が多量に含まれていた。井戸廃絶後に廃棄物を一括投棄した可能性が考えられる。

出土遺物は第361図1～7に示した。遺物は少なく、陶器、木片や木製品のほかに灰軸陶器など16点の遺物が出土した。7の杓子について樹種同定をおこなった結果、サワラで作られていることがわかった。分析の詳細はVIII-2に掲載した。

第246号井戸跡 (第360図)

東区のM-23グリッドに位置する。北東側では第94号住居跡を切っている。平面形は北東-南西方向に長い楕円形で、規模は長径190cm、短径154cmである。長軸方向はN-45°-Eをとる。断面形は漏斗形である。深さは161cm、中心部底面付近の直径は81cmである。

出土遺物は第361図8・9に示した。遺物は極めて少なく、須恵器の甕、土師器の甕・環などの小破片、小型の曲物など9点が出土した。図示できる土器類はなかったが、遺物は平安時代のものであった。8の小型の曲物は、直径が20cmあり、井戸の底面近くから出土した。この曲物について樹種同定をおこなった結果、側板、底板ともにスギが利用されていることがわかった。分析の詳細はVIII-2に掲載している。

第247号井戸跡 (第360図)

東区のM-23グリッドに位置する。第94号住居跡よりも新しい。平面形は不整形円で、北西部には掘り込みの浅い方形の張り出し部を設けている。規模は、張り出し部を含めた長軸が187cm、長軸方向はN-51°-Wをとり、井戸本体の直径は146cmを測る。深さは143cmあり、断面形は口に向かって広がる形を呈する。

出土遺物は第361図10に示した。遺物は極めて

少なく、土師器の甕、灰軸陶器の小破片、須恵器の高台付盤か高杯とみられる破片など7点が出土した。

第248号井戸跡 (第362図)

東区のM-22、N-22グリッドに位置する。第95号住居跡を壊して構築され、東側で隣接する第249号井戸跡に切られている。平面形は東西にやや長い不整形円形で、規模は長径166cm、短径154cmを測る。長軸方向はN-78°-Wをとる。深さは104cmで、断面形は上部が小さくくびれる箱形である。

出土遺物はなかった。

第249号井戸跡 (第362図)

東区のM-22、N-22グリッドに位置する。第95号住居跡を壊して構築され、西側では第248号井戸跡を切っている。平面形は不整形円形で、規模は長径308cm、短径207cmである。長軸方向はN-78°-Wである。深さは178cmを測り、断面形は箱形を呈する。断面観察から、覆土10層が井戸の掘り方、9層が井戸本体部分の痕跡であったと考えられる。

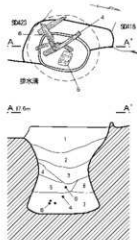
出土遺物は第361図11～13に示した。遺物は少なめで、須恵器の甕や大型甕の破片・環・高台付環、灰軸陶器の小破片、土師器の破片などが出土した。遺物は平安時代のものである。

第250号井戸跡 (第362図)

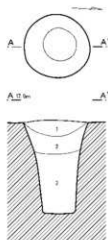
東区のN-23グリッドに位置する。東側の一部は調査のために設けられた排水溝に壊されている。平面形は南北にやや長い楕円形で、規模は長径118cm、短径は推定100cm、長軸方向はN-10°-Wをとる。深さは160cmで、断面形は上部がわずかに開く筒形である。

出土遺物は第361図14に示した。遺物は極めて少なく、常滑の壺の破片(14)が出土した。このほか、土師器の小破片など混入遺物を含めて計7点が出土した。

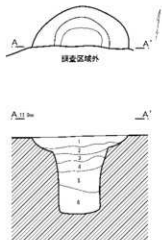
第225号井戸跡



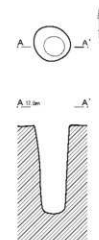
第226号井戸跡



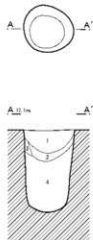
第227号井戸跡



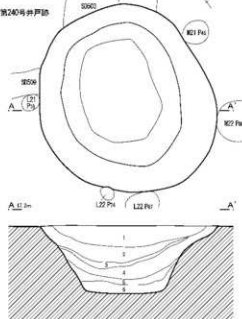
第228号井戸跡



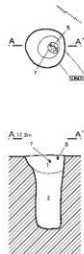
第229号井戸跡



第240号井戸跡



第241号井戸跡



第250号井戸跡

- 1 灰白・黄褐色土
- 2 灰オリーブ色土
- 3 灰色土
- 4 灰オリーブ色土
- 5 灰色土
- 6 オリーブ灰色土
- 7 オリーブ灰色土

- 10794/0 酸化赤、黄褐色土粒子多量 炭土粒子少量 しまり強い
- 7.032/2 酸化赤、黄褐色土粒子多量 炭土粒子少量 しまり強い
- 7.034/1 粘り強い、
- 7.032/2 酸化赤、黄褐色土粒子少量 しまり強い、粘性強い、
- 7.034/1 灰色粘土 しまり強い、粘性強い、
- 7.035/1 灰色粘土と粒子入り、しまり強い、粘性強い、
- 7.036/2 灰色粘土主体、しまり強い、粘り強い、

第259号井戸跡

- 1 黄褐色土
- 2 暗灰色土
- 3 暗灰色土
- 4 暗灰色土
- 5 オリーブ黒色土
- 6 オリーブ黒色土

- 2.313/1 ロームブロック(φ1~10cm)25% しまりあり
- 粘りややあり
- N3/1 ロームブロック粒子(φ1~2cm)10%
- しまりややあり 粘りあり
- N3/1 しまりややあり 粘りあり かりかりしている
- しまりなし、粘性強い、粘り強い

第260号井戸跡

- 1 黄褐色土
- 2 黄褐色土
- 3 灰色土
- 4 灰色土
- 5 オリーブ黒色土
- 6 オリーブ黒色土

- 10734/1 黄褐色粘土ブロック(φ3~5cm)全体に多量
- 右側部含む 酸化赤多量
- 10733/1 暗灰色粘土ブロック(φ1~2cm)含む 右側部多量
- 粘り強い
- 10714/1 暗灰色粘土ブロック(φ1~2cm)多量 粘り強い
- 394/1 暗灰色粘土ブロック(φ3~5cm)少量 炭化物含む
- 393/2 暗灰色粘土ブロック(φ3~5cm)少量 炭化物含む
- 393/1 炭化物多量、有機質の沈着物

第266号井戸跡

- 1 赤色土
- 2 黄褐色土
- 3 黒褐色土

- 10723/1 炭化物多量 炭土粒子少量
- 10723/1 炭化物少量
- 10725/1 炭化物少量 粘性強い

第267号井戸跡

- 1 灰白色土
- 2 暗灰色土
- 3 暗灰色土
- 4 灰色土
- 5 オリーブ黒色土
- 6 緑灰色土

- 10702/1 黄褐色粘土ブロック(φ1~2cm)多量 炭分多量
- 10703/1 緑灰色粘土ブロック(φ1~2cm)多量
- 10704/1 緑灰色粘土ブロック(φ1~2cm)多量
- 10705/1 緑灰色粘土ブロック(φ1cm)多量
- 1073/1 緑灰色粘土ブロック(φ2~3cm)多量
- 7.036/1 暗灰色粘土ブロック(φ6~8cm)多量 粘り強い

第281号井戸跡

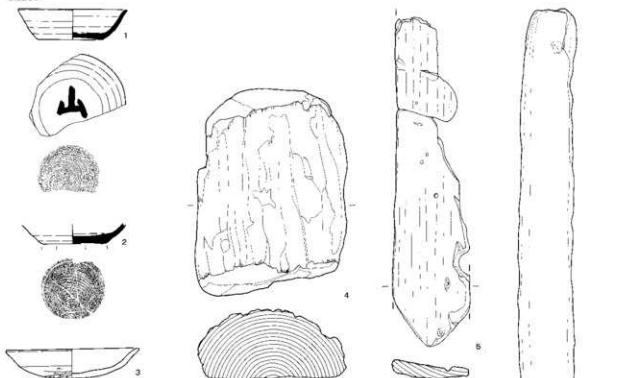
- 1 暗オリーブ褐色土
- 2 暗緑褐色土

- 2.313/3 炭土少量 炭化物少量
- 7.030/1 黄褐色土ブロック少量 粘り強い

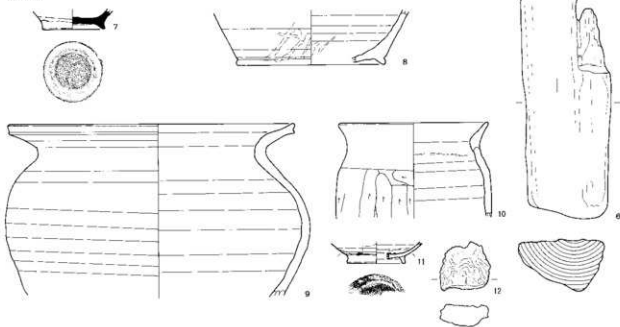


第357図 井戸跡 (23)

SE235



SE236

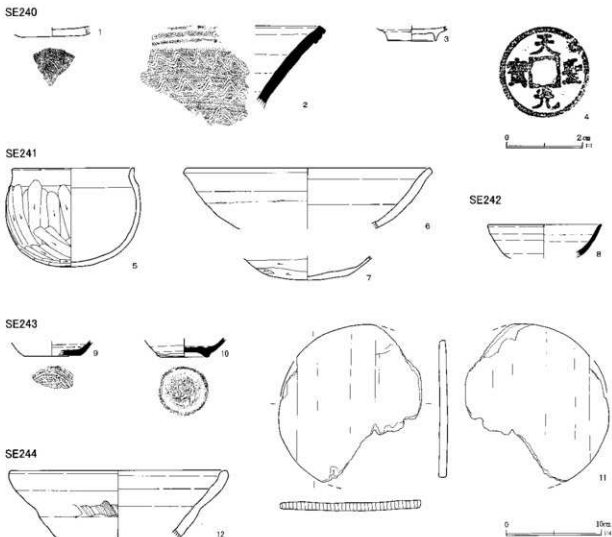


SE239



0 10cm

第358図 井戸跡出土遺物 (41)



第359号 井戸跡出土遺物 (42)

第251号井戸跡 (第362図)

東区のK-22グリッドに位置する。東側でK-22グリッドP46を切って構築されている。平面形は南北に長い楕円形で、規模は長径95cm、短径70cmである。長軸方向はN-6°-Wをとる。深さは126cmを測り、断面形は西側上部がわずかに開く筒形である。

出土遺物は第363図1~4に示した。遺物量は少なく、須恵器の環・高台付環・甕、土師器の甕など小破片、中央にえぐりのある木材の一部が出土した。

第252号井戸跡 (第362図)

東区のK-22、L-22グリッドに位置する。南西側で第262号井戸跡に、南東側でピットに切られて

いる。平面形は円形で、規模は直径144cmである。深さは154cmを測り、断面形は筒形である。

出土遺物はなかった。

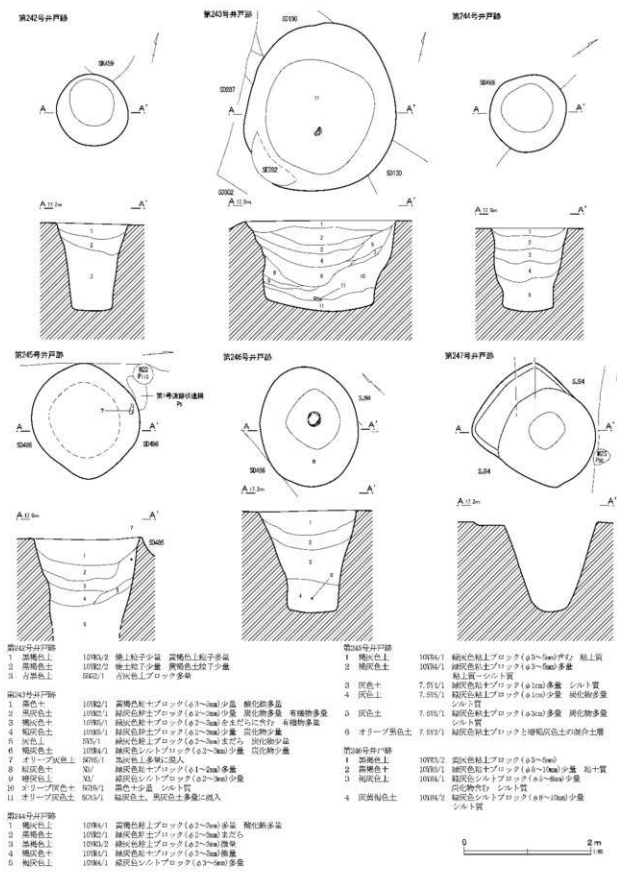
第253号井戸跡 (第362図)

東区のM-21グリッドに位置する。第503号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。平面形は不整形で、規模は推定直径215cmである。深さは183cmを測り、断面形は漏斗形である。

出土遺物はなかった。

第254号井戸跡 (第364図)

東区のM-23、N-23グリッドに位置する。北西



第360図 井戸跡 (24)

側で第524号溝跡、南東側で第565号溝跡を切っている。東側の一部ではピットに切られている。平面形は北西—南東方向に長い楕円形で、規模は長径213cm、短径183cmを測る。長軸方向はN-36°-Wをとる。断面形は漏斗形で、深さは196cm、中心部の直径は86cmである。覆土2層は炭化物と灰を多量に含んでいた。最下層である4層がザクザクした感じであり、弱層であることから、井戸が廃絶された後、意図的に埋め戻され、3層まで埋まった段階で、炭化物や何らかの有機物など廃棄物がまとめて投棄された可能性が考えられる。

出土遺物は第363図5・6に示した。遺物量は少なく、須恵器の甕・杯、土師質の須恵器の皿などが出土した。

第255号井戸跡 (第364図)

東区のL-22グリッドに位置する。北西側でピットに切られている。平面形は円形で、規模は直径108cmである。深さは162cmを測り、断面形は筒形である。

出土遺物は第363図7～9に示した。遺物量は極めて少なく、須恵器の甕・高台付杯・杯、土師器の甕の破片、曲物の側板の一部など9点が出土した。

第256号井戸跡 (第364図)

東区のL-23グリッドに位置する。第531号溝跡、第537号溝跡、第543号溝跡の3本の細い溝跡を切って構築されている。平面形は円形で、規模は直径122cm、深さは166cmを測る。断面形は上部がわずかに開く筒形である。覆土の2層には炭化物が多量に含まれていた。埋没の後半段階で、廃棄物が一括して投棄された可能性が考えられる。

出土遺物は第363図11～13に示した。出土遺物は極めて少なく、木製品が3点だけ出土した。

第257号井戸跡 (第364図)

東区のL-23グリッドに位置する。第97号住居跡、第258号井戸跡、第539号土坑を切って構築され、

南西側の一部が後世のピットに切られている。平面形は円形で、規模は直径154cmである。断面形は漏斗形で、深さは176cm、井戸中心部の直径は80cmである。最下層である4層は大量の有機物と炭化物で構成されており、井戸を埋め戻す際に廃棄物をまとめて投棄した可能性が考えられる。

出土遺物は第363図10に示した。遺物量は極めて少なく、土師器の破片などの混入遺物も含めて6点が出土した。土器類の中で図示できるものはなかった。10は、切り込みの鋭く深い線状痕のある碟である。この碟には全面に煤が付着していた。

第258号井戸跡 (第364図)

東区のL-23グリッドに位置する。第97号住居跡、第531号溝跡を切って構築され、北側で第257号井戸跡にわずかに切られている。平面形は北西—南東方向に長い楕円形で、規模は長径363cm、短径313cm、長軸方向はN-48°-Wである。深さは200cmを測り、断面形はやや径の太い漏斗形といえる。

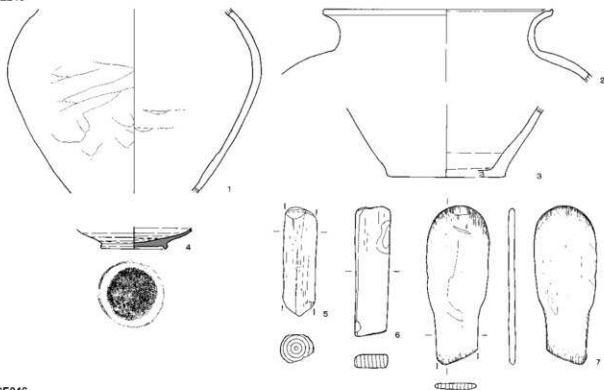
覆土3層の最下部では、一部に貝の集積が確認された。貝の遺存状態は悪く、薄っぺらくなった状態であった。また、覆土6層には炭化物が多量に含まれていた。井戸の廃絶後、埋め戻す際にまとめて投棄したと考えられる。

出土遺物は第365図1～5に示した。遺物は一定量あるが、須恵器や土師器の破片など混入遺物が多く出土している。遺構に伴う遺物としてはかわらけ(1)、在地産の鉢(2)、陶器の破片、宋銭(3)、切り込みの鋭く深い線状痕のある碟(4)、細い棒状の木材(5)などが出土した。木材は底面に近い9層・10層から出土した。このほかに、ウマの寛骨(Ⅷ-2図版7)も出土している。

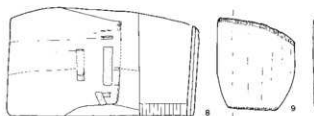
第259号井戸跡 (第366図)

東区のM-21グリッドに位置する。平面形は、南北方向に長い長方形で、規模は長軸は160cm、短軸は149cmを測り、長軸方向はN-18°-Eをとる。内部で

SE245



SE246



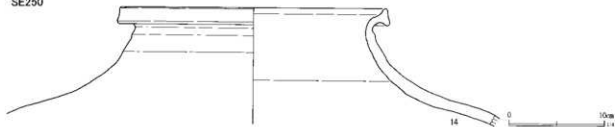
SE247



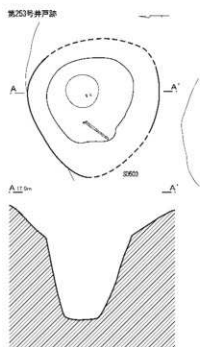
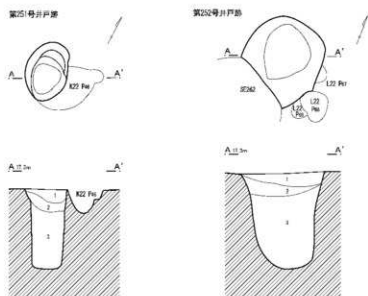
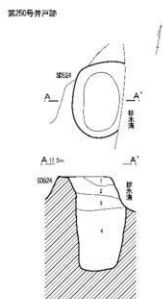
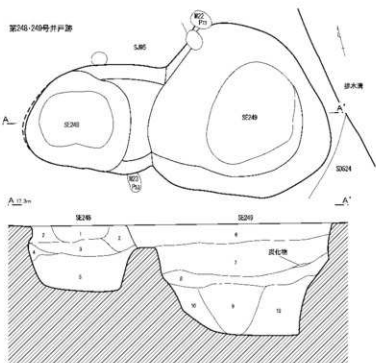
SE249



SE250



第361团 井戸跡出土遺物 (43)



第253号井戸跡・第252号井戸跡

- | | | | |
|----|--------|--------|----------------------------------|
| 1 | 灰黄色土 | 1018/2 | 黄褐色粘土ブロック(4.3~5.6m)全体に多量 |
| 2 | 灰黄色土 | 1018/2 | 黄褐色粘土ブロック(4.3~5.6m)全体に多量 埋め戻し |
| 3 | 黄褐色土 | 1018/2 | 黄褐色粘土ブロック(4.3~5.6m)含む 埋め戻し |
| 4 | 黄褐色土 | 1018/2 | 黄褐色粘土ブロック(4.3~5.6m)多量 埋め戻し |
| 5 | 黄褐色土 | 1018/2 | 黄褐色粘土ブロック(4.3~5.6m)多量 埋め戻し |
| 6 | 灰黄色土 | 1019/4 | 黄褐色粘土ブロック(4.3~5.6m)全体に多量 埋め戻し |
| 7 | オリブ褐色土 | 203/1 | 黄褐色粘土ブロック(4.3~5.6m)全体に平均的含む 埋め戻し |
| 8 | オリブ褐色土 | 203/2 | 黄褐色粘土ブロック(4.3~5.6m)まじりに含む 埋め戻し |
| 9 | 灰黄色土 | 1061 | 黄褐色粘土と黄褐色土の混合層 埋め戻し シルト質 |
| 10 | 灰黄色土 | 1061 | 灰化土層とシルト層の共存 自然堆積 |

第254号井戸跡

- | | | | |
|---|------|--------|-------------------|
| 1 | 黄褐色土 | 1018/2 | 黄褐色粘土ブロック多量 |
| 2 | 黄褐色土 | 1018/2 | 黄褐色粘土ブロック少量 灰化物少量 |
| 3 | 黄褐色土 | 1018/2 | 粘土粒子少量 |

第255号井戸跡

- | | | | |
|---|------|--------|-------------|
| 1 | 黄褐色土 | 1018/1 | 黄褐色粘土ブロック多量 |
| 2 | 黄褐色土 | 1018/2 | 黄褐色粘土ブロック少量 |
| 3 | 黄褐色土 | 1018/2 | 黄褐色粘土ブロック少量 |

第256号井戸跡

- | | | | |
|---|------|--------|--|
| 1 | 黄褐色土 | 1018/1 | 黄褐色粘土ブロック(4.3~5.6m)少量 灰化土層(4.3~5.6m)少量 |
| 2 | 黄褐色土 | 1018/2 | 黄褐色粘土ブロック(4.3~5.6m)含む |
| 3 | 黄褐色土 | 1018/4 | 黄褐色粘土ブロック(4.3~5.6m)含む |
| 4 | 黄褐色土 | 1061 | 黄褐色粘土と黄褐色土の混合層 埋め戻し |

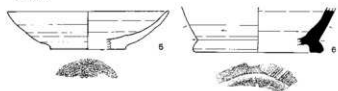


第362図 井戸跡 (25)

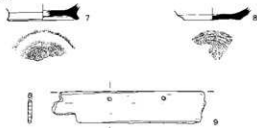
SE251



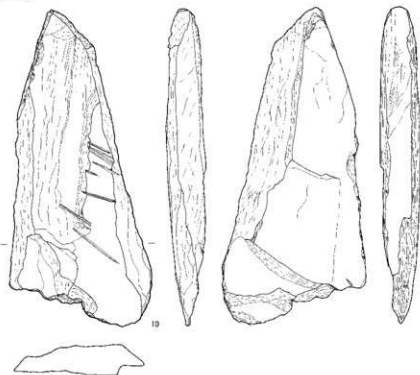
SE254



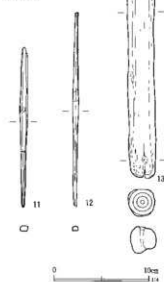
SE255



SE257



SE256



第363团 井戸跡出土遺物 (44)

は、四隅が丁寧に掘削されている様子が確認された。深さは150cmを測り、断面形は底面中央部に凹みのある箱形である。底面中央部の凹みは直径58cmである。

出土遺物は第365図6・7に示した。遺物は極めて少なく、須恵器の環、土師器、片岩の欠片、軽石など8点が出土した。7の底部には粗い縄目のような圧痕がついている。

第260号井戸跡（第366図）

東区のJ-22グリッドに位置する。第98号住居跡、第483号土坑、第514号溝跡を壊して構築され、南東の一部をピットに切られている。平面形は不整形で、規模は直径222cm、深さは184cmを測る。断面形は上部がわずかに開く径の大きい筒形である。覆土は2層で構成され、ほとんどを第2層が占めている。2層は地山土とみられる緑灰色のシルトブロックを含むことから、井戸の廃絶後に埋め戻された痕跡であると考えられる。

出土遺物は極めて少なく、須恵器の甕、環の破片など7点が出土した。図示できるものはなかった。

第261号井戸跡（第366図）

東区のJ-23グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径116cmを測る。断面形は中位にくびれのある漏斗形で、深さは150cm、井戸中心部の直径は68cmである。

出土遺物は、土師器の小破片が2点と極めて少なく、図示できるものはなかった。

第262号井戸跡（第366図）

東区のK-22、L-22グリッドに位置する。第252号井戸跡、第484号土坑、ピットを壊して構築されている。平面形は東西にやや長い楕円形で、規模は長径171cm、短径147を測る。長軸方向はN-74°Wをとる。断面形は漏斗形で、深さは180cm、井戸中心部の直径は110cmである。

出土遺物は第365図8～10に示した。遺物は少なめで、土師器の甕・環、須恵器の甕などが出土した。このほかに、ウマの椎骨（VIII-2図版7）が出土している。

第263号井戸跡（第366図）

東区のJ-22グリッドに位置する。西側で第488号土坑、東側で第505号溝跡、第513号溝跡を切っている。平面形は南北にやや長い楕円形で、規模は長径180cm、短径156cmを測る。長軸方向はN-0°である。深さは118cmで、断面形は筒形である。

出土遺物は第365図11～20に示した。遺物は多く、須恵器の甕・環・高台付環・高環、灰軸陶器、碟、軽石などが出土した。18は2ヶ所に凹みのある碟である。

第264号井戸跡（第367図）

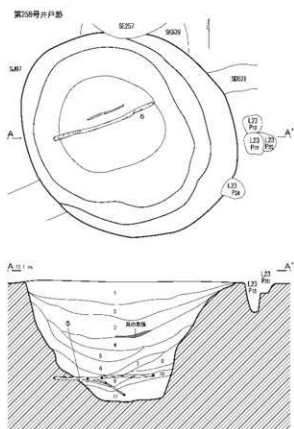
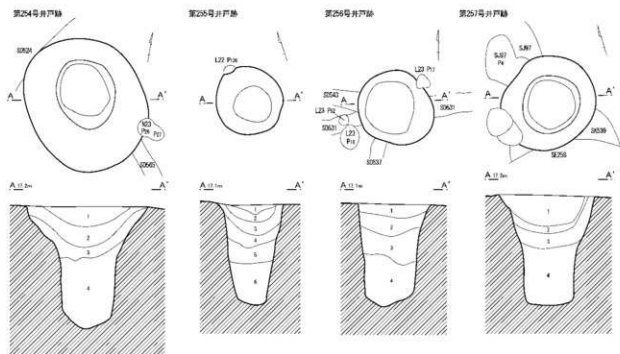
東区のI-23、J-23グリッドに位置する。北東側では第472号土坑、第528号溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。北西半分は調査のための排水溝に壊されている。平面形は円形で、規模は直径242cm、深さは130cmである。断面形は舟底形である。大きさの類似する板材が数点まとまって出土していることから、井戸枠が据えられていた可能性がある。

出土遺物は第368図1～8に示した。いずれも井戸枠材の可能性がある。土器類は出土しなかった。

第265号井戸跡（第367図）

東区のN-24グリッドに位置する。ピットを切っているが、東側半分の上層は、調査のための排水溝によって壊されている。平面形は南北に長い楕円形で、規模は長径170cm、短径は現存値で142cmを測る。長軸方向はN-10°-Eをとる。断面形は漏斗形で、深さ160cm、井戸中心部の直径は123cmである。

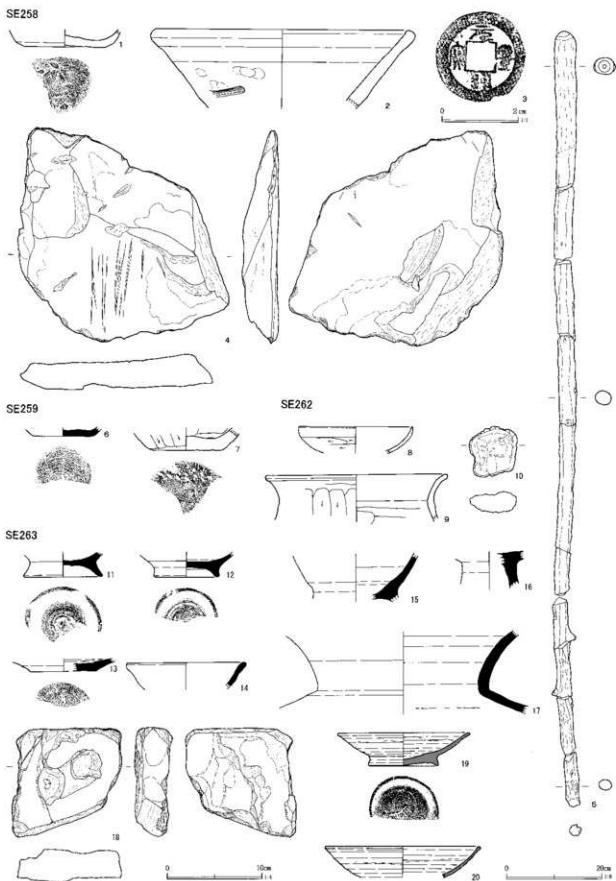
出土遺物はなかった。



- 第254号井戸跡
- 1 灰黄褐色土
 - 2 灰黄褐色土
 - 3 灰褐色土
 - 4 褐色土
- 第256号井戸跡
- 1 褐色土
 - 2 灰黄褐色土
 - 3 灰黄褐色土
 - 4 黄褐色土
- 第257号井戸跡
- 1 黄褐色土状土ブロック (φ2~3cm) 少量
 - 2 灰褐色土上ブロック (φ2~5cm) 少量
 - 3 灰褐色土上ブロック (φ2~5cm) 少量
 - 4 黄褐色土
 - 5 黄褐色土
 - 6 黄褐色土
- 第259号井戸跡
- 1 褐色土
 - 2 灰黄褐色土
 - 3 黄褐色土
 - 4 灰褐色土
 - 5 黄褐色土
 - 6 黄褐色土
- 第255号井戸跡
- 1 褐色土
 - 2 灰黄褐色土
 - 3 黄褐色土
 - 4 灰褐色土
 - 5 黄褐色土
 - 6 黄褐色土
- 第256号井戸跡
- 1 褐色土
 - 2 灰黄褐色土
 - 3 灰黄褐色土
 - 4 黄褐色土
- 第257号井戸跡
- 1 黄褐色土状土塊 (φ1~2cm) 含む
 - 2 オリーブ灰色土
 - 3 褐色土
 - 4 灰褐色土
- 第258号井戸跡
- 1 灰黄褐色土
 - 2 褐色土
 - 3 褐色土
 - 4 褐色土
 - 5 褐色土
 - 6 褐色土
 - 7 褐色土
 - 8 オリーブ灰色土
 - 9 褐色土
 - 10 オリーブ灰色土
 - 11 褐色土
- 10985/2 灰褐色土上ブロック (φ2~3cm) 少量
 灰化物 (φ2~3cm) 含む
- 10984/2 灰褐色土上ブロック (φ2~5cm) 少量
 灰化物 (φ2~3cm) 少量、灰、灰の凝結層
 灰褐色土上ブロック (φ2~3cm) 含む
- 10984/1 灰褐色土上ブロック (φ2~3cm) 少量
 灰化物 (φ2~3cm) 少量
- 10985/1 灰褐色土上ブロック (φ2~3cm) 少量
 テクテクした感でじりじり
- 10987/1 黄褐色土状土ブロック (φ2~3cm) 少量
- 10986/1 褐色土上との重なり層
- 10983/1 緑灰色シルトブロック (φ6~8cm) 少量
- 10985/1 緑灰色シルトブロック (φ2~8cm) 少量
- 10986/1 緑灰色シルトブロック (φ2~8cm) 少量
 シルト質
- 10982/1 緑灰色シルトブロック (φ2~8cm) 中多量
- 10986/1 灰褐色土上ブロック (φ2~3cm) 含む
 灰化物、粘土少量
- 10985/2 灰褐色土上ブロック (φ2~5cm) やや多量
 灰化物少量、塵少量
- 10984/2 灰褐色土上ブロック (φ2~3cm) 少量
- 10983/1 緑灰色シルトブロック (φ1cm) 少量、粘片類
- 10984/1 黄褐色土状土塊 (φ1~2cm) 含む
- S07/1 緑灰色シルトブロック (φ1~2cm) 多量
- 10987/1 緑灰色シルトブロック (φ1~2cm) 含む
 有機物多量、灰化物多量
- 10986/2 黄褐色土上ブロック (φ1~2cm) 全体にまばら
 散在少量
- 10985/1 緑灰色シルトブロック (φ2~3cm) まだら
- 10984/1 緑灰色シルトブロック (φ2~3cm) まだら
- 10983/1 緑灰色シルトブロック (φ2~3cm) 多量
- 10985/1 緑灰色シルトブロック (φ2~3cm) 少量 灰化物含む
- 10985/1 緑灰色シルトブロック (φ2~3cm) まだら 灰化物多量
- 10987/1 緑灰色シルトブロック (φ2~3cm) 少量
- 2.8038/1 緑灰色シルトブロック (φ2~3cm)
 中に黄褐色土コア付片
- 10984/1 緑灰色シルトブロック (φ2~8cm) 少量
- 2.8036/1 緑灰色シルトブロック (φ2~3cm)
 中に黄褐色土コア付片
- 10984/1 緑灰色シルトブロック (φ2~3cm) 少量

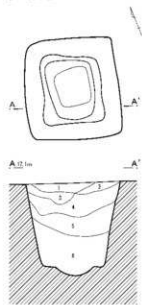
0 2m 10m

第364図 井戸跡 (26)

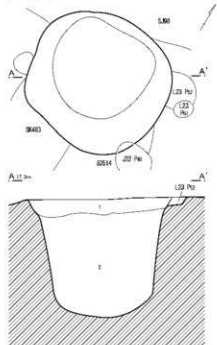


第365図 井戸跡出土遺物 (45)

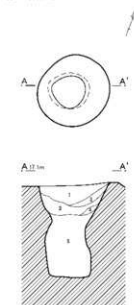
第259号井戸跡



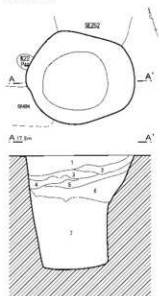
第260号井戸跡



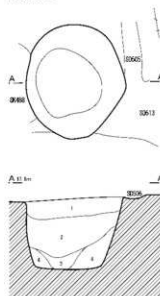
第261号井戸跡



第262号井戸跡



第263号井戸跡



第260号井戸跡

- 1 黒褐色土
- 2 赤褐色土
- 3 赤褐色土
- 4 青灰色土
- 5 青灰色土
- 6 青灰色土

第260号井戸跡

- 1 灰黄褐色土
- 2 灰黄色土

第262号井戸跡

- 1 灰黄褐色土
- 2 灰黄色土
- 3 灰黄色土
- 4 灰黄色土
- 5 黄灰色土

第263号井戸跡

- 1 明黄褐色土
- 2 灰黄褐色土
- 3 明チヌ子-灰黄色土
- 4 明灰色土
- 5 灰黄色土
- 6 黒褐色土
- 7 灰黄色土

第260号井戸跡

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 暗褐色土
- 4 青灰色土

- 10K12/1 黄褐色土ブロック混入 しまりやや強い
粘性あり
- 10K13/1 黄褐色土ブロック多く混入 しまりやや
強い 粘性あり
- 10K13/2 黄褐色土ブロック、青灰色シルトブロッ
ク混入 しまりやや強い 粘性あり
- 10K13/3 黄褐色土ブロック混入 しまりやや
弱い 粘性弱い
- 10K13/4 黄褐色土をまじりに混入 しまりやや強い
粘性あり
- 10K13/5 黄褐色土ブロック状にシラス含む しまりや
や強い 粘性弱い

- 10K14/1 黄褐色粘土ブロック(φ17~20m)多量
- 10K14/2 粘状シルトブロック(φ17~20m)平均的
に含む 硬め硬し

- 10K15/1 黄褐色粘土ブロック(φ2~3m)少量 崩
壊多量
- 10K15/2 黄褐色粘土粒子(φ1~2m)多量
- 2.51/4/1 灰黄色シルトブロック(φ17~20m)少量
- 2.51/4/2 粘状シルトブロック(φ17~20m)多量
- 2.51/4/3 粘状シルトブロック(φ17~20m)多量

- 10K17/1 暗褐色土上の混合土層
- 10K18/1 黄褐色粘土ブロック(φ17~20m)含む
- 2017/1 シルトブロックと暗褐色土の混合土層
- 10K17/1 粘状シルト粒子(φ17~20m)含む
- 10K17/1 粘状シルト粒子(φ17~20m)多量
- 10K17/1 粘状シルト粒子(φ17~20m)多量
- 10K17/1 しまりやや強い 粘性強い

- 10K12/3 黄褐色土(暗色土)(φ5~10m)層質に含む
しまりやや強い 粘性不ぞあり
- N/2 青灰色シルトブロック多量 しまりやや
強い 粘性あり
- N/3 青灰色シルトと黄灰色土の混合土層 し
まりなし 粘性弱い
- 10K15/5 シルト、暗灰色土ブロック含む しまり
なし 粘性弱い



第366図 井戸跡 (27)

第266号井戸跡 (第367図)

東区のM-24グリッドに位置する。平面形はほぼ円形で、規模は直径142cmである。断面形は漏斗形で、深さ149cm、井戸中心部の直径は80cmである。半裁の途中で3層以下の断面が崩落したため、3層以下の断面の記録はとれなかった。

出土遺物は第368図9に示した。9は現存値での長さか26.7cmの短刀で、最下層から出土した。短刀のほかに出土遺物はなかった。

第267号井戸跡 (第367図)

東区のM-24グリッドに位置する。北西側で第104号住居跡、東で第531号土坑、南で第561号土坑を切っている。平面形は円形で、規模は直径160cmである。断面形は漏斗形で、深さは135cm、井戸中心部の直径は78cmである。

出土遺物は第368図10に示した。遺物量は少なく、須恵器の甕、土師器の破片の2点のみである。

第268号井戸跡 (第367図)

東区のI-22グリッドに位置する。北東で第473号土坑、南で第488号土坑を切っているが、西側の一部を、調査のための排水溝に壊されている。平面形は不整形円形で、規模は直径85cmとやや小型である。深さは128cmあり、断面形は底面の西側に凹みを持つ筒形である。

出土遺物は第368図11-17に示した。遺物は一定量あり、須恵器の高台付埴・埴、土師器の破片が出土した。

第269号井戸跡 (第367図)

東区のJ-22グリッドに位置する。西側2/3が調査のための排水溝に壊され、断面の記録は井戸の中心ではなく東寄りであった。平面形は円形で、規模は直径113cmである。深さは168cmを測り、断面形は筒形である。覆土は1-4層の堆積がみられるが、底面から上層の大部分を地山土のブロックを多量に

含む4層が占めている。井戸の廃絶後に埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物は極めて少なく、土師器の甕や須恵器の甕の破片が出土した。図示できるものはなかった。

第270号井戸跡 (第367図)

東区のM-25グリッドに位置する。平面形は不整形円形で、直径115cmである。深さは156cmで、断面形は上部がやや径の開いた漏斗形である。

出土遺物は第369図1に示した。遺物量は極めて少なく、在地産の鉢など5点が出土した。

第271号井戸跡 (第370図)

東区のM-25グリッドに位置する。東側では第578号溝跡、西ではピットを壊して構築されている。平面形は東西にやや長い楕円形で、長径233cm、短径207cm、長軸方向はN-32°-Wをとる。深さは130cmあり、断面形は箱形である。覆土5層には多量の炭化物と灰が含まれており、埋め戻しの際に、廃棄物も一緒に投棄した可能性が考えられる。

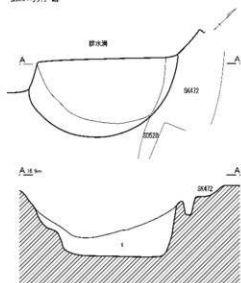
出土遺物は第369図2に示した。遺物量は少なく、在地産の鉢のほか、灰陶陶器、土師器、須恵器、片岩の欠片など10点余が出土した。また、ウマの寛骨と距骨(Ⅷ-2図版7)も出土している。

第272号井戸跡 (第370図)

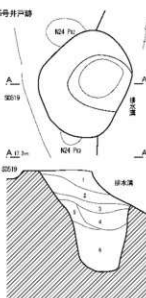
東区のM-25、N-25グリッドに位置する。西では第578号溝跡、北では第556号土坑、南では第562号土坑を切っている。平面形は東西にやや長い楕円形で、長径230cm、短径198cmを測る。長軸方向はN-74°-Wである。深さは114cmで、断面形は上部がやや広い筒形である。覆土最下層である7層を含む3-7層は炭化物を含んでいた。

出土遺物は第369図3に示した。遺物量は極めて少ない。須恵器の埴・甕、軟らかい砂岩質の礫など7点が出土した。

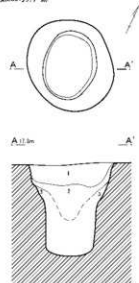
第264号井戸跡



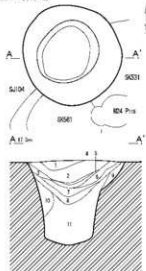
第265号井戸跡



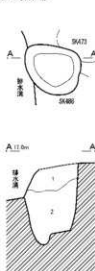
第266号井戸跡



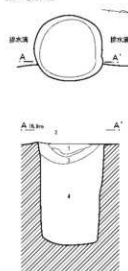
第267号井戸跡



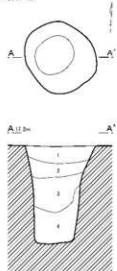
第268号井戸跡



第269号井戸跡



第270号井戸跡



第268号井戸跡

- | | | | |
|---|------|-----------|----------------------|
| 1 | 赤褐色土 | 10795/2 | 黄褐色粘土ブロック(φ1~2cm)少量 |
| 2 | 灰褐色土 | 10796/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)少量 |
| 3 | 褐色土 | 10797/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)少量 |
| 4 | 黒褐色土 | 10792/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)少量 |
| 5 | 灰色土 | 7, 1076/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)多量 |
| 6 | 黒褐色土 | 10793/1 | 緑灰色シルトブロック(φ1~2cm)多量 |

第266号井戸跡

- | | | | | | |
|---|------|---------|-----------------|--------|--------|
| 1 | 赤褐色土 | 10794/2 | 赤土層(φ1~3cm)3%含む | しまりあり | 粘性ややあり |
| 2 | 褐色土 | 10797/1 | しまりややあり | 粘性ややあり | |
| 3 | 灰色土 | 974/1 | しまりややあり | 粘性強い | |

第267号井戸跡

- | | | | | | |
|----|------|----------|---------------|--------|--------|
| 1 | 赤褐色土 | 10794/2 | 黄褐色土45%混入 | | |
| 2 | 明褐色土 | 10797/2 | しまりあり | 粘性ややあり | |
| 3 | 灰色土 | 10797/2 | しまりあり | 粘性あり | |
| 4 | 褐色土 | 10795/1 | しまりややあり | 粘性強い | |
| 5 | 灰色土 | 976/1 | しまりややあり | 粘性強い | |
| 6 | 褐色土 | 10795/1 | しまりややあり | 粘性強い | |
| 7 | 灰色土 | 976/1 | しまりややあり | 粘性強い | |
| 8 | 褐色土 | 10796/1 | しまり弱い | 粘性強い | |
| 9 | 赤褐色土 | 10794/2 | 赤土層(φ1~3cm)3% | しまりあり | 粘性ややあり |
| 10 | 赤褐色土 | 2, 974/1 | 緑灰色シルト30%混入 | しまり弱い | 粘性強い |
| 11 | 灰色土 | 974/1 | しまり弱い | 粘性強い | |

第265号井戸跡

- | | | | | | |
|---|------|---------|------------------|---------|------|
| 1 | 黒褐色土 | 10793/3 | 黒土(黄褐色粘土)ブロック少量 | しまりやや強い | 粘性強い |
| 2 | 褐色土 | N/2 | 黒土(黄褐色シルト)ブロック多量 | しまり弱い | 粘性あり |

第269号井戸跡

- | | | | | | |
|---|------|---------|-----------------------|---------|------|
| 1 | 黒褐色土 | 10793/3 | 黒土(灰褐色土)和子(φ5~10cm)少量 | しまりやや強い | 粘性あり |
| 2 | 赤褐色土 | 10792/1 | 黒土(灰褐色土)ブロック多量 | しまりやや強い | 粘性あり |
| 3 | 褐色土 | N/2 | 灰褐色土ブロック含む | しまりやや強い | 粘性あり |
| 4 | 褐色土 | N/2 | 黒土(黄褐色シルト)ブロック多量 | しまり弱い | 粘性あり |

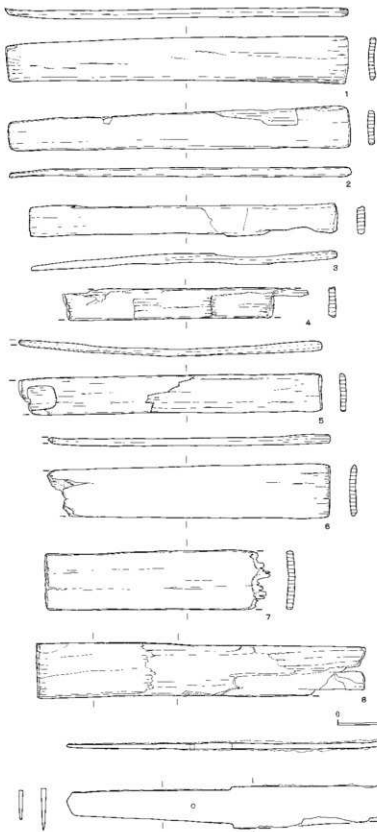
第270号井戸跡

- | | | | | | |
|---|-----|---------|----------------------|--|--|
| 1 | 褐色土 | 10793/3 | 黄褐色土和子(φ0.5~1cm)含む | | |
| 2 | 褐色土 | 10794/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)多量 | | |
| 3 | 褐色土 | 10793/3 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)少量 | | |
| 4 | 褐色土 | 10794/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)多量 | | |
| 5 | 褐色土 | 10793/3 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)多量 | | |



第367団 井戸跡 (28)

SE264



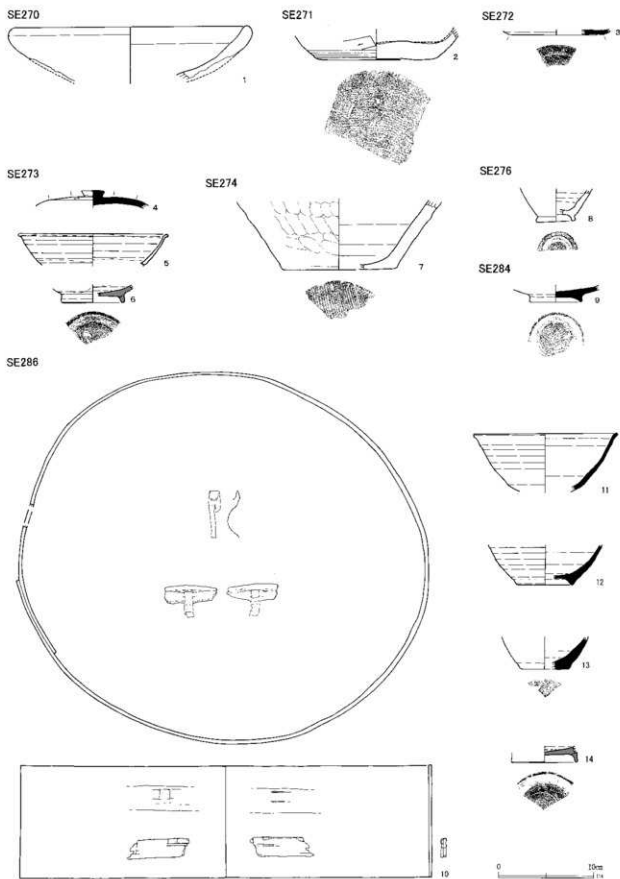
SE267



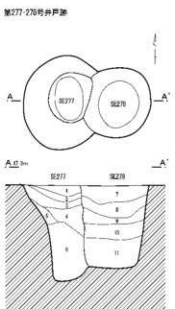
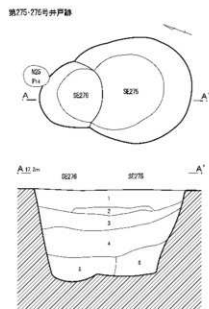
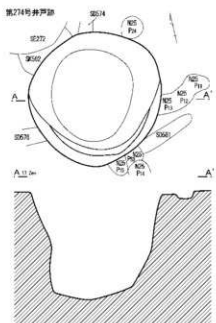
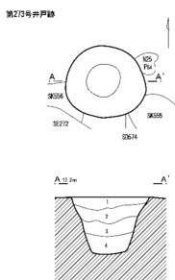
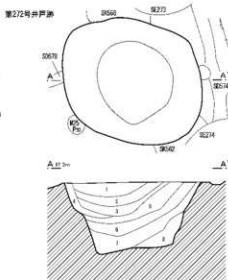
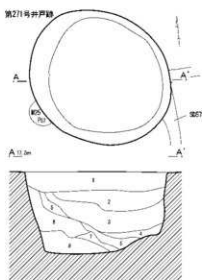
SE268



第368図 井戸跡出土遺物(46)



第369団 井戸跡出土遺物 (47)



- 第271号井戸跡
- | | | | |
|---|---------|---------|----------------------------|
| 1 | 褐色土 | 10R6/1 | 黄褐色粘土ブロック(φ2~3mm)と厚粘土の混合土層 |
| 2 | 褐色土 | 10R6/2 | 緑灰色シルトブロック(φ2~8mm)含む |
| 3 | 褐色土 | 10R6/3 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3mm)少量 |
| 4 | 赤褐色土 | 10R6/4 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3mm)少量 |
| 5 | 赤褐色土 | 10R5/1 | 有機物多量 灰含む 緑灰色シルトブロック少量 |
| 6 | オリーブ灰色土 | 2.30N/1 | シルトと黄褐色土の混合土層 |
| 7 | 結晶質灰色土 | 2.30N/1 | シルトと黄褐色土の混合土層 |
| 8 | オリーブ灰色土 | 2.30N/1 | シルトと黄褐色土の混合土層 |

- 第275号井戸跡・第276号井戸跡
- | | | | |
|---|-------|--------|----------------------------|
| 1 | 灰黄褐色土 | 10R4/2 | 黄褐色粘土ブロック(φ2~5mm)含む |
| 2 | 褐色土 | 10R5/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3mm)含む |
| 3 | 褐色土 | 10R4/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~8mm)少量 炭化物少量 |
| 4 | 褐色土 | 10R5/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~8mm)多量 |
| 5 | 褐色土 | 10R4/1 | 緑灰色シルトブロックと黄褐色土の混合土層 |
| 6 | 赤褐色土 | 10R3/1 | 緑灰色シルトブロックと黄褐色土の混合土層 |

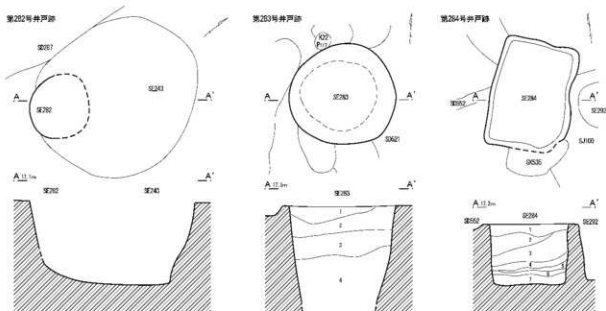
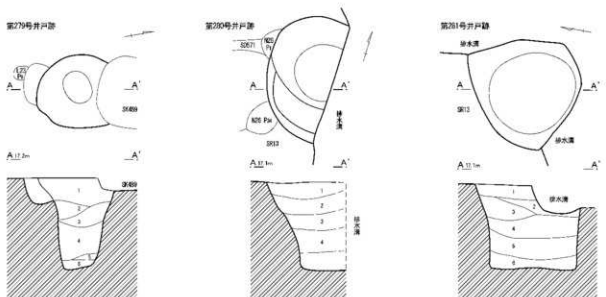
- 第272号井戸跡
- | | | | |
|---|-----|--------|----------------------------|
| 1 | 褐色土 | 10R6/1 | 黄褐色シルトブロック(φ2~3mm)少量 礫めりし |
| 2 | 褐色土 | 10R6/1 | 黄褐色シルトブロック(φ2~3mm)少量 礫めりし |
| 3 | 褐色土 | 10R4/1 | 黄褐色シルトブロック(φ2~3mm)含む 炭化物少量 |
| 4 | 褐色土 | 10R4/1 | 黄褐色土上ブロック(φ1cm)含む 炭化物少量 |
| 5 | 褐色土 | 10R4/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~8mm)含む 炭化物少量 |
| 6 | 褐色土 | 10R5/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~8mm)含む 炭化物含む |
| 7 | 褐色土 | 10R5/2 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3mm)少量 炭化物含む |
| 8 | 褐色土 | 10R1/1 | 緑灰色シルトブロック(φ1~2mm)多量 |

- 第277号井戸跡・第278号井戸跡
- | | | | |
|----|-------|--------|----------------------------|
| 1 | 灰黄褐色土 | 10R4/2 | 黄褐色粘土上子少量 |
| 2 | 灰黄褐色土 | 10R5/2 | 黄褐色粘土上ブロック(φ2~3mm)含む |
| 3 | 褐色土 | 10R5/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3mm)少量 炭化物少量 |
| 4 | 褐色土 | 10R4/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~8mm)少量 |
| 5 | 褐色土 | 10R4/1 | 緑灰色シルトブロック(φ1cm)多量 礫層あり |
| 6 | 褐色土 | 10R5/1 | 緑灰色シルトブロック(φ1cm)多量 しまり、結晶質 |
| 7 | 灰黄褐色土 | 10R4/2 | 黄褐色粘土上ブロック(φ2~3mm)含む 炭化物少量 |
| 8 | 褐色土 | 10R5/2 | 緑褐色粘土上ブロック(φ2~3mm)含む |
| 9 | 褐色土 | 10R5/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3mm)含む |
| 10 | 褐色土 | 10R4/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~5mm)含む |
| 11 | 褐色土 | 10R1/1 | 緑灰色シルトブロック(φ2~3mm)多量 |

- 第273号井戸跡
- | | | | |
|---|-------|--------|------------------------------------|
| 1 | 灰黄褐色土 | 10R4/2 | 黄褐色粘土上(φ1~2mm)黄褐色粘土上ブロック(φ2~3mm)含む |
| 2 | 褐色土 | 10R4/1 | 黄褐色粘土上(φ1~2mm)黄褐色粘土上ブロック(φ2~3mm)含む |
| 3 | 褐色土 | 10R5/1 | 黄褐色土上(φ1~2mm)黄褐色粘土上ブロック(φ2~3mm)多量 |
| 4 | 褐色土 | 10R5/1 | 黄褐色土上(φ1~2mm)黄褐色粘土上ブロック(φ2~3mm)多量 |



第370図 井戸跡 (29)



- 第217号井戸跡
- 1 灰褐色土 10764/1 黄褐色粘土ブロック (φ2~5cm) 含む 埋め戻し
 - 2 褐色粘土 10761/1 黄褐色粘土ブロック (φ3~5cm) と暗褐色土の混合十層
 - 3 灰黄褐色土 10760/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5cm) と褐色土との混合十層 埋め戻し
 - 4 灰褐色土 7, 293/1 緑灰色シルトブロック (φ2~3cm) 多量
 - 5 褐色粘土 10764/1 緑灰色シルトブロック (φ2~3cm) 多量
 - 6 灰褐色土 1075/1 緑灰色シルトブロック (φ2~3cm) 多量
- 第230号井戸跡
- 1 灰黄色土 10762/2 黄褐色粘土ブロック (φ2~3cm) 含む
 - 2 灰黄褐色土 10764/2 黄褐色粘土ブロック (φ3~5cm) 含む 灰化物多量
 - 3 褐色粘土 10760/1 緑灰色シルトブロック (φ3~5cm) 含む
 - 4 褐色土 10764/1 緑灰色シルトブロック (φ3~5cm) 多量
- 第231号井戸跡
- 1 灰黄色土 2, 276/2 緑褐色土との混合十層
 - 2 灰褐色土 1075/1 緑褐色土との混合十層
 - 3 灰褐色土 10761/1 緑褐色土との混合十層
 - 4 オリーブ黒色土 1073/2 緑褐色シルトブロック (φ3~5cm) 含む
 - 5 オリーブ褐色土 1073/1 緑褐色シルトブロック (φ3~5cm) 含む
 - 6 灰褐色土 10764/1 緑褐色シルトブロック (φ1~3cm) 多量

- 第232号井戸跡
- 1 オリーブ色土 575/6
 - 2 オリーブ黒色土 573/2
 - 3 灰色土 572/1
 - 4 黒色土 572/1
- 第233号井戸跡
- 1 灰褐色土 10764/1 黄褐色粘土ブロック (φ1~3cm) 多量 埋め戻し
 - 2 褐色土 10765/1 黄褐色粘土ブロック (φ1~3cm) 多量 埋め戻し
 - 3 灰黄褐色土 10764/2 黄褐色粘土ブロック (φ1~3cm) 多量 埋め戻し
 - 4 褐色土 10761/1 緑褐色シルトブロック (φ3~5cm) 多量
 - 5 灰オリーブ灰色土 2, 577/1 シルト質、暗褐色土との混合十層
 - 6 褐色土 10764/1 緑褐色シルトブロック (φ3~5cm) 多量
 - 7 灰オリーブ灰色土 2, 577/1 シルト質、暗褐色土との混合十層



第371図 井戸跡 (30)

第273号井戸跡 (第370図)

東区のN-25グリッドに位置する。南東では第555号土坑、西では第556号土坑、南では第574号溝跡、東ではビットを切っている。平面形は円形で、規模は直径128cmである。深さは92cmを測り、断面形は上部が開く形である。

出土遺物は第369図4～6に示した。遺物量は少なく、須恵器の蓋・甕の破片、灰釉陶器の坏など11点が出土した。

第274号井戸跡 (第370図)

東区のN-25グリッドに位置する。第574号溝跡、第576号溝跡、第581号溝跡、第562号土坑、および複数のビットなど多くの遺構を切っている。平面形は円形で、規模は直径215cmである。断面形は漏斗形で、深さは173cm、井戸中心部の直径は153cmである。半截の途中で断面が崩落したため、断面の記録を採取できなかった。

出土遺物は第369図7に示した。遺物は一量あり、在地産の鉢、かわらけが出土した。このほかに、須恵器や土師器の破片など多くの混入遺物も含まれていた。

第275号井戸跡 (第370図)

東区のN-25グリッドに位置する。北西側で第276号井戸跡と連結しており、東側の底面が浅い方が本井戸跡の底面である。平面形は南北に長い楕円形で、規模は長径が推定で195cm、短径が165cm、長軸方向はN-20°-Wをとる。深さは135cmを測り、断面形は上部に向かってやや開く形である。

出土遺物はなかった。

第276号井戸跡 (第370図)

東区のN-25グリッドに位置する。南東側で第275号井戸跡と連結しており、西側の底面がやや深くなっているところが本遺構の底面になる。北側の一部をビットに切られている。平面形は円形で、規模

は直径105cm、深さは145cmを測る。断面形は上部に向かってやや開く形である。

出土遺物は第369図8に示した。遺物量は少なく、在地産の鉢、小型の壺が出土した。このほかに、須恵器の高台付環や須恵器の甕など平安時代の遺物が混入していた。

第277号井戸跡 (第370図)

東区のN-25グリッドに位置する。東側で第278号井戸跡に切られている。平面形は円形で、規模は直径150cmである。断面形は漏斗形で、深さは154cm、井戸中心部の直径は53cmである

出土遺物はなかった。

第278号井戸跡 (第370図)

東区のN-25グリッドに位置する。西側で第277号井戸跡を切っている。平面形は円形で、規模は直径112cm、深さ130cm、断面形は筒形である。

出土遺物はなかった。

第279号井戸跡 (第371図)

東区のL-22、L-23グリッドに位置する。第489号土坑、第509号土坑を壊して掘削されている。平面形は円形で、規模は直径131cm、深さ145cm、断面形は漏斗形で、井戸中心部は直径70cmである。

出土遺物は少なく、須恵器の甕・環などの小破片が11点出土したが、図示できるものはなかった。遺物は平安時代のものである。

第280号井戸跡 (第371図)

東区のN-26グリッドに位置する。東側でビットを切っているが、西側半分は調査のための排水溝によって壊されていた。平面形は南北に長い楕円形で、規模は長径194cm、短径は現存値で108cmを測る。長軸方向はN-2°-Eをとる。断面形は漏斗形で、深さは140cm、井戸中心部の直径は90cmと推定される。覆土の2層には多量の炭化物と少量の焼土粒子が含

まれていた。

出土遺物は、須恵器の壺の胴部破片が1点出土したが、図示できなかった。

第281号井戸跡（第371図）

東区のN-26グリッドに位置する。調査区の南東隅の際に位置し、東側と南側が、調査のための排水溝に壊されている。平面形は不整形で、規模は直径182cm、深さ137cmを測る。断面形は上部がやや開く箱形である。

出土遺物は5点と極めて少なく、在地産の鉢の破片が出土したが図示できなかった。

第282号井戸跡（第371図）

東区のL-21グリッドに位置する。第243号井戸跡の壁に本井戸跡の一部が確認できたが、深さや平面形は不明である。平面形は円形と推定され、規模は直径99cmと推定される。

出土遺物はなかった。

第283号井戸跡（第371図）

東区のK-22、K-23グリッドに位置する。東側で第521号溝跡を切っている。平面形は円形で、規模は直径168cmである。深さ160cmまで調査したが、壁面が崩落する危険性が生じたため、それ以下の調査を断念した。断面形は筒形である。

出土遺物は少なく、かわらけの破片のほかに、須恵器の高台付環・甕、土師器の甕などが出土した。図示できるものはなかった。

第284号井戸跡（第369図）

東区のL-23グリッドに位置する。第552号溝跡、第100号住居跡、第535号土坑を壊して掘削されている。平面形は長方形で、規模は長軸が175cm、短径が128cm、長軸方向はN-19'-Eである。深さは100cmを測り、断面形は箱形である。7層の覆土が確認されたが、井戸の上半分を占める1～3層は、地山土

とみられる黄褐色粘土ブロックを多量に含んでおり、井戸の上半分は埋め戻されたものと考えられる。

出土遺物は第369図9に示した。遺物量は少なく、須恵器の甕・高台付環、土師器の甕の破片などが出土した。

第285号井戸跡（第372図）

東区のN-26グリッドに位置する。第13号方形周溝跡、第558号土坑を壊して構築されている。平面形は円形で、規模は直径80cm、深さは135cmを測る。断面形は筒形である。半截の途中で断面が崩落したため、断面の記録は採取できなかった。

出土遺物はなかった。

第286号井戸跡（第372図）

東区のM-25、M-26グリッドに位置する。第485号溝跡に上層を大きく壊されている。平面形は不整形で、規模は直径170cmを測る。断面形は漏斗形で、深さは158cm、井戸中心部の直径は66cmで、底面近くに直径43cmの曲物が据えられていた。この曲物は、底板がないため、井戸枠として設置されたものと考えられる。

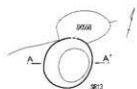
出土遺物は第369図10～14に示した。遺物量は少なく、須恵器の高台付壺・環・甕の破片、灰釉陶器の小片、軽石、底部のない曲物などが出土した。

第287号井戸跡（第372図）

東区のL-23、L-24グリッドに位置する。第102号住居跡を切っているが、南側では第489号溝跡に切られている。平面形はほぼ円形で、規模は直径235cm、深さは131cmを測る。断面形は舟底形である。

断面観察から、覆土7層が井戸の掘り方、5層、6層が井戸の本体部分の痕跡であると考えられる。覆土の1～3層からは、大量の土器が出土している。この覆土1～3層には3層を中心として多量の炭化物が含まれており、1層では焼土粒子も少量ながらみられる。埋め戻しの最終段階に、不要になった土

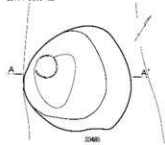
第255号井戸跡



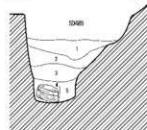
A. 0.50m



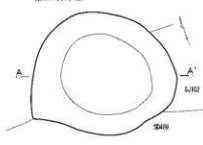
第256号井戸跡



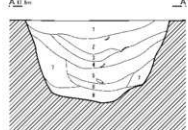
A. 0.40m



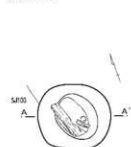
第257号井戸跡



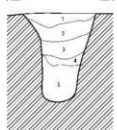
A. 0.40m



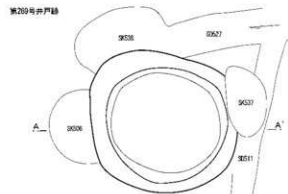
第259号井戸跡



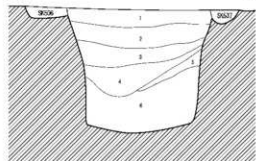
A. 0.40m



第259号井戸跡



A. 0.50m



第255号井戸跡	1 黄灰色土	2. 015/1	緑灰色シルトブロック(φ10cm)少量
	2 暗灰色土	2. 257/2	緑灰色シルトブロック(φ10cm)少量 灰化物(φ2~3cm)少量
	3 黄灰色土	2. 014/1	緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)少量
	4 黄灰色土	2. 574/1	緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)含む
	5 灰色土	1075/1	黄灰色土との混層
第256号井戸跡	1 黄灰色土	1075/1	黄灰色粘土粒子(φ2~3mm)少量 灰土、灰化物を含む、土層少量
	2 暗灰色土	1075/1	緑灰色シルトブロック(φ3~5cm)含む、灰化物少量、土層少量
	3 黄灰色土	1075/1	緑灰色シルトブロック(φ3~5cm)少量 灰化物少量
	4 灰色土	975/1	緑灰色シルト粒子(φ0.5~1mm)少量
	5 灰色土	975/1	緑灰色シルトブロック(φ10cm)少量
	6 灰色土	975/1	緑灰色シルトブロック(φ10cm)多量
	7 エリアー灰色土	2. 575/1	緑褐色土との混層十層
	8 灰色土	7. 574/1	緑灰色シルトブロック(φ5~8cm)含む

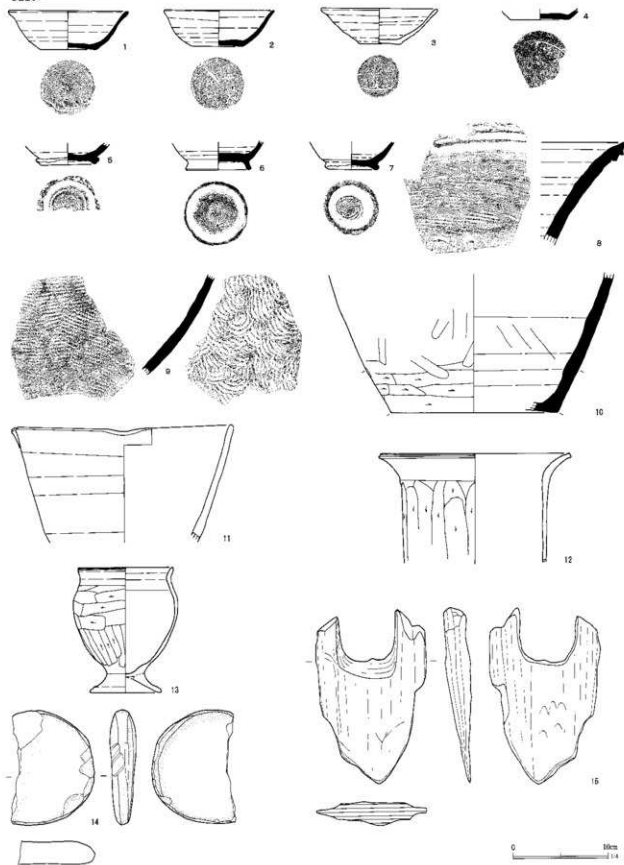
第257号井戸跡	1 黄褐色土	1075/2	黄褐色粘土粒子まじり、灰化物、粘土含む
	2 暗灰色土	1075/2	黄褐色シルトブロック(φ2~3cm)少量
	3 暗灰色土	1075/3	黄褐色シルトブロック(φ10cm)少量
	4 暗灰色土	7. 384/1	灰白色シルトブロック(φ2~3cm)少量
	5 暗灰色土	7. 392/1	灰白色シルトブロック(φ2~3cm)少量

第259号井戸跡	1 黄褐色土	1075/2	黄褐色粘土ブロック(φ2~3cm)含む
	2 暗灰色土	1075/2	緑灰色シルトブロック(φ3~5cm)含む
	3 暗灰色土	1075/1	緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)縦列状に含む
	4 暗灰色土	1075/1	緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)少量
	5 暗灰色土	975/1	灰色シルトブロック(φ1~2cm)少量
	6 暗灰色土	1075/1	緑灰色シルトブロック(φ1~2cm)含む

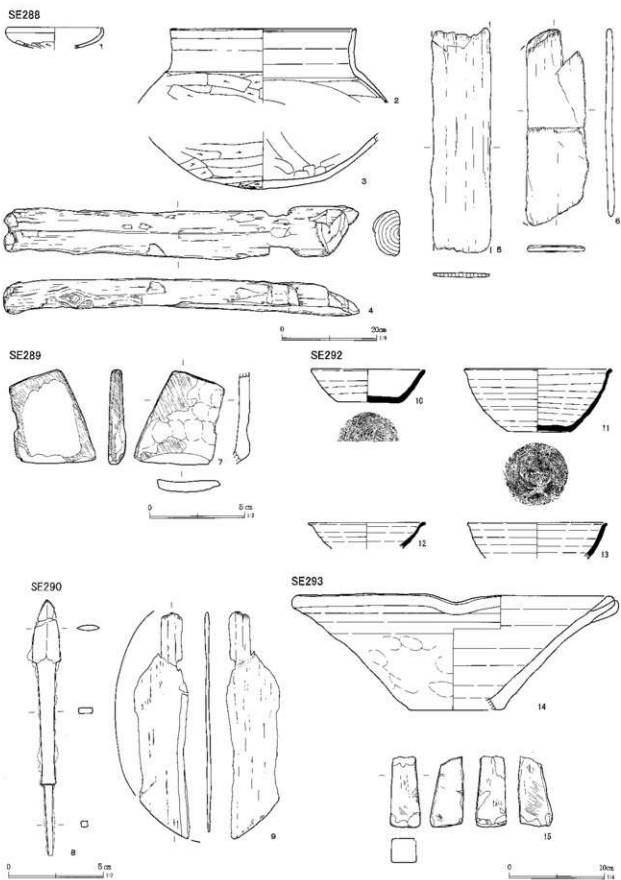
0 2m

第372図 井戸跡(31)

SE287



第373図 井戸跡出土遺物 (48)



第374図 井戸跡出土遺物 (49)

器類などを何かの燃えかすなどの廃棄物とともにまとめて投棄したものと考えられる。

出土遺物は第373図に示した。遺物量は多く、須恵器の環・高台付環・甕・鉢、土師器の台付甕・甕の破片、円碟、鐏の一部とみられる木製品などが出土した。12の土師器の甕は埋没の過程で混入したものとみられる。15の鐏の一部については、樹種同定をおこない、コナラ属アカガシ亜属の木材で作られていることがわかった。分析の詳細については、VIII-2に掲載している。

第288号井戸跡 (第372図)

東区のL-24グリッドに位置する。第103号住居跡を壊して掘削されている。平面形は円形で、規模は直径116cm、深さは142cmである。断面形は漏斗形で、井戸中心部の直径は55cmである。

出土遺物は第374図1～6に示した。遺物は一定量あり、土師器の甕・環、井戸枠材や板などの木材が出土した。

第289号井戸跡 (第372図)

東区のK-23グリッドに位置する。北では第506号土坑、第538号土坑、南では第511号溝跡を切っており、第537号土坑に切られている。平面形は円形で、規模は直径235cm、深さ200cmを測る。断面形は筒形である。

出土遺物は第374図7に示した。遺物は一定量あり、中世陶器の破片、在地産の鉢の破片が出土した。7は在地産の鉢の破片で、内面、外面、側面に擦った面が複数箇所に見られ、転用品であると考えられる。

第290号井戸跡 (第375図)

東区のK-23グリッドに位置する。東側では第526号溝跡を切っており、第287号溝跡に切られている。平面形は円形で、規模は直径273cm、深さ214cmを測る。断面形は漏斗形で、井戸中心部の直径は75

cmである。

覆土4層の下面で骨がまとまって出土している。直下の5層は有機物を含む廃棄物が多量に含まれ、井戸の埋め戻しの過程で、不要となったものをまとめて投棄したものと考えられる。

出土遺物は第374図8・9に示した。遺物量は少なく、常滑の破片、鉄鎌、曲物の底板が出土した。このほかに、ウマの中足骨 (VIII-2図版7) も出土している。

第291号井戸跡 (第375図)

東区のK-24グリッドに位置する。南側では第529号土坑を壊して掘削されている。平面形は不整形長方形で、規模は長軸266cm、短軸214cm、長軸方向はN-84°Eである。深さは140cmを測り、断面形はやや上部の広がる箱形である。覆土は1～4の4層が確認された。下層半分を占める4層は、緑灰色シルトブロックを多量に含むことから、井戸廃絶後に埋め戻されたと考えられる。

出土遺物は極めて少なく、須恵器の甕、土師器の小破片など8点が出土したが、図示できるものはなかった。

第292号井戸跡 (第375図)

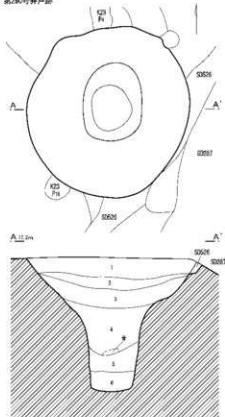
東区のL-23グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径74cmである。深さは94cmで、断面形は筒形である。

出土遺物は第374図10～13に示した。遺物は一定量あり、須恵器の環・鉢・甕の破片、土師器の甕の破片などが出土した。

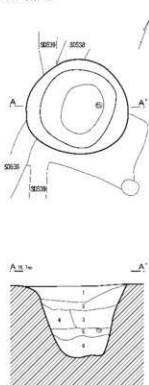
第293号井戸跡 (第375図)

東区のJ-25グリッドに位置する。西側では第538号溝跡、第539号溝跡を切っている。平面形は円形で、規模は直径163cm、深さは118cmを測る。断面形は上部に向かってやや広がる形である。覆土3層および4層では、3層を中心に多量の炭化物が含ま

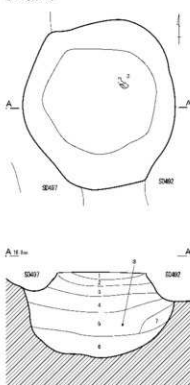
第290号井戸跡



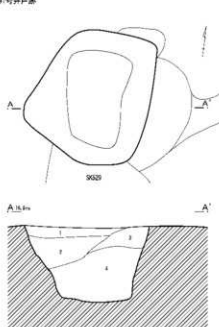
第293号井戸跡



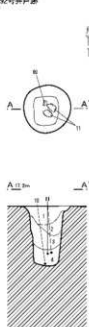
第294号井戸跡



第291号井戸跡



第292号井戸跡



- 第290号井戸跡
1 赤黄褐色土
2 灰褐色土
3 灰褐色土
4 赤褐色土
5 灰色土
6 赤黄褐色土

- 1003/2 黄褐色粘土ブロック(φ5~10cm)散在
1003/1 緑灰色シルトブロック(φ3~5cm)多数
1003/4 緑灰色シルトブロック(φ3~5cm)少量
1003/3 緑灰色シルトブロック(φ5~8cm)含む
87/ 緑灰色シルトブロック(φ5~8cm)多数
有礫石、硬質物多数
1002/2 緑灰色シルトブロック(φ3~5cm)少量

- 第291号井戸跡
1 灰褐色土
2 灰褐色土
3 オリーブ灰色土
4 灰褐色土

- 1002/1 黄褐色粘土ブロック(φ5~8cm)少量
1002/1 緑灰色シルトブロック(φ3~5cm)
念珠に散在
2.907/1 黄褐色土層(埋山と 溝のもの)
同黄褐色土ブロック(φ3~5cm)含む
1006/1 緑灰色シルトブロック(φ5~8cm)多数

- 第292号井戸跡
1 灰褐色土
2 灰褐色土
3 赤褐色土
4 黄褐色土

- 1005/1 粘土粒子(φ1~1mm)少量
黄褐色土(赤土)少量
しまりや軟弱、粘性ややあり
1005/1 黄褐色土ブロック多数、しまり強、粘性ややあり
1005/1 黄褐色土(埋山土)ブロック少量
しまりや軟弱、粘性強、
385/1 黄褐色ヤシルト(埋土)土体
黒褐色土少量、しまり強、粘性強、

- 第293号井戸跡
1 灰褐色土
2 黄褐色土
3 赤褐色土
4 黄褐色土

- 2.905/1 黄褐色粘土ブロック(φ3~5cm)少量
2.907/3 灰褐色土ブロック(φ5~8cm)多数
2.905/1 緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)多数
2.904/1 有礫石多数
2.904/1 緑灰色シルトブロック(φ3~5cm)少量
有礫石少量
2.904/1 緑灰色シルトブロック(φ3cm)少量
2.905/1 緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)多数

- 第294号井戸跡
1 黄褐色土
2 灰褐色土
3 黄褐色土
4 赤褐色土
5 灰色土
6 黄褐色土
7 灰色土

- 2.905/1 黄褐色粘土ブロック(φ3~5cm)少量
2.907/3 灰褐色土ブロック(φ5~8cm)多数
2.905/1 緑灰色シルトブロック(φ2~3cm)少量
2.904/1 緑灰色シルトブロック(φ3~5cm)少量
1005/1 緑灰色シルトブロック(φ5~8cm)含む
2.904/1 緑灰色シルトブロック(φ5~8cm)多数
1005/1 緑灰色シルトブロック(φ3~5cm)多数



第375図 井戸跡 (32)

れていた。

出土遺物は第374図14・15に示した。遺物量は5点と極めて少なく、在地産の片口鉢、砥石が出土した。

第294号井戸跡（第375図）

東区のK-26グリッドに位置する。東側で第492号溝跡、西側で第497号溝跡に切られている。平面形は不整形で、規模は直径274cm、深さは130cmを測る。断面形は鍋底形である。

出土遺物は第377図1～3に示した。遺物量は少なく、在地産の鉢、磨石、木製漆塗椀など15点が出土した。3の木製漆塗椀については、樹種同定をおこなった。その結果、トネリコ属の木材で作られていることがわかった。分析の詳細については、VIII-2に掲載している。

第295号井戸跡（第376図）

東区のK-23、K-24グリッドに位置する。第278号溝跡に大きく壊されている。平面形は円形で、規模は直径265cm、深さ160cmである。断面形は径の大きな筒形である。

出土遺物は第377図4～6に示した。遺物量は少なく、須恵器の甕・高台付環、土鉢、瓦の破片、軽石など10点が出土した。

第296号井戸跡（第376図）

東区のN-23グリッドに位置する。北西では第524号溝跡に切られる。平面形は円形で、規模は直径82cm、深さ110cmまで調査を進めたが、壁面が崩落する危険性が生じたため、それ以下の調査を断念した。断面形は筒形である。

出土遺物は少なく、須恵器の甕の破片、土師器の小片など8点が出土した。

第297号井戸跡（第376図）

東区のK-24グリッドに位置する。南側で第101号住居跡を切っている。平面形は円形で、規模は直

径135cmを測る。断面形は漏斗形で、深さは145cm、井戸中心部は直径38cmと小規模である。

出土遺物は第377図7～9に示した。遺物量は少なめで、土師器の甕、須恵器の環・鉢、瓦の破片などが出土した。

第298号井戸跡（第376図）

東区のK-26グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径195cm、深さは174cmを測る。断面形は漏斗形で、井戸中心部の直径は90cmを測る。

最下層である覆土7層からは、木材が数片出土している。覆土の1～3層には炭化物が含まれており、特に3層は炭化物の純層が形成されていた。埋没の最終段階で中央部に廃棄物を投棄したものと考えられる。

出土遺物は第377図10～21に示した。遺物は一定量あり、須恵器の高台付壇・環・甕、羽釜、灰釉陶器、木材などが出土した。

第299号井戸跡（第376図）

東区のN-23グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は直径48cmと小規模である。断面形は漏斗形で、深さは92cm、井戸中心部になると直径は24cmとさらに小さくなる。

出土遺物は、土師器の甕の小破片1点のみで、図示できなかった。

第300号井戸跡（第376図）

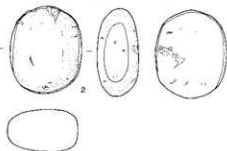
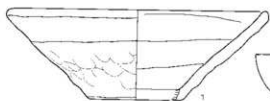
東区のL-23グリッドに位置する。東側でビットに切られている。平面形は円形で、規模は直径78cmと小規模である。深さは130cmを測り、断面形は筒形である。

出土遺物は少なく、須恵器の環の破片、土師器の破片が出土したが、図示できるものはなかった。

第301号井戸跡（第376図）

東区のL-24グリッドに位置する。第485号溝跡、

SE294

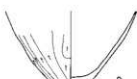


SE295

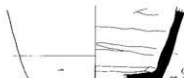
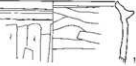
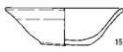


0 5cm

SE297



SE298



0 10cm

第377图 井戸跡出土遺物 (50)

第102号住居跡に切られている。平面形は不整形で、規模は直径74cm、深さ150cmである。断面形は漏斗形で、井戸中心部の規模は直径43cmである。覆土1層と2層に焼土粒子、1～3層に炭化物が含まれていた。

出土遺物は少なく、土師器の甕・坏の小破片が出土したが、図示できるものはなかった。

第302号井戸跡（第376図）

東区のN-25グリッドに位置する。2基のピットを切っている。平面形は円形で、規模は直径85cm、深さ58cmを測る。断面形は筒形である。

出土遺物は土師器の小破片が3点出土したが、図示できるものはなかった。

第99表 井戸跡出土遺物観察表(1)

探出番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
295 1	SE 133	須臾器	甕	—	[3.8]	—	破片	砂粒 白粒	良好	暗灰	未野産?	
295 2	SE 133	土師器	坏	(11.9)	[2.9]	—	1/4	角 白粒	良好	黒褐	油煙付着 下層	
295 3	SE 133	土師器	甕	(20.0)	[2.8]	—	破片	普通 角 白粒 黒粒	普通	にふい橙		
295 4	SE 135	在地	鉢	(21.9)	[3.8]	—	破片	石英 白粒 小石	普通	褐灰		
295 5	SE 136	青磁	碗	—	[1.8]	5.6	底部1/2	—	良好	緑		212
295 6	SE 137	瀬戸焼	鉢	(19.0)	4.3	—	—	良好	良好	オリーブ灰		212
295 7	SE 137	在地	片口鉢	(30.0)	[8.4]	—	口縁破片	石英 白粒	普通	褐		221
295 8	SE 137	青磁	碗	—	—	—	破片	—	良好	オリーブ灰		212
295 9	SE 137	木製品	漆碗	[1.9]	—	(8.8)	底部1/2	樹種 カツラ	—	—		164
295 10	SE 138	須臾器	すり鉢	—	[3.8]	11.4	底部1/2	石英 白粒 針 小礫	良好	灰	南北金産	164
295 11	SE 138	須臾器	甕	—	[7.6]	—	破片	白粒 黒粒	普通	灰		
295 12	SE 138	土師器	小型甕	(10.0)	[3.6]	—	破片	白粒	良好	橙		
295 13	SE 138	土師器	坏	(10.0)	[2.9]	—	1/5	砂粒 赤粒 白粒	良好	黒	黒色有段口縁坏	
295 14	SE 138	土師器	坏	(10.4)	[2.3]	—	口縁1/6	砂粒 白粒	良好	橙	北武蔵型坏	
295 15	SE 138	土師器	坏	(10.7)	[3.0]	—	1/5	雲 角 砂粒 黒粒	良好	にふい橙	北武蔵型坏	
295 16	SE 138	土師器	坏	(9.5)	3.5	—	破片	雲 黒粒	良好	橙		
295 17	SE 138	土師器	坏	[11.0]	[3.2]	—	口縁1/5	砂粒 赤粒 白粒 黒粒	普通	にふい赤褐		
295 18	SE 138	土師器	甕	(22.0)	[6.2]	—	破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	にふい橙		
295 19	SE 139	須臾器	坏	—	[1.7]	(5.1)	破片	褐粒	不良	にふい黄緑	土師質	
295 20	SE 140	土師器	坏	(16.0)	[3.2]	—	1/6	角 石英 砂粒	普通	にふい橙	北武蔵型坏	
295 21	SE 141	かわらけ	皿	—	[1.9]	(6.0)	破片	黒粒 褐粒	普通	橙		
295 22	SE 142	かわらけ	皿	—	[1.2]	(3.6)	底部1/2	雲 褐粒	普通	にふい橙		
295 23	SE 143	在地	鉢	(25.1)	[7.2]	—	破片	砂粒 白粒	普通	灰		
295 24	SE 143	石製品	砥石	幅2.1～3.0 長4.3 厚2.2			破片	—	—	—		220
295 25	SE 144	須臾器	坏	—	[3.4]	6.4	底部1/2	砂粒 針 褐粒	普通	灰	南北金産	
298 1	SE 145	須臾器	坏	—	[1.7]	(5.8)	底部破片	石英	普通	にふい黄緑	土師質	
298 2	SE 146	土師器	坏	(10.0)	[3.1]	—	1/5	砂粒 白粒	普通	橙	北武蔵型坏	
298 3	SE 147	在地	内耳鉢	(33.2)	[15.1]	—	破片	雲 白粒 黒粒	普通	褐灰	内面：灰	
298 4	SE 147	木製品	棒状品	幅4.1 長[25.9] 厚2.6			—	—	—	—		164
298 5	SE 148	木製品	下駄	幅11.0 長[16.1] 厚5.8			—	—	—	—		164
298 6	SE 151	須臾器	平瓶	—	[2.7]	—	破片	白粒	良好	灰白	東海	216
298 7	SE 151	土師器	坏	(13.1)	[3.5]	—	1/4	雲 角	普通	にふい橙	北武蔵型坏	
298 8	SE 152	須臾器	坏	—	[1.6]	(7.0)	破片	長石 針 黒粒	普通	灰	南北金産	
298 9	SE 154	須臾器	甕	—	[26.3]	—	1/5	赤粒 白粒	良好	灰		164
298 10	SE 154	須臾器	甕	—	[5.5]	—	破片	石英 白粒	良好	灰	自然焼 南北金産	
298 11	SE 154	須臾器	坏	(12.7)	4.2	5.6	1/4	雲 砂粒 赤粒 白粒 黒粒	普通	明褐灰		
298 12	SE 154	土師器	甕	(22.0)	[5.9]	—	破片	赤粒 白粒	普通	橙		
298 13	SE 154	土師器	甕	(19.0)	[5.3]	—	口縁破片	石英 砂粒 白粒	普通	明赤褐		
298 14	SE 154	土師器	甕	—	[2.3]	4.3	底部のみ	長石 石英 砂粒 赤粒 白粒	普通	にふい赤褐		
302 1	SE 155	かわらけ	坏	8.8	2.2	4.7	2/3	砂粒 白粒 黒粒	普通	にふい橙		164
302 2	SE 155	在地	坏	(28.0)	[7.4]	—	口縁破片	石英 砂粒	普通	褐灰		
302 3	SE 156	須臾器	坏	12.4	3.6	6.0	1/2	赤粒 白粒 針	普通	灰	南北金産	
302 4	SE 157	灰釉陶器	埴	(15.6)	[2.2]	—	破片	白粒 黒粒	良好	瓦 黒灰+ワ	筑北	213
302 5	SE 158	須臾器	甕	(16.2)	[3.5]	—	破片	白粒 針 黒粒	良好	灰	南北金産	
302 6	SE 158	須臾器	甕	(18.0)	[2.0]	—	破片	石英 砂粒	良好	灰	南北金産	
302 7	SE 160	土師器	坏	(10.2)	[2.3]	—	破片	角 砂粒 白粒 褐粒	普通	にふい橙		
302 8	SE 160	土師器	甕	—	[23.8]	—	胴部1/3	雲 砂粒 赤粒	普通	にふい橙	外面付着	
302 9	SE 163	須臾器	高台付埴	—	[2.9]	7.4	底部	砂粒 赤粒 針	良好	灰赤		
302 10	SE 163	須臾器	高台付埴	—	[1.8]	6.4	底部のみ	白粒 針 黒粒	普通	灰	へら記号	
302 11	SE 163	須臾器	坏	—	[2.0]	(7.0)	底部1/3	砂粒 白粒	良好	灰	南北金産	
302 12	SE 163	須臾器	坏	—	[2.4]	4.9	底部のみ	砂粒 白粒 黒粒	良好	にふい黄緑	南北金産	
302 13	SE 164	須臾器	坏	(12.8)	3.8	(6.3)	1/6	石英 赤粒 針 小礫	良好	暗灰	南北金産	
302 14	SE 164	須臾器	坏	—	[1.9]	(6.0)	底部のみ	砂粒 白粒	普通	灰	南北金産	
302 15	SE 164	須臾器	坏	—	[1.0]	6.0	底部のみ	白粒 針	普通	褐灰	へら記号「一」	
302 16	SE 164	須臾器	甕	(15.8)	[1.6]	—	破片	白粒	良好	灰	南北金産	
302 17	SE 164	須臾器	甕	(48.8)	[12.2]	—	口縁1/4	石英 白粒 針 黒粒	良好	黄灰	南北金産	
302 18	SE 164	須臾器	甕	—	[11.9]	—	破片	白粒 黒粒	良好	灰	南北金産	

第100表 井戸跡出土遺物観察表(2)

押印番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版		
302	19	SE	164	須恵器	壺	—	[5.5]	(11.4)	底部1/4	白粒 黒粒	良好	灰オリーブ	南北産産	
302	20	SE	164	土師器	罍	(20.0)	[5.9]	—	破片	雲母角長石赤粒黒粒褐粒	普通	にふい橙		
302	21	SE	164	灰輪陶器	皿	12.8	2.9	6.2	3/4	白粒 黒粒	普通	にふい黄緑	東濃	
303	1	SE	164	石製品	四石	幅12.8	長17.0	厚4.6	ほぼ完整	—	—	—	164	
303	2	SE	166	土師器	環	(16.1)	[3.1]	—	口縁破片	角 長石 黒粒	普通	暗灰黄	黒色有段口縁環	
303	3	SE	166	土師器	環	(10.1)	[2.2]	—	口縁破片	角 石英 砂粒 黒粒	普通	にふい褐	北武藏型環	
303	4	SE	167	須恵器	環	—	[1.1]	(7.4)	破片	雲母 白粒	良好	灰	へう記号「×」	
303	5	SE	167	木製品	曲物	幅2.9	長31.7	厚0.5	—	—	—	—		
303	6	SE	168	須恵器	環	—	[0.3]	(6.8)	底部破片	針 黒粒	良好	灰	南北産産	
303	7	SE	170	須恵器	高台付埴	—	[1.8]	(6.4)	底部破片	砂粒 白粒 小礫 褐粒	普通	灰	内面：黒褐	
303	8	SE	170	木製品	竹棒	幅3.5	長11.6	厚0.7	—	—	—	—		
303	9	SE	170	木製品	部品	幅2.4	長34.0	厚2.3	—	—	—	—		
303	10	SE	171	須恵器	高台付埴	—	[1.7]	6.5	台部1/2	雲母 赤粒 褐粒	普通	にふい橙	165	
303	11	SE	171	木製品	板	幅14.2	長46.6	厚3.9	—	—	—	—	165	
303	12	SE	171	木製品	板	幅13.0	長45.0	厚3.0	—	—	—	—	165	
303	13	SE	171	鉄製品	鉄鎌	長4.2	—	—	—	—	—	—	222	
303	14	SE	174	須恵器	環	—	[3.2]	(8.1)	底部破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	橙	土師質	
303	15	SE	174	中世陶器	壺	(20.4)	[4.0]	—	口縁破片	黒粒	良好	灰	内面：オリーブ	
303	16	SE	174	在地	鉢	(25.2)	[4.0]	—	破片	赤粒 白粒	普通	灰黄		
306	1	SE	175	須恵器	高台付埴	(13.0)	5.3	6.2	1/2	雲 砂粒 黒粒	不良	にふい黄橙	165	
306	2	SE	175	須恵器	高台付埴	—	[3.9]	7.2	底部2/3	雲 角	普通	黒		
306	3	SE	175	須恵器	高台付埴	17.0	7.8	9.6	4/5	砂粒 赤粒 黒粒	普通	灰白	165	
306	4	SE	175	須恵器	高台付埴	—	[3.8]	(7.2)	底部1/3	雲 砂粒 赤粒 褐粒	普通	にふい褐		
306	5	SE	175	須恵器	環	[13.6]	[3.7]	—	破片	雲 白粒 黒粒 褐粒	普通	にふい黄橙		
306	6	SE	175	須恵器	高台付埴	—	[1.5]	(6.7)	底部1/2	長石 白粒 黒粒	普通	灰		
306	7	SE	175	須恵器	瓶	—	[5.8]	—	破片	白粒 黒粒	良好	灰		
306	8	SE	175	灰輪陶器	埴	(13.5)	4.0	(6.8)	1/4	白粒 黒粒	良好	灰白粒：灰黄	東濃	
306	9	SE	175	鉄製品	棒状品	幅0.4	長7.3	厚0.2	—	—	—	—		
306	10	SE	178	須恵器	高台付埴	—	[1.8]	(7.0)	底部	砂粒 赤粒	普通	にふい橙		
306	11	SE	178	須恵器	高台付埴	—	[2.2]	6.6	底部のみ	赤粒 白粒 黒粒	不良	灰黄褐		
306	12	SE	178	須恵器	環	—	[1.7]	(5.0)	破片	褐粒	普通	黒褐		
306	13	SE	178	須恵器	壺	—	[4.3]	—	破片	白粒	良好	灰		
306	14	SE	180	須恵器	埴	(12.2)	[3.3]	—	破片	白粒 針	良好	灰	南北産産	
306	15	SE	180	須恵器	長頸壺	—	[15.8]	—	1/3	石英 白粒	良好	灰	南北産産	
306	16	SE	181	在地	壺	—	[5.0]	(9.0)	底部1/4	雲 砂粒 赤粒 黒粒	普通	灰黄褐	165	
306	17	SE	181	在地	鉢	(25.1)	[6.6]	—	破片	石英 砂粒 赤粒	普通	灰	磨耗が強い	
306	18	SE	183	常滑	罍	—	[8.9]	—	破片	白粒 黒粒	普通	灰オリーブ		
306	19	SE	183	須恵器	罍	—	[8.9]	(13.1)	底部破片	白粒	良好	暗灰	南北産産	
306	20	SE	183	灰輪陶器	段皿	—	[2.0]	(8.8)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白 赤灰オリーブ	二川	
307	1	SE	181	木製品	柱材	幅15.9	長65.6	厚7.3	—	—	—	—		
307	2	SE	181	木製品	枕	幅6.5	長34.0	厚4.2	—	—	—	—		
307	3	SE	181	木製品	木材	幅9.0	長91.4	厚4.4	—	—	—	—		
310	1	SE	184	須恵器	埴	14.7	5.8	6.4	3/4	長石 赤粒 針 小礫	普通	黄灰	南北産産	
310	2	SE	184	須恵器	環	(14.0)	3.6	6.4	1/2	雲 長石 赤粒 小礫	普通	にふい橙	未野産	
310	3	SE	184	須恵器	環	(14.0)	4.5	(7.2)	1/3	角 砂粒 赤粒 白粒	良好	黄灰	未野産	
310	4	SE	184	須恵器	環	(13.0)	3.4	5.8	1/3	砂粒	良好	灰	未野産	
310	5	SE	184	須恵器	環	—	[2.5]	6.0	底部のみ	砂粒 白粒	普通	にふい黄橙	南北産産	
310	6	SE	184	須恵器	環	—	[2.6]	6.0	1/3	赤粒 白粒	普通	灰	内面：赤褐	
310	7	SE	184	須恵器	盤	—	[1.9]	(10.0)	破片	白粒	良好	灰	南北産産	
310	8	SE	184	須恵器	高台付埴	—	[1.8]	6.8	底部のみ	長石 白粒 黒粒	良好	灰		
310	9	SE	184	須恵器	皿	(13.9)	2.0	6.8	1/2	石英 白粒 黒粒	良好	灰	油煙 未野産	
310	10	SE	184	須恵器	長頸瓶	(11.4)	[5.2]	—	口縁1/2	黒粒	良好	灰黄褐	内面：黄灰	
310	11	SE	184	須恵器	環	—	[2.4]	—	破片	白粒 針	良好	灰	黒書 南北産産	
310	12	SE	184	須恵器	鉢	(25.9)	[3.4]	—	破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	にふい橙	未野産	
310	13	SE	184	須恵器	瓶	—	[11.0]	(18.0)	底部破片	石英 白粒 黒粒 褐粒	良好	灰	未野産	
310	14	SE	184	須恵器	壺	(26.7)	[11.4]	—	口縁破片	長石 白粒 黒粒	良好	灰白	南北産産	

第101表 井戸跡出土遺物観察表(3)

種別番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
310 15	SE 184	須恵器	壺	(21.8)	[9.6]	—	口縁1/4	白粒 黒粒 小埋	良好	黒	南北金産	219
310 16	SE 184	須恵器	壺	—	[12.9]	—	破片	砂粒 白粒	良好	灰	南北金産	
310 17	SE 184	須恵器	壺	—	[8.7]	—	口縁破片	白粒 針 小埋 褐粒	良好	灰	南北金産 豊前大津田遺跡 遺品目録	219
310 18	SE 184	須恵器	壺	—	[10.7]	(13.2)	底部1/3	石英 針 小埋	良好	青灰	南北金産	
310 19	SE 184	須恵器	壺	—	[13.6]	(14.1)	破片	石英 白粒 黒粒	良好	オリーブ黒	南北金産	
311 20	SE 184	須恵器	甕	22.7	39.9	12.8	1/3	白粒 針	良好	灰	南北金産	166
311 21	SE 184	須恵器	甕	26.0	39.2	(13.2)	1/3	白粒 針	良好	灰	南北金産	166
311 22	SE 184	須恵器	甕	(36.6)	[35.4]	—	口縁1/5	石英 砂粒 白粒	良好	灰	南北金産	166
312 23	SE 184	須恵器	甕	(45.0)	[17.2]	—	破片	長石 白粒 針	良好	灰	南北金産	166
312 24	SE 184	須恵器	大甕	胴部63.8	[65.0]	—	1/2	石英 白粒 針	良好	灰	南北金産	166
313 25	SE 184	須恵器	甕	(43.2)	[12.0]	—	破片	雲 砂粒 赤粒 白粒	良好	黄灰	木野産	167
313 26	SE 184	土師器	小型甕	(11.0)	[4.3]	—	破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	にふい橙		
313 27	SE 184	灰輪陶器	埴	(17.0)	[2.8]	—	破片	雲 砂粒 黒粒	良好	灰	相模川	二川
313 28	SE 184	灰輪陶器	長頸瓶	10.3	[9.3]	—	口縁破片	白粒	良好	灰	オリーブ	浜北
313 29	SE 184	灰輪陶器	長頸瓶	—	[5.7]	(9.3)	底部1/2	白粒 黒粒	良好	灰	東濃	216
313 30	SE 184	灰輪陶器	埴	—	[4.4]	(8.2)	1/4	白粒 黒粒	良好	灰白	東濃	213
313 31	SE 184	石製品	軽石	幅10.3 長9.4	厚4.7							220
313 32	SE 184	木製品	曲物	幅20 長40.2	厚8							167
313 33	SE 184	木製品	小枕	幅2.3 長45.4	厚1.9							
314 1	SE 184	木製品	板材	幅19.8 長60.9	厚3.1							167
314 2	SE 185	瓦	平瓦	幅[8.2] 長[7.4]	厚2.5		破片	長石 砂粒 赤粒	普通	にふい橙		221
314 3	SE 186	須恵器	環	(11.8)	[3.9]	—	破片	赤粒 黒粒 褐粒	良好	にふい黄橙		
314 4	SE 186	土師器	高台付鉢	—	[2.8]	(9.4)	脚部1/5	長石 赤粒 黒粒	普通	にふい橙		
314 5	SE 186	土師器	鉢	—	[4.1]	—	破片	角 長石 赤粒 黒粒	普通	黒褐		
314 6	SE 186	石製品	有孔円板	径2.9 厚0.35				滑石			模造品	210
314 7	SE 187	灰輪陶器	埴	—	[1.5]	(6.6)	底部1/2	白粒 黒粒	普通	灰白	東濃	213
314 8	SE 187	鉄洋	襦形洋	幅7.2 長4.9	厚1.1						重き60.1g	220
314 9	SE 187	石製品	砥石	幅6.6 長10.1	厚5.9			石英			縄文	221
314 10	SE 188	在地	片口鉢	26.5	9.4	12.6	2/3	石英 砂粒	良好	灰黄	外面泥付着	167
314 11	SE 189	在地	すり鉢	(26.2)	[10.7]	—	破片	砂粒	普通	灰		
316 1	SE 190	須恵器	壺	—	[4.4]	(10.8)	破片	白粒	普通	灰白	南北金産	
316 2	SE 191	須恵器	高台付鉢	13.8	5.2	6.8	2/3	雲 赤粒 黒粒	普通	にふい橙		167
316 3	SE 191	須恵器	高台付埴	—	[2.8]	7.6	底部のみ	石英 砂粒 白粒	良好	褐灰		
316 4	SE 191	須恵器	高台付埴	—	[2.7]	8.2	底部2/3	石英 砂粒 黒粒 褐粒	不良	灰白		
316 5	SE 191	須恵器	高台付埴	—	[2.4]	(7.1)	底部1/2	角 砂粒 白粒 黒粒	普通	褐灰		
316 6	SE 191	須恵器	高台付埴	—	[2.1]	7.5	底部のみ	角 石英 黒粒	不良	にふい黄橙		
316 7	SE 191	須恵器	環	—	[1.1]	(5.0)	底部1/2	角	不良	褐灰		
316 8	SE 191	須恵器	環	12.0	3.7	—	2/3	雲 角 黒粒	良好	灰黄褐	内面泥付着	168
316 9	SE 191	須恵器	羽釜	(18.1)	[3.9]	—	破片	砂粒 白粒	普通	明褐灰		
316 10	SE 191	須恵器	高台付埴	—	[3.9]	(11.0)	高台1/4	雲 赤粒 白粒	普通	にふい橙	足高台台	
316 11	SE 191	灰輪陶器	皿	—	[1.8]	6.8	底部破片	白粒 黒粒	良好	灰白	底部に黒書 墨状	213
316 12	SE 191	土師器	甕	(19.3)	[10.6]	—	1/5	長石 砂粒	普通	褐灰		
316 13	SE 191	木製品	不明木材	幅7.3 長[9.5]	厚5.7							167
316 14	SE 191	鉄製品	刀子	刃幅0.8~1.2 長(17.5)	刃長(9.0)	全长(6.5)	背幅0.3~0.4					222
316 15	SE 192	土師器	環	(12.0)	[2.7]	—	破片	角 白粒 黒粒	良好	橙		
316 16	SE 192	土師器	台付甕	—	[2.7]	(10.0)	脚部破片	石英 砂粒 赤粒 白粒 褐粒	普通	灰黄褐		
316 17	SE 194	土師器	甕	—	[1.3]	5.8	底部	角 砂粒 赤粒 黒粒	普通	浅黄橙		
316 18	SE 194	須恵器	環	—	[1.1]	(5.8)	底部破片	砂粒 赤粒	不良	にふい黄橙	土師買	
316 19	SE 195	在地	環	(12.0)	[5.5]	—	破片	砂粒 白粒	普通	褐灰	内面にふい橙	
316 20	SE 195	かわらけ	環	—	[2.6]	6.0	底部1/4	砂粒	不良	にふい黄橙		
316 21	SE 195	青磁	碗	—	—	—	破片		良好	緑	シノ考連弁文	212
316 22	SE 195	木製品	曲物	幅[3.7] 長5.5	厚0.2							
316 23	SE 195	木製品	曲物	幅13.5 長[13.8]	厚0.8			樹種 サワラ			底板	167
320 1	SE 196	常滑	すり鉢	(30.0)	[7.7]	—	口縁破片	白粒	良好	にふい赤茶		
320 2	SE 196	常滑	鉢	—	[6.2]	(14.0)	底部破片	白粒	普通	暗灰		
320 3	SE 196	石製品	砥石	幅4.1 長[4.6]	厚[0.5]		破片					220

第102表 井戸跡出土遺物観察表(4)

押印番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
320	4 SE	196	石製品	砥石	幅3.6-4.7	長9.9 厚1.6	1/2					220	
320	5 SE	196	木製品	不明木片	幅3.3 長[12.7]	厚3.0							
320	6 SE	196	木製品	不明木片	幅2.1 長[28.0]	厚1.2						168	
320	7 SE	198	須恵器	埴	—	[2.1]	8.0	底部のみ	雲 赤粒 黒粒	普通 灰白	土師貫		
320	8 SE	198	須恵器	埴	—	[1.1]	(8.0)	底部1/4	砂粒 赤粒	不良	土師貫		
320	9 SE	199	内黒土器	高台付埴	—	[1.7]	—	—	砂粒 褐粒	普通 黒	外面:黄粒程内黒		
320	10 SE	199	須恵器	坏	—	[1.5]	(6.0)	底部破片	雲 白粒 黒粒 褐粒	普通 灰			
320	11 SE	199	須恵器	婁	—	[5.5]	—	—	砂粒 白粒	良好 黒	内面に自然釉	219	
320	12 SE	201	須恵器	婁	—	[4.7]	—	—	砂粒 黒粒	良好	内面にいれ		
320	13 SE	203	土師器	婁	(17.6)	[4.4]	—	口縁破片	雲母 砂粒	普通	内面にいれ		
320	14 SE	203	灰輪陶器	埴	(15.9)	[3.0]	—	—	砂粒 白粒 黒粒	良好	灰 黒灰ナマブ	213	
320	15 SE	203	灰輪陶器	皿	—	[1.8]	5.5	1/2	白粒 黒粒	良好 灰白	東濃	213	
320	16 SE	203	土製品	土鍾	幅2.9 長6.9	孔0.9	2/3	砂粒 赤粒	普通	内面にいれ		220	
320	17 SE	207	須恵器	坏	(12.2)	[3.4]	(6.0)	1/4	白粒 黒粒 小礫	良好 灰	未野産		
320	18 SE	207	須恵器	坏	—	[1.8]	(7.6)	底部1/4	砂粒 白粒	普通 灰	南北企産		
320	19 SE	207	木製品	棒状品	幅1.8 長[16.6]	厚1.4						168	
320	20 SE	207	木製品	小杭	幅2.2 長[35.8]	厚2.1						168	
320	21 SE	208	須恵器	坏	—	[1.2]	(6.0)	底部1/2	赤粒 白粒 針	普通 灰	南北企産		
320	22 SE	209	かわらけ	坏	—	[1.1]	(5.4)	底部1/4	砂粒 赤粒 褐粒	不良	内面にいれ		
320	23 SE	210	須恵器	蓋	—	[3.1]	—	—	砂粒 白粒	良好 灰	南北企産		
320	24 SE	210	瓦	平瓦	長[5.3] 幅[5.3]	厚2.0			砂粒 赤粒 白粒	良好	黄灰	221	
322	1 SE	211	常滑	婁	(33.6)	[10.1]	—	—	砂粒 白粒 黒粒	良好 灰	黒濁	221	
322	2 SE	211	在地	鉢	(29.8)	[7.1]	—	—	石英 白粒 褐粒	普通 灰白	内面煤付着	221	
322	3 SE	211	木製品	漆碗	15.8	6.6	8.0		樹種 クリ			168	
322	4 SE	211	木製品	曲物	幅10.2 長17.5	厚0.8			樹種 ヒノキ		底板	168	
322	5 SE	211	木製品	不明内材	幅4.7 長36.1	厚3.2							
322	6 SE	212	須恵器	高台付埴	—	[2.9]	(7.5)	高台部破片	雲 角 赤粒 白粒	普通	内面にいれ		
322	7 SE	212	土師器	坏	(11.2)	[4.5]	—	1/3	角 砂粒 黒粒	良好	内面にいれ		
322	8 SE	212	土師器	坏	(13.3)	[2.2]	—	—	角 石英 白粒	普通	北武蔵型坏		
322	9 SE	212	土師器	皿	(16.0)	[2.3]	—	—	雲 角 褐粒	普通	内面にいれ		
322	10 SE	212	土師器	坏	(15.9)	[3.3]	—	—	雲母 赤粒	普通	内面にいれ	赤彩	
324	1 SE	213	須恵器	高台付埴	(13.6)	5.5	7.7	4/5	砂粒 赤粒 白粒	普通	内面にいれ	黒濁	168
324	2 SE	213	須恵器	高台付埴	—	[2.2]	(6.8)	底部1/2	赤粒 黒粒	普通	黄灰		
324	3 SE	213	須恵器	高台付埴	—	[2.1]	(5.8)	底部1/2	砂粒 褐粒	普通	灰黄濁		
324	4 SE	213	須恵器	高台付埴	—	[2.6]	(7.9)	—	砂粒 赤粒 白粒	普通	灰		
324	5 SE	213	須恵器	高台付埴	—	[2.3]	(6.5)	底部1/2	角 石英 砂粒 白粒 黒粒	普通	暗灰		
324	6 SE	213	須恵器	坏	11.8	3.8	5.4	3/4	砂粒 赤粒 白粒	良好	明濁灰		
324	7 SE	213	須恵器	坏	(10.8)	3.4	(4.8)	1/3	角 長石 白粒	不良	内面にいれ	黄粒	
324	8 SE	213	須恵器	坏	—	[2.1]	4.7	底部1/2	赤粒 白粒 小礫	普通	暗灰濁		
324	9 SE	213	須恵器	羽釜	(18.2)	[7.1]	—	—	口縁破片 角 砂粒 白粒 黒粒	不良	灰黄濁	219	
324	10 SE	213	須恵器	瓶	—	[6.3]	(23.4)	—	底部破片 長石 石英 砂粒	不良	灰黄濁色		
324	11 SE	213	須恵器	高台付埴	—	[5.7]	12.0	脚部2/3	石英 砂粒 白粒 小礫	良好 灰	足高高台		
324	12 SE	213	須恵器	高台付埴?	—	[5.0]	(13.0)	台部1/4	石英 雲 小礫 褐粒	普通 灰白	足高高台		
324	13 SE	213	須恵器	高台付埴	—	[4.6]	(10.0)	高台部のみ	雲 砂粒 赤粒 白粒 黒粒	普通 橙	油煙 足高高台		
324	14 SE	213	須恵器	壺	(20.0)	(6.4)	—	—	破片 石英 砂粒 白粒	良好 灰			
324	15 SE	213	灰輪陶器	壺	—	[7.0]	(9.5)	底部1/2	白粒 白粒	良好 灰	内面黒粒付物 東濃江		
324	16 SE	213	須恵器	壺	—	[7.7]	—	—	砂粒 白粒	良好 灰	南北企産		
324	17 SE	213	須恵器	婁	—	[16.3]	—	—	白粒 黒粒	良好	黄灰	南北企産	219
324	18 SE	213	灰輪陶器	埴	—	[3.5]	(6.3)	1/4	白粒 黒粒	良好	灰白	撥投	213
324	19 SE	213	灰輪陶器	埴	—	[3.3]	(8.0)	1/4	白粒 黒粒	良好	黄灰 輪:灰	東濃江	213
324	20 SE	213	灰輪陶器	長頸瓶	—	[6.0]	(9.5)	—	白粒 黒粒	良好	灰	東濃江	216
324	21 SE	213	灰輪陶器	埴	(16.0)	[3.3]	—	—	破片 白粒 黒粒	良好	灰 黒灰ナマブ	撥投	213
324	22 SE	213	灰輪陶器	埴	—	[1.9]	(6.8)	—	砂粒 白粒 黒粒	普通 灰白	東濃江	213	
324	23 SE	213	土師器	台付埴	—	[4.3]	(12.4)	—	雲 砂粒 赤粒	良好	内面にいれ	赤濁	
324	24 SE	213	鉄製品	角棒状品	幅0.4 長[4.8]							222	
325	25 SE	213	木製品	曲物	直径41.4 高[8.8]	厚0.3					屈曲する		

第103表 井戸跡出土遺物観察表 (5)

採回番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
325	26	SE	213	木製品	櫛	幅4.0 長[6.0]	厚1.0	1/2	樹種 イスノキ			169
325	27	SE	213	木製品	井戸枠材	幅4.5 長83.5	厚4.2					
326	28	SE	213	木製品	枕	幅5.4 長42.1	厚4.4					
326	29	SE	213	木製品	井戸枠材	幅12.7 長28.5	厚5.5					169
326	30	SE	213	木製品	井戸枠材	幅9.4 長142.4	厚6.4					169
326	31	SE	213	木製品	井戸枠材	幅14.6 長156.6	厚10.8					
326	32	SE	213	木製品	井戸枠材	幅16.0 長117.0	厚13.8					
326	33	SE	213	木製品	井戸枠材	幅8.4 長122.6	厚4.8					
327	34	SE	213	木製品	井戸枠材	幅11.2 長158.6						169
327	35	SE	213	木製品	井戸枠材	幅16.0 長132.0	厚8.8					
327	36	SE	213	木製品	井戸枠材	幅12.4 長160.2	厚10.6					
328	37	SE	213	木製品	井戸枠材	幅25.4 長162.0	厚8.0		樹種 コナラ属コナラ亜属クヌギ節			169
328	38	SE	213	木製品	棒	長129.8 幅2.4						
329	39	SE	213	木製品	角材	幅5.0 長81.8	厚3.8					169
329	40	SE	213	木製品	角材	幅5.9 長76.7	厚4.0					
329	41	SE	213	木製品	木材	幅4.8 長62.4	厚4.2					169
329	42	SE	213	木製品	井戸枠材	幅5.2 長56.4	厚4.1					
329	43	SE	213	木製品	井戸枠材	幅2.4 長49.8	厚2.4					
331	1	SE	216	須恵器	環	(12.2) 3.5 (6.5)		1/4	砂粒 白粒 針	良好	灰褐	南比企産
331	2	SE	216	須恵器	蓋	(19.0) [1.6]	—		破片 石英 白粒 黒粒	普通	灰	未野産 掘り方
331	3	SE	216	須恵器	小型甕	(14.0) [4.2]	—		破片 雲片 角 白粒	良好	橙	
331	4	SE	216	土師器	甕	(22.0) [5.3]	—		破片 角 赤粒 白粒 黒粒	普通	にふい橙	掘り方
331	5	SE	216	土師器	甕	(19.3) [5.8]	—		口縁破片 雲 赤粒 白粒 黒粒 小礫	良好	にふい橙	
331	6	SE	216	石製品	未製品	幅3.6 長6.2	厚0.9		滑石			
331	7	SE	216	石製品	幼雑車	上[3.8]厚[0.3]底[3.8]			滑石			209
342	56	SE	216	木製品	棒	幅6.4 長[64.6]	厚5.2					南側の落下物
342	57	SE	216	木製品	不明木材	幅[2.5] 長[10.1]	厚0.3					
342	58	SE	216	木製品	板	幅8.0 長26.4	厚2.6					172
342	59	SE	216	木製品	不明木材	幅8.9 長[21.4]	厚2.5					172
342	60	SE	216	木製品	不明木材	幅10.6 長[16.0]	厚1.0					172
342	61	SE	216	木製品	板材	幅9.3 長40.1	厚3.0					西側の落下物
342	62	SE	216	木製品	棒状製品	幅4.5 長35.1	厚2.3					
342	63	SE	216	木製品	井戸枠材	幅4.0 長41.0	厚2.0					
342	64	SE	216	木製品	井戸枠材	幅12.9 長22.6	厚1.3					
344	1	SE	217	灰釉陶器	皿	— [1.4]	(6.6)	底部1/4	白粒 黒粒	良好	灰白	家産
344	2	SE	219	須恵器	甕	— [6.9]	—		破片 白粒 小石	良好	オリブ黒	219
344	3	SE	219	須恵器	甕	— —	—		破片 白粒 黒粒 小石	良好	灰	南比企産
344	4	SE	219	須恵器	大甕	48.0 56.5	—	1/2	石英 白粒 針	良好	灰	173
344	5	SE	221	土師器	甕	(18.3) [6.7]	—		破片 雲 角 砂粒 赤粒 白粒	良好	橙	
346	1	SE	222	須恵器	高台付埴	13.2 6.0 6.8	ほぼ定形		雲 白粒 黒粒	良好	灰黄	174
346	2	SE	222	須恵器	高台付埴	(14.1) 5.1 (6.2)	1/4		赤粒 黒粒 小礫	普通	灰	
346	3	SE	222	須恵器	高台付埴	(13.5) 5.3 7.0	1/3		角 白粒 黒粒	良好	灰	
346	4	SE	222	須恵器	高台付埴	14.0 5.4 6.6	2/3		角 砂粒 赤粒 黒粒	普通	褐灰	下層
346	5	SE	222	須恵器	高台付埴	13.8 5.6 6.5	ほぼ定形		雲片 赤粒 白粒 黒粒	普通	暗褐	174
346	6	SE	222	須恵器	高台付埴	(14.1) 5.4 (6.8)	1/4		雲 砂粒 赤粒 黒粒	良好	灰白	
346	7	SE	222	須恵器	高台付埴	— [3.8]	(7.1)	底部1/4	白粒 黒粒	良好	褐灰	
346	8	SE	222	須恵器	高台付埴	— [4.7]	(7.4)		破片 角 砂粒 白粒	普通	黒褐	
346	9	SE	222	須恵器	高台付埴	— [3.6]	7.0	底部	白粒 黒粒 褐粒	普通	灰白	
346	10	SE	222	須恵器	高台付埴	— [3.9]	7.1	底部のみ	砂粒 褐粒	普通	黄灰	
346	11	SE	222	須恵器	高台付埴	— [3.5]	7.4	底部のみ	黒粒 褐粒	普通	灰白	
346	12	SE	222	須恵器	高台付埴	— [5.3]	[7.3]	底部1/4	雲 砂粒 赤粒 白粒	良好	橙	
346	13	SE	222	須恵器	高台付埴	— [2.2]	5.4	底部のみ	砂粒 白粒	普通	灰	
346	14	SE	222	須恵器	高台付埴	— [1.9]	6.4	底部3/4	白粒	普通	黒褐	
346	15	SE	222	須恵器	高台付埴	— —	—	底部2/3	角 砂粒 白粒 褐粒	普通	灰	
346	16	SE	222	須恵器	高台付埴	— [3.1]	(6.0)	底部1/2	白粒 針	良好	灰	
346	17	SE	222	須恵器	高台付埴	— [2.4]	6.2	底部1/2	砂粒 白粒	普通	灰白	

第104表 井戸跡出土遺物観察表(6)

押図番号	造構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
346 18	SE	222	須恵器 高台付埴	—	[2.3]	6.9	底部のみ	雲 砂粒 赤粒 黒粒	普通	にぶい・橙		
346 19	SE	222	須恵器 高台付埴	—	[1.8]	(6.6)	底部1/2	白粒 褐粒	普通	褐灰		
346 20	SE	222	須恵器 高台付埴	—	[1.4]	5.9	底部のみ	砂粒 白粒	良好	灰黄		
346 21	SE	222	須恵器 高台付埴	—	[4.4]	—	1/3	黒粒	良好	灰	内面：塗付着	173
346 22	SE	222	須恵器 高台付埴	—	[5.3]	—	底部1/4	白粒 白粒	普通	灰黄褐	内面：塗付着	
346 23	SE	222	須恵器 高台付埴	—	[2.5]	(7.6)	底部1/4	白粒 黒粒 曜	普通	灰		
346 24	SE	222	須恵器 高台付埴	—	2.0	(9.2)	高台1/4	雲 角 赤粒 黒粒	普通	にぶい・黄橙		
346 25	SE	222	須恵器 高台付埴	—	[2.8]	6.8	破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	灰黄褐		
347 26	SE	222	須恵器 環	12.8	4.6	5.3	4/5	長石 白粒 黒粒	良好	灰	内外面一部黒色	173
347 27	SE	222	須恵器 環	12.8	4.2	5.8	4/5	雲 白粒 黒粒	普通	灰		174
347 28	SE	222	須恵器 環	11.6	3.7	6.0	完形	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	灰	一部煤煙着；黒色	174
347 29	SE	222	須恵器 環	(13.1)	3.6	7.0	1/2	砂粒 白粒	普通	灰白		174
347 30	SE	222	須恵器 環	11.8	4.1	5.5	ほぼ完形	雲 長石 砂粒	良好	黒濁		174
347 31	SE	222	須恵器 環	(12.6)	3.6	5.6	1/3	赤粒 白粒 針	良好	上面：暗灰	下面：灰褐	174
347 32	SE	222	須恵器 環	(13.0)	4.2	(5.9)	1/3	黒粒 褐粒	不良	灰		
347 33	SE	222	須恵器 環	(13.1)	3.0	(6.2)	破片	砂粒 赤粒 白粒	良好	灰		
347 34	SE	222	須恵器 環	(12.0)	3.3	(4.0)	1/5	石英 砂粒 黒粒	良好	灰		
347 35	SE	222	須恵器 環	(14.0)	[4.2]	—	破片	黒粒	良好	灰白		
347 36	SE	222	須恵器 環	(14.0)	[5.0]	—	口縁破片	砂粒 白粒 黒粒	普通	灰黄褐		
347 37	SE	222	須恵器 環	(12.0)	[3.7]	—	破片	砂粒 針 褐粒	普通	灰		
347 38	SE	222	須恵器 環	(14.0)	[3.7]	—	雲 砂粒	普通	褐灰			
347 39	SE	222	須恵器 環	(12.0)	[3.1]	—	破片	砂粒 黒粒 褐粒	良好	黄灰		
347 40	SE	222	須恵器 環	(12.0)	[3.3]	—	口縁破片	白粒	普通	灰		
347 41	SE	222	須恵器 環	—	[1.2]	(8.6)	底部1/3	赤粒 白粒 針 褐粒	良好	にぶい・黄橙		
347 42	SE	222	須恵器 環	—	[2.0]	6.0	底部のみ	砂粒 白粒	普通	灰白		
347 43	SE	222	須恵器 環	—	[1.4]	5.4	底部のみ	白粒 黒粒 褐粒	普通	黒濁		
347 44	SE	222	須恵器 環	—	[3.3]	(6.1)	底部1/4	砂粒	不良	灰黄		
347 45	SE	222	須恵器 環	—	[4.1]	(5.4)	底部破片	赤粒 黒粒	普通	にぶい・黄橙		
347 46	SE	222	須恵器 環	—	[1.5]	(5.9)	底部1/2	赤粒 白粒	普通	浅黄褐		
347 47	SE	222	須恵器 環	—	[1.9]	(6.0)	底部破片	砂粒	普通	灰白		
347 48	SE	222	須恵器 環	—	[1.8]	(5.3)	底部1/3	石英 砂粒 白粒 褐粒	不良	灰白		
347 49	SE	222	須恵器 環	—	[2.1]	(6.0)	底部	赤粒 白粒	良好	灰黄褐	底部にへラ捺線	
347 50	SE	222	須恵器 環	—	[2.1]	(6.0)	底部1/4	長石 砂粒 白粒	良好	灰		
347 51	SE	222	須恵器 環	—	[1.1]	6.0	底部1/2	砂粒 白粒	普通	にぶい・橙		
347 52	SE	222	須恵器 皿	—	[1.0]	(5.8)	底部1/3	赤粒 白粒 針	良好	灰黄褐		
347 53	SE	222	須恵器 環	(12.1)	[3.7]	—	破片	砂粒 小曜	普通	灰白	黒書	175
347 54	SE	222	須恵器 環	(12.6)	[3.2]	—	口縁1/4	砂粒 赤粒	良好	灰黄	内外面に油煙	
347 55	SE	222	須恵器 埴	—	[2.8]	(6.4)	底部1/3	赤粒 黒粒	不良	にぶい・橙	内面塗付着	
348 56	SE	222	須恵器 提瓶	—	[5.1]	—	破片	白粒 黒粒	良好	灰		
348 57	SE	222	須恵器 羽釜	(17.9)	[5.6]	—	口縁破片	石英 砂粒 赤粒 白粒	良好	褐灰	東遠江	174
348 58	SE	222	須恵器 台付鉢	—	[8.1]	(18.5)	台部1/4	長石 砂粒 赤粒	良好	灰白	猿投	219
348 59	SE	222	須恵器 蓋	—	[2.9]	—	破片	白粒 褐粒	良好	灰白	内面：黒土師着	219
348 60	SE	222	須恵器 壺	—	[7.3]	—	破片	砂粒 白粒 小曜	良好	赤灰		
348 61	SE	222	須恵器 甕	—	[4.7]	—	破片	白粒 黒粒	良好	灰		219
348 62	SE	222	灰輪陶器 埴	15.8	4.9	7.9	ほぼ完形	白粒 黒粒	良好	灰白	東遠江	174
348 63	SE	222	灰輪陶器 稜埴	(16.7)	5.8	(7.9)	1/4	白粒 黒粒	良好	灰白	猿投	
348 64	SE	222	灰輪陶器 皿	(12.7)	2.6	6.5	3/4	白粒 黒粒	良好	灰白	東遠江	174
348 65	SE	222	灰輪陶器 埴	—	[2.9]	8.1	1/3	白粒 黒粒	良好	灰 輪白	東遠江	214
348 66	SE	222	灰輪陶器 埴	—	[4.4]	(8.2)	1/4	白粒 黒粒	良好	灰 輪灰キヤブ	浜北	214
348 67	SE	222	灰輪陶器 埴	—	[1.9]	(6.2)	1/4	白粒 黒粒	良好	灰白	東遠江	214
348 68	SE	222	灰輪陶器 皿	—	[2.0]	(7.9)	破片	白粒 黒粒	良好	灰 輪灰キヤブ	東遠江	214
348 69	SE	222	灰輪陶器 皿	—	[1.8]	(7.4)	底部1/4	白粒 黒粒	良好	灰 輪灰キヤブ	猿投	214
348 70	SE	222	灰輪陶器 稜埴	—	[2.5]	(8.6)	破片	白粒 黒粒	良好	灰 輪灰キヤブ	東遠江	214
348 71	SE	222	灰輪陶器 埴	—	[1.8]	(7.5)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東遠江	214
348 72	SE	222	土師器 環	(12.2)	3.3	(8.4)	1/2	砂粒 赤粒	良好	灰黄褐		
348 73	SE	222	土師器 環	(12.2)	[3.7]	—	口縁破片	雲 赤粒	良好	にぶい・黄橙		

第105表 井戸跡出土遺物観察表(7)

採回番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
348 74	SE 222	土師器	甕	(21.3)	[5.0]	—	破片	角 長石 赤粒 白粒	良好	橙	内面:にぶい褐	221 175	
348 75	SE 222	土師器	台付甕	—	[5.2]	—	脚部破片	角 白粒 黒粒	普通	黄灰			
348 76	SE 222	土師器	台付甕	—	[2.4]	(9.6)	脚部1/4	白粒 黒粒	普通	黄灰			
348 77	SE 222	土師器	台付甕	—	[2.9]	(11.0)	雲 赤粒 黒粒	良好	灰白				
348 78	SE 222	石製品	砥石	幅[5.9]	長7.6	厚3.2	破片						
349 79	SE 222	木製品	曲物底板	幅220.0	長20.0	厚0.9							
349 80	SE 222	木製品	曲物底板	幅[9.3]	長[9.4]	厚0.4							
349 81	SE 222	木製品	曲物底板	幅2.4	長12.2	厚0.3							
349 82	SE 222	木製品	共り付木器	幅3.5	長29.0	厚3.7		樹種 イヌガヤ					175
349 83	SE 222	木製品	共り付木器	幅5.0	長[24.7]	厚3.9		樹種 コナラ属コナラ亜属クヌギ属					175
349 84	SE 222	木製品	曲物側板	幅2.0	長18.0	厚0.3							
349 85	SE 222	木製品	不明木器	幅8.0	長20.2	厚0.3							
349 86	SE 222	木製品	棒	幅4.0	長20.5	厚3.5							175
349 87	SE 222	木製品	棒	幅4.0	長20.8	厚5.1							
349 88	SE 222	木製品	曲物底板	幅4.6	長12.2	厚1.7							
349 89	SE 222	鉄製品	短冊鉄器	幅0.5	長[6.9]						222		
349 89	SE 222	鉄製品	短冊鉄器	幅0.5	長[2.0]						222		
350 90	SE 222	木製品	棒	幅3.8	長[33.4]	厚3.5							
350 91	SE 222	木製品	杭	幅8.5	長24.8	厚5.4							
350 92	SE 222	木製品	杭	幅7.1	長32.5	厚4.0							
350 93	SE 222	木製品	杭	幅4.5	長28.5	厚3.8							
350 94	SE 222	木製品	井戸枠材	幅16.2	長[104.2]	厚10.0				175			
350 95	SE 222	木製品	木片	幅7.8	長13.0	厚0.5							
350 96	SE 222	木製品	木片	幅6.1	長8.9	厚5.5				175			
350 97	SE 222	木製品	籠網鎌	幅4.6	長16.8	厚2.8				175			
350 98	SE 222	木製品	木片	幅6.1	長8.9	厚5.5				175			
350 99	SE 222	木製品	曲物	幅6.0	長7.9	厚0.3				175			
350 100	SE 222	木製品	棒	幅2.5	長35.5	厚2.2							
350 101	SE 222	木製品	木片	幅3.5	長6.6	厚3.6							
350 102	SE 222	木製品	棒	幅4.8	長28.2	厚4.0							
350 103	SE 222	木製品	木片	幅7.4	長7.5	厚3.7				175			
350 104	SE 222	木製品	木片	幅6.8	長10.7	厚3.8							
352 1	SE 223	土師器	甕	幅9.5	長8.2		胴部破片	角 砂粒	普通	黒褐	内面:黒書「一」	176	
352 2	SE 224	須恵器	甕	—	[5.4]	—	破片	長石 砂粒 白粒	良好	灰	木野産		
352 3	SE 224	土師器	環	9.6	3.4	—	完形	砂粒 白粒	良好	にぶい赤褐	北武藏型環	176	
352 4	SE 224	土師器	環	(11.0)	2.9	—	1/2	長石 砂粒 赤粒	良好	赤褐	放射状暗文	176	
352 5	SE 224	土師器	環	(10.0)	[2.9]	—	口縁1/5	角 砂粒 白粒	良好	橙	北武藏型環		
352 6	SE 224	土師器	環	(12.0)	[3.6]	—	破片	砂粒 白粒	普通	にぶい褐			
352 7	SE 224	土師器	小型壺	(8.0)	[3.5]	—	口縁破片	雲 長石 褐粒	良好	橙			
352 8	SE 224	木製品	杭	幅5.2	長13.2	厚4.8							
352 9	SE 224	木製品	板	幅20.1	長54.1	厚3.0							
352 10	SE 224	木製品	杭	幅6.2	長63.9	厚3.3							
352 11	SE 225	須恵器	環	12.3	3.9	5.8	完形	砂粒 白粒 針	良好	灰	黒書 南北金産	176	
352 12	SE 225	土師器	環	(12.4)	[3.0]	(7.5)	破片×3	雲 長石 砂粒	良好	にぶい橙			
352 13	SE 225	土師器	台付甕	—	[3.5]	9.4	脚部のみ	雲 赤粒 白粒	良好	にぶい褐			
352 14	SE 225	土師器	甕	(20.0)	[7.6]	—	1/4		小環		外面付蓋付		
352 15	SE 225	木製品	曲物底板	高[17.4]	厚0.7							176	
353 1	SE 228	土師器	環	(14.0)	3.4	—	1/5	砂粒	普通	にぶい橙	北武藏型環		
353 2	SE 228	土師器	環	(10.8)	[2.8]	—	1/4	雲 砂粒 白粒 黒粒	良好	橙	北武藏型環		
353 3	SE 228	土師器	環	(14.0)	[2.9]	—	破片	角 赤粒 白粒	良好	橙			
353 4	SE 228	土師器	環	(14.0)	[1.9]	—	口縁破片	赤粒 白粒 礫	普通	赤	純比金型環 赤彩		
353 5	SE 228	土師器	鉢	—	[2.5]	(13.0)	底部破片	砂粒 赤粒 白粒 黒粒	普通	黒	内面:にぶい橙		
353 6	SE 228	土師器	鉢	(40.4)	[6.5]	—	破片	砂粒 赤粒 白粒	良好	にぶい褐			
353 7	SE 229	内里土器	高台付碗	—	[2.9]	(7.2)	底部	雲	不良	黒褐			
353 8	SE 231	須恵器	環	(13.7)	3.9	6.8	1/3	砂粒 白粒	良好	灰	下層 南北金産	176	
353 9	SE 231	須恵器	環	—	[2.9]	7.7	底部	砂粒 白粒 針	良好	灰黄褐	南北金産		

第106表 井戸跡出土遺物観察表(8)

押印番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
353	10	SE	231	須恵器	環	(14.0)	[3.2]	—	破片	白粒 針 黒粒	普通 灰白	南北産	
353	11	SE	231	須恵器	環	—	[1.3]	[7.0]	底部1/3	砂粒 白粒 針	良好 灰白	下層 南北産	
353	12	SE	231	須恵器	蓋	(18.8)	[2.5]	—	1/3	砂粒 黒粒	良好 暗灰	下層 南北産	
353	13	SE	231	須恵器	甕	(19.8)	[5.0]	—	破片	石英 白粒 黒粒	良好 灰	下層 南北産	
353	14	SE	231	須恵器	甕	—	[1.2]	(18.0)	底部のみ	白粒 黒粒	良好 オリーブ黒	南北産	
353	15	SE	231	土師器	環	(15.8)	3.9	—	1/4	角 長石 石英 白粒	良好 灰	下層	
353	16	SE	231	土師器	環	(13.1)	[3.1]	—	1/4	長石 砂粒	普通 灰黄褐		176
353	17	SE	231	土師器	環	(12.0)	[2.6]	—	破片	角 砂粒	普通 灰	下層	
353	18	SE	231	土師器	環	(12.0)	[3.2]	—	破片	雲	良好 灰	北武蔵型 下層	
353	19	SE	231	土師器	環	(11.9)	3.1	—	1/4	雲 石英 砂粒 白粒	良好 褐灰	下層	
353	20	SE	231	須恵器	環	—	[3.3]	—	破片	針	良好 灰	黒書 南北産	177
353	21	SE	231	須恵器	環	—	[2.1]	—	破片	黒粒	良好 灰	黒書 南北産	177
353	22	SE	231	土師器	環	—	[0.5]	—	破片	雲	良好 灰	黒書	
353	23	SE	231	土師器	環	—	[0.4]	—	破片	雲 白粒	普通 灰	黒書	177
353	24	SE	231	土師器	台付甕	14.3	17.5	(10.4)	ほぼ完形	雲 角 赤粒	普通 灰褐		176
353	25	SE	231	土師器	小型甕	(13.4)	[8.0]	—	破片	砂粒 白粒	良好 灰	にふい赤褐	堅緻
353	26	SE	231	土師器	甕	(21.7)	[7.5]	—	破片	雲 角 砂粒 黒粒	良好 灰		
353	27	SE	231	石製品	砥石	幅4.2	長8.4	厚3.8	破片				220
354	28	SE	231	木製品	篋網踵	幅7.2	長16.0	厚4.1					177
354	29	SE	231	木製品	皿	(17.5)	2.2	—					177
354	30	SE	231	木製品	板	幅9.1	長[32.3]	厚1.7					177
354	31	SE	231	木製品	板	幅6.8	長[7.3]	厚[2.2]					177
356	1	SE	233	須恵器	環	(14.6)	3.9	(9.9)	1/5	白粒 針	良好 黄灰	5層 ヘラ記号「一」	
356	2	SE	233	須恵器	環	(14.0)	[3.8]	(8.0)	1/5	砂粒 白粒 針	良好 灰	5層 南北産	
356	3	SE	233	須恵器	環	(14.0)	[3.4]	(8.1)	1/4	白粒 針 黒粒	普通 灰	南北産	
356	4	SE	233	須恵器	埴	(17.3)	[5.0]	—	破片	白粒 針 黒粒	良好 灰	南北産	
356	5	SE	233	須恵器	埴	(17.2)	[6.0]	(10.0)	1/5	白粒 針	良好 暗灰	南北産	
356	6	SE	233	須恵器	長頸甕	9.0	[9.0]	—	頸部のみ	白粒 黒粒 小礫	良好 灰	5層 南北産	177
356	7	SE	233	土師器	環	(12.0)	4.2	—	1/4	角 黒粒	良好 灰	にふい	
356	8	SE	233	土師器	環	(15.2)	3.3	—	1/5	角 長石 砂粒 黒粒	普通 灰	にふい	
356	9	SE	233	土師器	環	(14.0)	12.8	—	1/5	雲 角 黒粒	普通 灰	にふい	
356	10	SE	233	土師器	小型甕	(12.1)	[4.0]	—	破片	砂粒 赤粒 白粒	普通 黒	内面：灰褐	
356	11	SE	233	土師器	甕	24.5	[2.1]	—	破片	赤粒 白粒 黒粒	普通 灰		
356	12	SE	233	木製品	棒	幅2.2	長22.2	厚1.7					
356	13	SE	233	木製品	板	幅7.7	長38.8	厚1.0					
356	14	SE	234	須恵器	環	(12.8	3.0	6.6	2/3	長石 針	普通 灰	南北産	178
356	15	SE	234	須恵器	環	(11.6)	[3.0]	—	破片	白粒	良好 灰	南北産	
356	16	SE	234	土師器	環	13.2	3.8	—	1/2	砂粒 白粒 黒粒	普通 灰	最下層 北武蔵型	178
356	17	SE	234	土師器	環	(15.6)	3.6	—	1/4	雲 角 長石 砂粒	普通 灰	にふい	178
356	18	SE	234	木製品	不明板材	幅8.1	長12.3	厚2.0					
356	19	SE	234	木製品	棒	幅3.2	長13.2	厚2.6					
356	20	SE	234	木製品	棒	幅3.4	長20.8	厚3.4					
356	21	SE	234	木製品	棒	幅4.2	長22.1	厚3.5					
358	1	SE	235	須恵器	環	(11.6)	3.2	6.7	1/3	白粒 針 黒粒	良好 灰	里沼山 南北産	177
358	2	SE	235	須恵器	環	—	[2.1]	6.8	底部のみ	石英 砂粒 白粒 褐粒	普通 灰	南北産	
358	3	SE	235	土師器	皿	(14.0)	3.0	—	破片	砂粒 赤粒 白粒	良好 灰		
358	4	SE	235	木製品	木片	幅15.8	長21.4	厚7.3					
358	5	SE	235	木製品	板	幅8.2	長[34.3]	厚1.3					177
358	6	SE	235	木製品	板	幅9.2	長66.2	厚5.3					
358	7	SE	236	須恵器	高台付埴	—	[2.1]	6.8	底部のみ	雲 片 白粒 黒粒 褐粒	普通 黄灰	上層	
358	8	SE	236	灰釉陶器	壺	—	[5.8]	(15.9)	破片	白粒	良好 灰	中層 東遠江	
358	9	SE	236	在地	鉢	(20.3)	[18.1]	—	1/4	石英 砂粒 赤粒	不良 灰	土師質 上層	178
358	10	SE	236	土師器	甕	(16.0)	[10.1]	—	破片	雲 砂粒 赤粒	不良 灰	にふい	
358	11	SE	236	灰釉陶器	埴	—	[2.3]	(6.1)	破片	白粒 黒粒	良好 灰黄緑：灰白	東濃	214
358	12	SE	236	鉄洋	鏡形洋	幅5.2	長5.0	厚2.1					220
358	13	SE	239	須恵器	環	—	[0.9]	6.0	底部のみ	長石 砂粒 赤粒 白粒 針	良好 灰	にふい	

第107表 井戸跡出土遺物観察表 (9)

検出番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
358	14 SE 239	灰釉陶器	皿	—	[2.1]	7.2	1/3	白粒 黒粒	良好	暗黒赤	浜北	213
359	1 SE 240	かわらけ	環	—	[1.0]	(6.5)	底部破片	雲 赤粒 黒粒	不良	にぶい黄橙	土師質	
359	2 SE 240	須恵器	甕	—	[8.2]	—	破片	白粒 小礫	良好	灰		219
359	3 SE 240	青磁	碗	—	[1.7]	5.2	—	—	良好	暗オリーブ灰		212
359	4 SE 240	古銭	天元聖宝	—	—	—	—	—	—	—		212
359	5 SE 241	土師器	小型壺	13.1	10.4	—	(ほぼ)完成	雲 角 赤粒 白粒 小礫	普通	灰黄褐	底部煤付着	
359	6 SE 241	土師器	鉢	(26.6)	[6.4]	—	破片	雲 角 赤粒 白粒 黒粒	普通	灰黄褐		
359	7 SE 241	土師器	甕	—	[2.5]	9.1	底部のみ	砂粒 赤粒 褐粒	良好	灰褐		
359	8 SE 242	須恵器	環	(12.0)	[3.5]	—	破片	砂粒 白粒 針	良好	灰	南比企産	
359	9 SE 243	須恵器	環	—	[1.6]	(6.0)	底部破片	白粒 針 黒粒	良好	灰	南比企産	
359	10 SE 243	須恵器	高台付埴	—	[2.0]	5.6	底部のみ	片 赤粒 白粒 黒粒	良好	灰黄		
359	11 SE 243	木製品	曲物底板	幅[14.9]	長[15.8]	厚0.8	—	—	—	—		177
359	12 SE 244	在池	鉢	(23.4)	[7.2]	—	破片	石英 白粒	普通	黒	断面：灰白	
361	1 SE 245	常滑	甕	—	[19.5]	—	破片	白粒 黒粒	良好	褐灰	前面に自然軸	
361	2 SE 245	常滑	甕	(24.4)	[7.7]	—	破片	白粒 黒粒	良好	灰オリーブ	内面：暗赤褐	219
361	3 SE 245	常滑	甕	—	[7.6]	(12.6)	底部1/5	砂粒 白粒 黒粒	良好	灰赤		
361	4 SE 245	灰釉陶器	皿	—	[2.3]	6.9	1/2	白粒 黒粒	良好	灰白	甕遺	214
361	5 SE 245	木製品	棒	幅3.5	長[11.3]	厚2.9	—	—	—	—		
361	6 SE 245	木製品	板	幅3.4	長13.5	厚1.4	—	—	—	—		
361	7 SE 245	木製品	杵子	幅6.6	長16.4	厚0.7	—	樹種 サワラ	—	—		
361	8 SE 246	木製品	曲物	幅11.4	長19.9	厚0.4	—	樹種 スギ	—	—		178
361	9 SE 246	木製品	曲物	幅8.2	長9.4	厚0.2	—	樹種 スギ	—	—	8と同一個体	
361	10 SE 247	須恵器	高台付甕	—	[3.0]	—	破片	白粒	良好	灰		
361	11 SE 249	須恵器	甕	—	[3.2]	—	破片	白粒	良好	灰	自然軸	
361	12 SE 249	須恵器	甕	—	[7.0]	—	破片	石英 砂粒 白粒 黒粒	良好	にぶい赤褐	内面：灰 木野産	
361	13 SE 249	須恵器	甕	—	[7.0]	(14.0)	底部破片	砂粒 白粒	良好	黒褐		
361	14 SE 250	常滑	甕	(28.0)	[12.4]	—	破片	石英 赤粒 白粒 黒粒	普通	暗オリーブ	内面：黒	221
363	1 SE 251	須恵器	環	12.3	3.8	5.5	1/4	長石 砂粒 赤粒 針	良好	にぶい赤褐	内面：灰 南比企産	
363	2 SE 251	須恵器	環	(12.0)	3.7	(6.4)	1/5	白粒 針 黒粒	普通	灰	南比企産	
363	3 SE 251	須恵器	甕	—	[7.0]	—	破片	長石 白粒	良好	暗灰	南比企産	219
363	4 SE 251	木製品	不明木材	幅12.8	長37.4	厚2.8	—	—	—	—		
363	5 SE 254	須恵器	皿	(17.1)	4.0	(8.0)	1/5	雲 赤粒 褐粒	不良	灰黄	土師質	
363	6 SE 254	須恵器	壺	—	[4.8]	(14.0)	底部破片	褐粒	不良	灰黄		
363	7 SE 255	須恵器	高台付埴	—	[1.7]	(7.6)	底部1/3	白粒 黒粒 褐粒	普通	灰黄		
363	8 SE 255	須恵器	環	—	[1.3]	(6.0)	底部1/4	赤粒 黒粒	不良	灰褐		
363	9 SE 255	木製品	曲物側板	幅3.4	長[16.2]	厚0.3	破片	—	—	—		
363	10 SE 257	石製品	砥石?	幅15.1	長33.3	厚3.0	—	—	—	—	縦状痕あり	177
363	11 SE 256	木製品	棒	幅0.8	長16.9	厚0.6	—	—	—	—		178
363	12 SE 256	木製品	棒	幅0.6	長20.6	厚0.5	—	—	—	—		178
363	13 SE 256	木製品	棒	幅3.0	長38.1	厚2.8	—	—	—	—		
365	1 SE 258	かわらけ	埴	—	[1.9]	(8.7)	底部1/4	雲 黒粒 褐粒	不良	灰黄		
365	2 SE 258	在池	鉢	(28.2)	[8.3]	—	破片	砂粒 赤粒 白粒	普通	黒褐		221
365	3 SE 258	古銭	元豊通宝	—	—	—	—	—	—	—	1078年	212
365	4 SE 258	石製品	砥石?	幅20.8	長23.4	厚3.7	—	—	—	—	縦状痕重32.13g	177
365	5 SE 258	木製品	杭	幅4.4	長[164.8]	厚3.6	—	—	—	—		
365	6 SE 259	須恵器	環	—	[1.0]	(6.0)	底部1/3	赤粒 白粒 針	良好	灰	南比企産	
365	7 SE 259	土師器	甕	—	[2.4]	(8.0)	底部破片	砂粒 赤粒 白粒 針	普通	にぶい褐	底部に縄目状痕	
365	8 SE 262	土師器	環	(12.1)	[2.8]	—	破片	砂粒 白粒	普通	橙		
365	9 SE 262	土師器	甕	(19.4)	[5.0]	—	破片	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	橙		
365	10 SE 262	鉄滓	塊形滓	幅5.0	長5.2	厚2.1	—	—	—	—	重さ66.8g	220
365	11 SE 263	須恵器	高台付埴	—	[2.7]	(8.4)	高台部	雲 赤粒 白粒	普通	褐灰		
365	12 SE 263	須恵器	高台付埴	—	[2.7]	(7.0)	底部1/2	赤粒 白粒 黒粒	普通	にぶい黄橙		
365	13 SE 263	須恵器	皿	—	[1.3]	(7.0)	底部破片	砂粒 白粒 黒粒 褐粒	良好	にぶい黄橙		
365	14 SE 263	須恵器	環	(12.8)	[2.8]	—	破片	雲 黒粒	普通	灰		
365	15 SE 263	須恵器	甕	—	[5.1]	—	破片	砂粒 白粒 黒粒	不良	灰黄	南比企産	
365	16 SE 263	須恵器	高環	—	[4.0]	—	破片	砂粒 白粒	良好	にぶい赤褐	南比企産	219

第108表 井戸跡出土遺物観察表(10)

押回番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
365 17	SE 263	須恵器	甕	—	[8.8]	—	破片	砂粒 白粒	良好	灰	自然釉	219
365 18	SE 263	石製品	凹石	長[11.5]	幅11.0	厚3.4	—	—	—	—	重725g	221
365 19	SE 263	灰釉陶器	皿	(13.7)	3.5	(7.4)	1/3	白粒 黒粒	良好	灰白	二川	179
365 20	SE 263	灰釉陶器	埴	(16.4)	[3.3]	—	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東遠江	214
368 1	SE 264	木製品	板材	幅5.0	長36.7	厚0.6	—	—	—	—	井戸枠材	179
368 2	SE 264	木製品	板材	幅8.8	長72.5	厚1.2	—	—	—	—	井戸枠材	179
368 3	SE 264	木製品	板材	幅5.8	長65.0	厚1.6	—	—	—	—	井戸枠材	179
368 4	SE 264	木製品	板材	幅6.6	長52.0	厚1.6	—	—	—	—	井戸枠材	179
368 5	SE 264	木製品	板材	幅8.0	長64.2	厚1.2	—	—	—	—	井戸枠材	179
368 6	SE 264	木製品	板材	幅11.4	長60.0	厚1.4	—	—	—	—	井戸枠材	179
368 7	SE 264	木製品	板材	幅12.4	長48.0	厚1.2	—	—	—	—	井戸枠材	179
368 8	SE 264	木製品	板材	幅11.6	長70.0	厚1.6	—	—	—	—	井戸枠材	179
368 9	SE 266	鉄製品	短刀	刃幅最大2.5	背幅0.3	長[26.7]	茎長8.7	—	—	—	最下層	222
368 10	SE 267	須恵器	甕	—	[5.0]	—	(18.0) 底部破片	砂粒 赤粒 白粒	良好	褐灰	—	—
368 11	SE 268	内黒土器	高台付埴	(13.8)	5.4	7.0	3/5	濁粒	普通	浅黄緑	内面ミガキ 内黒	179
368 12	SE 268	内黒土器	高台付埴	(14.6)	5.8	7.2	1/2	砂粒 赤粒 黒粒	普通	にふい黄	内黒	179
368 13	SE 268	内黒土器	高台付埴	(14.7)	5.8	7.4	2/3	砂粒 赤粒 黒粒 濁粒	普通	にふい橙	内黒	179
368 14	SE 268	内黒土器	環	(14.0)	[3.0]	—	口縁破片	雲 砂粒 濁粒	普通	にふい黄緑	内面ミガキ	—
368 15	SE 268	須恵器	環	(12.0)	[3.1]	—	破片	白粒	良好	黒	内面灰 南比産	—
368 16	SE 268	須恵器	環	(11.6)	[3.3]	—	1/5 雲	濁粒	普通	灰	—	—
368 17	SE 268	須恵器	環	—	[2.3]	(6.8)	底部1/2	雲 赤粒 針	不良	にふい橙	内面：褐灰	—
369 1	SE 270	在地	鉢	(26.0)	[5.6]	—	口縁破片	石英 赤粒 白粒	不良	にふい橙	甕尻	—
369 2	SE 271	在地	鉢	—	[3.0]	(13.0)	底部破片	石英 赤粒	不良	黄灰	—	—
369 3	SE 272	須恵器	環	—	[0.6]	(10.0)	底部破片	石英 白粒 針	良好	灰	南比産	—
369 4	SE 273	須恵器	蓋	—	[1.5]	—	破片	長石 砂粒	良好	灰	—	219
369 5	SE 273	灰釉陶器	埴	(15.8)	[3.4]	—	破片	白粒 黒粒	良好	灰	東遠江	214
369 6	SE 273	灰釉陶器	埴	—	[1.3]	(6.6)	底部1/5	白粒 黒粒	良好	灰	二川	214
369 7	SE 274	在地	鉢	—	[7.4]	(11.0)	破片	石英 黒粒	良好	黄灰	外・内面煤付着	—
369 8	SE 276	在地	小型壺	—	[3.6]	(4.2)	底部1/3	長石 砂粒 白粒	普通	黄灰	—	179
369 9	SE 284	須恵器	高台付皿	—	[1.8]	(5.6)	底部1/2	石英 白粒 針 小礫	良好	灰	南比産	—
369 10	SE 286	木製品	曲物	幅11.9	長43.7	厚0.3	—	—	—	—	—	180
369 11	SE 286	須恵器	埴	(15.4)	[6.0]	—	破片	砂粒 白粒 黒粒	普通	褐色	—	—
369 12	SE 286	須恵器	高台付埴	—	[4.3]	(5.6)	底部1/5	雲 砂粒 白粒 黒粒 濁粒	不良	にふい橙	—	—
369 13	SE 286	須恵器	環	—	[3.4]	(5.0)	破片	雲 白粒 黒粒	普通	黒	在地 内面灰白	—
369 14	SE 286	灰釉陶器	埴	—	[1.7]	(7.0)	底部1/4	白粒 黒粒	良好	灰	浜北	214
373 1	SE 287	須恵器	環	12.8	4.1	6.0	4/5	砂粒 針	良好	灰	南比産	180
373 2	SE 287	須恵器	環	(11.8)	3.8	5.8	1/2	白粒 針 小礫	良好	灰	南比産	180
373 3	SE 287	須恵器	環	12.5	3.8	4.7	3/4	石英 砂粒 赤粒 白粒	普通	にふい濁	—	180
373 4	SE 287	須恵器	環	—	(1.2)	(6.2)	底部1/2	角 赤粒 白粒 針	不良	灰白	—	—
373 5	SE 287	須恵器	高台付埴	—	[2.2]	6.7	底部1/2	長石 石英 白粒	不良	灰	—	—
373 6	SE 287	須恵器	高台付埴	—	[3.0]	7.0	底部のみ	白粒 針 黒粒	良好	灰	—	—
373 7	SE 287	須恵器	高台付埴	—	[2.9]	5.8	底部のみ	白粒 黒粒	普通	黒濁	—	—
373 8	SE 287	須恵器	甕	—	[11.0]	—	破片	石英 砂粒 白粒	良好	灰	南比産	219
373 9	SE 287	須恵器	甕	—	[10.5]	—	破片	長石 小礫	良好	灰	未野産	219
373 10	SE 287	須恵器	甕	—	[14.7]	17.7	底部1/2	石英 白粒 黒粒	良好	灰	—	—
373 11	SE 287	須恵器	鉢	23.3	[12.3]	—	1/3	砂粒 赤粒	普通	灰白	土師質	180
373 12	SE 287	土師器	甕	(20.3)	[11.5]	—	口縁1/5	砂粒 赤粒 白粒	普通	にふい赤濁	混入	—
373 13	SE 287	土師器	台付甕	(10.2)	[13.2]	(7.7)	1/2	雲 砂粒 赤粒 白粒	普通	橙	—	180
373 14	SE 287	石製品	凹埋	幅8.1	長12.1	厚2.6	—	—	—	—	—	221
373 15	SE 287	木製品	脇	幅[11.5]	長[16.0]	厚2.5	—	—	—	—	下層	180
374 1	SE 288	土師器	環	(10.0)	[2.2]	—	口縁破片	角 石英 白粒	普通	明赤褐	北武蔵型環	—
374 2	SE 288	土師器	甕	19.9	[7.8]	—	口縁部/2	角 長石 砂粒 赤粒 白粒	普通	灰褐	—	181
374 3	SE 288	土師器	甕	—	[6.0]	(13.0)	底部のみ	角 砂粒 白粒	普通	黒濁	—	—
374 4	SE 288	木製品	井戸枠礎木	幅9.8	長75.2	厚5.6	—	—	—	—	—	181
374 5	SE 288	木製品	板	幅6.3	長23.5	厚0.5	—	—	—	—	—	—
374 6	SE 288	木製品	曲物底板	幅6.5	長20.1	厚0.6	—	—	—	—	—	—

第109表 井戸跡出土遺物観察表(11)

採回番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
374 7	SE 289	在地	鉢	—	[9.7]	(12.0)	破片	石英 白粒 小石	普通	黒	転用品	
374 8	SE 290	鉄製品	鉄鎌	長13.5	鎌身部長3.3	頸部長6.4	—	—	—	—	—	222
374 9	SE 290	木製品	曲物底板	幅5.6	長24.0	厚0.4	—	—	—	—	—	
374 10	SE 292	須臾器	環	(12.2)	3.6	(6.4)	1/5	長石 砂粒 赤粒 針	良好	灰	南北金産	
374 11	SE 292	須臾器	環	15.6	6.7	6.7	ほぼ完形	砂粒 白粒 針	良好	黄灰	南北金産	181
374 12	SE 292	須臾器	環	(12.4)	[2.8]	—	口縁1/4	長石 赤粒 白粒	良好	褐灰	南北金産	
374 13	SE 292	須臾器	環	(14.8)	[3.8]	—	口縁1/4	石英 白粒 針 褐粒	普通	灰黄	南北金産	
374 14	SE 293	在地	片口鉢	(34.4)	12.1	(10.0)	1/3	石英 白粒 黒粒	普通	黒褐	外面覆付着	221
374 15	SE 293	石製品	砥石	幅2.4-3.2	長7.6	厚2.5	1/2	—	—	—	—	220
377 1	SE 294	在地	鉢	(28.0)	9.5	(10.4)	1/4	石英 赤粒 黒粒 小粒	普通	黒褐	断面：灰色	221
377 2	SE 294	石製品	磨石	幅7.5	長9.3	厚4.3	—	—	—	—	—	221
377 3	SE 294	木製品	漆椀	(14.0)	5.1	8.0	—	—	—	—	—	181
377 4	SE 295	内黒土器	高台付碗	—	[2.3]	(8.3)	破片	雲 角 白粒 黒粒	普通	にぶい黄褐	内黒 ミカキ	
377 5	SE 295	瓦	平瓦	幅[7.9]	長[5.6]	厚[2.2]	破片	長石 石英 砂粒	普通	にぶい橙	—	221
377 6	SE 295	土製品	土罐	幅4.8	長9.9	孔1.3	完形	砂粒 橙粒 褐粒	良好	灰黄褐	—	220
377 7	SE 297	須臾器	環	(11.4)	3.3	(5.6)	1/5	砂粒 白粒	良好	灰	南北金産	
377 8	SE 297	須臾器	甌	—	[4.0]	—	破片	砂粒 白粒	良好	灰	木野産	219
377 9	SE 297	土師器	甕	—	[7.5]	4.3	底部	角 砂粒 赤粒 白粒	普通	にぶい橙	底部：黒	
377 10	SE 298	須臾器	高台付碗	13.5	5.6	6.6	1/2	雲 赤粒 褐粒	普通	灰白	—	181
377 11	SE 298	須臾器	高台付碗	—	[2.4]	(7.7)	底部1/2	砂粒 赤粒 白粒	普通	灰	—	
377 12	SE 298	須臾器	高台付碗	—	[2.7]	(5.9)	底部1/3	長石 黒粒 褐粒	普通	灰白	—	
377 13	SE 298	須臾器	高台付環	—	[3.6]	(5.0)	破片	長石 砂粒 白粒 褐粒	普通	灰白	—	
377 14	SE 298	須臾器	環	(11.7)	[3.9]	5.5	1/2	雲 長石 砂粒 赤粒 褐粒	普通	黒褐	内面：灰白	
377 15	SE 298	須臾器	環	(12.6)	[3.9]	5.2	1/4	石英 砂粒 赤粒 白粒	不良	橙	—	181
377 16	SE 298	須臾器	環	—	[1.2]	(7.0)	底部1/4	角 白粒 黒粒	不良	黒褐	—	
377 17	SE 298	灰釉陶器	皿	—	[1.4]	(6.6)	底部3/4	砂粒 黒粒	良好	灰白 釉：灰	二川	214
377 18	SE 298	灰釉陶器	碗	—	[2.3]	7.5	1/4	白粒 黒粒	良好	灰白	—	214
377 19	SE 298	須臾器	羽釜	(13.8)	[6.5]	—	破片	普通 黄灰	—	—	—	
377 20	SE 298	須臾器	壺	—	[7.9]	(14.0)	底部1/4	雲 石英 白粒	良好	暗赤灰	—	
377 21	SE 298	木製品	杭	幅4.0	長17.4	厚3.6	—	—	—	—	—	

6. 円形周溝状遺構

下田町遺跡第3次調査において、円形周溝状遺構を2基検出した。第5号円形周溝状遺構は、東区中央にあたり、古墳時代後期の竪穴住居跡に挟まれた位置である。北側には第96号住居跡、南側には第99号住居跡が検出された。

また、第6号円形周溝状遺構は、西区中央にあたり、周辺には溝跡が存在する。

下田町遺跡第2次調査東区においても、円形周溝状遺構を1基検出した。溝跡番号(第224号溝跡)を付して報告している。

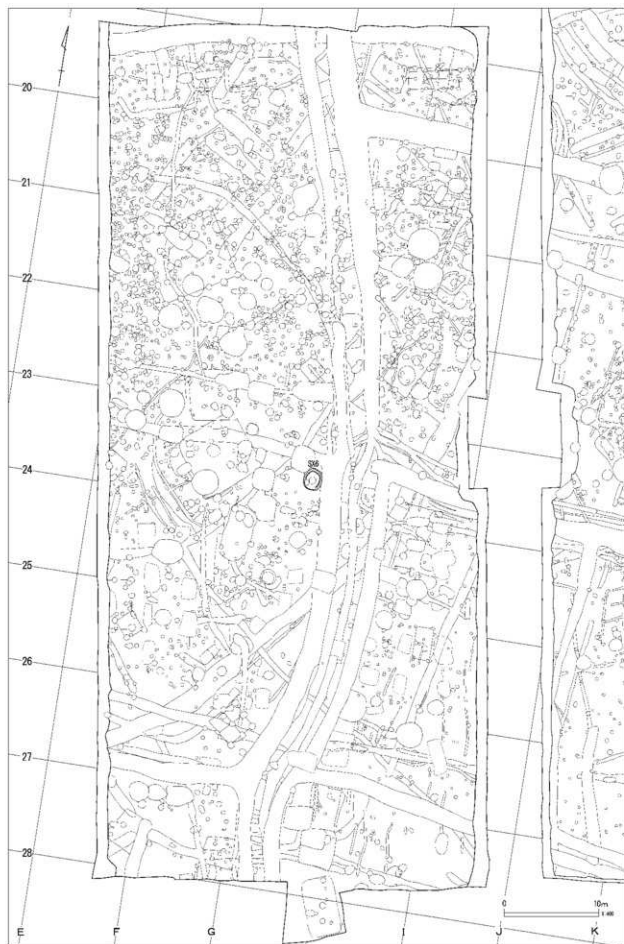
形態はやや楕円形で卵型をしている。断面形態は箱型である。規模は、長軸の径570cm、短軸の径は420cmである。溝の幅は40～50cm、深さ24cmである。

一般に、円形周溝状遺構は古墳時代後期の集落か

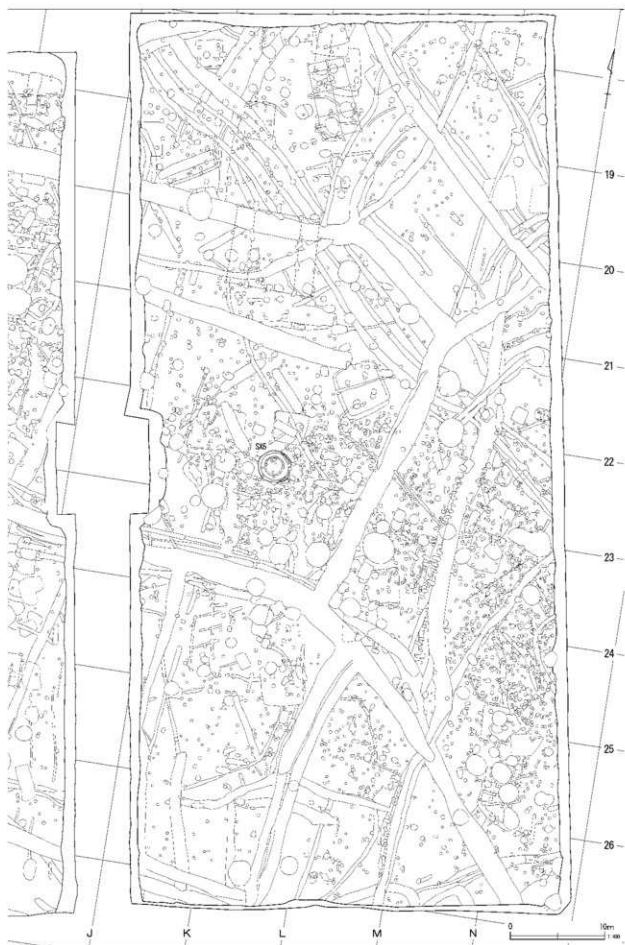
ら検出されている例がある。坂戸市金井遺跡では環状遺構として2基、児玉町ミカド遺跡では円形特殊遺構として4基を報告している。

遺構の性格については不明である。状況はいずれも、他の竪穴住居跡とは重複がみられない、周囲にピットが多く検出される。遺物はほとんど検出されない。中心部分は平坦で周囲に幅の狭い溝が巡りドーナツ状の形態であるなどの点が共通している。

本遺跡から検出された円形周溝状遺構は、先の検出例の遺跡と同様の時期である古墳時代後期と考えられる。また、住居跡や掘立柱建物跡などとセットの建物遺構として捉えることもできるが、特殊遺構として捉えることもでき、性格については今後検討がさらに必要である。

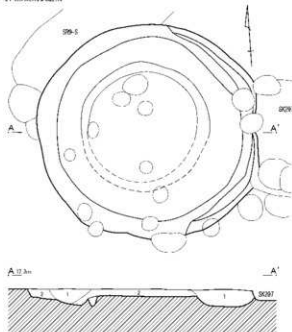


第378図 円形周溝状遺構全体図 西区



第379図 円形周溝状遺構全体図 東区

第5号円形周溝状遺構



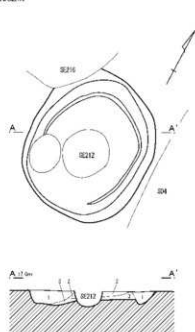
第6号円形周溝状遺構

- 1 黒灰色土 10ISG/1 褐色土質土ブロック(φ20~30cm)少量
2 黒褐色土 10ISG/1 黒褐色粘土砂子(φ1~2mm)多量

第6号円形周溝状遺構

- 1 黒褐色土 10ISG/1 焼土・灰土・焼土 灰土・灰土少量 褐色土質土ブロック少量 焼土
2 黒褐色土 10ISG/4 焼土・灰土少量 褐色土質土ブロック多量
3 黒褐色土 10ISG/6 ブロック下土 褐色土質土ブロック多量

第9号円形周溝状遺構



第380図 第5号円形周溝状遺構

第110表 第5号円形周溝状遺構出土遺物観察表(第381図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
1	灰軸陶器	埴	—	[2.0]	(7.2)	破片	白粒	普通	黄灰 粉・灰白	東遠江	213

第5号円形周溝状遺構(第380図)

東区のJ・K-22グリッドに位置する。北側は、第9号方形周溝跡の南辺溝跡と重複する。東側は、第299号土坑と重複する。西側には、第170・260号井戸跡が位置する。南側には、第99号住居跡が位置する。形態は、ほぼ円形である。

規模は、直径341cm、内側に巡る溝の幅は83cmである。この溝の北側の深さ27cm、東側の深さ21.8cm、西側の深さ26.9cm、南側の深さ31.6cmである。中央部分は平坦で深さ10.1cmである。

出土遺物は、第381図1の灰軸陶器埴を検出した。

第6号円形周溝状遺構(第380図)

西区二面のG-23グリッドに位置する。北側には、第216号井戸跡が位置し、東西方向に第276号溝跡が



第381図 第5号円形周溝状遺構出土遺物



伸びる。東側には、南北方向に第4号溝跡が伸びている。西側には、第30号掘立柱建物跡が位置する。本遺構の中央には、第212号井戸跡が重複する。形態は、円形でドーナツ状に溝が巡る。

規模は、直径230cm、内側に巡る溝の幅は30cmである。この溝の北側の深さ22cm、東側の深さ16.1cm、西側の深さ26cm、南側では、周溝が途切れ平坦になり南側の深さ21.7cmである。中央部分は平坦で深さ14.5cmである。

出土遺物は、検出されなかった。

7. 土坑

下田町道路第3次調査の土坑(略号SK)番号は、平成13年度の第2次調査の続き番号を使用している。今回報告の土坑のうち第196～225号土坑は西区第一遺構面から検出した。また、第298～449号土坑は西区第二遺構面から検出した。さらに、第226～297号土坑、第450～562号土坑は東区から検出した。なお、第244・248・259・261・286・294・407・470・490号土坑は欠番である。

検出された土坑は弥生時代、古墳時代前期・後期、奈良・平安時代、中世に至る時期の遺構である。

第196号土坑(第385図)

西区一面のE-19グリッドに位置する。本土坑の南側には第197～199号土坑が位置する。平面形は方形で、規模は長径139cm、短径97cm、深さ53.1cmである。長軸方向は、N-12°-Wである。

出土遺物は、須恵器環を検出した。五箇の土師器片口鉢の破片を混入する。

第197号土坑(第385図)

西区一面のE-19グリッドに位置する。東側には第198号土坑が位置する。平面形は円形で、規模は長径132cm、短径127cm、深さ28.4cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、土師器甕の底部と高環の脚部破片を検出した。

第198号土坑(第385図)

西区一面のE-19グリッドに位置する。東側の第199号土坑と重複し、本土坑が切り込み新しい。平面形は長方形で、規模は長径297cm、短径102cm、深さ26.5cmである。長軸方向は、N-70°-Wである。覆土は灰色粘土により埋め戻されている。

出土遺物は、平安時代の須恵器高台付埴、灰軸陶器埴破片を検出した。

第199号土坑(第385図)

西区一面のE-19グリッドに位置する。第198号土坑に切られている。平面形は長方形で、規模は長径168cm、短径84cm、深さ22.3cmである。長軸方向は、

N-70°-Wである。覆土は第198号土坑と同様灰色粘土によって覆われている。

出土遺物は、常滑甕の破片と土師器模倣環、木野産の須恵器高環を検出した。

第200号土坑(第385図)

西区一面のE・F-19グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径178cm、短径142cm、深さ50cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、検出できなかった。

第201号土坑(第385図)

西区一面のH-25グリッドに位置する。北側には第204号土坑が位置する。平面形は長方形で、規模は長径130cm、短径46cm、深さ5.8cmである。長軸方向は、N-25°-Eである。

出土遺物は、須恵器高台付埴を検出した。

第202号土坑(第385図)

西区一面のF-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径117cm、短径81cm、深さ58.3cmである。長軸方向は、N-38°-Eである。

出土遺物は、灰軸陶器埴の破片、須恵器甕の破片を検出した。

第203号土坑(第385図)

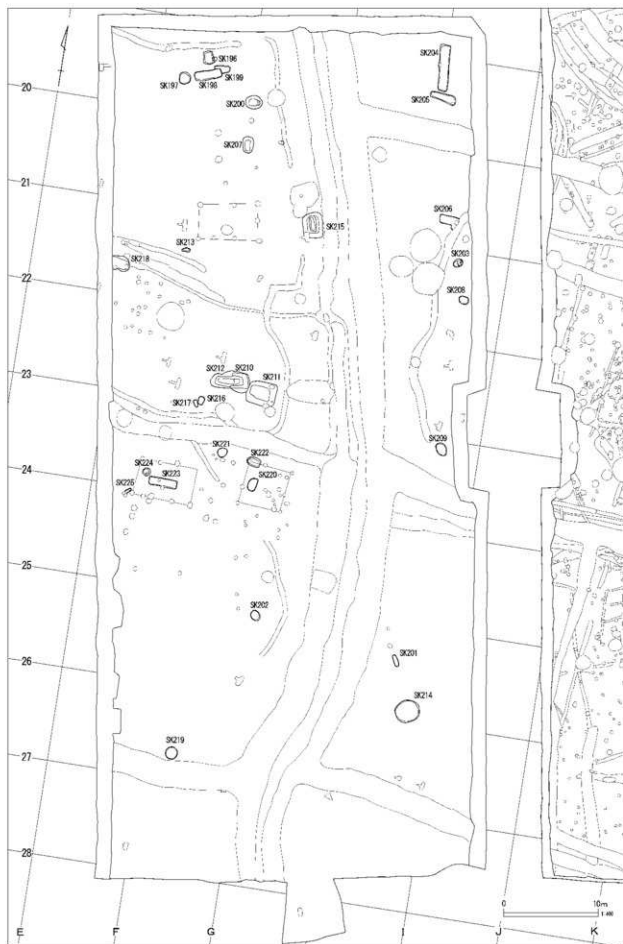
西区一面のH-21グリッドに位置する。南側には同規模の第208号土坑が位置する。平面形は円形で、規模は長径109cm、短径85cm、深さ30.5cmである。長軸方向は、N-65°-Wである。

出土遺物は、鉄滓、須恵器環の破片を検出した。

第204号土坑(第385図)

西区一面のG・H-18・19グリッドに位置する。西側調査区の北東端である。南に第205号土坑が位置する。平面形は短冊型の長方形で、規模は長径492cm、短径105cm、深さ81.1cmである。長軸方向は、N-5°-Eである。

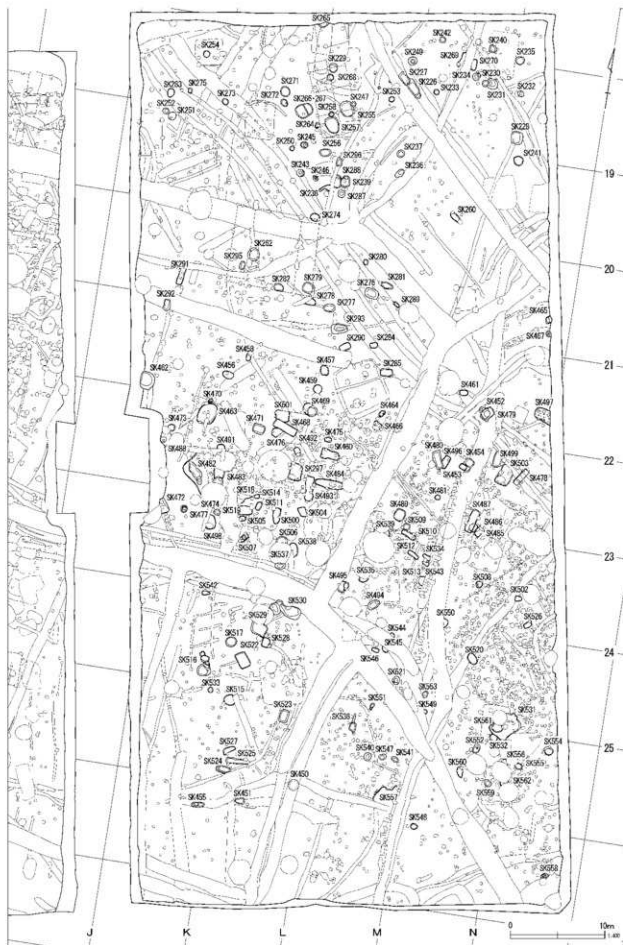
出土遺物は、土師器比企型埴、須恵器高台付埴の破片を検出した。



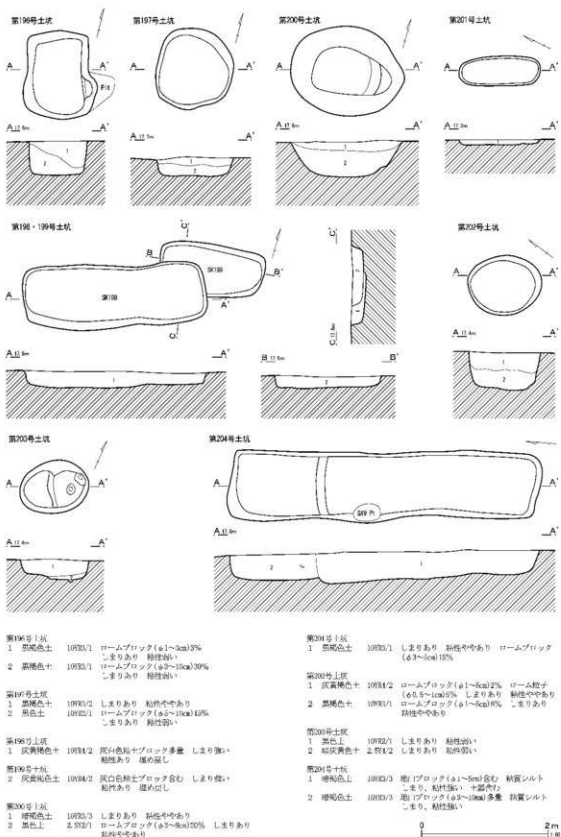
第382号 土坑全体图 西区一面



第383团 土坑全体图 西区二面



第384图 土坑全体图 东区



第385図 土坑 (1)

第205号土坑 (第386図)

西区一面のG・H-19グリッドに位置する。北面に直行する第204号土坑を検出した。平面形は長方形で、規模は長径277cm、短径97cm、深さ29cmである。長軸方向は、N-80°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・甕、鉄滓を検出した。

第206号土坑 (第386図)

西区一面のH-20グリッドに位置する。東側には第274号溝跡とH-20 P1が重複する。平面形は長方形である。規模は長径208cm、短径91cm、深さ5.3~9.1cmと浅い。長軸方向は、N-83°-Eである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第207号土坑 (第386図)

西区一面のF-20グリッドに位置する。平面形は長方形である。規模は長径172cm、短径115cm、深さ56cmである。長軸方向は、N-6°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・南比企産の須恵器甕の口縁部破片、灰釉陶器長頸瓶の破片を検出した。

第208号土坑 (第386図)

西区一面のH-21グリッドに位置する。平面形はほぼ円形である。規模は長径105cm、短径81cm、深さ15.5cmである。長軸方向は、N-89°-Eである。

出土遺物は、土師器の北武蔵型環の破片を検出した。環は器内やや厚く重量感をもつ。口縁部ヨコナテ、体部外面は指頭による調整、底部は丸底でヘラケズリを施す。

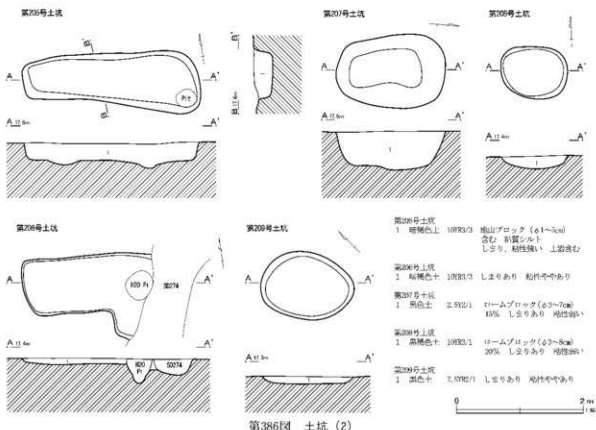
第209号土坑 (第386図)

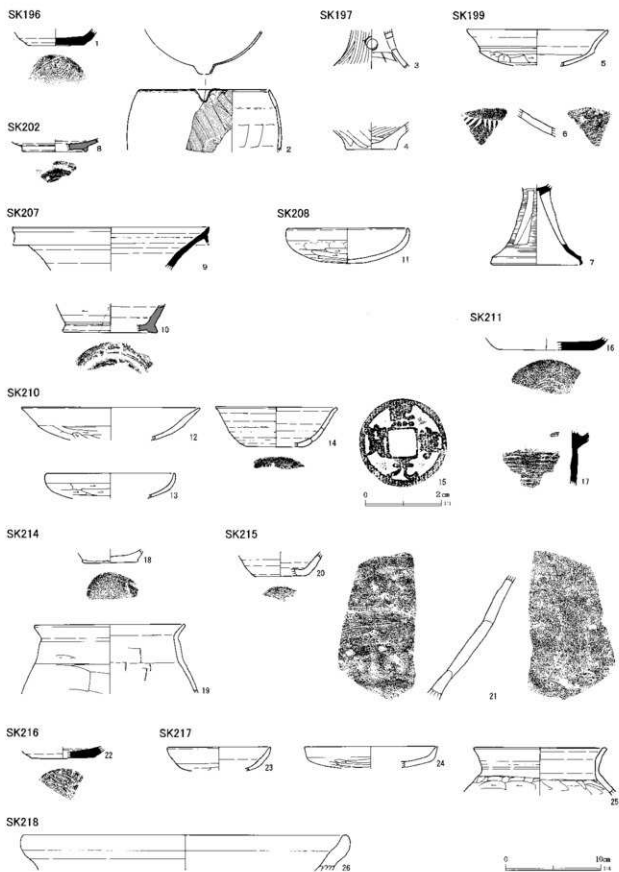
西区一面のH-23グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径145cm、短径105cm、深さ11.3cmである。長軸方向は、N-38°-Eである。

出土遺物は、灰釉陶器壺、内黒土器、須恵器高台付壺の破片、少量の鉄滓を検出した。

第210号土坑 (第388図)

西区一面のF-22グリッドに位置する。西側には第212号土坑が位置し、東側には第211号土坑が接して切り込んでいる。平面形は方形で、規模は長径217cm、短径214cm、深さ114.9cmである。長軸方向は、





第387団 土坑出土遺物 (1)

N-85°-Wである。

出土遺物は、土師器環・皿、須恵器環・埴・甕の破片を検出した。

第211号土坑 (第388図)

西区一面のF-22グリッドに位置する。西側は第210号土坑と接する。東側は溝跡を挟んで第326号土坑が位置する。平面形はほぼ方形である。規模は長径307cm、短径252cm、深さ94.7cmである。長軸方向は、N-86°-Eである。ほぼ第210号土坑と規模や方向が同じである。

出土遺物は、底径10cmのやや大型の須恵器環・蓋・甕の鈔部分の破片を検出した。

第212号土坑 (第388図)

西区一面のF-22グリッドに位置する。第210号土坑を切り込んで本土坑は掘り込まれている。平面形は長方形で、規模は長径262cm、短径145cm、深さ104.2cmである。長軸方向は、N-87°-Wである。

出土遺物は、常滑の甕の破片を検出した。

第213号土坑 (第388図)

西区一面のE-21グリッドに位置する。平面形は不整楕円形である。規模は長径91cm、短径51cm、深さ25cmである。長軸方向は、N-82°-Wである。

出土遺物は、在地産のすり鉢の破片を検出した。

第214号土坑 (第388図)

西区一面のH-25グリッドに位置し、西区第一遺構面の南東にあたる。平面形は円形である。規模は長径262cm、短径240cm、深さ19.5cmである。長軸方向は、N-85°-Wである。

出土遺物は、酸化焙焼成の須恵器環、土師器「コ」の字状口縁甕の破片を検出した。

第215号土坑 (第388図)

西区一面のF-20・21グリッドに位置する。西側には第28号掘立柱建物跡、東側には第2・4号溝跡が位置する。本遺構の南側には第9号火葬土坑が重複し切り込んでいる。平面形は南北方向にやや長い方形である。規模は長径271cm、短径210cm、深さ113cmである。底面は中央部分が一段低く窪んでいる。

覆土は確認面から80cmほどまで青灰色粘土ブロックを多く含む黄褐色土層で、底面の窪んだ部分には砂が多く堆積していた。長軸方向は、N-13°-Eである。

出土遺物は、常滑の甕の破片を検出した。また、混入遺物と考えられる酸化焙焼成の土師器環、甕、灰釉陶器埴の破片を検出した。

第216号土坑 (第389図)

西区一面のF-22・E-23グリッドに位置する。平面形は楕円形である。規模は長径88cm、短径67cm、深さ6.4cmである。長軸方向は、N-15°-Wである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第217号土坑 (第389図)

西区一面のE-22・23グリッドに位置し、第216号土坑の南西にあたる。平面形は楕円形である。規模は長径79cm、短径42cm、深さ6.1cmである。長軸方向は、N-23°-Eである。

出土遺物は、土師器環・皿・甕の破片を検出した。第387図23は、口縁部ヨコナデされ体部未調整、底部外面にヘラケズリを施した平底気味の土師器環である。24は土師器皿である。口縁部は短く上方にやや外反気味に立ち上がり、底部平底気味である。器肉やや厚い。25は土師器小型甕または小型台付甕の口縁部と見られる。

第218号土坑 (第389図)

西区一面のD-21グリッドに位置する。西側は調査区域外に伸びる。平面形は長方形である。規模は長径186cm、短径142cm、深さ138.9cmである。覆土の堆積は人為的に埋め戻されたと考えられる。長軸方向は、N-83°-Wである。

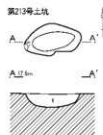
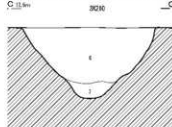
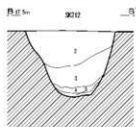
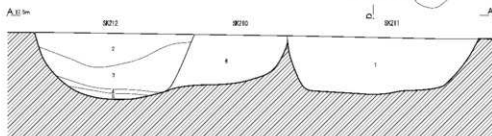
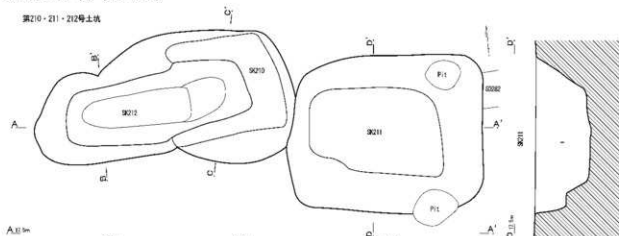
出土遺物は、土師器・須恵器甕の破片、在地産の鉢を検出した。

第219号土坑 (第389図)

西区一面のF-26グリッドに位置する。西区第一遺構面の調査区南端にあたる。平面形は円形で、規模は長径132cm、短径127cm、深さ16.7cmである。長軸方向は、N-10°-Eである。

SK 西区 1 面 (3) (210~215)

第210・211・212号土坑



第211号土坑
1 黄褐色土 10002/1

ロームブロック (6.5~10m)30%
しまりあり
粘性ややあり

第212号土坑
2 黄粘土 7.5102/1

ロームブロック (6)~(8m)10%
しまり、粘性ややあり

3 灰色・黄褐色土 10003/1

ロームブロック層
しまり、粘性ややあり

4 緑灰色土 30/1

ベクター 土の粘質土層
しまり強い、粘性強い

5 緑灰色土 7.5073/1

黄灰色粘質土層
しまりややあり
粘性強い

第210号土坑
6 黄灰色土 30/1

ロームブロック (6.5~15m)10%
しまり、粘性あり

7 緑灰色土 7.5073/1

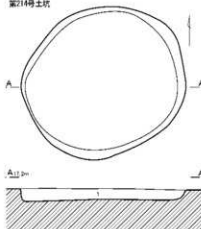
黄灰色粘質土層
しまりややあり
粘性強い

第213号土坑
1 灰黄褐色土 10002/2

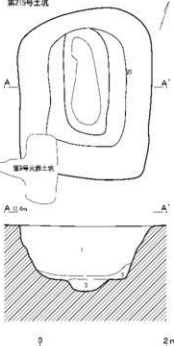
灰白色粘土粒・粘土
粘土少量
しまり、粘性あり

第214号土坑
1 黄褐色・マンガン・黒山
ローム粘土少量 コーム
ブロック(6.5~10m)多量
しまり、粘性あり

第214号土坑



第215号土坑



第215号土坑

1 灰黄褐色土 10002/2

黄灰色粘土層山ブロック
多量 埋戻し、下部は、
粘土ブロック層
しまりややあり
粘性強い

2 オリーブ灰色土 2.5073/1

灰色粘土ブロック
存在 しまりあり
粘性強い

3 緑灰色土 7.5073/1

砂多量、しまりなし
粘土あり

第388図 土坑 (3)

0 2m

出土遺物は、須恵器環・埴の破片を検出した。

第220号土坑 (第389図)

西区一面のF-23グリッドにあたり、周囲には第221・222号土坑などが位置する。平面形は円形で、規模は長径142cm、短径93cm、深さ9.9cmである。長軸方向は、N-15°-Wである。

出土遺物は、須恵器環・埴の破片を検出した。

第221号土坑 (第389図)

西区一面のF-23グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径108cm、短径96cm、深さ5.2cmである。長軸方向は、N-45°-Wである。

出土遺物は、土師器模倣環、須恵器埴の破片を検出した。

第222号土坑 (第389図)

西区一面のF-23グリッドに位置する。本土坑西側は第30号掘立柱建物跡と重複する。平面形は楕円形で、規模は長径148cm、短径94cm、深さ25.3cmである。長軸方向は、N-75°-Eである。

出土遺物は、土師器北武藏型環の破片を検出した。須恵器環は口径14.0cmとやや大振りの南比企産である。

第223号土坑 (第389図)

西区一面のE-23グリッドに位置する。平面形は東西方向に長い長方形である。規模は長径300cm、短径91cm、深さ14.7cmである。長軸方向は、N-88°-Eである。

出土遺物は、須恵器環、灰釉陶器皿の破片を検出した。

第224号土坑 (第389図)

西区一面のE-23グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径87cm、短径85cm、深さ36.9cmである。長軸方向は、N-85°-Wである。

出土遺物は、須恵器高台付埴、土師器埴の破片を検出した。

第225号土坑 (第389図)

西区一面のE-24グリッドに位置し、第29号掘立柱建物跡の南西端にあたる。平面形は楕円形で、規

模は長径109cm、短径36cm、深さ15.4cmである。長軸方向は、N-50°-Wである。

出土遺物は、須恵器環、破片を検出した。

第226号土坑 (第391図)

東区のK-18グリッドに位置する。北側の第227号土坑と重複する。平面形は長方形で、規模は長径231cm、短径90cm、深さ28.7cmである。長軸方向は、N-42°-Eである。

出土遺物は、須恵器高台付埴の破片を検出した。

第227号土坑 (第391図)

東区のK-18グリッドに位置する。南側で第226号土坑と重複する。平面形は長方形で、規模は長径139cm、短径79cm、深さ37.2cmである。長軸方向は、N-47°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・埴の破片を検出した。図示した第390図3の須恵器環の底部外面には判読できないが墨書が見られる。

第228号土坑 (第391図)

東区のM-18グリッドに位置する。本土坑は第288・289・290号溝跡を切って造られている。平面形は方形径138cm、短径126cm、深さ10.8cmである。長軸方向は、N-3°-Eである。

出土遺物は、南比企産の須恵器環・蓋を検出した。

第229号土坑 (第391図)

東区のK-18グリッドに位置する。第75号住居跡、第33号掘立柱建物跡を切って造られている。平面形は円形で、規模は長径100cm、短径93cm、深さ40.6cmである。長軸方向は、N-0°である。

出土遺物は、須恵器環の破片を少量検出した。

第230号土坑 (第391図)

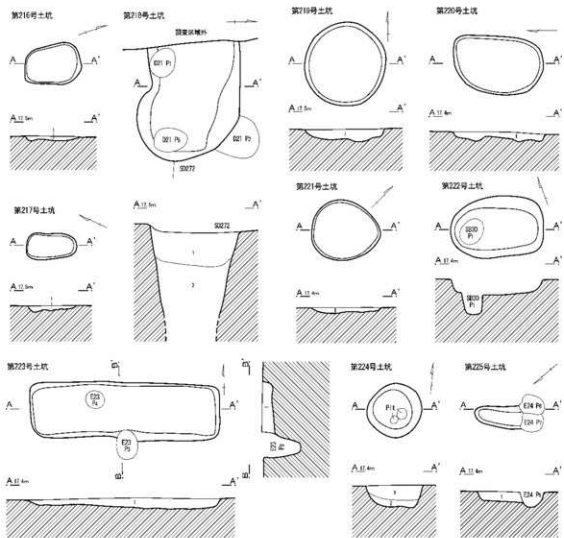
東区のL-18グリッドに位置する。本土坑は東側で第231号土坑と重複する。平面形は円形で、規模は長径70cm、短径63cm、深さ12cmである。長軸方向は、N-1°-Wである。

出土遺物は、土師器埴の破片を少量検出した。

第231号土坑 (第391図)

東区のL-18グリッドに位置する。西側に検出し

SK 西区 1 面 (4) (216~225)



- 第216号土坑
1 明礬褐色土 10182/6 しまりややあり 粘りややあり
- 第217号土坑
1 黄灰色土 2, 3, 4, 7 しまりややあり 粘りややあり
- 第218号土坑
1 灰褐色土 10184/2 1 ぶい黄土上との境上層 硬灰土
しまり強い 粘りあり
2 灰土 95/1 緑灰色土との境土層 硬灰土
しまりあり 粘り強い
- 第219号土坑
1 灰褐色土 95/1 しまり、粘りあり 粘灰土
- 第220号土坑
1 黄褐色土 10182/1 ロームブロック(41~5cm)1%
しまり、粘りあり

- 第221号土坑
1 黄褐色土 10182/1 しまり、粘りあり
- 第222号土坑
1 黄褐色土 7, 3, 9, 1/1 しまり、粘りあり
- 第224号土坑
1 黄褐色土 10182/2 しまりあり 粘りややあり
2 黄褐色土 10182/1 ロームブロック(41~5cm)3%
しまり、粘りあり
- 第225号土坑
1 灰褐色土 10184/2 しまりあり 粘りややあり



第389団 土坑 (4)

第230号土坑に切られている。平面形は円形で、規模は長径127cm、短径109cm、深さ28.9cmである。長軸方向は、N-60°-Eである。

出土遺物は、須臾器、土師器の破片を少量検出した。

第232号土坑 (第391団)

東区のM-18グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径67cm、短径58cm、深さ13.8cmである。長軸方向は、N-60°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

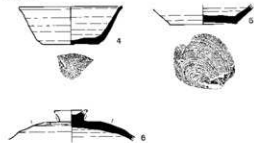
SK222



SK226·227



SK228



SK252



SK273



SK274



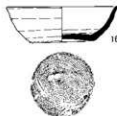
SK276



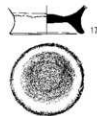
SK278



SK280



SK281



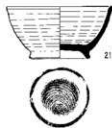
SK285



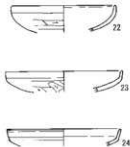
SK288



SK301



SK309



SK298



第390图 土坑出土遺物(2)

第233号土坑（第391図）

東区のL-18グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径61cm、短径58cm、深さ9.6cmである。長軸方向は、N-1°-Wである。

出土遺物は、土師器の北武蔵型環を検出した。

第234号土坑（第391図）

東区のL-18グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径90cm、短径78cm、深さ51.4cmである。長軸方向は、N-55°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第235号土坑（第391図）

東区のM-17・18グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径94cm、短径84cm、深さ38cmである。長軸方向は、N-1°-Wである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第236号土坑（第391図）

東区のK・L-19グリッドに位置する。本土坑の東側に第185号溝跡を検出した。平面形は円形で、規模は長径112cm、短径67cm、深さ33.4cmである。長軸方向は、N-48°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第237号土坑（第391図）

東区のK-19グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径82cm、短径79cm、深さ18.3cmである。長軸方向は、N-45°-Wである。

出土遺物は、土師器製の破片を少量検出した。

第238号土坑（第392図）

東区のK-19グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径141cm、短径30-69cm、深さ7.8cmである。長軸方向は、N-53°-Wである。

出土遺物は、土師器製の破片を少量検出した。

第239号土坑（第392図）

東区のK-19グリッドに位置する。本土坑の西側には第296号溝跡が切り込んでいる。平面形は円形で、規模は長径139cm、短径109cm、深さ18.1cmである。長軸方向は、N-0°である。

出土遺物は、検出できなかった。

第240号土坑（第392図）

東区のL-17グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径82cm、短径75cm、深さ66.5cmである。長軸方向は、N-1°-Wである。

出土遺物は、須恵器環・蓋の破片を少量検出した。

第241号土坑（第392図）

東区のM-18・19グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径108cm、短径97cm、深さ8.7cmである。長軸方向は、N-66°-Eである。

出土遺物は、土師器製の破片を少量検出した。

第242号土坑（第392図）

東区のL-17グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径67cm、短径64cm、深さ49.5cmである。長軸方向は、N-1°-Wである。

出土遺物は、常滑製の破片を検出した。

第243号土坑（第392図）

東区のJ-19グリッドに位置する。本土坑は西側の第130号溝跡を切り込んで造られている。平面形は円形で、規模は長径82cm、短径58cm、深さ115.5cmである。長軸方向は、N-1°-Wである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第244号土坑 欠番

第245号土坑（第392図）

東区のJ-19グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径79cm、短径69cm、深さ13.4cmである。長軸方向は、N-1°-Wである。

出土遺物は、土師器「コ」の字状口縁製の破片を検出した。

第246号土坑（第392図）

東区のK-19グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径67cm、短径30cm、深さ63.3cmである。長軸方向は、N-48°-Eである。柱穴の可能性が考えられる。

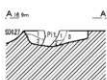
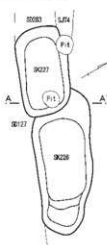
出土遺物は、土師器製の破片を少量検出した。

第247号土坑（第392図）

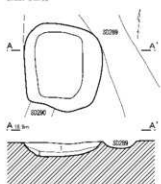
東区のK-18グリッドに位置する。第255号土坑と重複し本土坑が切り込んでいる。平面形は円形で、

東区 SK (1) (226~237)

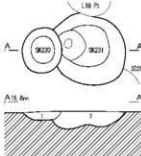
第226号土坑



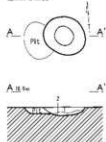
第228号土坑



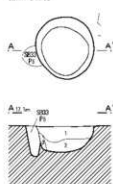
第230号土坑



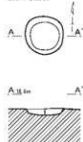
第232号土坑



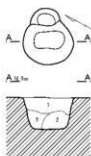
第229号土坑



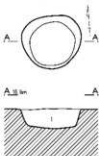
第233号土坑



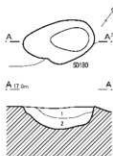
第234号土坑



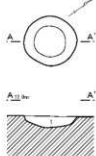
第235号土坑



第236号土坑



第237号土坑



第227号土坑

- 1 黒色土
- 2 黒色土
- 3 赤褐色土

- 012/1 地山黄灰色土ブロック少量
- 012/1 地山黄灰色粘土多量 埋め戻し
- 012/1 黄褐色土ブロック多量 埋め戻し

第228号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土

- 014/1 灰化層・黒色土ブロック少量
- 014/1 黒色土ブロック少量

第229号土坑

- 1 黄褐色土

- 1010/1 黄褐色土ブロック状に含む 炭化腐敗種子多量

2 灰褐色土

- 1010/4 有機物・灰化跡多量 しまりなし 埋め戻し
- 7.015/2 地山(黄灰色土)ブロック状に多量 しまり・粘性あり

第230号土坑

- 1 灰褐色土

- 011/1 鉄分多量 粘性強

第231号土坑

- 2 灰オリーブ色土

- 014/2 鉄分少量 マンガン多量 粘性強

第232号土坑

- 1 橙オリーブ褐色土
- 2 黄褐色土

- 2.012/3 1層下面に灰化跡含む 腐敗種子少量
- 2.016/3 黄褐色土ブロック含む

第233号土坑

- 1 オリーブ黒色土

- 012/1 黄灰色土ブロック少量

第234号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 オリーブ黒色土
- 3 オリーブ黒色土

- 014/1 黄褐色土ブロック多量
- 013/1 埋戻し
- 013/1 黒色土ブロック多量

第235号土坑

- 1 黒色土

- 2.012/1 黒色土ブロック・黄褐色土ブロック多量

第236号土坑

- 1 黄褐色土
- 2 黄褐色土

- 1010/1 ロームブロック(φ5~10cm)20% しまり・粘性あり
- 1010/1 しまり強、粘性強

第237号土坑

- 1 黄褐色土

- 1010/1 しまりあり 粘性中であり



第391図 土坑 (5)

規模は長径58cm、短径54cm、深さ21.6cmである。長軸方向は、N-1°-Wである。柱穴の可能性が考えられる。

出土遺物は、須恵器甕・高台付埴の破片を検出した。

第248号土坑 欠番

第249号土坑 (第392図)

東区のK-18グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径99cm、短径87cm、深さ77.6cmである。長軸方向は、N-65°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第250号土坑 (第393図)

東区のJ-19グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径55cm、短径51cm、深さ7.4cmと非常に浅い。長軸方向は、N-5°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第251号土坑 (第393図)

東区のI-19グリッドに位置する。東側には第252号土坑が存在する。平面形は円形で、規模は長径90cm、短径84cm、深さ7.8cmと非常に浅い。長軸方向は、N-49°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第252号土坑 (第393図)

東区のI-19グリッドに位置する。第251号土坑の西側に近接して検出された。平面形は円形で、規模は長径70cm、短径60cm、深さ16.3cmである。長軸方向は、N-51°-Eである。

出土遺物は、灰釉陶器長頸壺の破片を検出した。

第253号土坑 (第393図)

東区のK-18グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径64cm、短径58cm、深さ18cmである。長軸方向は、N-50°-Wである。

出土遺物は、土師器・須恵器甕の破片を検出した。

第254号土坑 (第393図)

東区のI-18グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径72cm、短径67cm、深さ14.3cmである。長軸方向は、N-12°-Eである。

出土遺物は、土師器甕、須恵器環の破片を検出した。

第255号土坑 (第392図)

東区のK-18グリッドに位置する。第247号土坑と重複する。平面形は楕円形で、規模は長径169cm、短径139cm、深さ26.5cmである。長軸方向は、N-35°-Eである。

出土遺物は、土師器「コ」の字状口縁甕の破片を検出した。

第256号土坑 (第393図)

東区のK-19グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径124cm、短径82cm、深さ11.2cmである。長軸方向は、N-81°-Wである。

出土遺物は、土師器北武蔵型環の破片を検出した。

第257号土坑 (第393図)

東区のK-18グリッドに位置する。北側には近接して第258号土坑が存在する。平面形は卵形で、規模は長径187cm、短径135cm、深さ18.8cmと非常に浅い。長軸方向は、N-32°-Eである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第258号土坑 (第393図)

東区のK-18グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径58cm、短径52cm、深さ12.6cmで浅い。長軸方向は、N-85°-Eである。

出土遺物は、土師器「コ」の字状口縁甕の破片を検出した。

第259号土坑 欠番

第260号土坑 (第393図)

東区のL-19グリッドに位置する。平面形は長方形で両端には柱穴が重複する。規模は長径135cm、短径61cm、深さ5.6cmで非常に浅い。長軸方向は、N-53°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

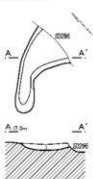
第261号土坑 欠番

第262号土坑 (第393図)

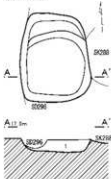
東区のJ-20グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径139cm、短径123cm、深さ26.2cmであ

東区 SK (2) (238~243・245~247・249・255)

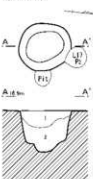
第238号土坑



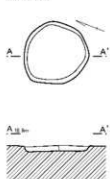
第239号土坑



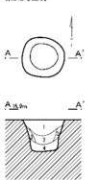
第240号土坑



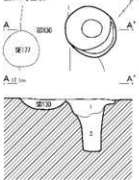
第241号土坑



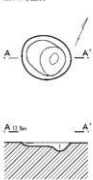
第242号土坑



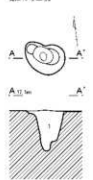
第243号土坑



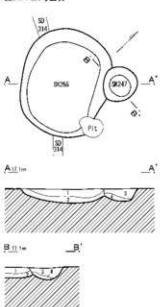
第245号土坑



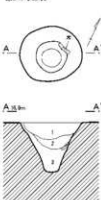
第246号土坑



第247・255号土坑



第249号土坑



第249号土坑

- 1 灰褐色土 2.374/1
- 2 灰褐色土 2.371/1

第251号土坑

- 1 灰褐色土 10125/2 灰褐色土粘り多量 しまり強い、粘性なし

第260号土坑

- 1 黒褐色土 10192/2 黒褐色土粘り多量 しまり強い、粘性なし
- 2 黒褐色土 10194/1 黒褐色土粘り少量 しまり、粘性あり
- 3 灰色土 10194/4 灰褐色土ブロック粘り多量 しまり強い、粘性なし

第260号土坑

- 4 灰褐色土 1.3094/1 有灰褐色粘り多量 しまり、粘性強い

第263号土坑

- 1 黒褐色土 3793/1 灰化層(φ=10cm)1% しまりあり 粘性ややあり
- 2 黒褐色土 375/1 しまり強い、粘性強い

第268号土坑

- 1 黒褐色土 7.2032/1 しまりあり 粘りややあり

第268号土坑

- 1 灰褐色土 3022/1 灰土砂子(φ=10cm)1% しまりあり 粘りややあり

第269号土坑

- 1 灰褐色土 10194/2 灰褐色土粘り少量 しまり強い、粘性あり
- 2 褐色土 10194/1 灰褐色土粘り少量 しまり強い、粘性あり
- 3 灰褐色土 10194/2 灰褐色土粘り少量 しまり強い、粘性あり

第269号土坑

- 4 灰褐色土 10194/2 灰褐色土粘り少量 しまり強い、粘性あり

第249号土坑

- 1 灰褐色土 7.0272/1 灰褐色土粘り多量 しまりあり 粘性強い
- 2 灰褐色土 7.0272/1 灰褐色土粘り少量 しまり強い、粘性強い
- 3 灰褐色土 75/0 灰褐色土粘り少量 しまりあり、粘性強い

第238号土坑

- 1 オリーブ褐色土 775/0 黒褐色土粘り多量 灰土粘り少量

第239号土坑

- 1 灰色土 10125/2 しまりややあり 粘性なし



第392図 土坑 (6)

る。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第263号土坑 欠番

第264号土坑 (第393図)

東区のK-18・19グリッドに位置する。重複する遺構は、第313号溝跡が本土坑の中央部を東西方向に走る。平面形は円形で、規模は長径70cm、短径45cm、深さ16.4cmである。長軸方向は、N-12°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第265号土坑 (第393図)

東区のJ-17グリッドに位置する。東区の北端に位置するため、北側部分は調査区域外に伸びる。このため南側半分を検出した。平面形は円形と見られる。規模は長径91cm、短径55cm、深さ14.2cmである。長軸方向は、N-52°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第266号土坑 (第393図)

東区のJ-18グリッドに位置する。本遺構は第267号土坑を切り込み重複する。平面形は楕円形で、規模は長径148cm、短径114cm、深さ23.6cmである。長軸方向は、N-38°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第267号土坑 (第393図)

東区のJ-18グリッドに位置する。本遺構は第266号土坑に切り込まれ重複する。平面形は方形で、規模は長径136cm、短径67cm、深さ25.4cmである。長軸方向は、N-38°-Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第268号土坑 (第394図)

東区のK-18グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径75cm、短径69cm、深さ34.9cmである。長軸方向は、N-37°-Wである。

出土遺物は、須恵器環の破片を少量検出した。

第269号土坑 (第394図)

東区のL-18グリッドに位置する。平面形は不整形長方形で、規模は長径174cm、短径37cm、深さ4.4-

5.8cmである。長軸方向は、N-15°-Wである。

出土遺物は、須恵器環・甕の破片を検出した。

第270号土坑 (第394図)

東区のL-18グリッドに位置する。西側を第180号溝跡が切り込み重複する。平面形は隅丸長方形で、規模は長径120cm、短径55cm、深さ8.8cmである。長軸方向は、N-7°-Wである。

出土遺物は、土師器・須恵器甕の破片を検出した。

第271号土坑 (第394図)

東区のJ-18グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径111cm、短径100cm、深さ10.4cmである。長軸方向は、N-44°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第272号土坑 (第394図)

東区のJ-18グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径87cm、短径66cm、深さ16cmである。長軸方向は、N-51°-Eである。

出土遺物は、土師器環・須恵器環の破片を検出した。

第273号土坑 (第394図)

東区のJ-18グリッドに位置する。本土坑は北西から南東方向に走る第130号溝跡を切り込んで重複する。平面形は円形で、規模は長径72cm、短径63cm、深さ21.1cmである。長軸方向は、N-57°-Eである。

出土遺物は、土師器高環・環の破片を検出した。

第274号土坑 (第394図)

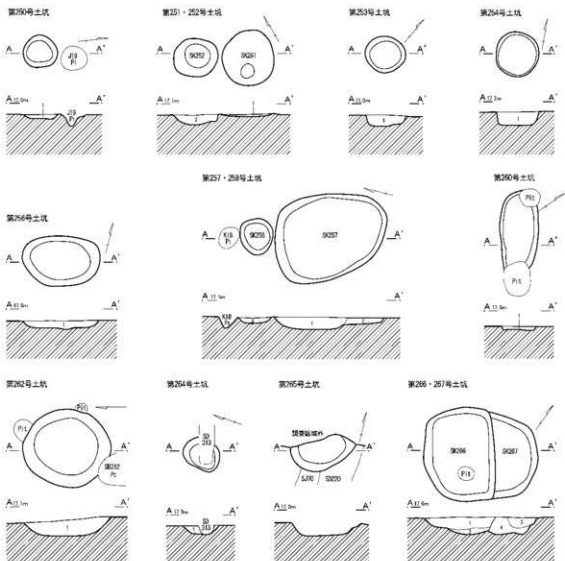
東区のK-19グリッドに位置する。本土坑は北西から南東方向に走る第130号溝跡を切り込み東端では第32号掘立柱建物跡の柱穴と重複する。平面形は円形で、規模は長径102cm、短径82cm、深さ13.1cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、土師器「コ」の字状口縁甕の破片を検出した。

第275号土坑 (第394図)

東区のI-18グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径58cm、短径46cm、深さ14.4cmである。

東区 SK (3) (250~258・260・262・264~267)



第250号土坑 1 灰褐色土	10YR4/1	しまりあり 粘性ややあり	第259号土坑 1 オリーブ褐色土	2.5Y4/6	炭化物少量 黄褐色土ブロック多量
第251号土坑 1 黄褐色土 第252号土坑 2 黄褐色土	10YR3/2	黄褐色土70%土粒子・暗褐色土粒子多量	第262号土坑 1 灰褐色土	2.5YR/2	黒土粒子(0.3~1mm)1% しまりあり 粘性ややあり
第253号土坑 1 黄褐色土	10YR3/2	しまりあり 粘性ややあり	第264号土坑 1 灰色・黄褐色土	10YR4/3	黄褐色土粒子多量 しまり強い 粘性弱い
第254号土坑 1 黄土	7.5YR1.7/1	ロームブロック(φ5~10cm)3% しまりあり 粘性ややあり	第265号土坑 1 黄褐色土 2 灰ブルー褐色土 3 黄褐色土	10YR4/2 2.5YR/2 10YR6/6	黄褐色土粒子多量 しまり、粘性強い 炭化物多量 黄褐色土粒子含有 しまりあり 粘性強い
第255号土坑 1 灰黄褐色土	10YR4/2	粘土粒子含む しまり強い 粘性あり	第267号土坑 1 灰黄褐色土 2 黄褐色土 3 灰黄褐色土	10YR4/2 2.5YR/1 10YR4/2	灰褐色土ブロック含む 炭化物粒了 多量 しまり強い 粘性強い 黄褐色土ブロック含む 炭化物粒了 多量 しまり強い 粘性あり
第256号土坑 1 灰黄褐色土 2 黄褐色土 3 灰黄褐色土	10YR4/2 2.5YR/1 10YR4/2	黄褐色土ブロック含む しまり強い 粘性あり	第268号土坑 1 灰黄褐色土 2 黄褐色土 3 灰黄褐色土	10YR4/2 2.5YR/1 10YR4/2	黄褐色土ブロック含む しまり強い 粘性あり



第393図 土坑 (7)

長軸方向は、N-1°-Wである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第276号土坑 (第394図)

東区のK-20グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は長径150cm、短径99cm、深さ22.4cmである。長軸方向は、N-78°-Eである。

出土遺物は、土師器環、須恵器環・甕・壺の破片を検出した。

第277号土坑 (第394図)

東区のK-20グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径126cm、短径84cm、深さ16.5cmである。長軸方向は、N-79°-Wである。

出土遺物は、須恵器環・甕の破片を検出した。

第278号土坑 (第394図)

東区のK-20グリッドに位置する。西側は第327号溝跡によって切られている。平面形は楕円形で、規模は長径81cm、短径79cm、深さ9.5cmである。長軸方向は、N-78°-Wである。

出土遺物は、土師器環、須恵器環の破片を検出した。第390図15の須恵器環は底部外面が回転ヘラケズリ、中央部の一部に糸切りを残す。

第279号土坑 (第394図)

東区のK-20グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径127cm、短径109cm、深さ14.7cmである。長軸方向は、N-75°-Wである。

出土遺物は、土師器「コ」の字状口縁甕・環、須恵器環・甕の破片を検出した。

第280号土坑 (第394図)

東区のK-20グリッドに位置し、西側に第130号溝跡が隣接する。平面形は円形で、規模は長径64cm、短径57cm、深さ4.5cmである。長軸方向は、N-30°-Eである。

出土遺物は、南比企産の須恵器環を検出した。

第281号土坑 (第395図)

東区のL-20グリッドに位置する。西側のピットを切り込んで本土坑は造られる。平面形は楕円形で、規模は長径162cm、短径69cm、深さ12cmである。長軸

方向は、N-78°-Eである。

出土遺物は、在地産の須恵器高台付埴・環を検出した。

第282号土坑 (第395図)

東区のJ-20グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径100cm、短径69cm、深さ10.7cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、須恵器環、土師器甕の破片を検出した。

第283号土坑 (第395図)

東区のI-18グリッドに位置し、南西側の第303号溝跡を切り込んでいる。平面形は円形で、規模は長径99cm、短径78cm、深さ5.4cmである。長軸方向は、N-20°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第286号土坑 欠番

第287号土坑 (第395図)

東区のK-19グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径82cm、短径79cm、深さ28.1cmである。長軸方向は、N-81°-Eである。

出土遺物は、須恵器高台付埴の破片を検出した。

第288号土坑 (第395図)

東区のK-19グリッドに位置し、西側の第239号土坑を切る。平面形は楕円形で、規模は長径121cm、短径100cm、深さ8.1cmである。長軸方向は、N-5°-Eである。

出土遺物は、群馬産須恵器蓋の破片を検出した。

第289号土坑 (第395図)

東区のL-20グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径82cm、短径37cm、深さ14.8cmである。長軸方向は、N-57°-Eである。

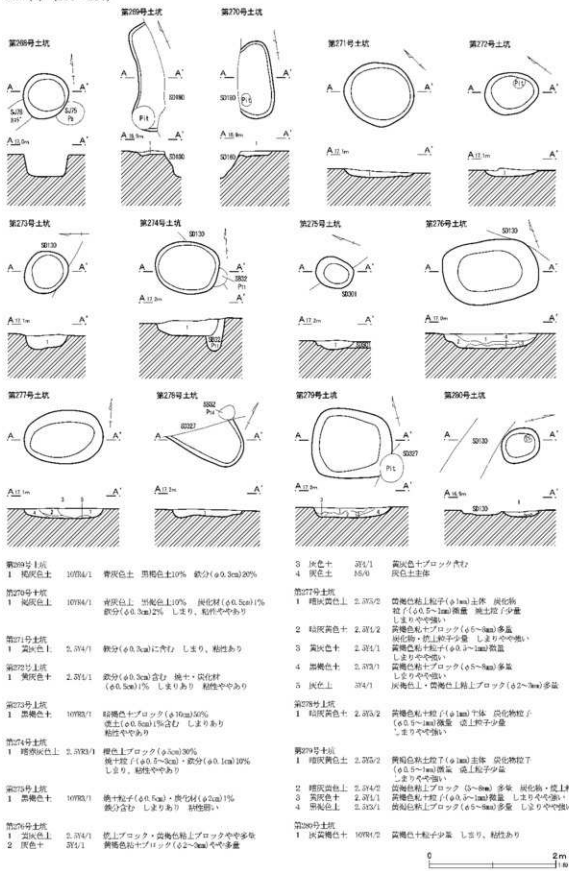
出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第290号土坑 (第395図)

東区のK-21グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は長径124cm、短径75cm、深さ8.4cmである。長軸方向は、N-54°-Wである。

出土遺物は、須恵器環・高台付埴破片を検出した。

東区 SK (4) (268~280)



第394回 土坑 (8)

第291号土坑 (第395図)

東区のI-20グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径183cm、短径57・66cm、深さ75cmである。長軸方向は、N-10°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第292号土坑 (第395図)

東区のI-21グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径120cm、短径73cm、深さ61.7cmである。長軸方向は、N-10°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第293号土坑 (第395図)

東区のK-20・21グリッドに位置する。東西方向に伸びる第337号溝跡と北方向に伸びる第339号溝跡を切り込んで本土坑は造られている。平面形は長方形で、規模は長径172cm、短径105cm、深さ22.1cmである。長軸方向は、N-77°-Wである。

出土遺物は、土師器環・甕、須恵器蓋の破片を検出した。

第294号土坑 欠番

第295号土坑 (第395図)

東区のJ-20グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径87cm、短径57cm、深さ24.1cmである。長軸方向は、N-6°-Wである。

出土遺物は、土師器北武蔵型環の破片を検出した。

第296号土坑 (第395図)

東区のK-19グリッドに位置する。南北方向に第296号溝跡が切り込む。平面形は楕円形で、規模は長径94cm、短径63cm、深さ26.2cmである。長軸方向は、N-10°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第297号土坑 (第395図)

東区のJ-22グリッドに位置する。西側には第5号円形周溝状遺構が隣接する。平面形は方形で、規模は長径186cm、短径141cm、深さ18cmである。長軸方向は、N-3°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第298号土坑 (第396図)

西区二面のE-27グリッドに位置する。西側調査区の南西端にあたる。本遺構は第7号方形周溝墓を切り込み、西側は調査区域外に伸びる。平面形は方形で、規模は長径123cm、短径84cm、深さ55cmである。長軸方向は、N-1°-Wである。

出土遺物は、末野産と見られる胎土の須恵器長頸壺の破片を検出した。

第299号土坑 (第396図)

西区二面のH-23グリッドに位置する。第317号土坑を切り込んでいる。平面形は方形で、規模は長径78cm、短径64cm、深さ17.2cmである。長軸方向は、N-84°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第300号土坑 (第396図)

西区二面のH-24グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径199cm、短径124cm、深さ13.2cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、土師器の北武蔵型環、須恵器甕の破片を検出した。

第301号土坑 (第396図)

西区二面のH-24グリッドに位置する。東側は攪乱を受けている。平面形は方形で、規模は長径115cm、短径165cm、深さ14.6cmである。長軸方向は、N-79°-Eである。

出土遺物は、第390図21は南比企産の須恵器高台付埴である。この他、須恵器環・壺の破片を検出した。

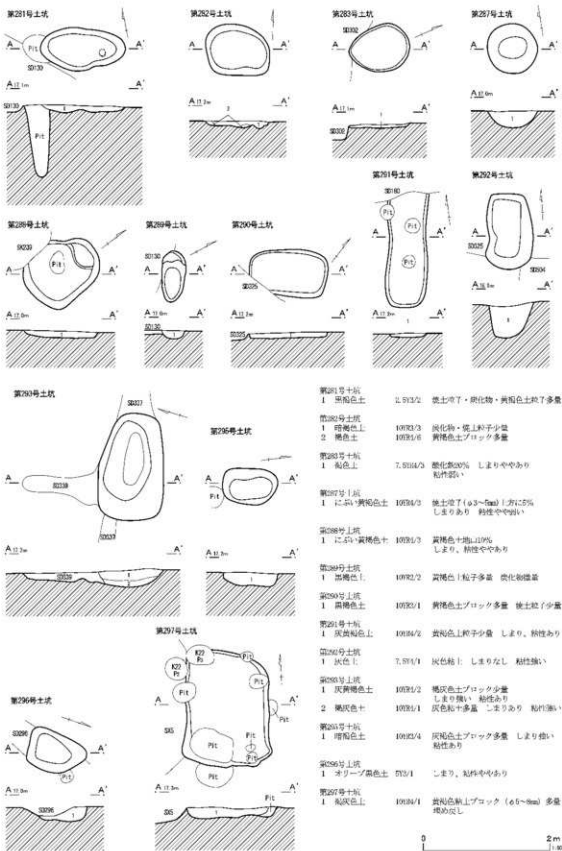
第302号土坑 (第396図)

西区二面のH-24グリッドに位置する。南側の一部に攪乱を受けている。平面形は長方形で、規模は長径169cm、短径112cm、深さ13.2cmである。長軸方向は、N-77°-Eである。

出土遺物は、須恵器環、土師器甕の破片を検出した。

第303号土坑 (第396図)

西区二面のI-24グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は長径102cm、短径15cm、深さ9.6cmである。長軸方向は、N-62°-Eである。



第395図 土坑 (9)

出土遺物は、検出できなかった。

第304号土坑 (第396図)

西区二面のI-24グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径214cm、短径55cm、深さ37.3cmである。長軸方向は、N-6°-Eである。

出土遺物は、土師器甕、須恵器高台付碗の破片を検出した。

第305号土坑 (第396図)

西区二面のH-24グリッドに位置する。北側半分が攪乱を受けている。平面形は円形と推定される。規模は長径117cm、短径3cm、深さ7.8cmである。長軸方向は、N-10°-Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第306号土坑 (第396図)

西区二面のH-25グリッドに位置する。西側の第345号溝跡を切り込んで造られている。平面形は円形で、規模は長径105cm、短径60cm、深さ8cmである。長軸方向は、N-79°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第307号土坑 (第396図)

西区二面のH-23グリッドに位置する。第372号溝跡を切り込んで造られている。平面形は円形で、規模は長径96cm、短径84cm、深さ30.8cmである。長軸方向は、N-43°-Wである。

出土遺物は、須恵器高台付碗、鉄滓を検出した。

第308号土坑 (第396図)

西区二面のI-26グリッドに位置する。南側を第316号溝跡に切られている。平面形は円形で、規模は長径82cm、短径76cm、深さ13.3cmである。長軸方向は、N-25°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第309号土坑 (第399図)

西区二面のH-25・26グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径322cm、短径225cm、深さ15.7cmである。底面は凹凸が見られる。長軸方向は、N-8°-Wである。覆土は、上層の中央部分に炭化物層が堆積し、下層には炭化物粒子・焼土粒子・焼土

ブロックが多量に混入している。

出土遺物は、土師器の北武蔵型環・皿・甕、須恵器蓋を検出した。第390図22~24は土師器環である。23・24は器高浅く、口縁部が短く上方に立ち上がる。25は須恵器蓋と見られる。つまみ部分を欠損する。ロクロ整形で天井部外面を回転ヘラケズりする。返りが口縁部よりも大きく突出する。須恵器環Gの蓋か蓋蓋か不明である。この他に鉄製品を検出した。

第310号土坑 (第399図)

西区二面のH-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径70cm、短径64cm、深さ9.2cmである。長軸方向は、N-25°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第311号土坑 (第399図)

西区二面のH-23グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径172cm、短径112cm、深さ109.8cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、須恵器環の破片、曲物を検出した。

第312号土坑 (第399図)

西区二面のH-23グリッドに位置する。第311号土坑の西側にあたり、同じような形態、規模である。いずれも第348号溝跡を切り込んで造られている。平面形は長方形で、規模は長径247cm、短径105cm、深さ104.5cmである。長軸方向は、N-83°-Wである。

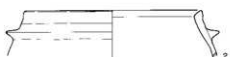
出土遺物は、須恵器環、羽釜を検出した。第397図2の羽釜は口縁部が内傾に立ち上がる。銚は短く、上方に貼り付いている。体部の調整は不明であるがロクロ整形で酸化焰焼成である。在地産と見られる。1は混入した末野産の須恵器環である。底部外面形は全面回転ヘラケズリを施している。

第313号土坑 (第398図)

西区二面のH-24グリッドに位置する。西側は攪乱を受け、東側は第189号井戸跡によって切られている。平面形は楕円形で、規模は長径205cm、短径135cm、深さ40.3cmである。長軸方向は、N-24°-Eである。

出土遺物は、土師器環・甕、須恵器環・蓋の破片を検出した。第397図3は器高深くやや大型の須恵

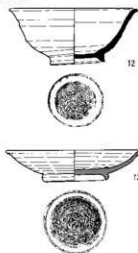
SK312



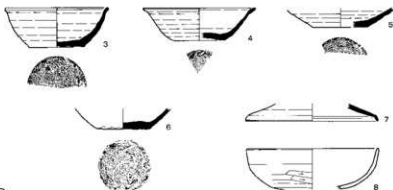
SK315



SK322



SK313



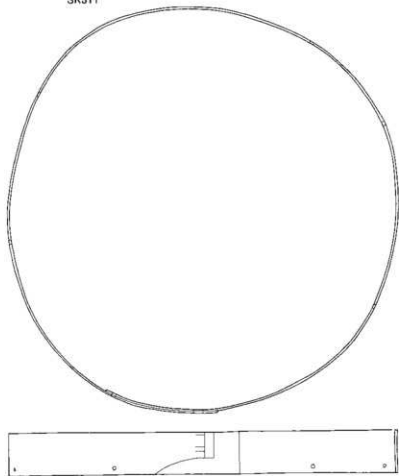
SK316



SK318

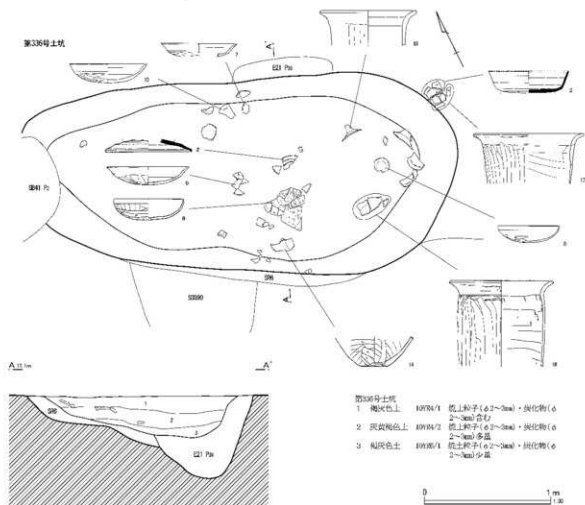
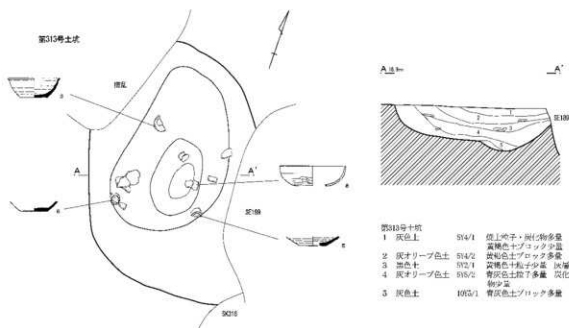


SK311



0 10cm

第397図 土坑出土遺物 (3)



第398図 土坑遺物出土状況 (1)

器環である。4・6は南比企産の須恵器環、5は南比企産の皿と見られる。7は蓋である。

第314号土坑（第399図）

西区二面のH-24グリッドに位置する。南西は擾乱を受ける。平面形は長方形で、規模は長径141cm、短径64cm、深さ7cmである。長軸方向は、N-87°-Eである。

出土遺物は、土師器環を検出した。

第315号土坑（第399図）

西区二面のH-24グリッドに位置する。南側は第189号井戸跡に切られている。平面形は長方形で、規模は長径232cm、短径147cm、深さ13cmである。長軸方向は、N-74°-Eである。

出土遺物は、土師器環、須恵器環を検出した。第397図9は南比企産の須恵器環で底部内面に「山ウ」の墨書が見られる。

第316号土坑（第399図）

西区二面のH-24グリッドに位置する。北側を第189号井戸跡に切られている。平面形は円形で、規模は長径115cm、短径94cm、深さ45.9cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、須恵器環・甕を検出した。

第317号土坑（第399図）

西区二面のH-23グリッドに位置する。本土坑は中央部分を東西方向に伸びる第348号溝跡に切り込まれている。平面形は長方形で、規模は長径330cm、短径210cm、深さ10.8cmである。長軸方向は、N-83°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・甕を検出した。

第318号土坑（第400図）

西区二面のH-25グリッドに位置する。第373号溝跡を切って造られている。平面形は円形で、規模は長径63cm、短径60cm、深さ12.7cmである。長軸方向は、N-1°-Wである。

出土遺物は、須恵器環は南比企産で、底部外面には外周回転ヘラケズリを施し中央部分にはやや粗い目の糸切りが見られる。

第319号土坑（第400図）

西区二面のH-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径70cm、短径45cm、深さ5.8cmである。長軸方向は、N-87°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第320号土坑（第400図）

西区二面のH-26グリッドに位置する。本土坑は南側の第362号溝跡を切り込む。平面形は円形で、規模は長径57cm、短径43cm、深さ18.2cmである。長軸方向は、N-81°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第321号土坑（第400図）

西区二面のH-26グリッドに位置する。第358号溝跡の上面に確認された。平面形は長方形で、規模は長径172cm、短径58cm、深さ13.3cmである。長軸方向は、N-88°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第323号土坑（第400図）

西区二面のE・F-19グリッドに位置する。重複関係は第5号方形周溝墓、第83号住居跡を切り込み、第286号溝跡に切られている。平面形は方形で、規模は長径102cm、短径90cm、深さ31.3cmである。長軸方向は、N-75°-Wである。

出土遺物は、須恵器環・甕の破片を検出した。

第324号土坑（第400図）

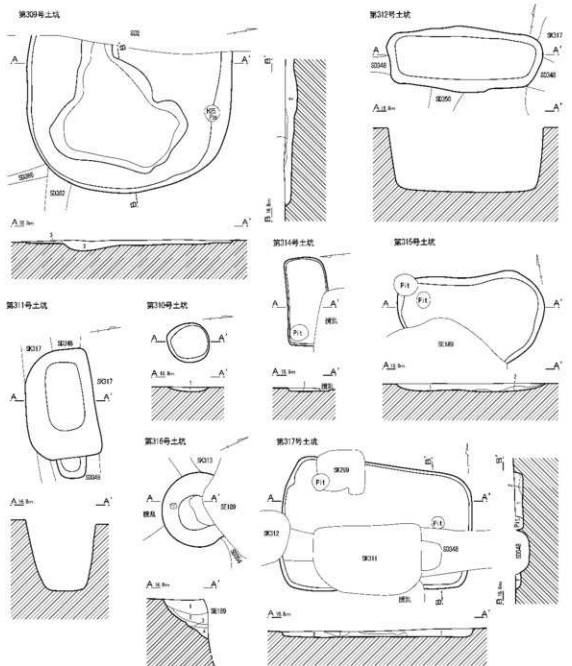
西区二面のE-19グリッドに位置する。第392号溝跡を切り込んで造られている。平面形は円形で、規模は長径91cm、短径85cm、深さ80.9cmである。長軸方向は、N-83°-Wである。

出土遺物は、土師器高環・甕を検出した。

第325号土坑（第400図）

西区二面のE-19グリッドに位置する。本土坑の東側には第325号溝跡が南北方向に切り込む。平面形は楕円形で、規模は長径162cm、短径106cm、深さ18cmである。長軸方向は、N-69°-Wである。

出土遺物は、土師器高環・甕を検出した。



- 第309号土坑
 1 黄粘土 1000/0 炭化物層 しまりなし 粘性なし
 2 黄褐色土 1000/0 炭化物粒子・炭化物ブロック・焼土粒子・焼土ブロック多量 しまりあり 粘性弱
 3 灰黄褐色土 1000/0 炭褐色土粒子・炭化物ブロック多量 焼土・炭化物含む しまり、粘性あり

- 第310号土坑
 1 黒褐色土 2.573/1 炭褐色土粒子多量

- 第311号土坑
 1 黄褐色土 1070/0 明黄褐色土(陶山) (φ1~2cm)10% しまりあり 粘性ややあり

- 第312号土坑
 1 黄褐色土 1070/0 赤色土粒 (φ0.5~1cm)2% しまり、粘性あり
 2 灰黄褐色土 1090/2 灰黄褐色土(焼土)50% しまり、粘性あり

- 第313号土坑
 1 灰土 54/0 緑灰色土15% しまり弱い 粘性強
 2 灰土 34/0 緑灰色土20% しまり弱、粘性強
 3 灰イロ〜ブ色土 306/2 しまりあり 粘性ややあり
 4 灰土 35/0 緑灰色土5% しまりなし 粘性強

- 第314号土坑
 1 黒褐色土 1090/0 炭化物多量 炭土粒子少量 焼土
 2 黄褐色土 2.500/0 黄褐色土ブロック多量 焼土

0 2m

第399図 土坑 (11)

第326号土坑 欠番

第327号土坑 (第400図)

西区二面のE-21グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径111cm、短径81cm、深さ50.7cmである。長軸方向は、N-79°-Eである。

出土遺物は、土師器の北武蔵型環・皿を検出した。

第328号土坑 (第400図)

西区二面のF-21グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径75cm、短径70cm、深さ22.5cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、検出できなかった。

第329号土坑 (第400図)

西区二面のG-19グリッドに位置する。第330号土坑を切り込んでいる。平面形は長方形で、規模は長径379cm、短径75cm、深さ15.7cmである。長軸方向は、N-62°-Eである。

出土遺物は、土師器を出土した。

第330号土坑 (第400図)

西区二面のG-19グリッドに位置する。第329号土坑に切られる。平面形は楕円形で、規模は長径138cm、短径78cm、深さ18cmである。長軸方向は、N-55°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第331号土坑 (第400図)

西区二面のH-19グリッドに位置する。北側には溝跡、東側は調査区域外である。平面形は円形と見られる。残存する規模は長径93cm、短径96cm、深さ10.3cmである。長軸方向は、N-1°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・高台付埴・甕を検出した。

第332号土坑 (第402図)

西区二面のG-19グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径57cm、短径55cm、深さ7.9cmである。長軸方向は、N-85°-Wである。

出土遺物は、土師器の破片を検出した。

第333号土坑 (第402図)

西区二面のG-19グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径94cm、短径45cm、深さ8.5cmで

ある。長軸方向は、N-18°-Eである。

出土遺物は、土師器の破片を少量検出した。

第334号土坑 (第402図)

西区二面のD-19グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径109cm、短径103cm、深さ5.8cmである。長軸方向は、N-78°-Wである。

出土遺物は、土師器の破片を2点検出した。

**第335号土坑 欠番 第6号方形周溝墓に変更
第336号土坑 (第398図)**

西区二面のE-21グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径342cm、短径166cm、深さ37.4cmである。長軸方向は、N-64°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・蓋・甕・土師器環・皿・甕を検出した。須恵器蓋は大型で第401図1は返りが付く。2は返りが無い。3・4は須恵器環である。底部やや丸味をもち全面回転ヘラケズリを施す。3は体部やや外傾に外反して立ち上がる。5・6は土師器北武蔵型環である。底部丸底気味で器高やや深い。口縁部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、体部に未調整部分を残す。11-13は土師器暗文環である。7・9・10は土師器皿である。16-18は土師器甕である。口縁部ヨコナデを施し、口唇部は面をもち断面角型をしている。胴部外面は縦方向のヘラケズリを施し、内面はヨコヘラナデを施す。14は土師器甕、15は口縁部が外傾に大きく開く鉢である。19は須恵器甕の破片で群馬産と見られる。

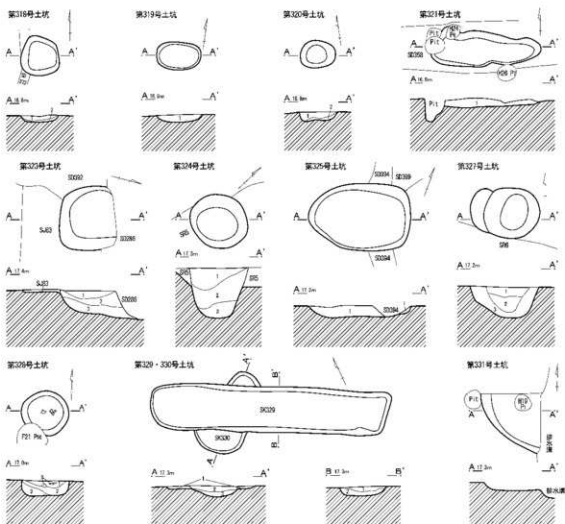
第337号土坑 (第402図)

西区二面のE-22グリッドに位置する。西側は調査区域外に伸びる。平面形は円形で、規模は長径114cm、短径109cm、深さ16cmである。長軸方向は、N-30°-Eである。

出土遺物は、南比企産の須恵器環・蓋と土師器の北武蔵型環を第403図に図示した。この他須恵器甕の破片を少量検出した。

第338号土坑 (第402図)

西区二面のH-21グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径187cm、短径139cm、深さ18.4



第318号土坑			
1 黄褐色土	1093/1	黄褐色土粒を含む	しまり、粘りあり
2 灰ケラブ色土	592/2	黄褐色土の少な	しまり、粘性あり
第319号土坑			
1 黄褐色土	1093/1	黄褐色土粒が(φ2~3cm)含む	しまり、粘性あり
第320号土坑			
V 黄褐色土	7, 593/2	黄褐色土気味	
2 灰ケラブ色土	592/2		
第321号土坑			
1 暗褐色土	1093/2	黄褐色土ブロック含む	しまり強い、粘り強い
第322号土坑			
1 黄褐色土	1093/1, 7/1	黄褐色土(200μ)ブロック(φ1~2cm)5%	しまり、粘性あり
2 黄褐色土	1093/1, 7/1	黄褐色土(200μ)ブロック(φ2~3cm)7%	しまりややあり、粘性ややあり
3 黄褐色土	1093/1, 7/1	黄褐色土(200μ)ブロック(φ1~2cm)5%	しまりややあり、粘性あり
第324号土坑			
1 黄褐色土	1093/1, 7/1	黄褐色土塊山ブロック3% (φ1~4cm)に、黄褐色土ブロック%	しまりあり、粘性ややあり
2 にぶい黄褐色土	1093/5	にぶい黄褐色土ブロック(φ1~4cm)2%	しまり、粘性ややあり
3 暗灰色土	83/	粘り強い、しまり強い、粘り強い	

第325号土坑			
1 黄褐色土	1093/2/1	明黄褐色土(地山)砂子(φ3~6mm)2%	しまりあり、粘性ややあり

第327号土坑			
1 黄褐色土	1093/2	明黄褐色土(地山)砂子(φ0.5~10μ)2%	しまりあり、粘性ややあり
2 黄褐色土	1093/2	明黄褐色土(地山)ブロック(φ1~2cm)2%	しまりややあり、粘りあり
3 黄褐色土	1093/2	明黄褐色土(地山)ブロック(φ1~2cm)4%	しまりややあり、粘性あり

第328号土坑			
1 黄褐色土	7, 593/1, 7/1	灰化物多量、灰含む	しまり、粘り強い
2 黄褐色土	2, 593/2	ガリガリしている	しまりあり
3 黄褐色土	1093/2	丸石ややあり	粘り強い、粘性あり

第329号土坑			
1 暗褐色土	1093/5	粘り強い	
2 暗褐色土	1093/5	粘り強い	
3 暗褐色土	1093/5	粘り強い	



第400図 土坑 (12)

cmである。長軸方向は、N-10°-Wである。

出土遺物は、口縁部ヨコナデを施す器高のやや浅い丸底気味の土師器の北武蔵型環を第403図に図示した。この他に須恵器甕の破片を少量検出した。

第339号土坑 (第402図)

西区二面のH-22グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径207cm、短径177cm、深さ21.9cmである。長軸方向は、N-1°-Wである。

出土遺物は、土師器模倣環・甕、須恵器甕の破片を検出した。

第340号土坑 (第402図)

西区二面のG-20グリッドに位置する。北東コーナー部分は第383号溝跡を切り込む。平面形は方形で、規模は長径189cm、短径186cm、深さ38.4cmである。長軸方向は、N-3°-Wである。

出土遺物は、常滑産の甕の破片、在地産の片口鉢、瀬戸産の壺の破片を検出した。

第341号土坑 (第402図)

西区二面のG-20グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径297cm、短径270cm、深さ31.1cmである。長軸方向は、N-11°-Eである。

出土遺物は、第403図13・14は土師器の北武蔵型環である。形態は、器内薄く、丸底気味である。調整は口縁部ヨコナデを施し、体部下端から底部にかけてヘラケズリを施す。体部上半に未調整部分を残す。須恵器環は、5・7・9・10・12から南比企産で底部糸切り調整。6は南比企産環で外周回転ヘラケズリ、11は全面手持ちヘラケズリ。8は南比企産の埴である。この他土師器甕・壺、須恵器壺などの破片を検出した。

第342号土坑 (第402図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。第366号土坑を切り込んで造られている。平面形は長方形で、規模は長径162cm、短径60cm、深さ10cmである。長軸方向は、N-8°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第343号土坑 (第404図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。平面形は

長方形で、規模は長径229cm、短径75cm、深さ21cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、須恵器環・蓋の破片を少量検出した。

第344号土坑 (第404図)

西区二面のG-20グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径235cm、短径123cm、深さ92cmである。長軸方向は、N-18°-Wである。

出土遺物は、須恵器環、羽釜の破片を少量検出した。

第345号土坑 (第404図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径195cm、短径100cm、深さ37cmである。長軸方向は、N-21°-Wである。

出土遺物は、須恵器環、土師器甕の破片を少量検出した。

第346号土坑 (第404図)

西区二面のD-20グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径75cm、短径69cm、深さ8.9cmである。長軸方向は、N-86°-Wである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第347号土坑 (第404図)

西区二面のE-20グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径73cm、短径73cm、深さ24.6cmである。長軸方向は、N-65°-Wである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第348号土坑 (第404図)

西区二面のF-19グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は径55cm、深さ47.1cmである。

出土遺物は、底部外面に外周回転ヘラ削りを施す須恵器環を検出した。

第349号土坑 (第404図)

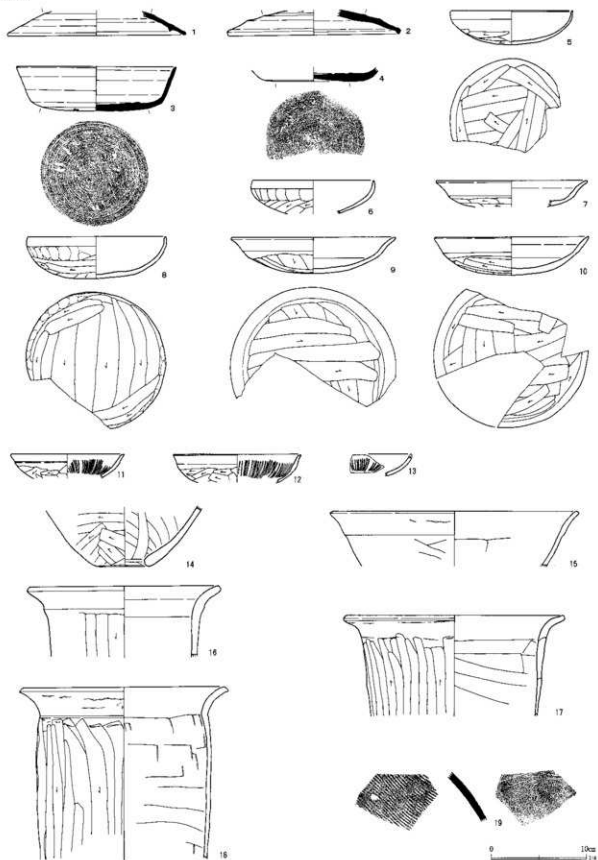
西区二面のF-20グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径97cm、短径54cm、深さ10.5cmである。長軸方向は、N-80°-Wである。

出土遺物は、北武蔵型環の破片を検出した。

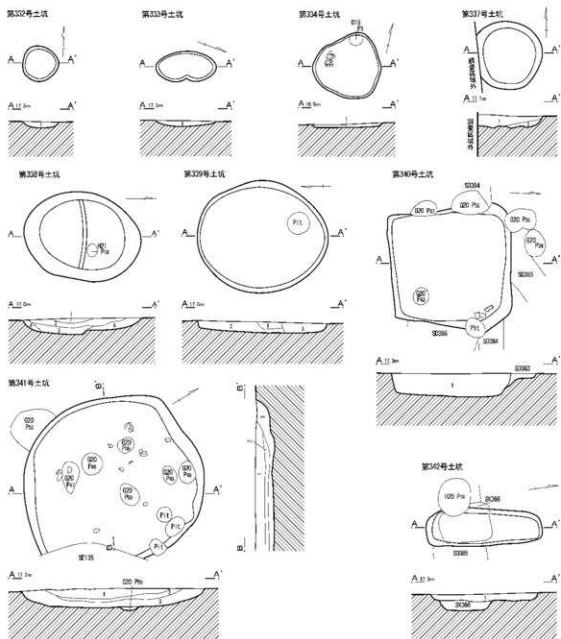
第351号土坑 (第404図)

西区二面のE-22グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径115cm、短径105cm、深さ15.3cm

SK336



第401图 土坑出土遗物 (4)



第320号土坑			
1 赤褐色土	10YR2/2	焼土粒子少量	黄褐色土ブロック多量
第321号土坑			
1 黄褐色土	10YR2/2	焼土粒少量	黄褐色土ブロック多量
第322号土坑			
1 灰褐色土	7.5YR4/1	硝子状土(地)10(φ1~5cm)2%混入	
第323号土坑			
1 黄褐色土	10YR3/3	炭化物粒子・焼土粒子(φ2~3mm)散在し しまり、粘性あり	
2 オリーブ質土	8Y6/4	硝子状土ブロック・灰褐色土ブロック多量 しまり強・粘性あり	
第324号土坑			
1 黄褐色土	5YR4/3	硝子土ブロックの周 下位に流れていない	
2 黄褐色土	10YR3/2	焼土粒子・炭化物多量	
3 黄褐色土	10YR3/2	硝子土粒子少量 炭化物多量	
4 黄褐色土	10YR5/8	黄褐色土粒子多量	
5 黄褐色土	10YR2/2	黄褐色土ブロック少量	
※段差土坑上?			

第325号土坑			
1 黄褐色土	10YR2/2	炭化物少量	
2 オリーブ褐色土	2.5Y4/3	炭化物少量	
3 黄褐色土	10YR2/3	炭化物多量 焼土粒少量	
第326号土坑			
1 黄褐色土	10YR2/4	大粒の炭褐色土ブロック多量	
第327号土坑			
1 黄褐色土	10YR3/2	焼土粒子(φ5~2mm)・炭化物粒子少量 しまり強・粘性弱	
2 黄褐色土	7.5Y3/2	焼土粒子(φ2~3mm)・炭化物粒子多量 黄褐色土粒少量 しまり強・粘性弱	
3 褐色土	7.5Y4/3	炭化物多量 焼土粒少量 しまり、粘性あり	
第328号土坑			
1 黄褐色土	10YR2/3	黄褐色土ブロック・黄褐色土粒子多量 炭化物土	

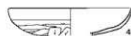


第402図 土坑 (13)

SK337



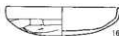
SK338



SK341



SK351



SK352



SK370



SK371

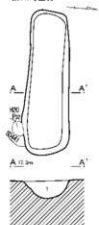


SK361

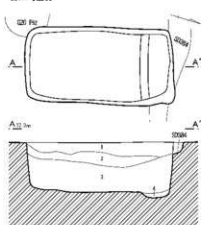


第403图 土坑出土遗物 (5)

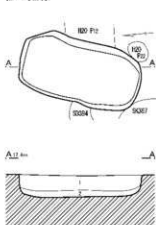
第343号土坑



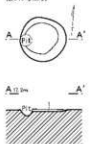
第344号土坑



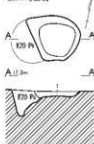
第345号土坑



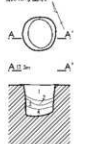
第346号土坑



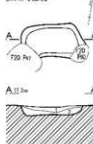
第347号土坑



第348号土坑



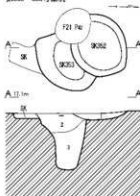
第349号土坑



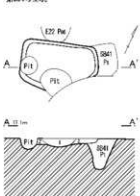
第351号土坑



第352・353号土坑



第354号土坑



第356号土坑

1 黄褐色土

10932/1

ローム和子5%混入

しまり、粘りややあり

第357号土坑

1 赤色土

10932/1

黄土粒下(φ1~2mm)5%

しまりややあり 粘り強い

第348号土坑

1 黄褐色土

2, 353/1

ロームブロック(φ5~8cm)3%

しまりあり 粘りややあり

2 黄褐色土

10931/1

灰褐色セッコウの層状に含む

3 赤色土

352/1

灰褐色 しまり、粘りなし

4 黒色土

352/1

粘り土 しまり強い 粘りややあり

第349号土坑

1 褐色土

10934/1

ロームブロック(φ1~2mm)5%

しまりあり 粘りややあり

2 褐色土

10934/1

ロームブロック(φ3~10cm)25%

しまりあり 粘りややあり

第351号土坑

1 灰黄褐色土

10931/2

黄褐色土ブロック多量 しまりあり

粘りなし

2 灰オリーブ色土

2, 353/2

第343号土坑

1 黄褐色土

10932/3

黄褐色土ブロック・黄褐色土粒が多量 硬灰土

第344号土坑

1 赤褐色土

10932/3

黄褐色土ブロック多量

2 黄褐色土

10935/3

黒色土ブロック少量

3 黄褐色土

2, 353/3

黒色土ブロック少量

4 暗褐色土

10934/1

シルト質

第345号土坑

1 黄褐色土

10935/3

黄褐色土ブロック・黒色土ブロック多量

2 黄褐色土

10935/3

黄褐色土ブロック多量 赤色土ブロック少量

シルト質 地山埋灰土

0 2m 1:100

第404図 土坑 (14)

である。長軸方向は、N-14°-Eである。

出土遺物は、土師器の北武藏型環と模倣環の破片を検出した。

第352号土坑 (第404図)

西区二面のF-21グリッドに位置する。第353号土坑を切り込んで造られている。平面形は円形で、規模は長径99cm、短径87cm、深さ13.3cmである。長軸方向は、N-70°-Wである。

出土遺物は、第403図18は底部外面に回転ヘラケズリを施す須恵器環である。また、篋描き痕が見られる。その他、須恵器蓋を検出した。

第353号土坑 (第404図)

西区二面のF-21グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径111cm、短径67cm、深さ93.5cmとかなり深い。長軸方向は、N-28°-Wである。

出土遺物は、須恵器環、土師器環・甕の破片を検出した。

第354号土坑 (第404図)

西区二面のE-22グリッドに位置する。本土坑の東側では第41号獨立柱建物跡のP1を切り込み、南側には第137号井戸跡が切り込む。平面形は長方形で、規模は長径124cm、短径87cm、深さ8.6cmである。長軸方向は、N-66°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第355号土坑 (第405図)

西区二面のE-21グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径81cm、短径64cm、深さ24.4cmである。長軸方向は、N-5°-Eである。

出土遺物は、土師器模倣環の破片を少量検出した。

第356号土坑 (第405図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。平面形は円形、規模は長径63cm、短径34cm、深さ18cmである。

出土遺物は、須恵器環の破片を少量検出した。

第357号土坑 (第405図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。平面形は円形、規模は長径43cm、短径37cm、深さ14cmである。

出土遺物は、検出できなかった。

第358号土坑 (第405図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。平面形では長方形で、規模は長径243cm、短径51cm、深さ13.3cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、須恵器高台付環の破片を検出した。

第359号土坑 (第405図)

西区二面のH-19・20グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径247cm、短径99cm、深さ33cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、須恵器高台付環の破片を検出した。

第360号土坑 (第405図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。南側の第406号溝跡を切り込んで造られている。平面形は方形で、規模は長径121cm、短径88cm、深さ17cmである。長軸方向は、N-86°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第361号土坑 (第405図)

西区二面のF-22グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径97cm、短径91cm、深さ29.5cmである。長軸方向は、N-39°-Wである。

出土遺物は、土師器の有段口縁環を検出した。形態は口縁部の中央と体部との境に稜をもち段を有する。調整は口縁部ヨコナゲ、底部扁平の平底である。

第362号土坑 (第405図)

西区二面のF-22グリッドに位置する。南西側に第210号土坑が切り込む。平面形は方形で、規模は長径153cm、短径115cm、深さ12.2cmである。長軸方向は、N-22°-Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

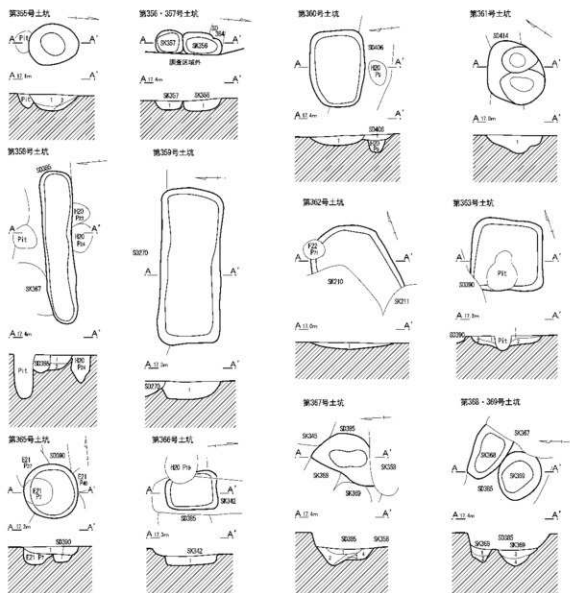
第363号土坑 (第405図)

西区二面のE-20グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径115cm、短径115cm、深さ12cmである。長軸方向は、N-65°-Eである。

出土遺物は、土師器北武藏型環の破片を検出した。

第365号土坑 (第405図)

西区二面のE-21グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径87cm、短径84cm、深さ18.7cmで



- 第325号土坑
1 暗褐色土 109K3/3 底上砂子・黄褐色土ブロック多量
しまりあり 粘性あり
2 明褐色土 2.596/6 暗褐色土ブロック多量 しまりあり 粘性あり
- 第326号土坑
1 黄褐色土 109K2/3 黄褐色土ブロック・砂子多量 埋戻土
- 第327号土坑
1 黄褐色土 109K2/3 黄褐色土ブロック・砂子多量 埋戻土
- 第328号土坑
1 黄褐色土 109K2/2 黄褐色土砂子少量
2 黄褐色土 109K2/2 黄褐色土砂子多量
- 第329号土坑
1 黄褐色土 2.575/5 大粒の黄褐色土ブロック多量 埋戻土
- 第330号土坑
1 黄褐色土 109K2/3 黄褐色土ブロック多量 埋戻土
- 第331号土坑
1 黄褐色土 2.575/2/2 ローム粒子(φ1~3mm)3%
しまりあり 粘性ややあり
- 第332号土坑
1 暗褐色土 109K4/4 底上砂子・黄褐色土砂子少量
しまりあり 粘性あり

- 第333号土坑
1 黄褐色土 109K2/2 しまりあり 粘性ややあり
2 灰色・黄褐色土 109K5/4 ロームブロック(φ3~4mm)25%
しまり、粘性ややあり
- 第334号土坑
1 黄褐色土 7.329/1 しまり、粘性あり
- 第335号土坑
1 黄褐色土 109K4/4 黄褐色土粒(φ4~5mm)多量
しまり、粘性あり
- 第336号土坑
1 黄褐色土 109K2/2 黄褐色土少量 しまりあり、粘性あり
2 黄褐色土 109K2/2 腐敗土上ブロック状に多量 しまり、粘性あり
3 オリーブ灰色土 3036/1 黄褐色土に中に穴付 しまり、粘性あり
4 黄褐色土 109K2/1 黄褐色土砂子・黄褐色土砂子少量 しまり、粘性あり
- 第337号土坑
1 黄褐色土 109K3/1 黄褐色土ブロック穴付 しまり、粘性あり
2 黄オリーブ色土 7.325/2 黄褐色土ブロック穴付 しまりあり 粘性あり
- 第338号土坑
1 黄褐色土 109K2/1 黄褐色土ブロック穴付 しまり、粘性あり
2 黄オリーブ色土 7.325/2 黄褐色土ブロック穴付 しまりあり 粘性あり
3 黄褐色土 109K2/1 黄褐色土ブロック穴付 しまり、粘性あり
4 黄オリーブ色土 7.325/2 黄褐色土ブロック穴付 しまり、粘性あり

0 2m 10

第405図 土坑 (15)

ある。長軸方向は、N-83°Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第366号土坑 (第405図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。第342号土坑の下面から確認された。平面形は方形で、規模は長径103cm、短径61cm、深さ20.5cmである。長軸方向は、N-6°Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第367号土坑 (第405図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。第367-369号土坑は隣接して確認された。平面形は不整形円形で、規模は長径79cm、短径57cm、深さ61.5cmである。長軸方向は、N-60°Eである。

出土遺物は、須恵器甕の破片を検出した。

第368号土坑 (第405図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径79cm、短径57cm、深さ61.5cmである。長軸方向は、N-60°Eである。

出土遺物は、須恵器甕の破片を検出した。

第369号土坑 (第405図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径76cm、短径70cm、深さ47.6cmである。長軸方向は、N-76°Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第370号土坑 (第406図)

西区二面のH-22グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径111cm、短径48cm、深さ8.8cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、外周ヘラヘズリを施す須恵器環、底部に高台をもつ須恵器壺、土師器甕の破片を検出した。

第371号土坑 (第406図)

西区二面のH-21・22グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径412cm、短径187cm、深さ24.4cmである。長軸方向は、N-9°Wである。

出土遺物は、南比企産の須恵器環を検出した。

第372号土坑 (第406図)

西区二面のG・H-21グリッドに位置する。北側

には第135号井戸跡、南側には第138号井戸跡、西側には第224号井戸跡が切り込んでいる。さらに第425号溝跡が中央部分を切り込んでいる。平面形は長方形で、規模は長径114cm、短径72cm、深さ16.5cmである。長軸方向は、N-72°Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第373号土坑 (第406図)

西区二面のG-21グリッドに位置する。南側を第373号井戸跡が切り込んでいる。平面形は円形で、規模は長径120cm、短径43cm、深さ48cmである。長軸方向は、N-84°Eである。

出土遺物は、北武蔵型環の破片を検出した。

第374号土坑 (第406図)

西区二面のG-22グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径66cm、短径45cm、深さ18.9cmである。長軸方向は、N-54°Eである。

出土遺物は、土師器甕・鉢・北武蔵型環の破片を検出した。

第375号土坑 (第406図)

西区二面のH-22グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径84cm、短径52cm、深さ24.6cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、土師器壺・甕の破片を検出した。

第376号土坑 (第406図)

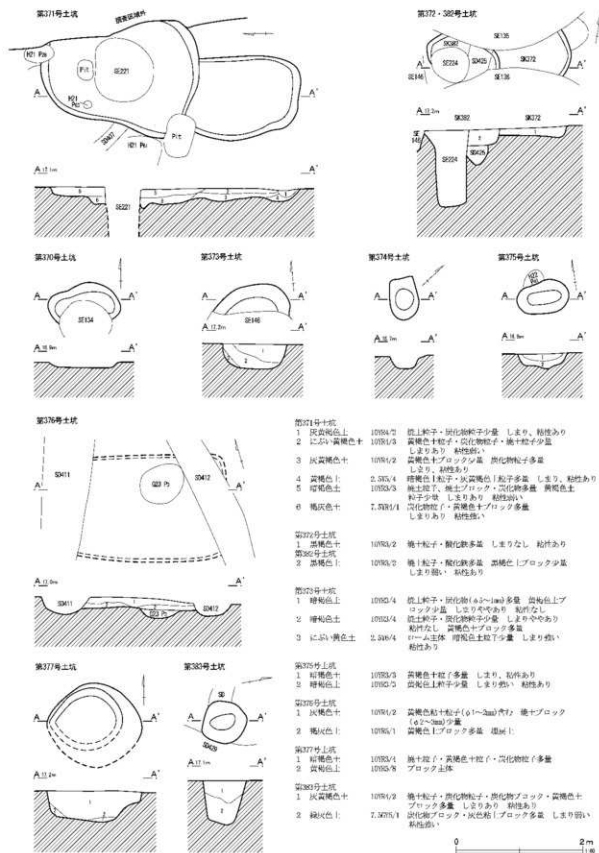
西区二面のG-23グリッドに位置する。東西は第411・412号溝跡に切られている。南北は掘り込みが浅いため明瞭な立ち上がりを検出できなかった。平面形は長方形と推定され、規模は長径207cm、短径169cm、深さ12cmである。長軸方向は、N-74°Eである。

出土遺物は、土師器の北武蔵型環・比企型環・甕の破片を検出した。

第377号土坑 (第406図)

西区二面のF-23グリッドに位置する。第88号住居跡内にあたる。平面形は円形で、規模は長径130cm、短径128cm、深さ37.9cmである。長軸方向は、N-45°Eである。

出土遺物は、土師器の「コ」の字口縁甕、須恵器



第371号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰白・黄褐色土
- 3 灰黄褐色土
- 4 黄褐色土
- 5 暗褐色土
- 6 暗灰色土

- 1004/2 灰土砂子・炭化物砂子少量 しまり、粘性あり
- 1031/3 黄褐色土砂子・炭化物砂子・焼土砂子少量 しまりあり 粘性あり
- 1051/2 黄褐色土ブロック少量 炭化物砂子多量 しまり、粘性あり
- 2.305/4 暗褐色土砂子・灰黄褐色土砂子多量 しまり、粘性あり
- 1053/3 灰土砂子、黄土ブロック・炭化物少量 黄褐色土砂子少量 しまりあり 粘性強い
- 2.308/1 炭化物砂子・黄褐色土ブロック多量 しまりあり 粘性強い

第372号土坑

- 1 黄褐色土
- 2 黄褐色土

- 1053/2 焼土砂子・炭化物多量 しまりなし 粘性あり
- 1053/3 焼土砂子・炭化物多量 黄褐色土ブロック少量 しまり強い、粘性あり

第373号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土
- 3 灰白・黄褐色土

- 1000/4 灰土砂子・炭化物(4.0~10.0)多量 黄褐色土ブロック少量 しまりややあり 粘性なし
- 1052/4 灰土砂子・炭化物砂子少量 しまりややあり 粘性なし 黄褐色土ブロック多量
- 2.346/4 ローム主体 暗褐色土砂子少量 しまり強い、粘性あり

第374号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 暗褐色土

- 1053/3 黄褐色土砂子多量 しまり、粘性あり
- 1053/5 黄褐色土砂子少量 しまり強い、粘性あり

第375号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 暗褐色土

- 1051/2 黄褐色土砂子(φ1~2mm)内付 焼土ブロック(φ1~5mm)少量
- 1051/1 黄褐色土ブロック多量 粘性なし

第376号土坑

- 1 暗褐色土
- 2 黄褐色土

- 1053/4 焼土砂子・黄褐色土砂子・炭化物砂子多量
- 1053/5 土砂子

第377号土坑

- 1 灰黄褐色土
- 2 暗褐色土

- 1054/2 焼土砂子・炭化物砂子・炭化物ブロック・黄褐色土ブロック多量 しまりあり 粘性あり
- 2.3075/1 炭化物ブロック・灰白土ブロック多量 しまり強い、粘性強い

第406図 土坑 (16)

壺の破片を検出した。

第378号土坑 (第407図)

西区二面のF-24グリッドに位置する。南西側には第439号溝跡、北側には第379号土坑が切り込む。このため平面形は不明で、残存する規模は長径84cm、短径70cm、深さ10.4cmである。長軸方向は、N-31°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・甕の破片を検出した。

第379号土坑 (第407図)

西区二面のF-24グリッドに位置する。南側には第378号土坑、北側には第379・380・392・395号土坑が重複する。平面形は長方形で、規模は長径578cm、短径306cm、深さ29.6cmである。長軸方向は、N-11°-Wである。

出土遺物は、17点を図化した。いずれも9世紀中葉頃の共存遺物として考えられる。須恵器は環・皿・高台付壺・甕・鉢である。土師器は「コ」の字をした小型甕の口縁部破片である。第408図1・2は黒書土器である。1は体部外面と底部外面に「山」、2は底部外面に「山カ」の一部が確認できる。3・6・10・11は末野産である。その他は南比企産である。14は土師器の小型台付甕の口縁部破片である。16は須恵器甕の口縁部破片で焼成は堅く縮まっている。17は鉢である。

第380号土坑 (第407図)

西区二面のF-24グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径150cm、短径118cm、深さ25cmである。長軸方向は、N-32°-Eである。

出土遺物は、須恵器甕・鉢・環、土師器の「コ」の字状口縁甕・台付甕を検出した。この他須恵器の宝珠つまみが貼り付く蓋、底部外周回転ヘラケズリを施す環、縦ヘラケズリ調整された土師器甕は重複遺構の遺物と考えられ、本土坑の遺物より古い。

第381号土坑 (第407図)

西区二面のF-22グリッドに位置する。第196号井戸跡に切られている。平面形は方形で、規模は長径260cm、短径174cm、深さ11.8cmである。長軸方向

は、N-6°-Wである。

出土遺物は、須恵器環、土師器甕の破片を検出した。

第382号土坑 (第406図)

西区二面のG・H-21グリッドに位置する。北側には第135号井戸跡、南側には第138号井戸跡、西側には第224号井戸跡が切り込んでいる。さらに東側には第425号溝跡と第382号土坑が切り込んでいる。平面形は楕円形で、規模は長径120cm、短径56cm、深さ22.1cmである。長軸方向は、N-80°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第383号土坑 (第406図)

西区二面のH-21グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径70cm、短径66cm、深さ70.1cmである。長軸方向は、N-10°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第384号土坑 (第407図)

西区二面のH-20・21グリッドに位置する。東側は調査区域外、南側には第427号溝跡、第202号井戸跡が切り込む。残存する平面形は方形で、残存する規模は長径124cm、短径90cm、深さ6cmである。

出土遺物は、須恵器環・高台付壺・甕の破片を検出した。

第385号土坑 (第407図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。東側は調査区域外である。平面形は長方形で、規模は長径172cm、短径82cm、である。長軸方向は、N-20°-E。深さ10.2cmである。

出土遺物は、検出できなかった。

第386号土坑 (第411図)

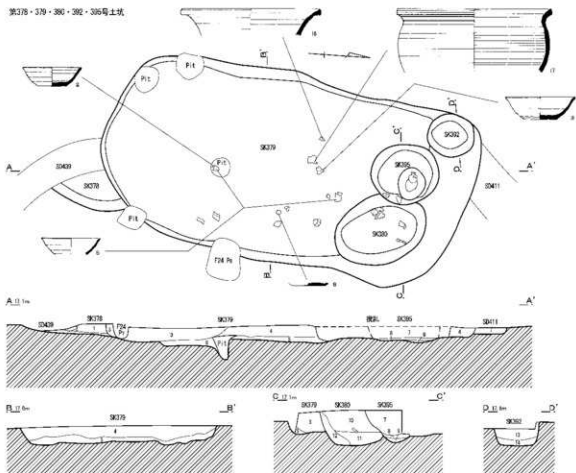
西区二面のH-21グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径76cm、短径54cm、深さ52.7cmである。長軸方向は、N-25°-Wである。

出土遺物は、土師器甕・甕・環、須恵器甕の破片を検出した。

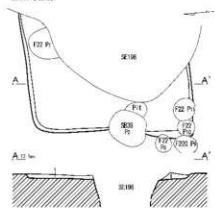
第387号土坑 (第411図)

西区二面のG-21グリッドに位置する。平面形は

第378・379・380・382・385号土坑

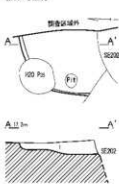


第378号土坑



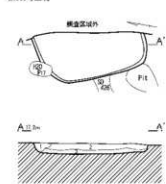
- 第378号土坑
- 1 黄褐色土 10YR5/2 粘土粒子・炭化物少量
 - 2 黄褐色土 10YR5/8 ブロック状体
- 第379号土坑
- 3 黄褐色土 10YR5/1 炭褐色土粒子・鉄分少量
 - 4 黄褐色土 10YR5/7 黄褐色土粒・やや多量
 - 5 黄褐色土 10YR4/4 ブロック状体
 - 6 黄褐色土 10YR5/1 黄褐色土ブロック少量 粗砂混入
- 第380号土坑
- 7 黄褐色土 10YR2/1 粘土粒・多量 炭化物少量
 - 8 黄褐色土 10YR2/2 粘土粒子・炭化物少量
 - 9 黄褐色土 10YR3/1 黄褐色土ブロック多量
- 第382号土坑
- 10 黄褐色土 10YR2/1 粘土粒子多量 炭化物少量
 - 11 黄褐色土 10YR2/2 粘土粒・黄褐色土粒・少量
 - 12 黄褐色土 10YR4/6 黄褐色土ブロック多量

第384号土坑



- 第384号土坑
- 1 黄褐色土 10YR5/2 粘土粒・炭化物少量
 - 2 黄褐色土 10YR2/2 黄褐色土粒子多量

第385号土坑



- 第385号土坑
- 1 褐色土 10YR2/2 粘土粒・(0.1~3mm)10%混入 しまり、粘性ややあり
 - 2 黄褐色土 10YR4/4 黄褐色土ブロック多量 炭分粒・含む しまりあり 粘性強い



第407図 土坑 (17)

不整形で、規模は長径74cm、短径28cm、深さ8.5cmである。長軸方向は、N-78°Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第388号土坑 (第411図)

西区二面のG-21グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径150cm、短径84-136cm、深さ25.8cmである。長軸方向は、N-48°Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第389号土坑 (第411図)

西区二面のD・E-20グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径192cm、短径168cm、深さ10.1cmである。長軸方向は、N-85°Wである。

出土遺物は、土師器甕を検出した。

第390号土坑 (第411図)

西区二面のH-22グリッドに位置する。北側のピットに切り込まれている。平面形は楕円形で、規模は長径94cm、短径74cm、深さ9.8cmである。長軸方向は、N-15°Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第391号土坑 (第411図)

西区二面のE-21グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径96cm、短径62cm、深さ48.7cmである。長軸方向は、N-62°Eである。

出土遺物は、土師器の「コ」の字状口縁甕の破片を検出した。

第392号土坑 (第407図)

西区二面のF-24グリッドに位置する。第379号土坑の北側に重複して検出した。平面形は円形で、規模は長径74cm、短径70cm、深さ25cmである。

出土遺物は、須恵器甕の破片を検出した。

第393号土坑 (第411図)

西区二面のF-24グリッドに位置する。西側の第394号土坑に切られる。平面形は楕円形で、規模は長径156cm、短径116cm、深さ29.1cmである。長軸方向は、N-34°Eである。

出土遺物は、灰釉陶器壺、須恵器甕の口縁部破片に混じって、第410図に示した小型壺やミニチュ

ア土器の破片を検出した。小型壺は古墳時代前期の遺物とみられる。口縁部から肩部にかけての外面には刷毛目が施されている。胴部下半には底部との境に粘土紐の接合痕が見られる。器面形は凹凸が残り粗雑な調整である。

第394号土坑 (第411図)

西区二面のF-24グリッドに位置する。北東側に検出した第393号土坑を切り込んで造られている。平面形は円形で、規模は長径172cm、短径120cm、深さ19.6cmである。長軸方向は、N-31°Wである。

出土遺物は、須恵器環・甕・高台付壺の破片を検出した。

第395号土坑 (第407図)

西区二面のF-24グリッドに位置する。第379号土坑の北側に重複して検出した。平面形は円形で、規模は長径108cm、短径88cm、深さ15.5cmである。土坑の底面からやや浮いた状態で口縁部を打ち欠いた須恵器長頸甕が出土。

出土遺物は、第410図に示した須恵器高台付壺と長頸壺を検出した。高台付壺は推定口径18.4cmと大型である。産地は胎土から末野産と見られる。長頸壺はほぼ完形である。形態は口縁部が咽喉で口唇部外に大きく開く。内面に指頭による窪みをもつ。肩部は大きく張り底部にかけて湾曲をもちすばまる。底部は回転糸切り離して高台が貼り付く。整形は右回転のロクロ整形である。焼成は堅致。全体に自然釉がかかる。胎土に白色針状物質を含み南北企業である。

第396号土坑 (第411図)

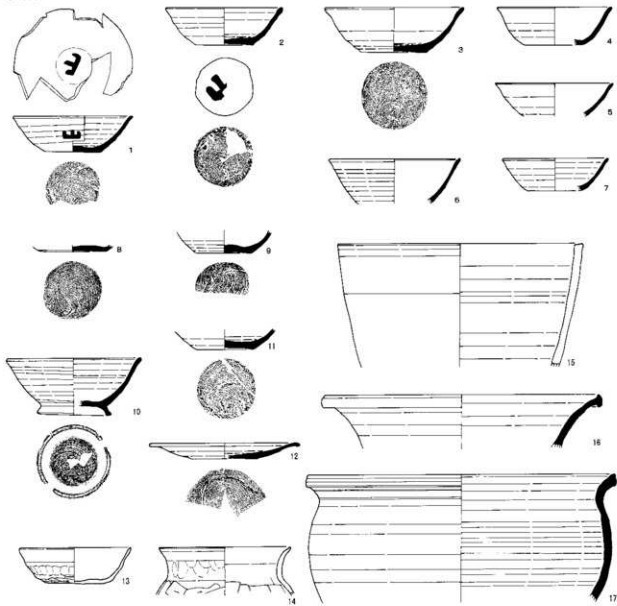
西区二面のF-21グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径72cm、短径58cm、深さ26.8cmである。長軸方向は、N-35°Wである。

出土遺物は、土師器の「コ」の字状甕を検出した。

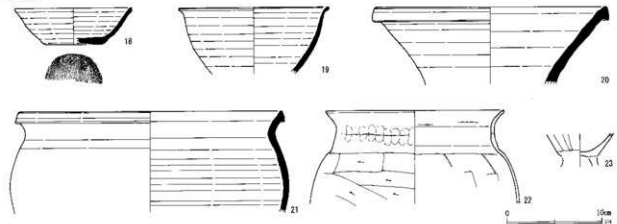
第397号土坑 (第411図)

西区二面のF-23グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径146cm、短径100cm、深さ34cmである。長軸方向は、N-6°Wである。

SK379



SK380



第408图 土坑出土遗物(6)

出土遺物は、末野産の底部系切り離して器高やや低い須恵器環、高台部を欠損した高台付埴、群馬産の重量感のある扁平つまみの蓋の破片、灰軸陶器皿を検出した。この他土師器環の破片を検出した。

第398号土坑 (第411図)

西区二面のF-21グリッドに位置する。北西側に第396号土坑、南東側に第267号溝跡が重複する。平面形は円形で、規模は長径62cm、短径32cm、深さ10.8cmである。長軸方向は、N-43°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第399号土坑 (第409図)

西区二面のE-23グリッドに位置する。平面形は楕円形で底面は平坦である。規模は長径85cm、短径64cm、深さ34.5cmである。長軸方向は、N-43°-Wで、第88号住居跡の北壁と平行する。住居跡の貯蔵穴の可能性が考えられる。

出土遺物は、土師器甕・右段口縁環を検出した。

第400号土坑 (第411図)

西区二面のE・F-23グリッドに位置する。平面形は楕円形で底面は凹凸が顕著である。規模は長径88cm、短径68cm、深さ52.1cmである。長軸方向は、N-67°-Wである。第88号住居跡のカマド付近であることからカマドに伴う掘り方の可能性もある。

出土遺物は、土師器模倣環・北武蔵型環を検出した。

第401号土坑 (第412図)

西区二面のF-21グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径84cm、短径70cm、深さ26.1cmである。長軸方向は、N-53°-Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第402号土坑 (第412図)

西区二面のG-21グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径92cm、短径78cm、深さ30.6cmである。長軸方向は、N-62°-Eである。

出土遺物は、土師器模倣環を検出した。

第403号土坑 (第412図)

西区二面のG-22グリッドに位置し、南側の第

411号溝跡を切り込む。平面形は円形で、規模は長径158cm、短径60-88cm、深さ26-37.6cmである。長軸方向は、N-18°-Wである。

出土遺物は、土師器鉢・甕の破片を検出した。

第404号土坑 (第409図)

西区二面のG-22グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径108cm、短径104cm、深さ69.3cmである。長軸方向は、N-63°-Wである。

出土遺物は、土師器甕、口縁部をヨコナデし体部に未調整部分を残した底部やや丸底気味の北武蔵型環を検出した。このほか、漆椀、板材を出土。

第405号土坑 (第412図)

西区二面のE-22グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径84cm、短径78cm、深さ20.4cmである。長軸方向は、N-42°-Eである。

出土遺物は、底部外周回転ヘラケズリを施す須恵器環、鉄製品を検出した。

第406号土坑 (第412図)

西区二面のE-23グリッドに位置する。西側は調査区域外に伸び、東側は第133号井戸跡に切られている。平面形は楕円形で、残存する規模は長径120cm、短径108cm、深さ24.4cmである。長軸方向は、N-25°-Wである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第407号土坑 欠番

第408号土坑 (第412図)

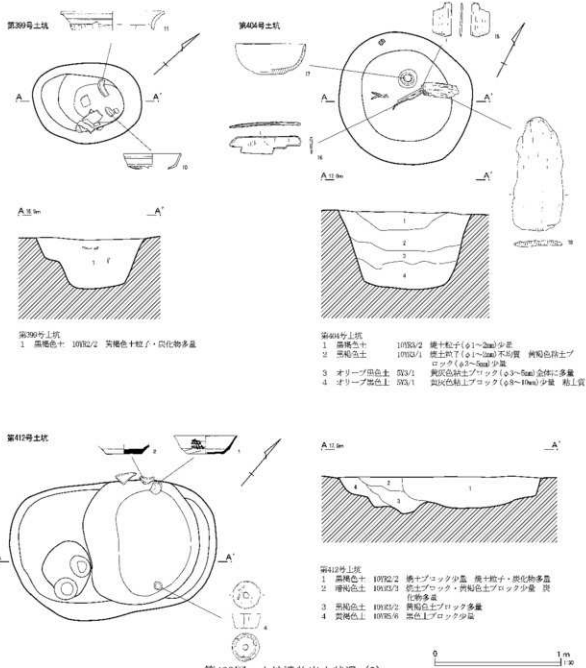
西区二面のG-23グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径156cm、短径48-78cm、深さ12.5cmである。長軸方向は、N-70°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第409号土坑 (第412図)

西区二面のG-22・23グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径370cm、短径186cm、深さ20.7cmである。規模が大きく底面は平坦だが北側に向かって浅いすり鉢状に窪む。長軸方向は、N-30°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・甕の破片を検出した。



第409図 土坑遺物出土状況(2)

第410号土坑(第412図)

西区二面のG-20グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径74cm、短径32cm、深さ16.9cmである。長軸方向は、N-62°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第411号土坑(第412図)

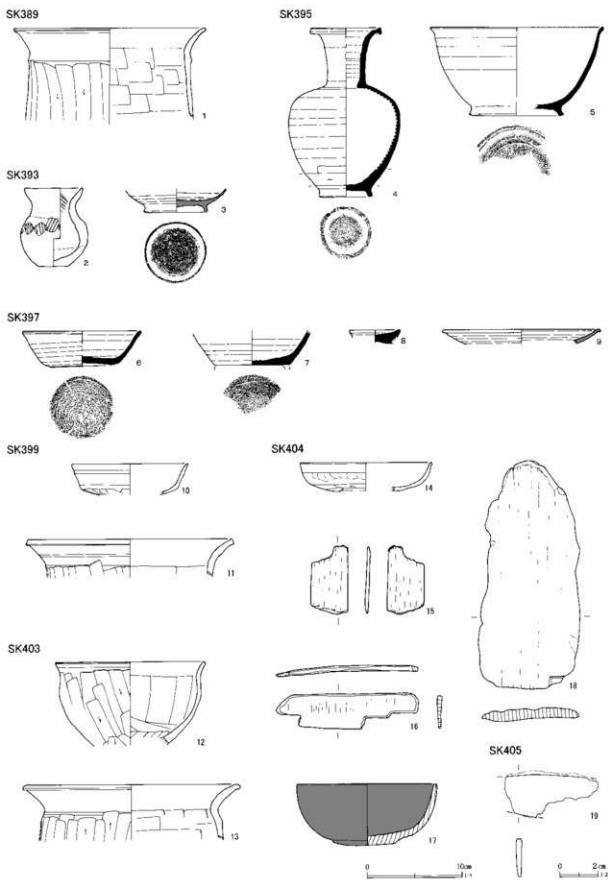
西区二面のG-20グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径70cm、短径10cm、深さ7.7cmである。長軸方向は、N-60°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第412号土坑(第409図)

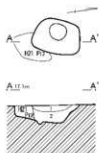
西区二面のE-23グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径164cm、短径106cm、深さ24.6cmである。長軸方向は、N-45°-Wである。

出土遺物は、第413図1の体部外面に「時」の墨書をもつ南比企産の須恵器環を検出した。底部外面は糸切り離し、体部下端に腰をもち口縁部は開いて立ち上がる。推定口径13.4cmである。この他に、砥石

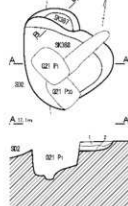


第410号 土坑出土遺物 (7)

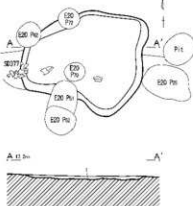
第386号土坑



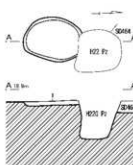
第387・388号土坑



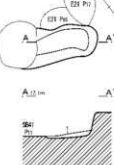
第389号土坑



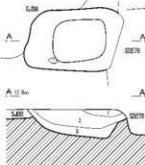
第390号土坑



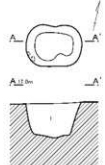
第391号土坑



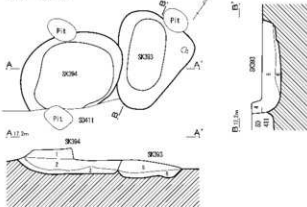
第397号土坑



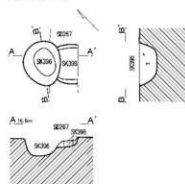
第400号土坑



第393・394号土坑



第395・396号土坑



第386号土坑

- 1 埴粉色土 10Y3/2 赤褐色土粒子少量 しまり、粘性あり
- 2 緑褐色土 10Y3/3 黄褐色土ブロック多量 しまり、粘性あり

第387号土坑

- 1 埴粉色土 10Y3/3 鉄分、黄褐色土混入含む しまり強い、粘性あり
- 2 灰オリーブ色土 0Y5/2 赤褐色土混入含む

第389号土坑

- 1 埴粉色土 7.5Y8/1 しまり、粘性ややあり

第390号土坑

- 1 灰黄褐色土 10Y4/2 緑色鉄多量 しまり強い、粘性弱い

第391号土坑

- 1 埴粉色土 7.5Y8/1 10～15%混入の粘質土

第397号土坑

- 1 赤褐色土 10Y3/2 粘土粒子・炭化物少量
- 2 黒褐色土 10Y3/2 粘土粒子多量 炭化物少量
- 3 褐色土 10Y3/4 褐色土ブロック多量

第393号土坑

- 4 赤褐色土 10Y3/2 粘土粒子・炭化物少量
- 5 黒褐色土 10Y3/2 粘土粒子多量 炭化物多量
- 6 黒褐色土 10Y3/2 炭褐色土ブロック多量

第395号土坑

- 1 埴粉色土 10Y3/4 黄褐色土ブロック、粘土粒子少量
- 2 赤褐色土 10Y3/1 炭化物多量 粘土粒子少量
- 3 黒褐色土 10Y3/1 黄褐色土ブロック多量 炭化物少量

第396号土坑

- 1 黒褐色土 7.5Y3/2 しまり、粘性ややあり
- 2 赤褐色土 7.5Y3/1 黄褐色土ロームブロック15% しまり、粘性ややあり

第399号土坑

- 3 黒褐色土 10Y3/1 ロームブロック(δ1～5mm)15% しまりあり 粘性ややあり

第400号土坑

- 1 赤褐色土 10Y3/2 黄褐色土ブロック、粘性多量



第411回 土坑 (18)

と同じ石材の石製紡錘車を検出した。4の紡錘車には「古部豊川」の線刻が見られる。

第413号土坑 (第412図)

西区二面のF・G-25グリッドに位置する。本土坑の覆土を切り込んで第456号溝跡が造られている。平面形は楕円形で、規模は長径230cm、短径190cm、深さ30.2cmである。長軸方向は、N-63°-Wである。

出土遺物は、第413図に図示した土師器鉢、この他に底部糸切り離しの須恵器環を検出した。

第414号土坑 (第412図)

西区二面のH-27グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径114cm、短径94cm、深さ27.4cmである。長軸方向は、N-38°-Wである。

出土遺物は、灰釉陶器の壺を検出した。

第415号土坑 (第414図)

西区二面のG・H-27グリッドに位置する。本土坑は北側の第424号土坑、第345号溝跡、南側の第459・460号溝跡を切り込んで造られている。平面形は方形で、規模は長径408cm、短径364cm、深さ16.6cmである。長軸方向は、N-2°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第416号土坑 (第414図)

西区二面のF-26グリッドに位置する。本土坑の中央部分を南北方向に第456号溝跡が切り込む。平面形は方形で、規模は長径168cm、短径134cm、深さ10.6cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、須恵器環を検出した。

第417号土坑 (第414図)

西区二面のE・F-24グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径80cm、短径76cm、深さ15cmである。長軸方向は、N-72°-Eである。

出土遺物は、須恵器蓋を検出した。

第418号土坑 (第414図)

西区二面のF-19グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径106cm、短径52cm、深さ45.1cmである。長軸方向は、N-52°-Wである。

出土遺物は、古墳時代前期の遺物を検出した。第

413図6～8・10は裏の口縁部破片である。いずれも口縁部外面に縦方向の刷毛目、内面には横方向の刷毛目が施されている。9は小型の土師器甕である。11は高坏の脚部破片である。外面を丁寧な縦方向の磨きか施されている。12・13は土付甕の台部破片で外面に細かい刷毛目が施され、内面には横ナデが見られる。

第419号土坑 (第414図)

西区二面のE・F-19グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径70cm、短径42cm、深さ12cmである。長軸方向は、N-50°-Wである。

出土遺物は、灰釉陶器の破片を検出した。

第420号土坑 (第414図)

西区二面のI-27グリッドに位置する。本土坑の中央部分には第365号溝跡が切り込んでいる。平面形は楕円形で、規模は長径220cm、短径128cm、深さ14.2cmである。長軸方向は、N-5°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第421号土坑 (第414図)

西区二面のH-27グリッドに位置する。南側を第459号溝跡に切り込まれ、北東部分は第422・423号土坑に切られる。平面形は楕円形で、規模は長径146cm、短径110cm、深さ10.1cmである。長軸方向は、N-61°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第422号土坑 (第414図)

西区二面のH-27グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径84cm、短径78cm、深さ43.8cmである。長軸方向は、N-83°-Eである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第423号土坑 (第414図)

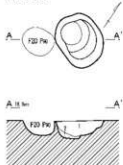
西区二面のH-26グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径76cm、短径66cm、深さ21.2cmである。長軸方向は、N-22°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

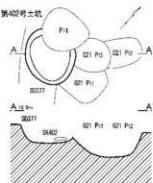
第424号土坑 (第414図)

西区二面のG-27グリッドに位置する。平面形は

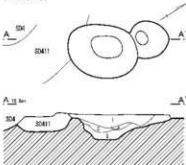
第40号土坑



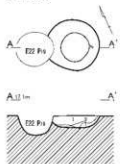
第42号土坑



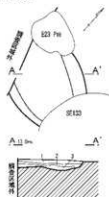
第43号土坑



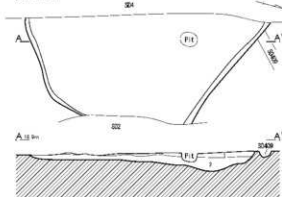
第43号土坑



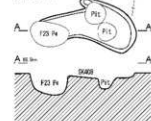
第40号土坑



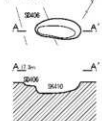
第43号土坑



第43号土坑



第41号土坑



第101号土坑

1 黄褐色土 7.083/2 黄褐色土ブロック(φ1~3m)3% しまりあり 粘性ややあり

2 灰褐色土 10364/1 しまり、粘性ややあり

第43号土坑

1 黄褐色土 10303/1 黄褐色土ブロック(φ1~6m)・

2 赤色土 10302/1 磁土・灰化物中に含む 灰多量

3 赤色土 10302/1 黄褐色土ブロック(φ1~6m)平

均等に多量 埋戻土

第40号土坑

1 黄褐色土 10303/1 ローソク土少量 粘土粒を含む

2 に赤い黄色土 2.076/0 しまり、粘性ややあり

第49号土坑

1 黄褐色土 10303/1 しまりあり 粘性ややあり

2 黄褐色土 2.015/1 黄褐色土層 しまりややあり 粘性あり

3 赤色土 10301/7/1 ローソク土(φ1~3m)30% しまり、粘性ややあり

第109号土坑

1 黄褐色土 10303/2 黄褐色土粘土少量 しまりあり、粘性あり

2 黄褐色土 2.076/0 緑褐色土ブロック多量 しまり強い、粘性あり

第413号土坑

1 黄褐色土 10303/2 黄褐色土粘土・灰化物少量

2 赤色土 10304/4 黄褐色土粒了や含む

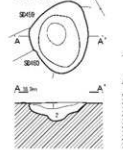
3 黄褐色土 10305/6 ブロック主体 粘着あり

第414号土坑

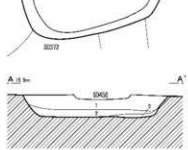
1 黄褐色土 10303/2 黄褐色土ブロック(φ2~3m)少量

2 黄褐色土 10304/1 黄褐色土ブロック(φ1cm)多量

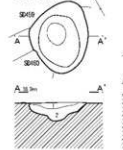
第411号土坑



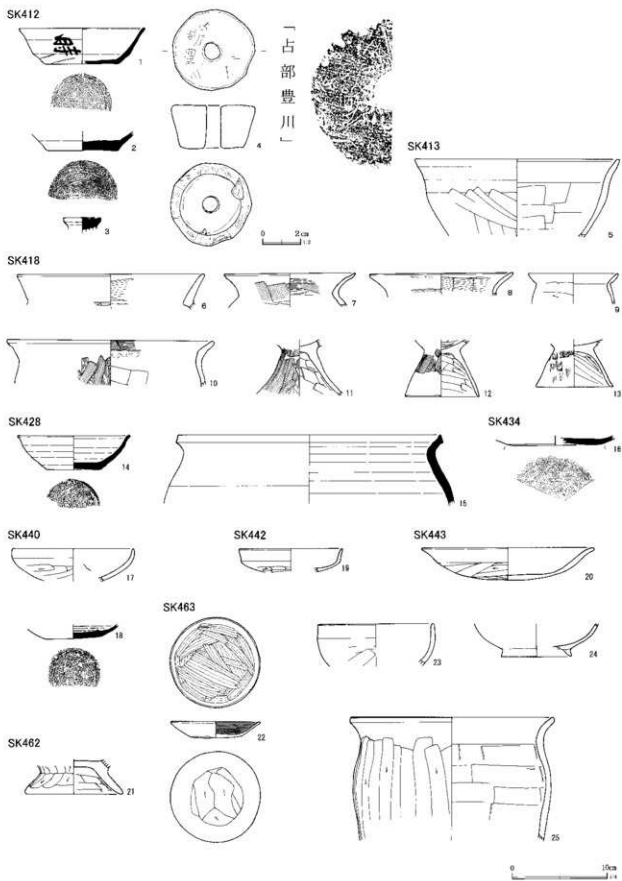
第413号土坑



第414号土坑

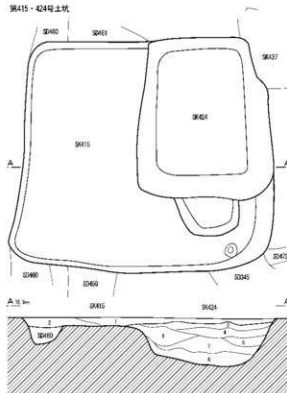


第412図 土坑 (19)

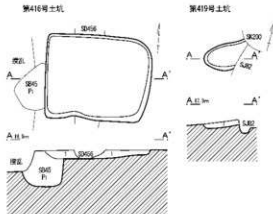


第413図 土坑出土遺物(8)

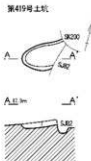
第415・424号土坑



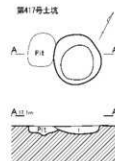
第416号土坑



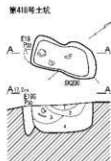
第419号土坑



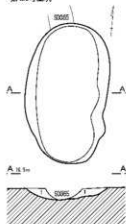
第417号土坑



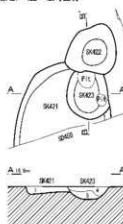
第418号土坑



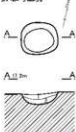
第420号土坑



第421・422・423号土坑



第425号土坑



第415号土坑

- 1 褐色土 3053/1 黄褐色粘土ブロック含む
2 灰褐色土 3053/2 黄褐色粘土ブロック多量
第424号土坑
3 灰褐色土 3055/1 黄褐色粘土ブロック多量
4 褐色土 3055/2 黄褐色粘土ブロック少量
5 褐色土 3055/3 黄褐色粘土ブロック多量
6 褐色土 3055/4 黄褐色粘土ブロック多量
7 褐色土 3078/1 緑灰色粘土ブロック少量
8 灰褐色土 36/ 緑褐色粘土ブロック少量

第416号土坑

- 1 黄褐色土 2.30/6 黄褐色ブロック土坑

第417号土坑

- 1 黄褐色土 3070/1 焼土粒多量 同化物少量
2 黄褐色土 3070/2 焼土粒少量
3 褐色土 3078/1 焼土粒少量

第419号土坑

- 1 緑褐色土 3053/3 しまりあり 粘りややあり
2 灰褐色土 3054/2 ロームブロック(φ1~3cm)20%
しまりあり 粘りややあり
3 黄褐色土 3052/2 同化物含む 同化物は少量
しまり、粘りややあり
4 黄褐色土 3053/1 同化物粒、散量 しまりあり
粘りややあり

第419号土坑

- 1 黄褐色土 3053/1 ロームブロック(φ1~5cm)1%
しまりあり 粘りややあり

第420号土坑

- 1 黄褐色土 3054/2 黄褐色粘土ブロック(φ3~5cm)多量

第421号土坑

- 1 褐色土 3053/1 黄褐色粘土ブロック(φ3~5cm)多量

第422号土坑

- 1 褐色土 3053/1 黄褐色粘土ブロック(φ1~5cm)少量

第423号土坑

- 1 黄褐色土 3052/1 灰白色粘土ブロック(φ1cm)散量

第425号土坑

- 1 黄褐色土 3054/1 黄褐色粘土ブロック(φ3~5cm)に多量
2.307/2 黄褐色土上の灰土層



第414図 土坑(20)

方形で、規模は長径258cm、短径214cm、深さ73.7cmである。長軸方向は、N-90°である。覆土下層からは被熱した片岩が検出された。

出土遺物は、中世の在地産の鉢・甕を検出した。

第425号土坑 (第414図)

西区二面のE-19グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径58cm、短径50cm、深さ21.3cmである。長軸方向は、N-75°Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第426号土坑 (第415図)

西区二面のF-24グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径168cm、短径94cm、深さ11.7cmである。長軸方向は、N-85°Wである。

出土遺物は、底部外周回転ヘラケズリを施す須恵器環、土師器の北武蔵型環の破片を検出した。

第427号土坑 (第415図)

西区二面のF-24グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径72cm、短径64cm、深さ28.3cmである。長軸方向は、N-31°Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第428号土坑 (第415図)

西区二面のG-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径116cm、短径90cm、深さ27.7cmである。長軸方向は、N-73°Wである。

出土遺物は、底部糸切り離しの南比企産須恵器環、須恵器鉢、土師器甕の破片を検出した。

第429号土坑 (第415図)

西区二面のG-25グリッドに位置する。北側を第454号土坑に切られる。平面形は円形で、規模は長径78cm、短径66cm、深さ20cmである。長軸方向は、N-65°Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第430号土坑 (第415図)

西区二面のF-25グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径172cm、短径54cm、深さ20.9cmである。長軸方向は、N-33°Eである。

出土遺物は、須恵器高台付埴・環・甕を検出した。

第431号土坑 (第415図)

西区二面のF-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径144cm、短径126cm、深さ27.6cmである。長軸方向は、N-5°Wである。

出土遺物は、須恵器高台付埴・甕を検出した。

第432号土坑 (第415図)

西区二面のF-25グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径326cm、短径82cm、深さ27.9cmである。長軸方向は、N-64°Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第433号土坑 (第415図)

西区二面のF・G-24グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径180cm、短径70cm、深さ15.2cmである。長軸方向は、N-48°Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第434号土坑 (第415図)

西区二面のG-24グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径98cm、短径82cm、深さ29.9cmである。長軸方向は、N-48°Eである。

出土遺物は、底部全面回転ヘラケズリの末野産須恵器環、土師器の北武蔵型環を検出した。

第435号土坑 (第415図)

西区二面のG-24グリッドに位置する。第434号土坑を切り込んで造られている。平面形は楕円形で、規模は長径178cm、短径88cm、深さ23.5cmである。長軸方向は、N-88°Wである。

出土遺物は、土師器の比企型環を検出した。

第436号土坑 (第415図)

西区二面のD-20グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径66cm、短径58cm、深さ13.9cmである。長軸方向は、N-75°Wである。

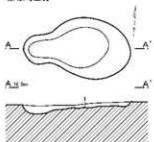
出土遺物は、土師器甕を検出した。

第437号土坑 (第415図)

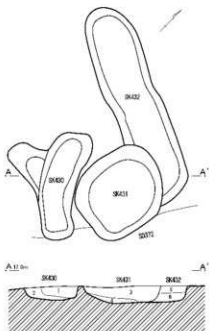
西区二面のG-27グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径290cm、短径260cm、深さ32.5cmである。長軸方向は、N-85°Wである。

出土遺物は、土師器甕・環を検出した。

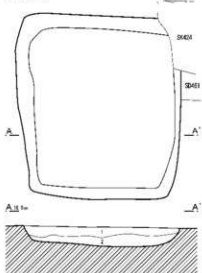
第40号土坑



第40・41・42号土坑



第41号土坑



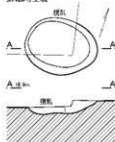
第40号土坑

1 暗褐色土 10030/2 粘土粒下・炭化物少量 黄褐色土粒下少量

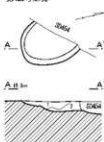
第42号土坑



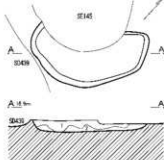
第43号土坑



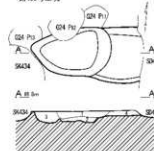
第43号土坑



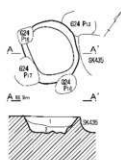
第43号土坑



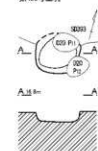
第43号土坑



第43号土坑



第43号土坑



第43号土坑

1 黄褐色土 10030/1 炭化物・焼土粒子少量

第43号土坑

1 オリーブ茶色土 10030/2 炭化物少量
2 暗オリーブ色土 7.504/3 石灰土ブロック多量

第43号土坑

1 黄褐色土 10032/1 炭化物多量 焼土粒子少量
2 黄褐色土 10032/1 炭化物・焼土粒子少量

第43号土坑

1 黄褐色土 10032/1 炭化物多量
2 黄褐色土 10035/6 茶色土ブロック少量

第43号土坑

1 黄褐色土 10032/1 炭褐色土粒子少量
2 黄褐色土 10035/6 茶色土ブロック少量

第43号土坑

1 黄褐色土 10032/1 焼土粒下・炭化物少量
2 黄褐色土 10035/6 ブロック付

第43号土坑

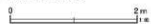
1 黄褐色土 10032/1 焼土粒下・炭化物少量
2 黄褐色土 10034/6 炭褐色土ブロック多量

第43号土坑

1 黄褐色土 10032/1 炭化物少量
2 黄褐色土 10035/6 ブロック付
3 黄褐色土 10030/1 炭化物少量
4 黄褐色土 10035/6 茶色土ブロック多量

第43号土坑

1 黄褐色土 10032/1 炭褐色土粒子多量
2 にない黄褐色土 10035/3 石灰土ブロック含む



第415図 土坑(21)

第438号土坑 (第416図)

西区二面のF-25グリッドに位置する。北東側の第439号土坑を切って造られている。平面形は方形で、規模は長径140cm、短径110cm、深さ20.1cmである。長軸方向は、N-41°-Wである。

出土遺物は、土師器甕を検出した。

第439号土坑 (第416図)

西区二面のF-25グリッドに位置する。南西側の第438号土坑に切られている。平面形は方形で、規模は長径104cm、短径90cm、深さ30.3cmである。長軸方向は、N-50°-Eである。

出土遺物は、土師器甕を検出した。

第440号土坑 (第416図)

西区二面のG-24グリッドに位置する。西側の第344号溝跡に切られる。平面形は方形で、規模は長径164cm、短径86cm、深さ12.1cmである。長軸方向は、N-8°-Eである。

出土遺物は、底部に「×」のヘラ記号をもつ須恵器環、土師器の北武蔵型環を検出した。

第441号土坑 (第416図)

西区二面のG-24グリッドに位置する。東側の第344号溝跡に切られる。平面形は方形で、規模は長径164cm、短径94cm、深さ8.4cmである。長軸方向は、N-3°-Eである。

出土遺物は、土師器環・甕の破片を少量検出した。

第442号土坑 (第416図)

西区二面のG-24・25グリッドに位置する。西側は第344号溝跡、東側は第2号溝跡に切られている。平面形は方形で、残存する規模は長径170cm、短径96cm、深さ15.3cmである。

出土遺物は、第413図に図示した土師器模倣環を検出した。

第443号土坑 (第416図)

西区二面のG-23・24グリッドに位置する。東側を第2号溝跡に切られる。平面形は方形で、残存する規模は長径210cm、短径140cm、深さ18cmである。長軸方向は、N-2°-Eである。

出土遺物は、土師器の北武蔵型環、第413図に図示した土師器皿を検出した。

第444号土坑 (第416図)

西区二面のG-23・24グリッドに位置する。第443号土坑の南側にあたる。東側を第2号溝跡に切れ、西側は第440号土坑に切られる。平面形は円形で、規模は長径168cm、短径100cm、深さ2.4cmである。長軸方向は、N-2°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第446号土坑 (第416図)

西区二面のG-27グリッドに位置する。西側は第4号溝跡、北側は第478号溝跡に切られる。平面形は方形で、規模は長径70cm、短径46cm、深さ9cmである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第447号土坑 (第416図)

西区二面のG-27グリッドに位置する。北側は第460号溝跡、南側には第478号溝跡、西側には第4号溝跡が切り込む。平面形は円形と推定される。残存する規模は長径64cm、短径60cm、深さ18.2cmである。長軸方向は、N-80°-Wである。

出土遺物は、土師器の続比企型環・甕を検出した。

第448号土坑 (第416図)

西区二面のE・F-20グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径118cm、短径108cm、深さ63cmである。長軸方向は、N-69°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第449号土坑 (第416図)

西区二面のE-21グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径100cm、短径86cm、である。長軸方向は、N-71°-E深さ64cmである。

出土遺物は、土師器の有段口縁環を検出した。

第450号土坑 (第384図)

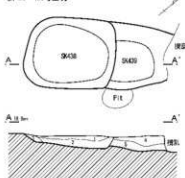
東区のK-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は径92cm、深さ14cmである。

出土遺物は、土師器環・甕の破片を少量検出した。

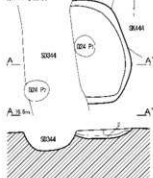
第451号土坑 (第417図)

東区のK-26グリッドに位置する。平面形は楕円

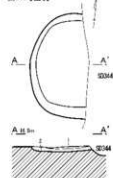
第438・439号土坑



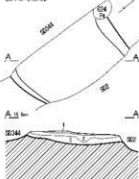
第440号土坑



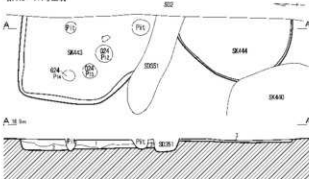
第441号土坑



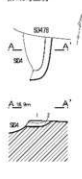
第442号土坑



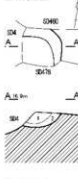
第443・444号土坑



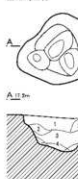
第445号土坑



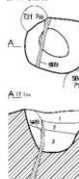
第447号土坑



第448号土坑



第449号土坑



第438号土坑

- 1 黄褐色土
- 2 灰褐色土
- 3 褐色土

第439号土坑

- 1 黄褐色土
- 2 灰褐色土
- 3 褐色土

第440号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土

第441号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土
- 3 褐色土

第442号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土
- 3 褐色土

第443号土坑

- 1 黄褐色土 (少量)
- 2 灰褐色土 (粒状多量)
- 3 褐色土

第444号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土

第445号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土

第447号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土

第448号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土

第449号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土

第443号土坑

- 1 黄褐色土
- 2 褐色土

第444号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土

第445号土坑

- 1 黄褐色土
- 2 灰褐色土

第447号土坑

- 1 黄褐色土
- 2 褐色土

第448号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土

第449号土坑

- 1 黄褐色土
- 2 灰褐色土

第443号土坑

- 1 黄褐色土
- 2 褐色土

第444号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土

第445号土坑

- 1 黄褐色土
- 2 灰褐色土

第447号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土

第448号土坑

- 1 灰褐色土
- 2 灰褐色土

第449号土坑

- 1 黄褐色土
- 2 灰褐色土

0 2m 1:10

形で、規模は長径102cm、短径70cm、深さ16.6cmである。長軸方向は、N-84°-Wである。

出土遺物は、土師器環の破片を検出した。

第452号土坑 (第417図)

東区のM-21グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径152cm、短径108cm、深さ15.5cmである。長軸方向は、N-35°-Wである。

出土遺物は、羽釜、須恵器環の破片を検出した。

第453号土坑 (第417図)

東区のM-22グリッドに位置する。本土坑は第454号土坑を切り込んで造られている。平面形は方形で、規模は長径78cm、短径58cm、深さ16.2cmである。長軸方向は、N-67°-Eである。

出土遺物は、須恵器高台付埴の破片を検出した。

第454号土坑 (第417図)

東区のM-22グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径150cm、短径56cm、深さ64.3cmで、北側が一段深く掘り込まれている。長軸方向は、N-25°-Wである。

出土遺物は、土師器甕・壺の破片を検出した。

第455号土坑 (第417図)

東区のJ-26グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径138cm、短径56cm、深さ36.4cmである。長軸方向は、N-82°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第456号土坑 (第417図)

東区のJ-21グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径122cm、短径78cm、深さ5.2cmである。長軸方向は、N-79°-Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第457号土坑 (第417図)

東区のJ-21グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径104cm、短径86cm、深さ13cmである。長軸方向は、N-15°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第458号土坑 (第417図)

東区のJ-21グリッドに位置する。平面形は方形

で、規模は長径78cm、短径48cm、深さ8.8cmである。長軸方向は、N-3°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第459号土坑 (第417図)

東区のK-21グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径100cm、短径94cm、深さ10.5cmである。長軸方向は、N-25°-Eである。

出土遺物は、須恵器・土師器甕の破片を検出した。

第460号土坑 (第417図)

東区のK-22グリッドに位置する。平面形は不整長方形で、規模は長径194cm、短径88-112cm、深さ16.6cmである。長軸方向は、N-85°-Eである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第462号土坑 (第417図)

東区のI-21グリッドに位置する。南北方向に走る第504号溝跡を切り込んで造られている。平面形は方形で、規模は長径186cm、短径152cm、深さ92.8cmである。長軸方向は、N-8°-Eである。

出土遺物は、高環の脚部破片を第413図に図示した。この他に土師器模倣環の破片を検出した。

第463号土坑 (第417図)

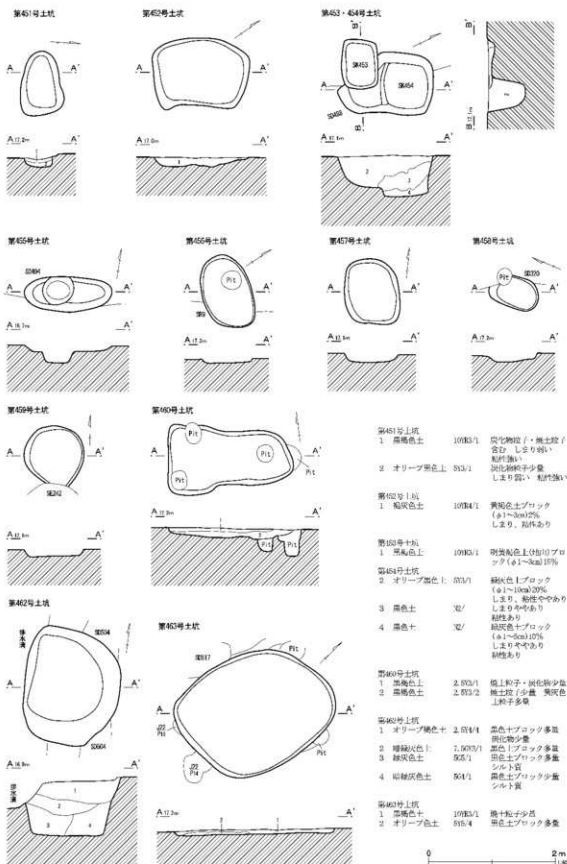
東区のJ-21・22グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径230cm、短径186cm、深さ12cmである。長軸方向は、N-13°-Wである。

出土遺物は、平安後期と考えられる。第413図22は内黒土器で器壁薄く、内面は黒色処理されておりミガキを施す。外面にはふい黄橙色で、口縁部ヨコナテ、底部ヘラケズリを施している。24は須恵器の高台付埴である。酸化焙焼成され色調は橙色。23は土師器環である。25は口縁部の屈曲が弱い「し」の字状と呼ばれる土師器甕である。

第464号土坑 (第418図)

東区のL-21グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径78cm、短径50cm、深さ11.3cmである。長軸方向は、N-22°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。



第417図 土坑 (23)

第465号土坑 (第418図)

東区のM-20グリッドに位置する。東側は調査区域外に伸びる。平面形は方形で、検出された規模は長径72cm、短径58cm、深さ28.6cmである。長軸方向は、N-19°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第466号土坑 (第418図)

東区のL-22グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径92cm、短径46cm、深さ9.9cmである。長軸方向は、N-64°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第467号土坑 (第418図)

東区のM-20グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径60cm、短径56cm、深さ63.5cmである。長軸方向は、N-9°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第468号土坑 (第418図)

東区のK-22グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径262cm、短径94cm、深さ13.9cmである。長軸方向は、N-68°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第469号土坑 (第418図)

東区のK-21・22グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径162cm、短径120cm、深さ68.7cmである。長軸方向は、N-63°-Eである。

出土遺物は、9世紀初頭の須恵器環、土師器環の破片を検出した。

第470号土坑 欠番

第471号土坑 (第418図)

東区のJ-22グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径130cm、短径102cm、深さ79.2cmである。長軸方向は、N-76°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第472号土坑 (第418図)

東区のJ-23グリッドに位置する。西側は調査区域外に伸びる。平面形は方形で、規模は長径154cm、短径88cm、深さ24.2cmである。長軸方向は、N-28°

-Eである。

出土遺物は、底部外面に「一」の髑髏きか施されている須恵器環を検出した。

第473号土坑 (第418図)

東区のI・J-22グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径74cm、短径68cm、深さ26.8cmである。長軸方向は、N-30°-Eである。

出土遺物は、灰釉陶器を検出した。

第474号土坑 (第418図)

東区のJ-23グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径72cm、短径64cm、深さ24.7cmである。長軸方向は、N-70°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第475号土坑 (第418図)

東区のK-22グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径78cm、短径54cm、深さ5.9cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、土師器製の破片を少量検出した。

第476号土坑 (第418図)

東区のK-22グリッドに位置する。平面形は不整楕円形で、規模は長径100cm、短径94cm、深さ11.2cmである。長軸方向は、N-30°-Wである。

出土遺物は、須恵器高台付碗の破片を検出した。

第477号土坑 (第418図)

東区のJ-23グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径72cm、短径70cm、深さ29.1cmである。長軸方向は、N-20°-Eである。

出土遺物は、土師器製の破片を検出した。

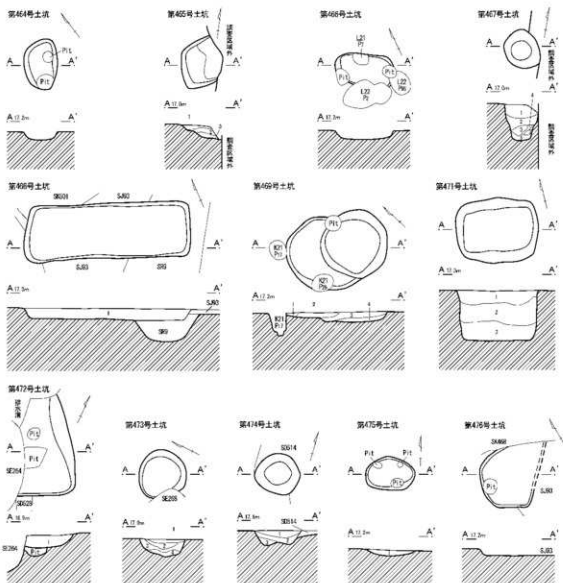
第478号土坑 (第418図)

東区のM-22グリッドに位置する。第130号溝跡の上面に確認された。平面形は長方形で、規模は長径196cm、短径62cm、深さ5.8cmである。長軸方向は、N-35°-Wである。

出土遺物は、土師器製の破片を検出した。

第479号土坑 (第418図)

東区のM-21グリッドに位置し、第452号土坑・第488号溝跡に切られている。平面形は方形で、規模は



第466号土坑
 1 褐色土 10YR5/1 しまりあり 粘性ややあり
 2 にいり黄色土 2.5Y6/4 しまり、粘性ややあり
 3 にいり灰色土 2.5Y6/4 しまり強い 粘性あり

第467号土坑
 1 高褐色土 10YR3/1 高褐色土穴付 しまりやや強い 粘性あり
 2 灰サリープ色土 5Y4/2 埋山土と高褐色土混合層
 3 灰サリープ色土 5Y4/2 埋山土穴付、埋山ブロック埋積
 4 高褐色土 10YR3/1 粘質土 しまりやや強い
 5 黒色土 10YR2/1 粘質土 しまりやや強い

第468号土坑
 1 暗灰色土 10YR2/2 黄褐色土ブロック多量

第469号土坑
 1 褐色土 10YR4/6 通し粒子少量
 2 褐色土 10YR4/6 塊土粒少量
 3 にいり黄褐色土 10YR4/2 黄褐色土粒子少量
 4 黄褐色土 10YR3/6 黄褐色土ブロック多量

第471号土坑
 1 暗灰色土 10YR3/4 黄褐色土ブロック多量
 2 黒色土 10YR2/1 黄褐色土ブロック多量
 3 埋積灰色土 7.5Y3/1 赤色土ブロック少量 シルト質

第472号土坑
 1 暗褐色土 10YR2/2 黄褐色土(埋山)ブロック少量 しまりやや強い、粘性ややあり

第473号土坑
 1 黄褐色土 10YR4/1 黄褐色土粒子埋積 しまりやや強い、粘性弱い
 2 高褐色土 10YR3/1 黄褐色土(埋山)ブロックとの混合層 しまりやや強い、粘性ややあり
 3 高褐色土 10YR3/1 黄褐色土粒(穴付) しまりやや強い、粘性ややあり
 4 高褐色土 10YR3/1 高褐色土ブロックに黄褐色土(埋山)ブロック混入 しまりやや強い、粘性なし

第474号土坑
 1 埋積褐色土 10YR3/3 塵土粒子・炭化物少量
 2 褐色土 10YR2/1 灰土混合層 黄褐色土ブロック少量
 3 暗褐色土 10YR3/2 炭化物少量

第475号土坑
 1 暗褐色土 7.5Y3/1 黄褐色土(埋山)ブロック(φ1~2m)5%



第418図 土坑 (24)

長径108cm、短径72cm、深さ35.9cmである。長軸方向は、N-3°-Wである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。栗のようなイガの付いた種子が出土した。

第480号土坑 (第419図)

東区のL-22グリッドに位置する。第496号土坑を切って造られている。平面形は長方形で、規模は長径196cm、短径90cm、深さ101.8cmである。長軸方向は、N-25°-Eである。

出土遺物は、土師器、暗文環の破片を検出した。

第481号土坑 (第419図)

東区のL-22グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径60cm、短径54cm、深さ11cmである。長軸方向は、N-78°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第482号土坑 (第419図)

東区のJ-22グリッドに位置する。北側と東側には第513号溝跡によって切られている。また、南側は第174号井戸跡によって切られている。本土坑は浅く平面形は不整形で、規模は長径318cm、短径282cm、深さ14.8cmである。長軸方向は、N-48°-Eである。

出土遺物は、底部外周へラケズリの須恵器環と糸切り離しの環を伴件させる。この他に須恵器甕・高台付埴の破片を少量検出した。

第483号土坑 (第419図)

東区のL-22グリッドに位置する。第482号土坑の東側にあたり、北側は第260号井戸跡、南側は第174号井戸跡によって切られている。平面形は長方形で、規模は長径150cm、短径118cm、深さ33.8cmである。長軸方向は、N-2°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・甕、土師器の「コ」の字状口縁甕の破片を検出した。

第484号土坑 (第421図)

東区のK・L-22グリッドに位置する。東側の第262号井戸跡に切られている。平面形は隅丸長方形で、規模は長径294cm、短径90cm、深さ15.3cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、須恵器環の破片を少量検出した。

第485号土坑 (第421図)

東区のM-22・23グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径106cm、短径72cm、深さ15cmである。長軸方向は、N-29°-Wである。

出土遺物は、須恵器高台付埴の破片を検出した。

第486号土坑 (第421図)

東区のM-22グリッドに位置する。第487号土坑に切り込まれている。平面形は方形で、規模は長径90cm、短径80cm、深さ12.5cmである。長軸方向は、N-42°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第487号土坑 (第421図)

東区のM-22グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径254cm、短径94cm、深さ16.5cmである。長軸方向は、N-42°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第488号土坑 (第421図)

東区のI・J-22グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径154cm、短径128cm、深さ86.8cmである。長軸方向は、N-38°-Eである。

出土遺物は、底部外面に黒書をもつ須恵器環・盤を検出した。

第489号土坑 (第421図)

東区のL-22グリッドに位置する。平面形は正方形で、規模は長径122cm、短径112cm、深さ18.8cmである。長軸方向は、N-20°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第490号土坑 欠番

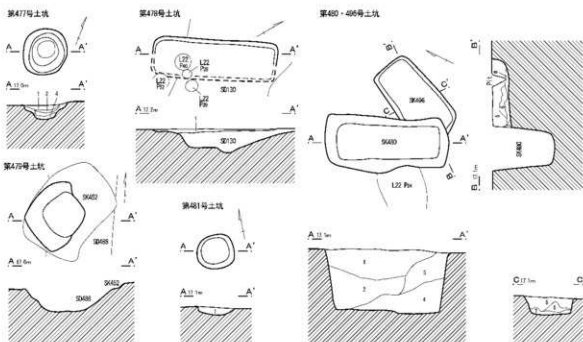
第491号土坑 (第421図)

東区のJ-22グリッドに位置する。南側は第513号溝跡によって切られている。平面形は円形で、規模は長径94cm、短径50cm、深さ13.8cmである。長軸方向は、N-84°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第492号土坑 (第421図)

東区のK-22グリッドに位置する。平面形は円形



第477号土坑

第478号土坑

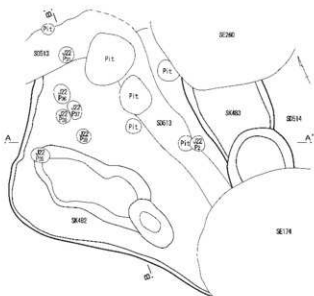
第480・486号土坑

第479号土坑

第481号土坑

第482号土坑

第483号土坑



- 第477号土坑
- 1 黒色土 10YR1/1 炭化物粒子多量 粘土粒子少量
しまりややあり 粘性強、海・河層
 - 2 赤色土 10YR1/1 炭化物・粘土粒子少量 しまりややあり
粘性強、
 - 3 黒褐色土 10YR2/2 海山ブロック・粘土粒下少量
しまりやや強、粘性あり
 - 4 黒褐色土 10YR2/2 海山ブロック少量 しまりやや強、
粘性あり

- 第479号土坑
- 1 黒褐色土 10YR3/1 黒褐色土(海山)ブロック(φ1~2cm)10%
しまりあり 粘性ややあり

- 第480号土坑
- 1 暗灰色土 5Y/ romeブロック(φ1~10cm)10%
しまりあり 粘性ややあり
 - 2 暗灰色土 5Y/ 腐敗性粘質土上ブロック(φ1~10cm)30%
しまり強、粘性強、
 - 3 暗灰色土 5Y/ romeブロック(φ1~10cm)15%
しまり強、粘性強、
 - 4 赤色土 5Y/ しまり強、粘性強、

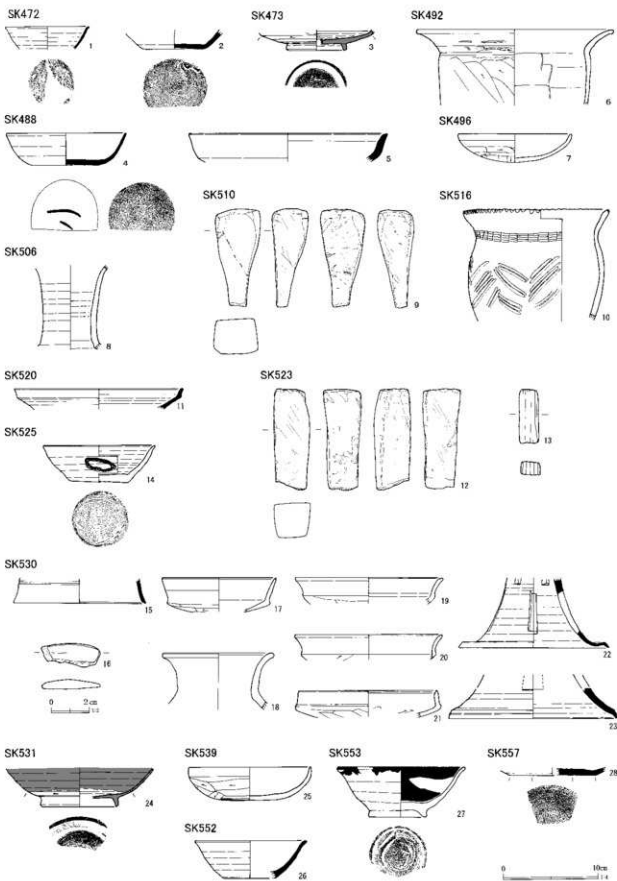
- 第481号土坑
- 1 褐色土 7.5YR4/3 粘土粒下(φ1~2mm)3% しまりあり
粘性ややあり
 - 2 暗灰色土 10Y1/1 粘土ブロック(φ3~8mm)5%
炭化物粒子(φ3~10mm)3%
しまり、粘性あり
 - 3 暗灰色土 7.5YR1/1 炭化物層 しまり強、粘性なし

- 第483号土坑
- 1 黒褐色土 7.5YR2/1 粘土粒下(φ1~4cm)7% しまりあり
粘性ややあり

- 第482号土坑
- 1 黒褐色土 10YR3/1 黒褐色土粒子少量 炭化物多量
 - 2 褐色土 10YR4/6 炭化物粒子多量
- 第483号土坑
- 3 暗灰色土 10YR3/2 黄褐色土粒下・粘土粒下多量
 - 4 黒褐色土 10YR2/2 炭化物少量 粘土粒子多量
 - 5 褐色土 10YR4/4 炭化物少量 黄褐色土粒下多量 粘性強、



第419図 土坑 (25)



第420号 土坑出土遺物 (9)

で、規模は長径76cm、短径64cm、深さ7.3cmである。長軸方向は、N-34°Eである。壁面の被熱は顕著ではないが、覆土中に焼土・炭化物を伴い焼成土坑の可能性が考えられる。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第493号土坑（第422図）

東区のK-22グリッドに位置する。第484号土坑に類似する。平面形は長方形で、規模は長径262cm、短径88cm、深さ10.4cmである。長軸方向は、N-3°Eである。

出土遺物は、須恵器・土師器環の破片を検出した。

第494号土坑（第422図）

東区のL-23グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径136cm、短径82cm、深さ15cmである。長軸方向は、N-46°Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第495号土坑（第422図）

東区のK・L-23グリッドに位置する。西側は第287号溝跡によって切られている。平面形は円形で、規模は長径126cm、短径86cm、深さ14.9cmである。長軸方向は、N-25°Wである。

出土遺物は、須恵器環・甕の破片を検出した。

第496号土坑（第419図）

東区のL-22グリッドに位置し、第480号土坑に切られている。平面形は長方形で、規模は長径148cm、短径76cm、深さ28.8cmである。長軸方向は、N-25°Wである。

出土遺物は、土師器の北武蔵型環、須恵器環身の破片を検出した。

第498号土坑（第422図）

東区のJ-23グリッドに位置する。南側半分をビッドによって切られる。平面形は楕円形で、規模は長径154cm、短径96cm、深さ10cmである。長軸方向は、N-5°Wである。土坑南側の底面には焼土や炭化材が検出され焼成土坑と同じ覆土をもつ。

出土遺物は、底部回転ヘラケズリを施す須恵器環や土師器甕の破片を検出した。

第499号土坑（第422図）

東区のM-21・22グリッドに位置する。北側は第130号溝跡に切られる。平面形は長方形で、規模は長径170cm、短径94cm、深さ18.2cmである。長軸方向は、N-5°Wである。

出土遺物は、須恵器環・高台付埴を検出した。

第500号土坑（第422図）

東区のK-23グリッドに位置する。平面形は長楕円形で、規模は長径172cm、短径80cm、深さ12.5cmである。長軸方向は、N-5°Eである。

出土遺物は、須恵器甕、土師器環・甕を検出した。

第501号土坑（第422図）

東区のK-22グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径156cm、短径116cm、深さ11.6cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、検出できなかった。

第502号土坑（第422図）

東区のM-23グリッドに位置する。第524号溝跡を切り込んで造られている。平面形は不整形で、規模は長径76cm、短径60cm、深さ7.3cmである。長軸方向は、N-82°Wである。

出土遺物は、土師器の北武蔵型環、須恵器甕の破片を検出した。

第503号土坑（第422図）

東区のM-22グリッドに位置する。北東側は第130号溝跡に切られる。平面形は長方形で、規模は長径216cm、短径140cm、深さ20.6cmである。長軸方向は、N-23°Wである。

出土遺物は、須恵器高台付埴の破片を検出した。

第504号土坑（第422図）

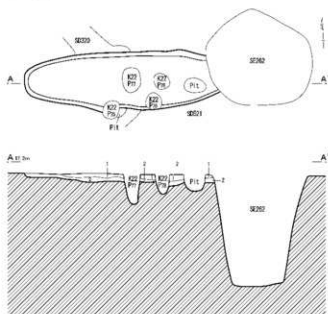
東区のK-23グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径106cm、短径80cm、深さ4.3cmである。長軸方向は、N-30°Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

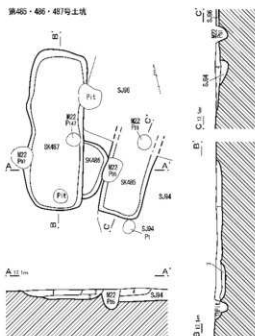
第505号土坑（第422図）

東区のJ-23グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径70cm、短径58cm、深さ11.9cmである。

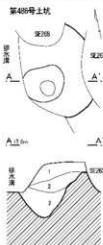
第404号土坑



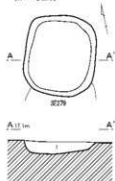
第405・406・407号土坑



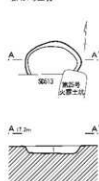
第408号土坑



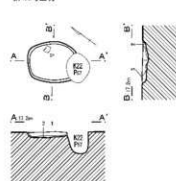
第409号土坑



第411号土坑



第492号土坑



第591号土坑

1 黄褐色土 10R3/2 黄褐色土ブロック・炭化物少量
2 黄褐色土 10R3/8 ブロック1体

第407号土坑

1 黄褐色土 7.0R3/1 ロームブロック(φ1~10cm)35% しまりあり
粘性ややあり

第406号土坑

1 黄褐色土 7.0R3/2 ロームブロック(φ1~2cm)15% しまり、粘性あり

第405号土坑

1 黄褐色土 7.0R3/1 しまりあり 粘性強い
2 黄褐色土 10R3/1 ロームブロック(φ1~2cm)1% しまりあり
粘性ややあり

第404号土坑

1 黄褐色土 2.0Y3/1 炭土粒子・炭化物少量
2 粘黄褐色土 5R3/1 炭土粒子(少量)炭化物少量
3 黄褐色土 5R3/1 炭土上粒子少量

第409号土坑

1 灰黄褐色土 10R4/2 黄褐色粘土ブロック(φ8~10cm)多量
炭化物・焼土粒子少量

第411号土坑

1 黄褐色土 10R3/1 炭褐色土粒子少量

第492号土坑

1 褐色土 10R3/4 黄褐色粘土粒子少量
2 黄褐色土 10R3/6 炭化物多量 焼土粒子少量
3 暗赤褐色土 2.0Y3/6 粘土ブロック多量



第421図 土坑 (26)

長軸方向は、N-86-Eである。

出土遺物は、土師器北武蔵型環の破片を検出した。

第506号土坑 (第422図)

東区のK-23グリッドに位置する。南側は第289号井戸跡に切られる。平面形は円形で、規模は長径119cm、短径70cm、深さ17.9cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、須恵器環・長頸瓶の破片を検出した。

第507号土坑 (第423図)

東区のJ-23グリッドに位置する。周辺にはピットが多く所在し、本土坑はピットに切られている。平面形は長方形で、規模は長径100cm、短径54cm、深さ16.4cmである。長軸方向は、N-42°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第508号土坑 (第423図)

東区のM-23グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径74cm、短径70cm、深さ9.3cmである。長軸方向は、N-68°-Wである。

出土遺物は、内黒土器の破片を検出した。

第509号土坑 (第423図)

東区のL-22・23グリッドに位置する。南側の第510号土坑に切られている。平面形は円形で、規模は長径70cm、短径70cm、深さ36cmである。長軸方向は、N-66°-Eである。

出土遺物は、土師器甕・環・皿の破片を検出した。

第510号土坑 (第423図)

東区のL-22・23グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径164cm、短径56cm、深さ23.1cmである。長軸方向は、N-13°-Wである。

出土遺物は、須恵器高台付埴、砥石を検出した。

第511号土坑 (第423図)

東区のL-22・23グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径96cm、短径56cm、深さ15.7cmである。長軸方向は、N-14°-Wである。

出土遺物は、須恵器高台付埴の破片を検出した。

第512号土坑 (第423図)

東区のL-23グリッドに位置する。平面形は長方

形で、規模は長径130cm、短径48cm、深さ16.1cmである。長軸方向は、N-58°-Eである。

出土遺物は、須恵器環などの破片を検出した。

第513号土坑 (第423図)

東区のL-23グリッドに位置する。東側は第1号道路状遺構によって切られる。平面形は円形と考えられる。規模は長径98cm、短径56cm、深さ3.3cmである。長軸方向は、N-10°-Wである。

出土遺物は、土師器皿・環の破片を検出した。

第514号土坑 (第423図)

東区のK-22グリッドに位置する。北側には第530号溝跡が切り込む。平面形は円形で、規模は長径58cm、短径44cm、深さ5.9cmである。長軸方向は、N-79°-Wである。

出土遺物は、土師器環の破片を検出した。

第515号土坑 (第423図)

東区のJ・K-25グリッドに位置する。本土坑の東側には第540号土坑が南北方向に切り込んでい。平面形は円形で、規模は長径120cm、短径114cm、深さ11.5cmである。長軸方向は、N-36°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・甕の破片を検出した。

第516号土坑 (第423図)

東区のJ-24グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径142cm、短径132cm、深さ20.4cmである。長軸方向は、N-60°-Wである。

出土遺物は、土師器甕を検出した。口縁部には工具によるキザミを施し、頸部には櫛による4本一単位の簾状文が巡る。胴部には篋による縦羽状文が施される。

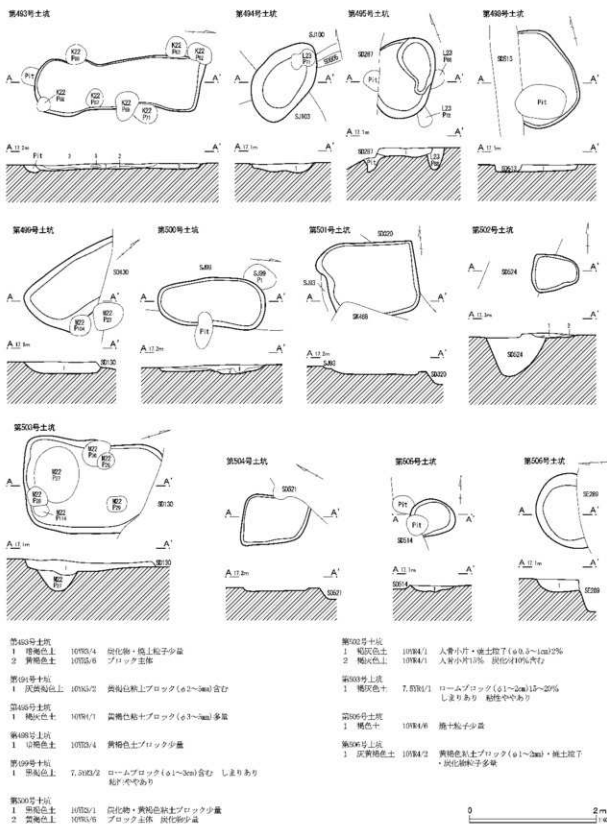
第517号土坑 (第423図)

東区のJ・K-24グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径115cm、短径108cm、深さ11.9cmである。長軸方向は、N-81°-Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を少量検出した。

第518号土坑 (第423図)

東区のJ-22・23グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径152cm、短径118cm、深さ10.9



第422図 土坑 (27)

cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第519号土坑（第423図）

東区のJ・K-23グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径160cm、短径96cm、深さ13.5cmである。長軸方向は、N-85°-Wである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第520号土坑（第424図）

東区のM-24グリッドに位置する。北東側は第524号溝跡を切り込んで造られている。平面形は楕円形で、規模は長径130cm、短径84cm、深さ5.8cmである。長軸方向は、N-47°-Eである。

出土遺物は、須恵器高盤の口縁部破片、土師器北武藏型環の破片を少量検出した。

第521号土坑（第424図）

東区のL-24グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径84cm、短径76cm、深さ27.3cmである。長軸方向は、N-50°-Wである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第522号土坑（第424図）

東区のK-24グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径170cm、短径120cm、深さ12.8cmである。長軸方向は、N-38°-Eである。

出土遺物は、須恵器高台付埴の破片を検出した。

第523号土坑（第424図）

東区のK-25グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径140cm、短径94cm、深さ58.9cmである。長軸方向は、N-10°-Wである。

出土遺物は、土師器甕、磁石、木製品を検出した。

第524号土坑（第424図）

東区のK-25グリッドに位置する。平面形は長楕円形で、規模は長径158cm、短径83cm、深さ22.5cmである。長軸方向は、N-86°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・甕の破片を検出した。

第525号土坑（第424図）

東区のK-25グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径238cm、短径60cm、深さ24.7cmであ

る。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第526号土坑（第424図）

東区のN-23グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径96cm、短径60cm、深さ22.8cmである。長軸方向は、N-55°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第527号土坑（第424図）

東区のK-25グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径135cm、短径54cm、深さ11.6cmである。長軸方向は、N-52°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第528号土坑（第424図）

東区のK-24グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径104cm、短径84cm、深さ6.8cmである。長軸方向は、N-3°-Wである。

出土遺物は、土師器模倣環の破片を検出した。

第529号土坑（第424図）

東区のK-24グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径182cm、短径130cm、深さ6cmである。長軸方向は、N-66°-Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

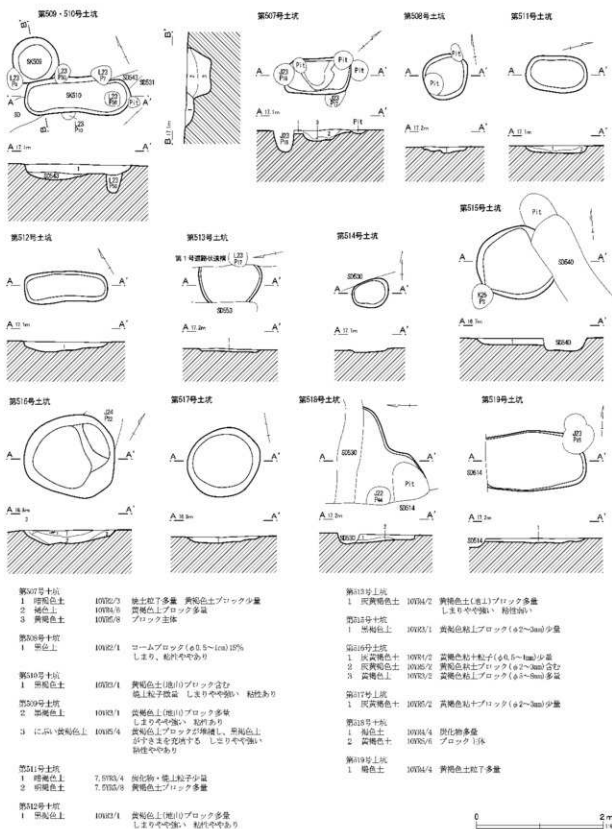
第530号土坑（第424図）

東区のK-24グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径332cm、短径130~160cm、深さ27.6cmである。長軸方向は、N-83°-Eである。

出土遺物は、須恵器は、口唇部内面に浅い沈線が巡る坏蓋、長脚二段透かしの高坏脚部・甕・壺の破片を検出した。土師器は、口縁部と体部との稜がしっかりした推定口径12.0cmの模倣環、やや稜のだれる推定口径15.6cmの模倣環、口唇部内面に沈線をもつ身模倣環を検出した。この他に石製模倣品の破片を検出した。

第531号土坑（第425図）

東区のM-25グリッドに位置する。北側の第267号井戸跡に切り込まれ、南側の第532号土坑を切り込んでいる。平面形は長方形で、規模は長径306cm、



- 第502号土坑
1 暗褐色土
2 褐色土
3 黄褐色土
- 第503号土坑
1 赤色土
- 第504号土坑
1 黄褐色土
2 赤褐色土
3 濃い黄褐色土
- 第505号土坑
1 赤褐色土
2 赤褐色土
3 濃い黄褐色土
- 第506号土坑
1 赤褐色土
- 第509号土坑
1 暗褐色土
2 赤褐色土
3 濃い黄褐色土
- 第511号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
- 第512号土坑
1 赤褐色土
- 第513号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土
- 第514号土坑
1 赤褐色土
- 第516号土坑
1 赤褐色土
2 赤褐色土
3 黄褐色土
- 第518号土坑
1 赤褐色土
2 赤褐色土
3 黄褐色土
- 第519号土坑
1 暗褐色土
- 第507号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土
- 第508号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土
- 第510号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土
- 第512号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土
- 第513号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土
- 第514号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土
- 第515号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土
- 第516号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土
- 第517号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土
- 第518号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土
- 第519号土坑
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 黄褐色土

第423図 土坑 (28)

短径222cm、深さ17.3cmである。長軸方向は、N-40°-Wである。

出土遺物は、灰軸陶器壺の破片を検出した。

第532号土坑 (第425図)

東区のM-25グリッドに位置する。北側の第531号土坑に切られている。平面形は円形で、規模は長径88cm、短径70cm、深さ43.2cmである。長軸方向は、N-50°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・甕の破片を検出した。

第533号土坑 (第425図)

東区のJ-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径60cm、短径58cm、深さ13.5cmである。長軸方向は、N-1°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第534号土坑 (第425図)

東区のL-23グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径94cm、短径47cm、深さ5.9cmである。長軸方向は、N-68°-Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第535号土坑 (第425図)

東区のL-23グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径53cm、短径48cm、深さ12.5cmである。長軸方向は、N-80°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第536号土坑 (第425図)

東区のL-25グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径130・88cm、短径74・62cm、深さ15.5cmである。長軸方向は、N-5°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第537号土坑 (第425図)

東区のK-23グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径114cm、短径62cm、深さ36cmである。長軸方向は、N-84°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第538号土坑 (第425図)

東区のK-23グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径147cm、短径74cm、深さ11.3cmであ

る。長軸方向は、N-29°-Eである。

出土遺物は、土師器環・甕の破片を検出した。

第539号土坑 (第425図)

東区のL-23グリッドに位置する。西側を第537・538号井戸跡に切られている。平面形は不明で、確認できた規模は長径72cm、短径60cm、深さ11.6cmである。長軸方向は、N-17°-Eである。

出土遺物は、土師器の環を検出した。調整は口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリを施し、形態は底部やや丸底気味の北武蔵型である。

第540号土坑 (第425図)

東区のL-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径90cm、短径76cm、深さ51.1cmである。長軸方向は、N-4°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

第541号土坑 (第425図)

東区のL-25グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径80cm、短径54cm、深さ16.9cmである。長軸方向は、N-73°-Eである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第542号土坑 (第425図)

東区のJ-24グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径88cm、短径28~44cm、深さ12.6cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第543号土坑 (第425図)

東区のL-23グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径75cm、短径26~46cm、深さ9.9cmである。長軸方向は、N-74°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・甕の破片を検出した。

第544号土坑 (第425図)

東区のL-24グリッドに位置する。南側を第489号溝跡に切られている。平面形は楕円形で、規模は長径63cm、短径30cm、深さ11.5cmである。長軸方向は、N-50°-Eである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第545号土坑（第425図）

東区のL-24グリッドに位置する。北側を第489号溝跡に切られている。平面形は円形で、規模は長径72cm、短径40cm、深さ10cmである。長軸方向は、N-60°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・高台付埴の破片を検出した。

第546号土坑（第426図）

東区のL-24グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径78cm、短径42cm、深さ10.6cmである。長軸方向は、N-77°-Eである。

出土遺物は、須恵器高台付埴の破片を検出した。

第547号土坑（第426図）

東区のL-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径80cm、短径58cm、深さ32cmである。長軸方向は、N-70°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第548号土坑（第426図）

東区のM-26グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径74cm、短径64cm、深さ19.8cmである。長軸方向は、N-75°-Wである。

出土遺物は、須恵器甕の破片を検出した。

第549号土坑（第426図）

東区のM-24グリッドに位置する。本土坑は西側を第489号溝跡に切られている。平面形は円形で、残存する規模は長径50cm、短径32cm、深さ14.1cmである。長軸方向は、N-39°-Eである。

出土遺物は、須恵器甕・高台付埴を検出した。

第550号土坑（第426図）

東区のM-23・24グリッドに位置する。西側を第487号溝跡に切られている。平面形は円形で、残存する規模は長径100cm、短径42cm、深さ8.4cmである。長軸方向は、N-5°-Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第551号土坑（第426図）

東区のL-24グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径80cm、短径20~40cm、深さ16cmで

ある。長軸方向は、N-19°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第552号土坑（第426図）

東区のM-25グリッドに位置する。平面形は楕円形で、規模は長径105cm、短径69cm、深さ51.5cmである。長軸方向は、N-22°-Wである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第553号土坑（第426図）

東区のM-24グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径75cm、短径55cm、深さ38.8cmである。長軸方向は、N-9°-Wである。

出土遺物は、口縁部から底部にかけての内および口縁部外面に油煙が付着している須恵器高台付埴を検出した。

第554号土坑（第426図）

東区のN-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径96cm、短径86cm、深さ18cmである。長軸方向は、N-85°-Wである。

出土遺物は、須恵器甕の破片を検出した。

第555号土坑（第426図）

東区のN-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径84cm、短径68cm、深さ9cmである。長軸方向は、N-84°-Eである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第556号土坑（第426図）

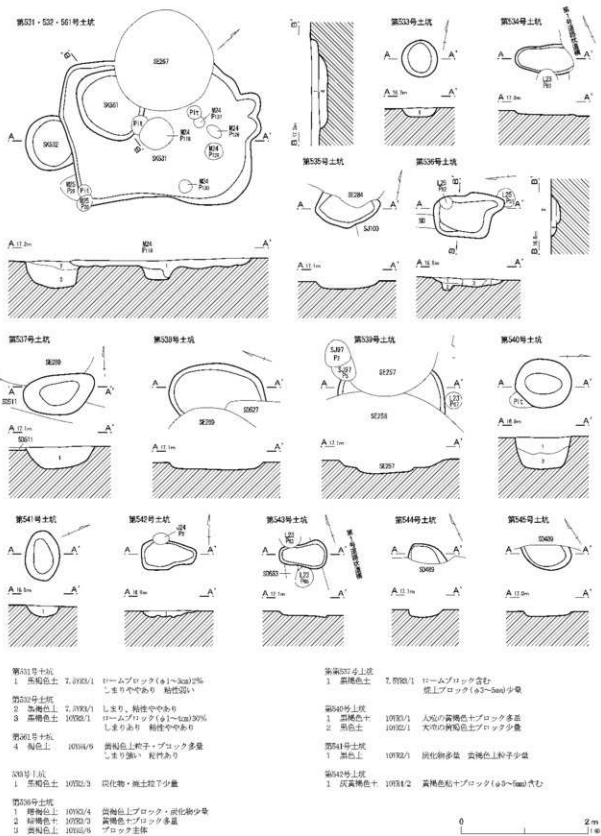
東区のN-25グリッドに位置する。東側の第273号井戸跡、南側の第272号井戸跡によって切られる。平面形は円形で、規模は長径80cm、短径50cm、深さ9.3cmである。長軸方向は、N-52°-Eである。

出土遺物は、検出できなかった。

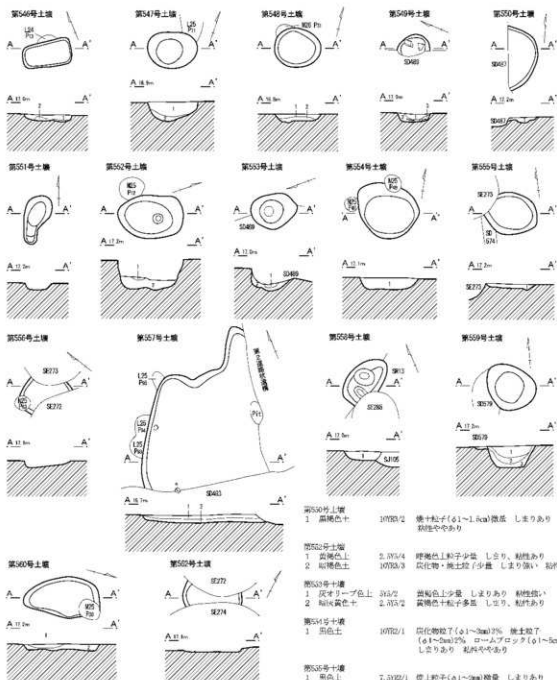
第557号土坑（第426図）

東区のL-25グリッドに位置する。東側は第2号道路状遺構に切られ、南側は第493号溝跡に切られる。平面形は不整形、規模は長径243cm、短径200cm、深さ12.6cmである。長軸方向は、N-22°-Wである。

出土遺物は、底部外周回転ヘラケズリ、中央部に糸切りを残す須恵器環を検出した。



第425図 土坑 (30)



第516号土溝

- 1 赤褐色土 10YR3/2 底土粒子多量 黄褐色土粒子少量 しまりあり 粘性弱い。
2 黄褐色土 10YR5/6 黄褐色土ブロック少量 黄褐色土穴あり しまりあり 粘性強い。

第547号土溝

- 1 赤褐色土 2 3YR/3 灰化物少量
2 黄褐色土 2 10YR/6 黄褐色土ブロック主体

第518号土溝

- 1 赤褐色土 10YR3/2 黄褐色土粒子少量
2 褐色土 10YR3/6 黄褐色土ブロック多量

第519号土溝

- 1 赤褐色土 10YR3/1 灰化物・灰・粘土粒多量 しまり、粘性強い。
2 暗褐色土 10YR3/2 底土粒子、黄褐色土粒子付く しまり強い、粘性あり
3 黄褐色土 10YR5/4 黄褐色土粒多量 しまり、粘性強い。

第530号土溝

- 1 黄褐色土 10YR5/2 赤土粒子(φ1~1.5cm)微量 しまりあり 粘性中あり

第552号土溝

- 1 黄褐色土 2 3Y/4 暗褐色土粒子少量 しまり、粘性あり
2 暗褐色土 10YR3/3 灰化物・粘土粒少量 しまり強い、粘性強い。

第533号土溝

- 1 灰ケラール層上土 3Y5/2 黄褐色土少量 しまりあり 粘性強い。
2 暗褐色土 2 3Y/2 黄褐色土粒子多量 しまり、粘性あり

第544号土溝

- 1 赤土 10YR2/1 灰化物粒(φ1~3mm)2% 粘土粒了(φ1~2mm)2% ロームブロック(φ1.5~5cm)1% しまりあり 粘性ややあり

第535号土溝

- 1 赤土 7.3YR2/1 底土粒子(φ1~3mm)微量 しまりあり 粘性ややあり

第537号土溝

- 1 暗褐色土 10YR3/1 Ab-bと育ちたらしみこみあり 粘土粒少量
2 暗褐色土 10YR3/1 黄褐色土上ブロック(φ0.5~1cm)含む Ab-b微量

第538号土溝

- 1 暗褐色土 10YR3/2 底土粒子少量

第539号土溝

- 1 暗褐色土 10YR3/1 赤土粒子・灰化物少量
2 赤土 10YR2/1 灰化物少量、黄褐色土粒多量
3 黄褐色土 10YR5/4 黄褐色土ブロック多量

第540号土溝

- 1 黄褐色土 10YR2/2 灰化物少量
2 褐色土 10YR4/4 赤土上ブロック少量



第426図 土坑(31)

第558号土坑 (第426図)

東区のN-26グリッドに位置する。南東側の第105号住居跡を切り込んで造られている。平面形は楕円形で、規模は長径84cm、短径54cm、深さ17cmである。長軸方向は、N-57°-Wである。

出土遺物は、検出できなかった。

第559号土坑 (第426図)

東区のM-25グリッドに位置する。平面形は円形で、規模は長径84cm、短径68cm、深さ35.9cmである。長軸方向は、N-40°-Eである。

出土遺物は、須恵器環・高台付埴・甕を検出した。

第560号土坑 (第426図)

東区のM-24グリッドに位置する。平面形は不整形で、規模は長径120cm、短径67cm、深さ9.3cmである。長軸方向は、N-15°-Eである。

第561号土坑 (第425図)

東区のM-24グリッドに位置する。第531号土坑を切り込んで造られている。平面形は円形で、規模は長径120cm、短径78cm、深さ15.7cmである。長軸方向は、N-90°である。

出土遺物は、底部糸切り離しの須恵器環を検出した。

第562号土坑 (第426図)

東区のN-25グリッドに位置する。本土坑は北側の第272号井戸跡、南側の第274号井戸跡に切られている。平面形は円形と考えられ、残存する規模は長径95cm、短径40cm、深さ3.4cmである。長軸方向は、N-60°-Wである。

出土遺物は、須恵器甕の破片を検出した。

焼成遺構

第284号土坑 (第427図)

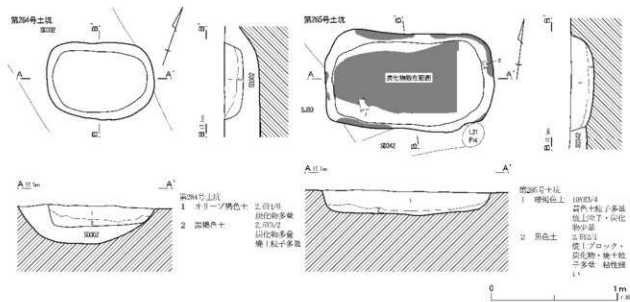
東区のK・L-21グリッドに位置する。第302号溝跡を切り込んで造られている。平面形は方形で、規模は長径84cm、短径62cm、深さ5.4cmである。長軸方向は、N-71°-Wである。

出土遺物は、土師器甕の破片を検出した。

第285号土坑 (第427図)

東区のL-21グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径135cm、短径78cm、深さ18cmである。長軸方向は、N-82°-Wである。壁面は被熱により焼土化している。底面直上の第2層は焼土ブロック、焼土粒子・炭化物を多く含む。

出土遺物は、土師器「コ」の字状口縁の台付甕を



第427図 土坑焼成遺構 (1)

検出した。

第364号土坑 (第428図)

西区二面のH-20グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径114cm、短径64cm、深さ8.3cmである。長軸方向は、N-43°-Eである。覆土には第2層に焼土粒子・炭化粒子を多く含む堆積層が確認される。

出土遺物は、土師器の甕を検出した。

第445号土坑 (第429図)

西区二面のF-26・27グリッドに位置する。平面形は方形で、規模は長径104cm、短径74cm、深さ11.9cmである。長軸方向は、N-10°-Wである。覆土は第2層に焼土粒子を多量に含み、壁際には炭化物が残存する。

出土遺物は、土師器の北武蔵型環を検出した。

第461号土坑 (第429図)

東区のL・M-21グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径93cm、短径58cm、深さ6.2cmで

ある。長軸方向は、N-84°-Wである。覆土には炭化材・焼土粒子を含み、底面直上には炭化材の堆積層を検出した。

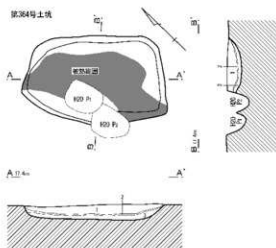
出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。

第497号土坑 (第429図)

東区のM-21グリッドに位置する。東側は調査区域外に伸びる。平面形は長方形で、規模は長径176cm、短径135cm、深さ24.6cmである。長軸方向は、N-79°-Eである。

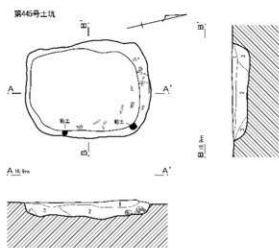
底面直上の覆土は、炭化米層を形成、場所によっては厚さ5cm程度堆積している。炭化米の層は7~8割が炭化米で2~3割が土である。粒の多くは触れると割れるか粉状になるが、中にはしっかりした粒もある。よく観察すると粒には大小があり、やや細めのものもある。土坑底面には炭化米の詰まった小さな窪みが所々に見られ、壁の中にえぐり入り込んでいる箇所もある。

出土遺物は須恵器高台付壺を検出した。



第364号土坑

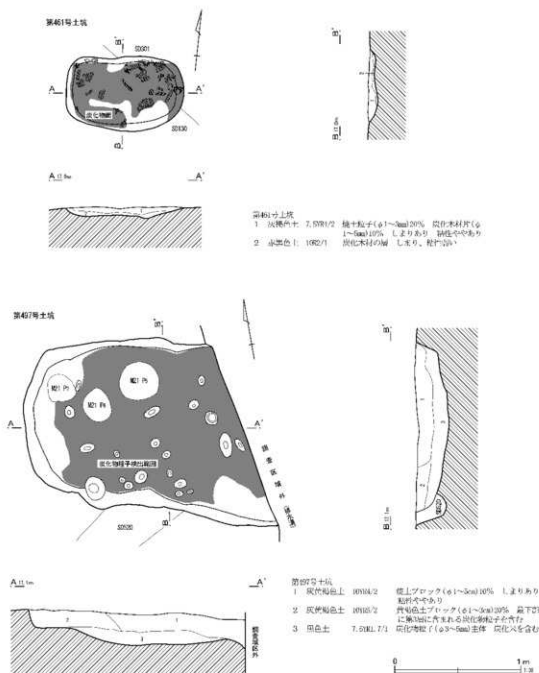
- 1 灰黄褐色土 103H/2 黄褐色中粒多量 焼土粒子・炭化粒粒子少量
しまり、粘性あり
- 2 灰黄褐色土 103H/2 焼土粒子・炭化物粒子多量 しまり、粘性なし
- 3 物理棕色土 103H/3 底上(炭化物層) 黄褐色土粒子少量



第461号土坑

- 1 灰黄褐色土 109K/2 炭化中粒粒子少量 しまり弱い 粘性弱
- 2 灰褐色土 109K/2 炭化物粒子・炭化物ブロック・焼土粒子
多量 武蔵色(和子作) しまりあり
粘性強
- 3 灰褐色土 109K/2 炭化中粒多量 しまり、粘性強

第428図 土坑焼成遺構 (2)



第429図 炭化物・炭化米出土土坑

土坑墓

第322号土坑 (第430図)

西区二面のH-26グリッドに位置する。第362号溝跡を切り込んでいる。平面形は長方形で、規模は長径160cm、短径40cm、深さ16.9cmである。長軸方向は、N-10°-Wである。

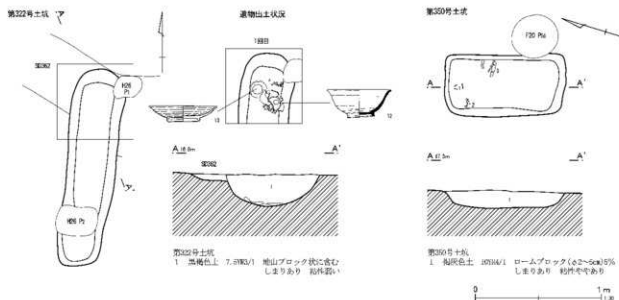
出土遺物は、須恵器高台付壺を検出した。ロクロ整形によりロクロ目がやや粗く凹凸が著しい。底部

は糸切り離し後高台を貼り付けている。また、灰釉陶器皿を検出した。この他覆土中から人の歯を検出した。土坑墓の可能性が高い。

第350号土坑 (第430図)

西区二面のF-20グリッドに位置する。平面形は長方形で、規模は長径97cm、短径54cm、深さ12.8cmである。長軸方向は、N-21°-Eである。

出土遺物は、須恵器環の破片を検出した。



第430図 土坑墓

第111表 土坑出土遺物観察表(1)

検出番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
387	1	SK 196	須忠器	環	—	[1.8]	(6.0)	破片	針 黒粒	普通	灰褐	南北金産	
387	2	SK 196	土師器	片口鉢	(14.0)	[6.6]	—	1/5	雲 白粒	普通	橙	片口状の突出	
387	3	SK 197	土師器	高環	—	[4.2]	—	脚部1/4	雲 石英 砂粒	良好	褐灰	四方返し	
387	4	SK 197	土師器	甕	—	[2.8]	(5.2)	底部破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	橙		
387	5	SK 199	土師器	環	(14.6)	[3.8]	—	1/5	雲 石英 白粒 黒粒	普通	橙	模倣環	
387	6	SK 199	常滑	甕	—	—	—	破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	鈍い・黄褐		221
387	7	SK 199	須忠器	高環	—	[8.6]	(9.8)	脚部1/3	白粒 礫	良好	暗青灰	三方返し, 木野産	182
387	8	SK 202	灰輪陶器	皿	—	[1.4]	(6.7)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	東濃	213
387	9	SK 207	須忠器	甕	(21.0)	[4.6]	—	破片	針 黒粒	良好	暗灰	南北金産	
387	10	SK 207	灰輪陶器	長頸瓶	—	[3.1]	(10.1)	破片	白粒 黒粒	良好	灰白	浜北	216
387	11	SK 208	土師器	環	(12.8)	[3.7]	—	1/4	雲 角 黒粒	普通	鈍い・橙	北武藏型環	
387	12	SK 210	土師器	皿	(18.8)	[3.5]	—	破片	雲 角	良好	橙		
387	13	SK 210	土師器	環	(14.0)	[2.6]	—	破片	白粒 黒粒	良好	鈍い・褐	北武藏型環	
387	14	SK 210	須忠器	環	(13.0)	4.2	(6.0)	破片	白粒 針 黒粒	普通	橙	粘土掻巻土造	
387	15	SK 210	古銭	—	—	—	—	—	—	—	聖徳元寶(北宋)1068年初鋳	212	
387	16	SK 211	須忠器	環	—	[1.2]	(10.0)	底部1/4	雲 赤粒 白粒 針	普通	灰白	南北金産	
387	17	SK 211	須忠器	瓶	—	[5.8]	—	破片	雲 白粒 針	普通	灰	南北金産	
387	18	SK 214	須忠器	環	—	[1.4]	(6.0)	底部1/2	雲 針	普通	鈍い・黄橙		
387	19	SK 214	土師器	甕	(16.0)	[7.3]	—	破片	雲 白粒 黒粒	普通	橙	「コ」の字状口縁	
387	20	SK 215	須忠器	環	—	[2.6]	(5.6)	1/4	赤粒 黒粒	普通	浅黄橙	クロコ土師	
387	21	SK 215	常滑	甕	—	—	—	破片	石英 赤粒	普通	灰赤		
387	22	SK 216	須忠器	環	—	[1.2]	(6.9)	破片	雲 石英 針	普通	普通	南北金産	
387	23	SK 217	土師器	環	(11.0)	[2.5]	—	破片	雲 角 赤 白 黒粒	普通	橙		
387	24	SK 217	土師器	皿	(14.2)	[2.3]	—	破片	雲 角 白粒	普通	明赤褐		
387	25	SK 217	土師器	小型甕	(13.6)	[5.1]	—	破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	褐灰		
387	26	SK 218	在地産	鉢	(34.0)	[3.7]	—	破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	鈍い・黄橙		
390	1	SK 222	須忠器	環	(14.0)	[3.3]	—	破片	雲 白粒 針	良好	灰	南北金産	
390	2	SK 222	土師器	環	(13.0)	[2.3]	—	破片	雲 角 黒粒	普通	橙	北武藏型環	
390	3	SK 228*	須忠器	環	—	[1.9]	8.8	底部2/3	白粒 針	良好	灰白	黒青 南北金産	182
390	4	SK 228	須忠器	環	(11.0)	4.0	(6.0)	1/4	針	良好	灰	南北金産	
390	5	SK 228	須忠器	環	—	[2.0]	(7.0)	底部破片	白粒 針 黒粒	普通	鈍い・黄褐	南北金産	
390	6	SK 228	須忠器	蓋	—	[3.2]	—	1/4	雲 白粒 針	良好	黄灰	南北金産	219
390	7	SK 252	灰輪陶器	長頸瓶	—	[8.5]	—	頸部1/2	白粒 黒粒	良好	灰白	浜北	
390	8	SK 273	土師器	高環	(19.4)	[4.5]	—	環部破片	雲 角 石英 白粒	普通	鈍い・黄橙	赤彩	
390	9	SK 274	土師器	甕	(18.8)	[6.9]	—	破片	雲 赤粒 白粒 黒粒 礫	普通	橙		

第112表 土坑出土文物觀察表(2)

神田番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版		
390	10	SK	276	須恵器	環	12.3	4.2	5.1	ほぼ完成	白粒 針	良好	灰	南北企産	182
390	11	SK	276	須恵器	壺	(21.6)	[1.8]	—	破片	雲 石英 針 黒粒	普通	灰白	南北企産	
390	12	SK	276	土師器	環	(11.8)	[3.4]	—	破片	雲 砂粒	普通	鈍い橙	—	
390	13	SK	276	須恵器	甕	—	—	—	破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	橙	未野産	
390	14	SK	276	須恵器	甕	—	—	—	破片	白粒 黒粒	普通	灰白	群馬産	
390	15	SK	278	須恵器	環	—	[1.3]	(7.0)	底部1/2	雲 白粒 針 黒粒	普通	灰白	南北企産	
390	16	SK	280	須恵器	環	11.9	3.7	6.9	ほぼ完成	白粒 針 黒粒	普通	黄灰	南北企産	
390	17	SK	281	須恵器	高台付壺	—	(3.0)	8.0	底部破片	雲 石英 砂粒 赤粒 白粒 黒粒 硨	不良	黒	—	
390	18	SK	285	土師器	甕	(13.4)	[6.2]	—	口縁破片	雲 角 石英 黒粒	普通	鈍い黄橙	—	
390	19	SK	288	須恵器	甕	—	[2.1]	—	破片	白粒 黒粒	普通	灰白	群馬産	
390	20	SK	298	須恵器	長頸瓶	—	[4.7]	—	破片	白粒	普通	灰	未野産	
390	21	SK	301	須恵器	高台付壺	(11.2)	5.5	6.4	2/3	針	良好	灰	南北企産	182
390	22	SK	309	土師器	環	(11.0)	[2.9]	—	破片	雲 角 黒粒	普通	橙	北武藏型環	
390	23	SK	309	土師器	環	(11.4)	[2.2]	—	破片	雲 黒粒	普通	橙	北武藏型環	
390	24	SK	309	土師器	環	(12.0)	[1.8]	—	破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	橙	模倣群C	
390	25	SK	309	須恵器	蓋	(9.4)	[3.1]	—	1/2	雲 黒粒	良好	灰	群馬産(秋間)	182
390	26	SK	309	須恵器	甕	—	—	—	破片	白粒	良好	灰赤	未野産	
397	1	SK	312	須恵器	環	—	[1.7]	11.7	底部3/4	雲 白粒	良好	灰	未野産	219
397	2	SK	312	須恵器	羽釜	(19.1)	[5.1]	—	口縁1/5	角 砂粒 赤粒	普通	橙	—	
397	3	SK	313	須恵器	環	(11.0)	4.2	(6.0)	1/3	石英 白粒 針	良好	灰	南北企産	
397	4	SK	313	須恵器	環	(12.0)	3.4	(5.0)	破片	白粒 黒粒	良好	黄灰	南北企産	
397	5	SK	313	須恵器	皿	—	[2.0]	(6.0)	1/3	白粒 針 黒粒	普通	黄灰	南北企産	
397	6	SK	313	須恵器	環	—	[2.2]	5.8	底部破片	白粒 針	良好	灰	〜9号号南北企産	
397	7	SK	313	須恵器	蓋	(14.0)	[1.9]	—	破片	白粒 黒粒	良好	灰	南北企産	
397	8	SK	313	土師器	環	(14.0)	[4.2]	—	破片	赤粒 黒粒	普通	橙	—	
397	9	SK	315	須恵器	環	(12.8)	3.7	(6.3)	1/3	白粒 針 黒粒	良好	灰	群馬山南北企産	
397	10	SK	316	須恵器	環	13.0	3.5	(6.8)	1/5	白粒 黒粒	良好	黄灰	未野産	
397	11	SK	318	須恵器	環	—	[1.6]	(8.0)	破片	石英 針	良好	灰	南北企産	
397	12	SK	322	須恵器	高台付壺	13.6	6.0	5.8	ほぼ完成	長石 白粒 黒粒	良好	灰	未野産	182
397	13	SK	322	灰釉陶器	皿	14.5	3.4	16.7	ほぼ完成	長石 白粒 黒粒	良好	灰白	三川	
397	14	SK	311	木製品	曲物	径41.3	高さ4.5	厚20.3	—	—	—	—	—	—
401	1	SK	336	須恵器	蓋	(19.1)	[9.2]	—	破片	白粒 硨	普通	灰	未野産	182
401	2	SK	336	須恵器	蓋	(18.0)	[2.6]	—	1/4	白粒 硨	良好	灰	未野産	
401	3	SK	336	須恵器	環	16.9	4.7	13.7	4/5	白粒 硨	良好	灰	未野産	
401	4	SK	336	須恵器	環	—	[1.5]	(10.7)	底部1/2	雲	良好	灰	未野産	
401	5	SK	336	土師器	環	(13.0)	3.6	—	1/3	雲 角 赤粒 黒粒	普通	鈍い橙	北武藏型環	
401	6	SK	336	土師器	環	(12.8)	[3.3]	—	1/4	雲 角 白粒 黒粒	普通	鈍い橙	北武藏型環	
401	7	SK	336	土師器	皿	(16.0)	[2.8]	—	1/5	雲 角 硨	不良	鈍い	—	
401	8	SK	336	土師器	環	14.6	4.5	—	4/5	雲 角 赤 白 黒粒	普通	橙	北武藏型環	
401	9	SK	336	土師器	皿	(17.6)	3.7	—	1/2	白粒	良好	鈍い褐	—	
401	10	SK	336	土師器	皿	16.4	4.1	—	1/2	雲 角 白粒	良好	灰	—	
401	11	SK	336	土師器	環	(12.1)	[2.6]	—	1/5	雲 砂粒	良好	灰	放射状暗文	
401	12	SK	336	土師器	環	(13.6)	[3.0]	—	1/4	雲 角 白粒 黒粒	普通	褐灰	放射状暗文	
401	13	SK	336	土師器	環	—	—	—	破片	雲 角 黒粒	普通	橙	放射状暗文	
401	14	SK	336	土師器	甕	(5.0)	[6.3]	—	口縁破片	雲 赤粒 白粒	普通	褐灰	—	
401	15	SK	336	土師器	鉢	(26.0)	[5.8]	—	破片	雲 角 白粒	良好	灰	—	
401	16	SK	336	土師器	甕	(20.0)	[7.6]	—	口縁破片	雲 石英 赤粒 白粒 黒粒	普通	灰黄褐	—	
401	17	SK	336	土師器	甕	(23.0)	[10.7]	—	口縁1/4	赤粒 黒粒	普通	灰黄褐	—	
401	18	SK	336	土師器	甕	(25.4)	[18.3]	—	1/3	雲 角 砂粒 赤粒	良好	鈍い橙	—	
401	19	SK	336	須恵器	甕	—	[5.2]	—	破片	白粒	良好	灰白	群馬産(西毛)	
403	1	SK	337	須恵器	環	(12.7)	[3.0]	—	1/4	雲 角 砂粒 白粒	普通	橙	—	
403	2	SK	337	須恵器	環	—	[1.9]	(10.0)	破片	白粒 針	良好	灰	南北企産	
403	3	SK	337	須恵器	蓋	(22.0)	[3.0]	—	破片	白粒 針 黒粒	良好	灰	南北企産	
403	4	SK	338	土師器	環	13.0	[2.9]	—	1/2	雲 角 白粒 黒粒	普通	橙	—	
403	5	SK	341	須恵器	環	(6.0)	4.0	(7.0)	1/5	雲 針 黒粒	不良	白灰	南北企産	
403	6	SK	341	須恵器	環	(12.6)	3.2	(8.0)	1/3	針 白粒	普通	灰	南北企産	

第113表 土坑出土遺物観察表(3)

探出番号	遺構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版
403 7	SK 341	須臾器	環	12.0	3.5	7.0	3/4	針 黒粒	普通	灰白	南北金産	183
403 8	SK 341	須臾器	埴	(18.0)	[5.2]	—	破片	白粒 針	良好	灰	南北金産	
403 9	SK 341	須臾器	環	12.4	3.8	5.8	1/2	石英 白粒 針	良好	灰	南北金産	183
403 10	SK 341	須臾器	環	(12.0)	3.4	(6.0)	1/3	白粒 針 黒粒	普通	灰	南北金産	183
403 11	SK 341	須臾器	環	—	[0.8]	7.0	底部1/2	雲 白粒 針 黒粒	普通	灰	南北金産	
403 12	SK 341	須臾器	環	—	[1.6]	6.2	底部1/2	白粒 針 黒粒	良好	黄灰	南北金産	
403 13	SK 341	土師器	環	(11.0)	[3.5]	—	1/3	雲 角 黒粒 小石	普通	鈍い橙		
403 14	SK 341	土師器	環	11.0	3.3	—	1/3	雲 角 白粒 黒粒	普通	橙		
403 15	SK 351	土師器	環	11.8	3.3	—	ほぼ完成形	雲 角 白粒 黒粒	良好	橙		
403 16	SK 351	土師器	環	(12.1)	3.1	—	1/2	雲 角 赤粒 白粒	良好	鈍い橙		
403 17	SK 351	土師器	環	(13.0)	[3.1]	—	1/4	雲 白粒 黒粒	普通	鈍い橙		
403 18	SK 352	須臾器	環	—	[2.7]	(7.2)	底部2/3	針 黒粒	普通	灰	南北金産	183
403 19	SK 361	土師器	環	12.4	[3.1]	—	1/4	角 赤粒 黒粒	普通	鈍い橙	右段口縁環	
403 20	SK 370	須臾器	環	—	[1.5]	(8.0)	底部破片	雲 赤 白 黒粒 針	良好	灰白	南北金産	
403 21	SK 370	須臾器	壺	—	[4.5]	(12.6)	破片	雲 白粒	普通	灰		
403 22	SK 371	須臾器	環	(13.0)	3.2	—	口縁1/4	針 黒粒	良好	鈍い褐	南北金産	
403 23	SK 371	須臾器	環	—	[1.7]	(8.0)	底部1/2	雲 針 黒粒	普通	灰		
408 1	SK 379	須臾器	環	12.4	3.7	5.8	1/2	雲 赤 白 針 黒粒	普通	黄灰	「コ」南北金産	183
408 2	SK 379	須臾器	環	12.2	3.9	6.2	2/3	石英 白粒 針	良好	灰	「山」南北金産	
408 3	SK 379	須臾器	環	(14.8)	4.8	7.3	1/2	雲 赤 白 黒粒	普通	灰白	南北金産	
408 4	SK 379	須臾器	環	(12.2)	4.1	(6.5)	破片	白粒 針	良好	灰	南北金産	
408 5	SK 379	須臾器	環	(12.5)	[3.5]	—	1/3	白粒 針	普通	灰	南北金産	
408 6	SK 379	須臾器	環	(14.0)	[4.7]	—	1/4	片 白粒 黒粒	普通	黄灰	末野産	
408 7	SK 379	須臾器	環	(11.0)	[3.4]	(6.0)	破片	白粒 針	良好	灰	南北金産	
408 8	SK 379	須臾器	環	—	[0.7]	7.3	底部破片	雲 白粒 針	良好	灰	南北金産	
408 9	SK 379	須臾器	環	—	[2.4]	(6.0)	破片	赤粒 白粒 針 黒粒	普通	鈍い赤褐	南北金産	
408 10	SK 379	須臾器	高台付埴	(14.2)	6.0	8.0	2/3	片 石英 黒粒	普通	灰	末野産	
408 11	SK 379	須臾器	環	—	[2.1]	(6.4)	底部破片	片 白粒 黒粒	良好	黄灰	末野産	
408 12	SK 379	須臾器	皿	(15.1)	1.7	(7.2)	1/2	雲 白粒 針	良好	灰	南北金産	
408 13	SK 379	土師器	環	(11.9)	3.8	6.2	1/2	砂粒	普通	鈍い橙		
408 14	SK 379	土師器	小型甕	(14.1)	[5.1]	—	口縁1/3	雲 角 白粒	普通	赤褐	「コ」の字状口縁	
408 15	SK 379	在地産	鉢	(26.0)	[12.9]	—	破片	雲 黒粒	普通	褐灰		
408 16	SK 379	須臾器	甕	(19.0)	[5.7]	—	破片	白粒	普通	灰		
408 17	SK 379	須臾器	鉢	(32.6)	[13.5]	—	破片	石英 白粒	良好	灰	末野産	
408 18	SK 380	須臾器	環	(12.4)	3.8	(6.0)	1/3	砂粒 白粒	良好	褐灰	東金子産	
408 19	SK 380	須臾器	埴	(16.0)	[7.0]	—	破片	石英	普通	灰	末野産	
408 20	SK 380	須臾器	甕	(24.4)	[8.2]	—	口縁破片	白粒	良好	灰	No5 末野産	
408 21	SK 380	須臾器	鉢	(28.0)	[10.7]	—	破片	石英 白粒	普通	灰	末野産	
408 22	SK 380	土師器	甕	(14.0)	[9.8]	—	破片	雲 角 砂粒 赤粒	普通	橙	「コ」の字状口縁	
408 23	SK 380	土師器	台環甕	—	[2.4]	(3.8)	破片	雲 角 白粒 黒粒	普通	赤灰		
410 1	SK 389	土師器	甕	20.3	[10.2]	—	1/2	雲 角 砂粒	普通	褐		183
410 2	SK 393	土師器	小型壺	6.2	8.3	3.2	ほぼ完成形	石英 砂粒 白粒	良好	灰黄褐	粘土継接合痕	183
410 3	SK 393	灰林陶器	埴	—	[2.5]	6.8	底部破片	石英 白粒 黒粒 礫	良好	灰白	二川	213
410 4	SK 395	須臾器	長頸瓶	7.6	12.9	6.7	ほぼ完成形	針 石英 白粒	良好	灰	南北金産	183
410 5	SK 395	須臾器	高台付埴	(18.4)	[9.4]	(10.0)	1/5	雲 白粒 礫	良好	灰	末野産	
410 6	SK 397	須臾器	環	12.4	3.2	7.0	2/3	雲 石英 赤粒 白粒 黒粒 礫	普通	橙	末野産	
410 7	SK 397	須臾器	高台付埴	—	[3.6]	—	底部1/4	石英 白粒	良好	灰		
410 8	SK 397	須臾器	蓋	5.4	[1.4]	—	揃み破片	白粒 黒粒	良好	灰	郡馬産(西毛)	
410 9	SK 397	灰林陶器	皿	(16.5)	[1.6]	—	破片	白粒 黒粒	良好	灰	「コ」の字状口縁	213
410 10	SK 399	土師器	環	(12.4)	[3.3]	—	口縁1/4	雲 砂粒 赤粒	良好	橙	右段口縁環	
410 11	SK 399	土師器	甕	(21.6)	[4.0]	—	口縁破片	雲 角 石英 赤白 黒粒	普通	浅黄橙		
410 12	SK 403	土師器	鉢	(16.2)	8.5	—	口縁1/3	白粒 黒粒	普通	黄灰		
410 13	SK 403	土師器	甕	(22.6)	[5.8]	—	口縁破片	雲 角 赤 白 黒粒	普通	黄褐		
410 14	SK 404	土師器	環	(14.0)	[3.1]	—	1/5	雲 角	良好	鈍い橙		
410 15	SK 404	木製品	曲物片	幅3.8 長さ7.1 厚さ0.3							No6	
410 16	SK 404	木製品	曲物片	幅[3.7] 長さ[5.1] 厚さ0.5							No7	

第114表 土坑出土遺物観察表(4)

押印番号	造構	種別	器種	口径	器高	底径	残存	胎土	焼成	色調	出土位置・備考	図版	
410 17	SK	404	木製品	漆桶	口径14.9	器高6.4	底径6.6				No.1 (穴有り)	184	
410 18	SK	404	木製品	曲物底板	幅10.6	長さ24.1	厚さ1.4				No.2		
410 19	SK	405	鉄製品	板状品	幅最大2.2	現存長1.9	厚さ0.3					222	
413 1	SK	412	須恵器	環	—	3.8	7.6	1/2	針	良好	灰	遺書時「南比企産」	184
413 2	SK	412	須恵器	環	—	[2.0]	7.4	底部1/2	雲 針 黒粒	良好	灰白	同坑へう「南比企産」	
413 3	SK	412	須恵器	蓋	(4.0)	[1.6]	—	破片	白粒 針	普通	褐灰	一括「南比企産」	
413 4	SK	412	石製品	紡錘車	孔径0.9	径4.4	厚さ3.3	完形				209	
413 5	SK	413	土師器	鉢	(21.6)	[8.2]	—	口縁破片	黒粒	普通	鈍い黄橙		
413 6	SK	418	土師器	甕	(20.0)	[3.7]	—	口縁破片	雲 角	良好	鈍い橙	217	
413 7	SK	418	土師器	甕	(14.0)	3.5	—	破片	白粒 黒粒	良好	鈍い橙	217	
413 8	SK	418	土師器	甕	(15.0)	[2.4]	—	口縁破片	雲 白粒 黒粒	良好	鈍い黄橙	217	
413 9	SK	418	土師器	小型甕	(9.4)	[3.2]	—	口縁破片	白粒 黒粒	普通	浅黄	217	
413 10	SK	418	土師器	甕	(22.0)	[4.7]	—	口縁破片	砂粒 白粒	良好	鈍い橙	217	
413 11	SK	418	土師器	高環	—	[6.0]	—	脚部4/5	赤粒 白粒	良好	明赤褐		
413 12	SK	418	土師器	台付甕	—	[6.0]	(7.9)	脚部2/3	赤粒 白粒 黒粒	良好	鈍い橙	184	
413 13	SK	418	土師器	台付甕	—	5.0	—	高台破片	石英 白粒 黒粒	普通	鈍い黄橙		
413 14	SK	428	須恵器	環	(11.8)	3.6	(6.0)	1/3	赤粒 白粒 針	良好	灰	南比企産	
413 15	SK	428	須恵器	鉢	(28.0)	[7.2]	—	破片	雲 白粒 黒粒	普通	灰	未野産	
413 16	SK	434	須恵器	環	—	[1.1]	(8.0)	底部1/4	白粒	良好	灰	未野産	
413 17	SK	440	土師器	環	(12.8)	[3.5]	—	1/4	雲 角 白粒 黒粒	良好	橙	北武藏型環	
413 18	SK	440	須恵器	環	—	[1.4]	(6.0)	底部3/4	雲 白粒 黒粒	普通	鈍い黄橙	184	
413 19	SK	442	土師器	環	(11.0)	[2.4]	—	口縁破片	雲 角 黒粒	普通	橙		
413 20	SK	443	須恵器	皿	(22.0)	[3.4]	—	1/5	雲 角 黒粒	普通	橙		
413 21	SK	462	土師器	高環	—	[3.6]	10.0	高台破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	鈍い黄橙		
413 22	SK	463	内黒土器	小皿	9.6	1.8	5.6	完形	雲 角 赤粒 礫	普通	鈍い黄橙	184	
413 23	SK	463	土師器	環	(12.0)	[4.5]	—	破片	雲 白粒 黒粒	普通	鈍い黄橙		
413 24	SK	463	須恵器	高台付甕	—	[3.3]	(7.0)	1/3	雲 白粒 黒粒	普通	橙		
413 25	SK	463	土師器	甕	(21.5)	[13.0]	—	1/2	雲 角 砂粒 白粒 礫	普通	鈍い黄橙		
420 1	SK	472	須恵器	環	(11.5)	[3.2]	—	破片	石英 白粒 針	良好	灰	南比企産	
420 2	SK	472	須恵器	環	—	[1.6]	(7.0)	底部3/4	雲 赤 白粒 針 黒粒	普通	灰	へう「南比企産」	
420 3	SK	473	灰陶器	稜皿	—	[2.2]	(7.0)	1/4	白粒 黒粒	良好	灰白	213	
420 4	SK	488	須恵器	環	(12.8)	3.4	7.1	1/2	雲 針	良好	淡灰	里野入「南比企産」	
420 5	SK	488	須恵器	盤	(21.2)	[3.0]	—	口縁破片	白粒 礫	普通	黒褐	未野産	
420 6	SK	492	土師器	甕	(20.1)	[8.0]	—	破片	雲 赤粒 礫	良好	明褐		
420 7	SK	496	土師器	環	(12.0)	3.0	—	口縁破片	赤粒 黒粒	良好	橙		
420 8	SK	506	須恵器	長頸瓶	—	(8.9)	—	頸部1/3	白粒 黒粒	良好	黒		
420 9	SK	510	石製品	砥石	幅9.9	長さ10.4	厚さ3.8	1/2				220	
420 10	SK	516	土師器	甕	(15.5)	[11.8]	—	1/3	長石 砂粒 赤粒	不良	灰褐	185	
420 11	SK	520	須恵器	高盤	(18.0)	[2.2]	—	口縁破片	白粒 黒粒	普通	黄灰	南比企産	
420 12	SK	523	石製品	砥石	幅3.8	長さ10.7	厚さ3.7	1/2				220	
420 13	SK	523	木製品	角材	幅2.0	長さ5.7	厚さ1.4						
420 14	SK	525	須恵器	環	11.8	3.9	6.1	2/3	雲 針 黒粒	普通	灰白	南比企産	
420 15	SK	530	須恵器	環	(14.1)	[2.6]	—	口縁破片	白粒	良好	暗灰	南比企産	
420 16	SK	530	石製模造品	不明品	幅3.1	長さ1.2	厚さ0.5	破片				210	
420 17	SK	530	土師器	環	(12.0)	[3.6]	—	口縁破片	雲 赤粒 白粒 黒粒	普通	鈍い橙	模倣環	
420 18	SK	530	土師器	壺	(11.0)	[6.0]	—	口縁破片	赤粒 白粒 黒粒	不良	鈍い褐		
420 19	SK	530	土師器	環	(15.6)	[2.8]	—	破片	雲 角 白粒 黒粒	普通	明赤褐	模倣環	
420 20	SK	530	土師器	環	(15.6)	[2.7]	—	破片	雲 角 白粒 黒粒	普通	明赤褐	模倣環	
420 21	SK	530	土師器	環	(14.6)	[2.8]	—	1/5	雲 角 白粒	普通	黒	黒色身模倣環	
420 22	SK	530	須恵器	高環	—	[7.4]	(15.9)	脚部2/3	白粒 礫	良好	灰	未野産	
420 23	SK	530	須恵器	高環	—	[3.1]	(18.0)	脚部破片	石英 黒粒 白粒 黒粒	普通	褐灰	未野産	
420 24	SA	531	灰陶器	環	—	[4.1]	(8.0)	1/5	白粒 黒粒	良好	灰白・灰・黄	213	
420 25	SK	539	土師器	壺	(13.0)	3.5	—	1/4	雲 角 赤 白粒 黒粒	普通	橙	北武藏型環	
420 26	SK	552	須恵器	環	(12.0)	4.0	(5.6)	1/4	針 白粒	普通	灰	南比企産	
420 27	SK	553	須恵器	高台付甕	13.4	5.3	5.8	(ほぼ)完形	雲 白粒	普通	褐灰	油燻付着	
420 28	SK	557	須恵器	環	—	[0.8]	(9.0)	底部1/4	白粒 針 黒粒	良好	灰	同坑へう「南比企産」	

報告書抄録

ふりがな	しもだまちいせき日							
書名	下田町遺跡II							
副書名	大里地区高規格堤防整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	II (第2分冊)							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第301集							
編著者名	赤熊浩一・岡本健一・松岡有希子							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県大里郡大里町船木台4-4-1 TEL0493-39-3955							
発行年月日	西暦2005(平成17)年3月24日							
ふりがな 所取遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	***	***			
しもだまちいせき 下田町遺跡 第2次調査	埼玉県大里郡大里町津田字埋田町1775他	11401	55	36° 5' 40"	139° 25' 45"	20010601~ 20020322	14,100	高規格堤防建設
しもだまちいせき 下田町遺跡 第3次調査	埼玉県大里郡大里町津田字埋田町1792他	11401	55	36° 5' 38"	139° 25' 45"	20020510~ 20030324	8,700	高規格堤防建設
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
下田町遺跡 第2次調査 (東区)	集落跡	古墳時代後期 ～ 中世		竪穴住居跡 16軒 掘立柱建物跡 6棟 井戸跡 48基 土坑 34基 ピット 356基 溝跡 112条	土師器・須恵器 灰釉陶器・緑釉陶器 鉄製品・木製品 陶磁器・古銭			
下田町遺跡 第3次調査	集落跡	弥生時代中期 古墳時代前期 古墳時代中期 ～ 中世		土坑 1基 方形周溝墓 6基 竪穴住居跡 37軒 掘立柱建物跡 17棟 柱穴列 9条 井戸跡 171基 円形周溝状遺構 2基 土坑 354基 ピット 3696基 火葬土坑 27基 溝跡 301条 道路状遺構 2条	縄文土器・石器 弥生土器 土師器・須恵器 灰釉陶器・緑釉陶器 土錘・石製模造品 鉄製品・木製品 陶磁器・古銭		平安時代の土坑から「古部豊川」と線刻された石製防錘車を検出した。	

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第301集

大里郡大里町

下田町遺跡Ⅱ

大里地区高規格堤防整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

—Ⅱ—

(第2分冊)

平成17年3月14日 印刷

平成17年3月24日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108 埼玉県大里郡大里町船木台4-4-1
電話 0493 (39) 3955

印刷／朝日印刷工業株式会社